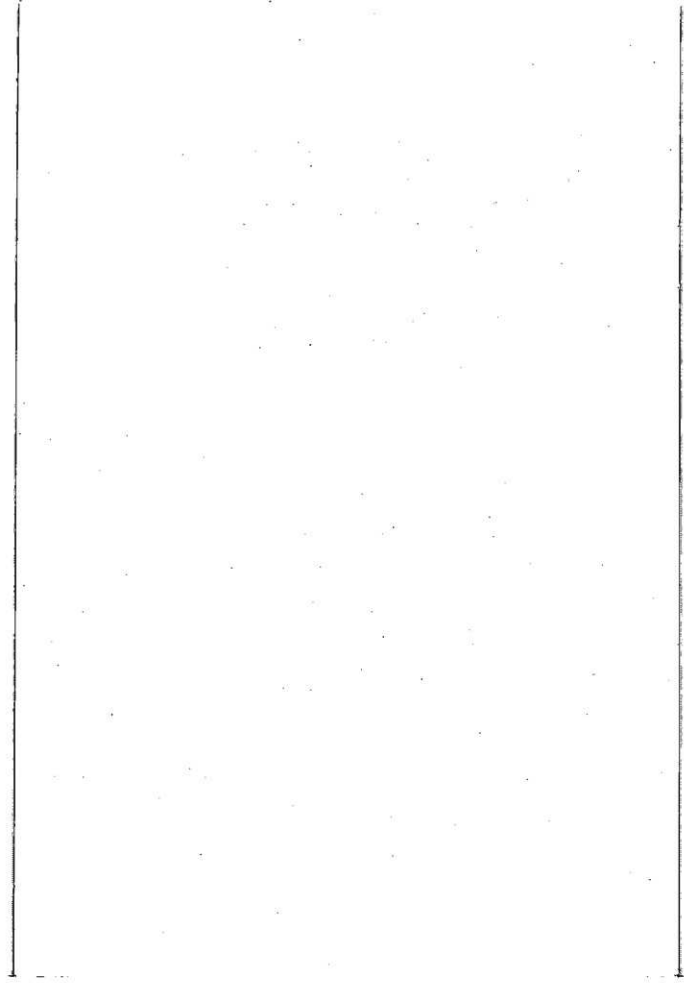


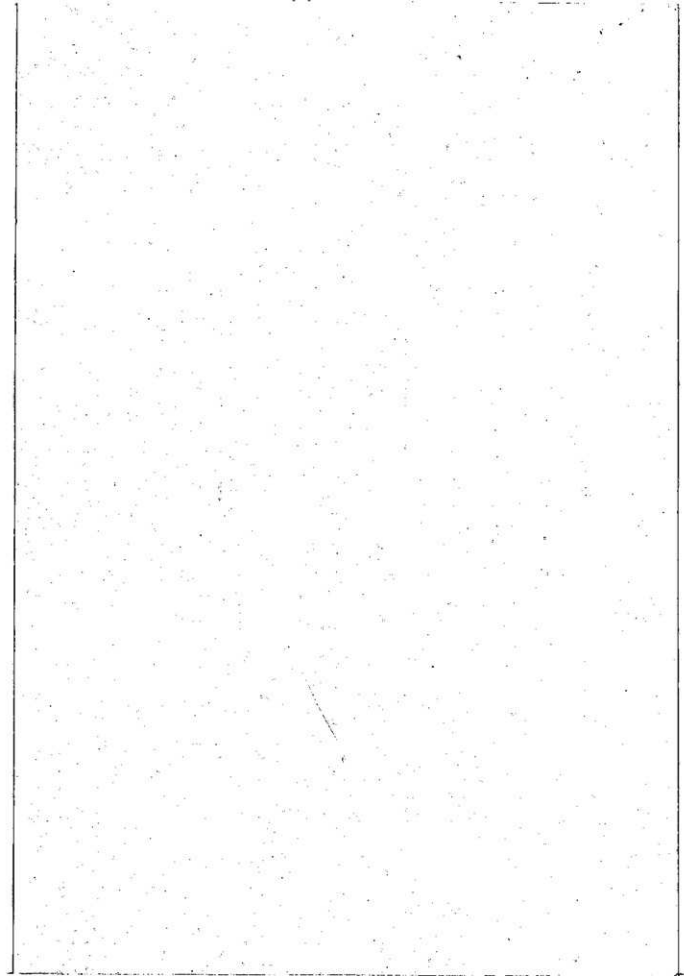
美沢川流域の遺跡群Ⅶ

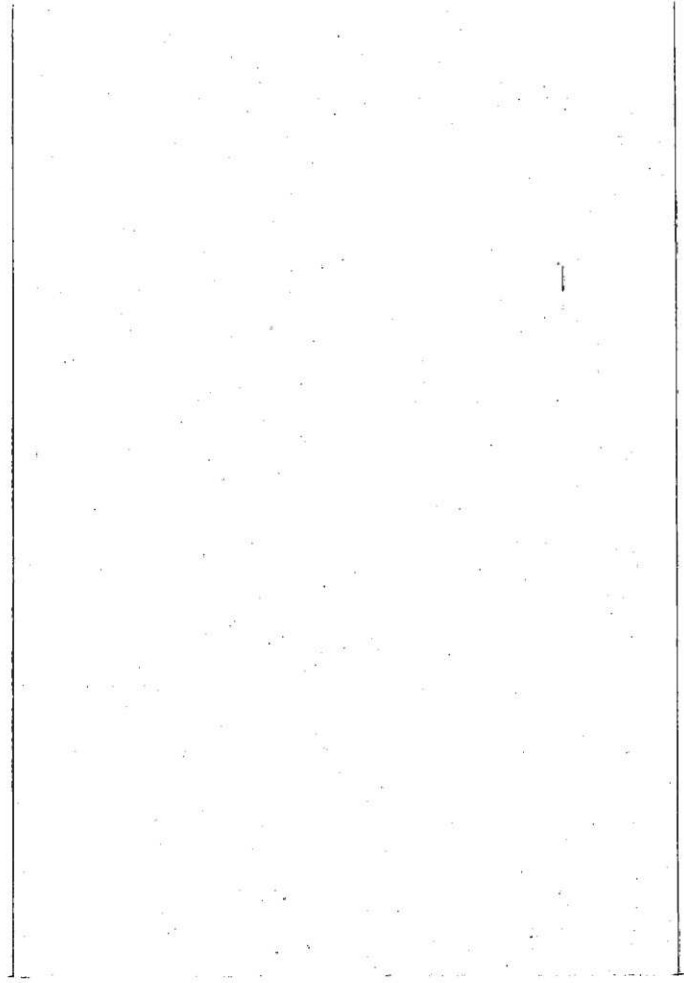
—— 新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

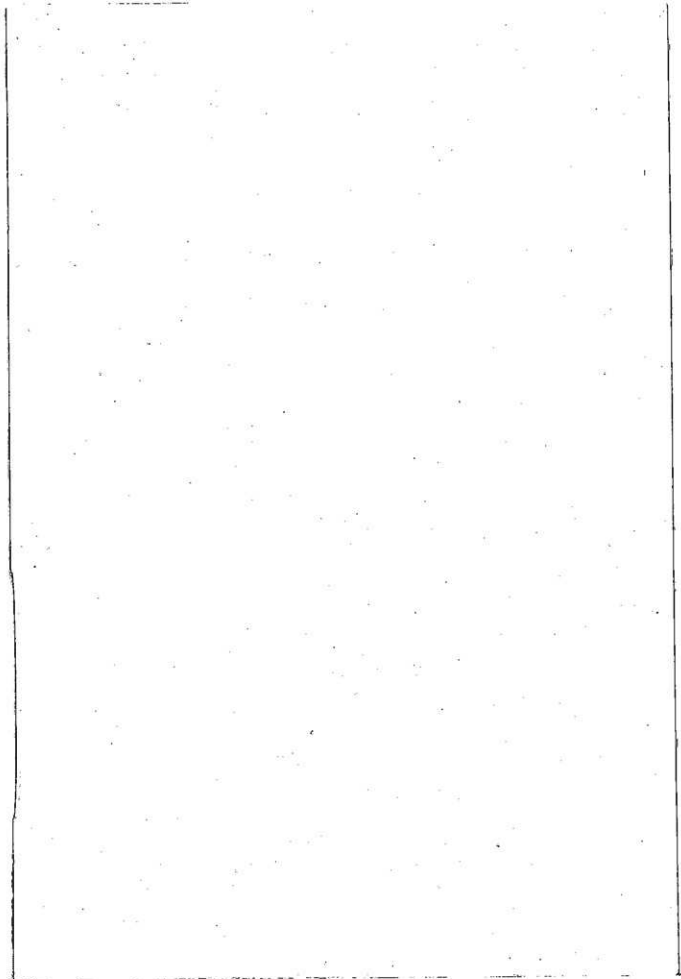
昭和 58 年 度

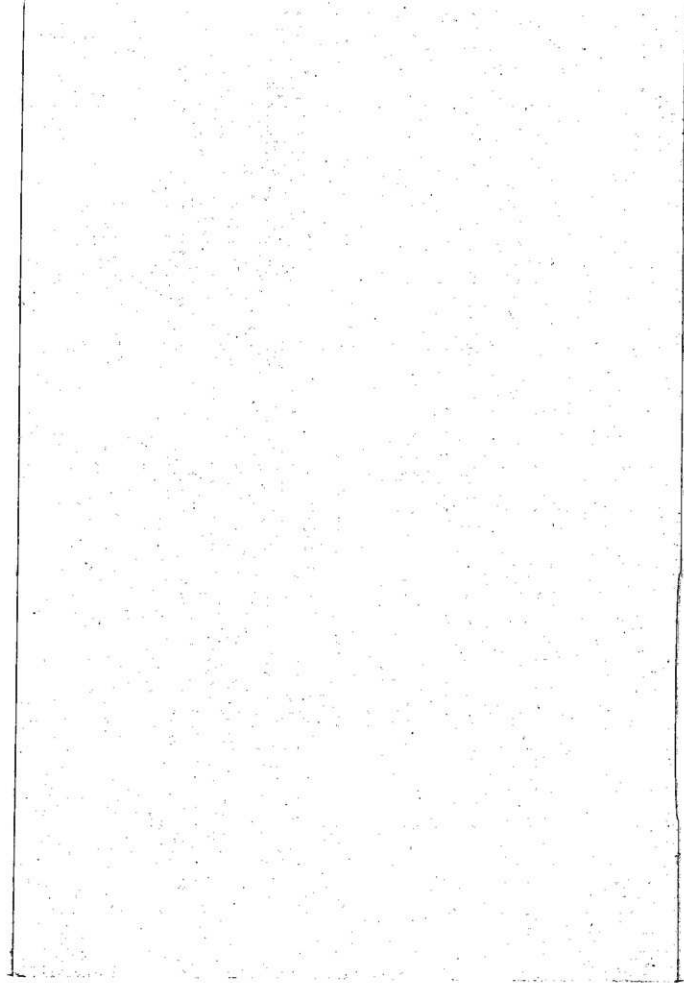
財団法人 北海道埋蔵文化財センター









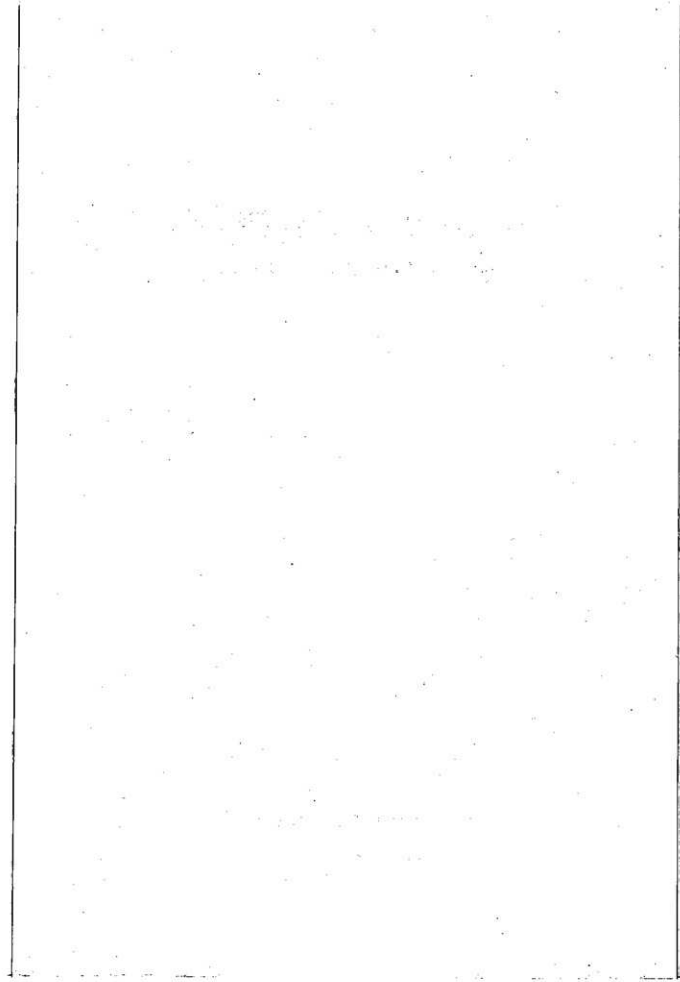


美沢川流域の遺跡群Ⅶ

—— 新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

昭和 58 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

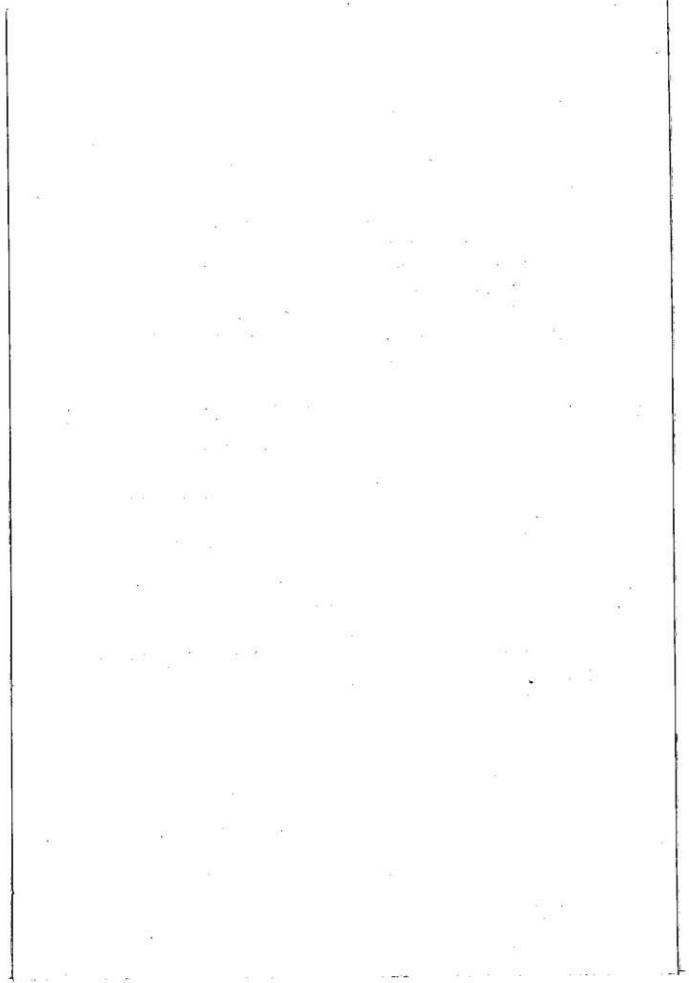


例 言

1. 本書は、昭和58年度に実施した新千歳空港建設用地内の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告である。
2. 調査は、北海道教育委員会の指示により、北海道開発局札幌開発建設部の委託を受けて、財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査した遺跡は、道教委登録番号A-03-88美々4遺跡（北海道千歳市美々988-13ほか）と同A-03-87美々9遺跡（同987-63ほか）である。
4. 調査面積は、美々4遺跡：6,475㎡、美々9遺跡：5,000㎡、計11,475㎡である。
5. 調査期間は、準備：昭和58年4月5日～5月11日、現地調査：昭和58年5月12日～10月31日、室内整理：昭和58年11月1日～昭和59年3月24日である。
6. 調査には、北海道埋蔵文化財センター調査部調査第一班があたった。

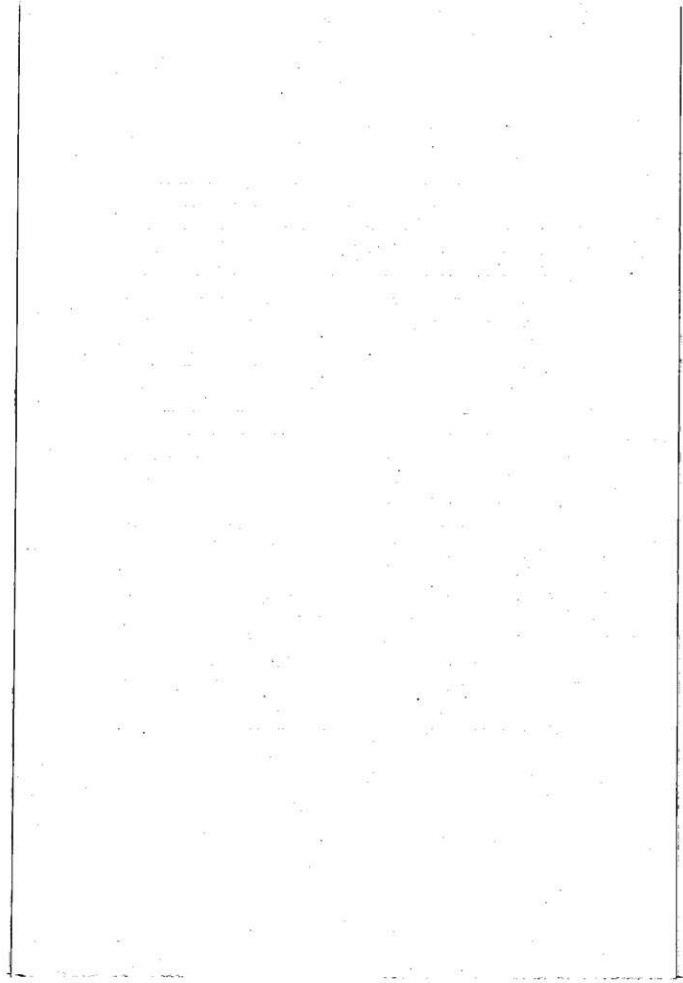
北海道埋蔵文化財センター理	事 長	中 村 龍 一
	調 査 部 長	竹 田 輝 雄
	調査第一班長	森 田 知 忠
	文化財保護主事	青 柳 文 吉
	"	遠 藤 香 澄
	"	佐 藤 和 雄
	嘱 託	野 中 一 宏
	"	中 村 千 春
	(写真担当)	伊 野 正 之

7. 室内整理後の出土遺物・諸記録は、北海道教育委員会が保管する。
8. 調査にあたっては、下記の人びと、諸機関のご協力をいただいた。
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター、札幌医科大学第二解剖学教室、北海道開拓記念館、千歳市教育委員会、苫小牧市埋蔵文化財センター、赤松守雄、大島直行、大谷敏三、木村英明、工藤 肇、小林幸雄、近藤義郎、佐藤一夫、沢田正昭、清水雅男、鈴木隆雄、田中 琢、田村俊之、百々幸雄、西木豊弘、春成秀雨、松岡達郎、三野紀雄、宮夫靖夫、山田悟郎（順不同）。



目 次

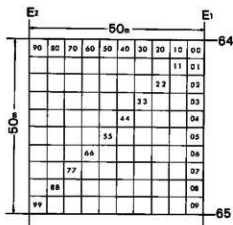
例 言	1
目 次	3
記号等の説明	5
遺物の分類	7
I 調査の概要	11
1 調査の経緯	11
2 調査結果の概要	14
II 遺跡の位置と環境	19
III 美々4遺跡の調査	23
1 概 要	23
2 第I黒色土層（I黒層）の遺構と遺物	26
(1) 遺 構	26
(2) 遺 物	94
3 第II黒色土層（II黒層）の遺構と遺物	108
(1) 遺 構	108
(2) 遺 物	291
付1 遺構出土の人骨について	341
付2 ^{14}C 年代測定結果について	348
IV 美々9遺跡の調査	349
1 概 要	349
2 遺構と遺物	350
(1) 遺 構	350
(2) 遺 物	354
写真図版	359



記号等の説明

① 発掘区について

空港建設用地内の分布調査(「美沢川流域の遺跡群」昭和50年度 千歳市教育委員会)で用いた50mメッシュを5×5mに100等分して00～99とする(図参照)。



② 発掘区の基線方向について

発掘区の南北基線は、座標北に対して西偏7°22'38"である。

③ 遺構の略号について

Hは住居跡、Xは周堤墓・周溝付土墳墓、Pは盛土墓・土墳墓・その他の土墳、TはTビットを表わす。ただし周堤墓、周溝付土墳墓のなかの個々の墓は、それぞれXを付した3ケタの数字で表わし、上位1ケタは周堤墓等の番号、

下位2ケタは墓の番号とした。

④ 遺構番号について

原則として検出順。ただし、Ⅱ黒層の「P-」は301からとした。

P-28・37・51・97・101・105～107・324・330・336・340・343・357は欠番である。

⑤ 遺物の分類について

出土遺物は、これまでの報告書で使用した分類基準を踏襲して記載した。7～9頁にその分類基準を示す。

⑥ 土層の名称について

下記の略称を使用する。

Ta-a層(a)……………埴前a降下軽石層

Ta-b層(b)……………埴前b降下軽石層

Ⅰ黒層(Ⅰ黒)……………第Ⅰ黒色土層

Ta-c層(c)……………埴前c降下軽石層

Ⅱ黒層(Ⅱ黒)……………第Ⅱ黒色土層

Ta-d₁層(d₁)……………埴前d₁降下軽石層

Ta-d₂層(d₂)……………埴前d₂降下軽石層

Ⅲ黒層(Ⅲ黒)……………第Ⅲ黒色土層

En-aローム層(EnL)……………恵庭a降下軽石の風化したローム質粘土層

En-a層(EnP)……………恵庭a降下軽石層

Spfl 層 (Sf)……支笏軽石流堆積物

⑦ 土層の説明について

遺構の覆土等は、色調と、火山灰・黒色土などの混在状態で説明する。混在状態は次のように表現する。

A+B AとBがほぼ等量に混る。

A>B AにBが少量混る。

A>>B AにBが微量混る。

⑧ 岩石名の略号について

Aga. メノウ	Amb. コハク	And. 安山岩	Bl-Mud. 黒色泥岩
Bl-Sch. 黒色片岩	Che. 珪岩	Gni. 片麻岩	Ha-Sh. 硬質頁岩
Jad. ヒスイ	Mud. 泥岩	Obs. 黒曜石	Per. カンラン岩
Pet-Wood 珪化木	Sa. 砂岩	Sch. 片岩	Ser. 蛇紋岩
Sh. 頁岩	Sl. 粘板岩	Ta. 滑石	Tu-Sa. 凝灰質砂岩
Zeo. 沸石			

⑨ 遺構の記載について

遺構は、個々に次の内容で記載する。

位置：5×5mの発掘区名

規模：確認面からの最大深/確認面での長軸長×短軸長/床(底)面での長軸長×短軸長(m)

平面形：床(底)面の形状で判断

長軸方向：座標北からの傾き

覆土：遺構内の土層の堆積状況

遺物：覆土出土の遺物を含めて記載する。図示した遺物の計測等は、土器：器高/口径×底径(cm)，石器等：最大長×最大幅×厚さ(cm)・重量(g)・材質，で示す。

⑩ 図版について

遺構図は、発掘区基線の北(西偏7°22'38")を上にして示した。図版は原則として下記の縮尺で作成してある。例外については、その都度スケール・方位を示す。

遺構分布図 1:400 遺構図 1:40 土器実測図 1:4

石器実測図 1:2 石器拓影 1:2

⑪ 写真図版について

写真図版中の遺物写真の縮尺は不統一である。

遺物の分類

(I) 土 器

I 群 縄文時代早期の土器

- a 類 いわゆる貝紋土器群および条痕土器群（今回の調査では出土していない）
- b 類 絡条体圧痕文、組紐圧痕文、撚糸文、縄文等のある土器群
 - b-1 類 東鋼路Ⅲ類に相当するもの
 - b-2 類 コッタロ式に相当するもの
 - b-3 類 中条路式に相当するもの
 - b-4 類 東鋼路Ⅳ類に相当するもの

Ⅱ群 縄文時代前期の土器

- a 類 いわゆる縄文尖底土器群
 - a-1 類 いわゆる縄文土器およびこれに伴うとみなされる羽状縄文土器
 - a-2 類 中野式土器およびこれに類するもの
- b 類 円筒土器下層式土器、植苗式およびこれに類するもの

Ⅲ群 縄文時代中期の土器

- a 類 円筒土器上層式土器
- b 類 円筒土器に後続する土器群
 - b-1 類 天神山式に相当するもの
 - b-2 類 柏木川式に相当するもの
 - b-3 類 トコロ6類および煉瓦台式に相当するもの

Ⅳ群 縄文時代後期の土器

- a 類 余市式および入江式に相当するもの
- b 類 船泊上層式、手稻式、ホッケマ式に相当するもの
- c 類 堂林式に相当するもの

V 群 縄文時代晩期の土器

- a 類 大洞 B 式および BC 式に相当するもの
従来はⅣ群 c 類に含まれていた JX-3・P-106（「美沢川流域の遺跡群」Ⅲ 昭和53年度 道教委）で代表される土器群は、突瘤文・爪形文の組合せをもつ深鉢や三叉文等の付された壺・浅鉢等と破片で判別することは困難であったため、便宜上一括して本類に含める。
- b 類 大洞 C₁式および C₂式に相当するもの
- c 類 大洞 A 式に相当するものおよびタンネットウ L 式土器

(2) 石器

I 群 石鏃・尖頭器類

I A 石鏃

I A 2 両手で細身のもの

a 柳葉形のもの

b 五角形のもの

3 三角形のもの

4 木葉形のものおよび明瞭な茎をもたないもの

5 有茎のもの

I B 槍先またはナイフ

I B 1 有茎のもの

2 明瞭な茎をもたないもの

II 群 石錐類

II A 1 剝片に刺突部のみが設けられたもの

2 棒状のドリル

3 つまみ部をもつドリル

III 群 ナイフ・スクレイパー類

III A つまみ付きナイフ

III A 1 片面加工で、側縁裏に表面調整のための打面をもつもの

2 1を除く片面加工のもの

3 片面縁辺のみに加工のあるもの

4 両面加工のもの

5 横形のもの

III B スクレイパー

III B 1 石べら

2 ラウンド・スクレイパー

3 不定形のもの

IV 群 石斧類

IV A 石斧

IV A 1 擦り切り技法によるもの

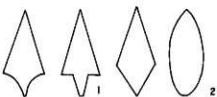
2 敲打によって整形されたもの

3 打ち欠きによって整形されたもの

I A



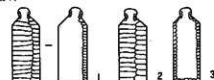
I B



II A



III A



III B



VI A



- 4 棒状礫に刃部のみが設けられたもの
- 5 全面磨製のもの

IVB 石のみ

V群 たたき石・台石類

VA たたき石

VB 台石

VI群 すり石・石皿類

VIA すり石

- VIA 1 角柱状礫の稜に擦り面をもつもの
- 2 扁平礫の側縁に擦り面をもつもの
- 3 半円形に粗く斲形された礫の弦に擦り面をもつもの
- 4 いわゆる北海道式石冠

VIB 石皿

VII群 石鋸・砥石類

VIIA 石鋸

VII B 砥石

VII B 1 砥面に溝をもつもの

- 2 砥面が平滑なもの

VIII群 石錘

VIII A 1 四か所打ち欠きのもの

- 2 長軸打ち欠きのもの
- 3 短軸打ち欠きのもの

IX群 石核・剥片

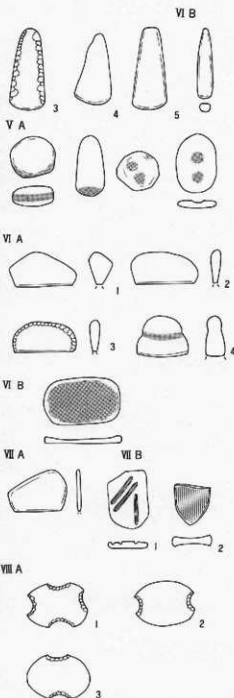
IXA 石核（原石を含む）

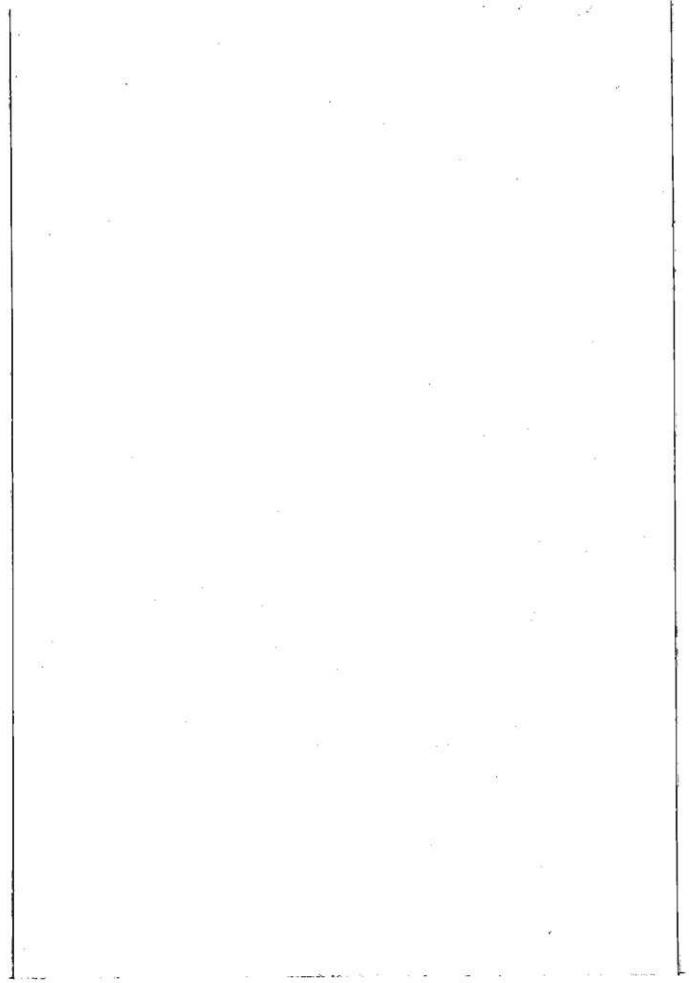
IXB 剥片・碎片

X群 加工痕・使用痕のある剥片・礫

XA 加工痕・使用痕のある剥片

XB 加工痕・使用痕のある礫





I 調査の概要

1 調査の経緯

この調査は、北海道開発局札幌開発建設部が建設を進めている新千歳空港の用地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の、第8年次にあたる緊急発掘調査である。本年度の調査対象遺跡は、滑走路に接続する旅客ターミナル、誘導路等の予定地にある美々4遺跡と美々9遺跡である。

新千歳空港用地内の埋蔵文化財包蔵地については、建設計画の具体化に伴い、開発地域のうち既存施設部分を除く、約450haの分布調査が昭和49・50年度に行われ「美沢川流域の遺跡群」昭和50年度 千歳市教育委員会)、翌51年度から発掘調査が実施されている。調査主体は、当初北海道教育委員会(道教委)であったが、昭和54年9月、財団法人北海道埋蔵文化財センター(道埋文)の設立に伴い、当センターに継承されて現在に至っている。

分布調査の結果によると、用地内には約212,000㎡の埋蔵文化財包蔵地のあることがわかっており、昭和57年度までに、約64%に相当する136,000㎡が調査済みである。

本年度調査した遺跡のうち、美々4遺跡については、過去3次にわたって発掘調査が実施されている(「美沢川流域の遺跡群」I・Ⅲ 昭和51・53年度 道教委、「同」V 昭和55年度 道埋文)。

昭和51年度には、美沢川畔の低地の部分1,160㎡が調査されている。I黒層からは、墓を含む85個の土壇と、縄文時代晩期末～縄文時代の土器片とこれに伴うとみられる石器等約10,000点の遺物が得られている。また、Ⅱ黒層からは、縄文時代後期末～晩期初頭の墓を主とする196個の遺構が検出されている。遺物は、縄文時代各期にわたり約150,000点(「美沢川流域の遺跡群」I)。

昭和52・53年度には、美沢川の現河床下のⅡ黒層約240㎡の調査が実施されている。縄文時代後期を主とする土器・石器のほかに、包含層が水没していたことによって、木製品・漆器・自然遺物などが多く出土した。遺物総数約280,000点。焼土ブロックを除けば、遺構は検出されていない(「美沢川流域の遺跡群」Ⅲ)。

昭和55年度には、台地上とそれに続く斜面7,150㎡が調査された。I黒層から6個の土壇と少量の遺物が得られたほか、Ⅱ黒層からは、住居跡62、周堤墓2、周溝付土壇墓4、土壇墓28、Tピット24、その他の土壇75と、約510,000点の遺物が発掘されている。Ⅱ黒層の遺物は、縄文時代後期を主体とするもので、その大半は斜面下位の包水面下から出土したものである。また、Ⅱ黒層から、黒曜石製の大型両面調整石器が1点出土している。

美々4遺跡の本年度の調査地区は、昭和55年度の調査区の西側に続く部分である。調査面積は当初、6,200㎡であったが、周堤墓(X-3)の一部が予定範囲外に及ぶことが確定的になったため、275㎡を追加し、最終的には6,475㎡となった。現地調査は、昭和58年5月12日から10

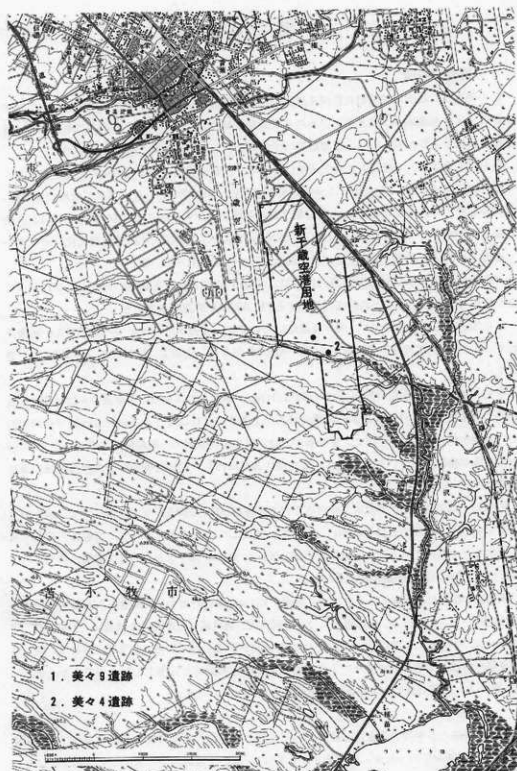


図1 遺跡の位置 (この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図・千歳を複製したものである)

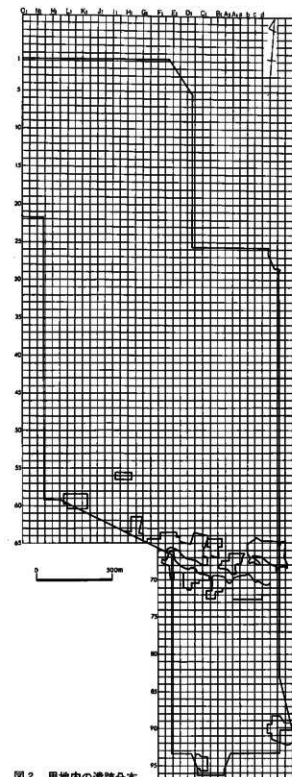


図2 用地内の遺跡分布

1 調査の概要

月31日まで行い、Ⅰ黒層・Ⅱ黒層を主たる対象とした。ただし、Ⅰ黒層の東縁223㎡は、調査の時点で既に削平されていた。また、過去に遺物を出土したことのあるⅡ黒層（全体の10%）と、Spfl層上のローム質土層（同4%）を対象として、確認調査を試みたが、遺構・遺物は発見されなかった。

美々9遺跡は、新たに着手した遺跡で、調査面積5,000㎡。現地調査は、Ⅱ黒層を主な対象として5月12日から6月30日まで行った。

現地調査終了後、11月1日から、両遺跡の遺物・諸記録を室内にて整理し、本書を作成して、昭和59年3月24日に調査を終了した。

2 調査結果の概要

(1) 美々4遺跡

本年度の調査地区は、美沢川左岸の台地上と、それに続く斜面で、調査面積は6,475㎡である。昭和50年度の分布調査と、過去3次にわたる調査の結果から、濃密な遺構・遺物の分布が予想された。調査の結果、樟前降下軽石c(Ta-c)層を挟んだ腐植土層（Ⅰ黒層・Ⅱ黒層）から縄文時代の遺構・遺物が検出された。以下にその概要を述べる。

Ⅰ黒層の遺構と遺物

Ⅰ黒層からは、111個の土壌が検出された。これらは1例を除いて斜面に位置している。これらの土壌のうち、27個は墓および墓の可能性のあるもので、その他のものは用途不明である。

墓または墓の可能性ありとした土壌の平面形は、楕円形のもので、ほぼ円形のものがある。楕円形を呈する土壌は、長軸が等高線に沿うように作られる傾向がある。

副葬品を伴う墓は少ないが、P-32には石鏃286点、石斧4点などがある。また、縄文時代晩期末のV群c類土器2個体を伴うP-59では、遺体とこれを包んだ状態のシラカンバ属と思われる木の皮が検出されている。樹皮の保存状態は良好で、数枚を組み合わせて、遺体を包んだか、安置する入れものとしたものである。なお、樹皮の上部と人骨の一部は火熱を受けて焼け焦っており、埋葬の際に火を使う儀式のあったことが想定される。

Ⅰ黒層から出土した遺物は、土器片10,149点、石器等653点である。土壌の掘りこみ等によってⅡ黒層から引きあげられたと判断される若干のものを除けば、V群c類土器とこれに伴うとみなされる石器である。石器には、石鏃・スクレイパー・たたき石が多い。遺物の大半は、斜面から出土しており、とくにP-59の周辺に多い。

Ⅱ黒層の遺構と遺物

Ⅱ黒層からは、住居跡13軒、周堤墓5基（不確定な1基を含む）、周溝付土壇墓2基、盛土墓7個、土壇墓および墓の可能性のある土壇63個、Tビット10個、その他の土壇29個が検出された。

住居跡は、標高13m以下の斜面下部に限られ、13軒のうち9軒は調査地区の境界に位置しているため、全体像は把握されなかった。伴出遺物からみると、縄文時代前期・中期・後期に所

属するものである。調査地区の東部で発見された前期の住居跡2軒は、昭和55年度に調査された同期集落の一部をなすものと思われる。

周堤墓は、美沢川遺跡群では、昭和53年度・55年度に続く検出例で、昭和55年度のそれと近接する台地縁辺の平坦部から4基（X-1～4）と、斜面からも不確かな1基（X-6）が発見された。X-1～3の周堤は顕著で、I黒層からすでにその存在が予測されていた。これらの周堤は、ほぼ全周に認められるが、斜面に面した一部が低みをなしたり、途切れたりしており、出入口の可能性がある。X-1～4は互いに接近して作られており、周堤末端の重複から、2→1、4→1、4→3の時間的關係が推定できる。

墓域内には、それぞれ、X-1は2個、X-2は22個、X-3は14個、X-4は1個の墓墳が認められている。しかし、これらのうちX-2とX-3の墓墳については、規模・平面形・長軸方向・副葬品の違い等から二群に大別することができる。

X-2には、平面形が長楕円形で深く、副葬品が石斧・石棒にほぼ限られる一群（15個）と、平面形が楕円形で浅く、石斧・石棒のほかに玉・漆器などが副葬される一群（7個）がある。後者のなかには、覆土中で掘り込み面が肥えられたものがあることや、前者を切る例があることから、前者は本来周堤墓に伴う墓であり、後者は周堤墓が放棄された後に設けられた墓と判断される。X-3の墓墳も、X-2の例と同様、周堤墓に伴うとみなされる7個と、そうでない7個に大別できる。また、X-1・X-2の周堤に沿って環状に墓墳が配置されている。これらは、規模・副葬品などから、周堤内の楕円形で浅い一群とほぼ同時期に作られたものと推定される。

周堤墓廃棄後の墓を除けば、X-1とX-3の墓墳の長軸方向はほぼ南北であるのに対して、X-2とX-4ではほぼ東西で、これらはそれぞれ対をなして営まれた可能性がある。その場合、周堤の重複関係から、2・4→1・3の順が考えられる。

X-6はX-2の南西に接して検出されたもので、竪穴内で5個の墓墳が確認されたが、配列に規則性がうかがわれず、周堤墓とするにはやや疑問のあるものである。

周溝付土墳墓は、昭和55年度に本遺跡で初めて発見された遺構で、本年度の2基（X-5・7）はこれに続くものである。この墓の形態は、環状の溝を掘り、中央に1個の墓墳を設けるものである。ただし、X-5は幅70cmほどの溝のなかにも墓墳が作られている点で、X-7とは異なっている。この溝中の墓墳は、中央のものに比べて小型である。しかし、溝の構築との時間差は認められず、同時期と考えて差し支えない。

盛土墓は、土墳を作らずに、遺体を平地や埋まりきらない土壌のくぼみに置き、土で覆った形態の墓である。斜面および周堤墓の境内で発見されている。X-2の覆土からは2例検出され、周堤墓に伴う墓や、周堤墓放棄後の墓を覆っている。

土墳墓と墓の可能性のある土墳は、台地上と斜面のほぼ全域で見付かっている。これらの平面形は楕円形を示すものが多い。63個のこの種の土墳のうち、39個は台地上あるいは台地縁辺で検出され、とくに、周堤墓（X-1・2）の周辺では、周堤上から掘り込まれたものと、周

I 調査の概要

境に覆われているものがある。前者には、土器・石斧・石棒・漆器・玉・土偶（P-373）など多彩な副葬品がある。後者の平面形は、円形または円にちかい楕円形で、土器以外の副葬品は確認されていない。斜面に位置するものは、2～3の例外を除いて、長軸が等高線に沿うように向けられている。

Tピットには、溝状をなすものと、平面形がすみ丸長方形のものがある。後者の底面には数個の小ピットがみられる。斜面で、2個が長軸を平行させ隣合っているほか規則性はない。

その他の土壌は、散布し、規模にばらつきがあるが、平面形円形のものが多い。

Ⅱ黒層から出土した遺物は、土器片144,332点、石器等34,004点で、すべて縄文時代に属する。時期別では、後期末葉のものが60%弱、晩期初頭のものが約27%、後期中葉のものが9%程度を占めている。なお、調査地区南縁の内湾する斜面には、㎡当り出土数700～1,200点の遺物集中地点があった。

(2) 美々々遺跡

調査地区は、美沢川左岸の台地縁からおよそ400m離れた標高25～26mの平坦面にあり、美々々4遺跡からは、西北西およそ500mの距離にある。調査面積は5,000㎡。

遺構・遺物はⅡ黒層から検出された。（森田知忠）

II 位置と環境

新千歳空港の建設用地は、札幌と苫小牧の中間にあたる千歳市の南方、現空港の南東側に位置している(図1)。この地域は、西方約30kmの支笏カルデラを起源とする火山砕屑岩台地の東縁にあたり、地表は、更新期末期の恵庭岳、完新世の樽前山の抛出物によって厚く覆われている。台地は、札幌～苫小牧地帯に向って東に緩く傾斜しており、西～東方向のほぼ平行する幾筋もの谷によって刻まれている。

用地の中央やや南寄りを西から東に横断し、千歳・苫小牧両市の境界にもなっている美沢川も、このような谷のひとつである。同川は、低地帯南部を貫流する美々川の一枝流で、長さ4kmほどの小さな流れであるが、伏流水を集め、季節変化の少ない豊かな水量をもっている。千歳市街地の南方、現空港の東方に源を発する美々川は、美沢川と合流の後、全国有数の野鳥の棲息地で白鳥飛来でも名高いウトナイト沼に注ぎ、勇払川、安平川と合して苫小牧市東郊で太平洋に達する。用地内から河口までの距離は、およそ18kmである。

さて、美沢川の両岸には、縄文時代を中心とし、先土器時代から近世にいたる遺跡が連続して分布している。美沢川が用地を横切る部分約850m、用地境界に沿う部分1kmほどの範囲についてみて、この間に11遺跡、約189,000㎡の埋蔵文化財包蔵地が存在し、これは、用地内の発掘調査対象面積の85%に相当する。私たちは、これを「美沢川遺跡群」と呼びならわしている。

本年度調査した美々4遺跡・美々9遺跡は、ともに美沢川の左岸にあり、前者は標高25m前後の台地縁辺部から斜面、および標高約6mの現河床下にわたって、後者は台地縁から400mほど北に隔った標高25～26mの平坦面に立地している(図3)。

遺跡の層序は上位から、表土、樽前山降下軽石a(Ta-a)層、Ta-b層、第Ⅰ黒色土(Ⅰ黒)層、Ta-c層、Ⅱ黒層、Ta-d層、Ⅲ黒層、恵庭岳降下軽石a(En-a)層、ローム質土層、支笏軽石流堆積物(Spfl)で、主たる遺物包含層は、Ⅰ黒層とⅡ黒層である(図4)。これらのうち、Ta-a層とTa-b層は、歴史時代の火山灰層で、古記録からそれぞれ1739(元文4)年および1667(寛文7)年の噴出物と考えられている。

札幌～苫小牧低地帯西縁は、今日でも日本海側と太平洋側とを結ぶ主要な交通路となっているが、近世にも、「ユウフツ越え」と呼ばれるルートのあった

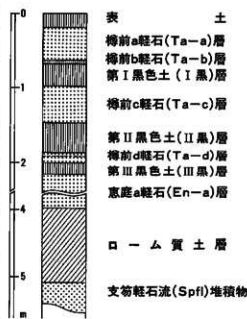


図4 標準土層

ことが知られている。西蝦夷地（日本海側）から石狩川、千歳川をさかのぼり、数kmの陸路を経て、美沢川に至り、美々川を経て東蝦夷地（太平洋側）に達するコースである。これまでの調査結果から、ユウフツ越えの主要な中継地である美沢川の舟付場（古地名はビビ）は、用地内にあったらしいことがわかっている。これに関するものとしては、Ⅰ黒層上面に残された小径の跡、複数の掘立柱跡、珠洲麻糸すり鉢、黒漆塗りの小札などがある（「美沢川流域の遺跡群」Ⅴ 昭和56年度 道標文）。

また、50cm内外の厚さをもつ Ta-c 層は、上下両面から大洞 A 式並行とされるタンネトウ L 式土器が出土することから、縄文時代晩期末葉の堆積物であることが明らかである。さらに、Ta-d 層には、かつて、8,940±160y.B.P. (GaK-2208) の年代が与えられていたが、苫小牧市有珠川 2 遺跡で下位から吹切沢式類似の貝紋文土器が出土した（「有珠川 2・植苗 3 遺跡」道教委 昭和53年度）ことによって、8,000年前程度の降下物とみなされるに至っている。また、美々 4 遺跡のⅡ黒層から、黒曜石製の大型両面調整石器を（「美沢川流域の遺跡群」Ⅳ 昭和55年度 道標文）、隣接の美々 5 遺跡および美沢 1 遺跡で、En-a 層下の風化層から尖頭器様土器を含む石器群を採出（「美沢川流域の遺跡群」Ⅲ 昭和53年度 道教委）したことがある。

縄文海進の最盛期には、低地帯南部には深く海が入りこんで、湾か潟を形作っていたと考えられている。道内で最も内陸に位置するとされる美々貝塚は、美沢川との合流点から約 3 km 本流をさかのぼった地点にある。縄文尖底土器を出土し、ヤマトシジミを主とする美々貝塚は、海進最盛時に形成されたものである。用地内で、美沢川の南方約 1.2 km にある美沢 4 遺跡（フレベツ遺跡群に属す）でも、同様の内容をもつ、ふたつの小貝塚が発見されている。構成は、ヤマトシジミが90%以上を占め、ウネナシトマヤガイ、ヌマコダキガイ、ニホンタガソデモドキ、アサリ、マガキがこれに次ぎ、巻貝にはホソウミナがある。また、わずかながらハマグリ、オキシジミも検出され、現在よりは暖かい環境を示唆している。魚類では、ニシン、ウグイ、ガンギエイ科、カレイ科、メナダ、メジロザメ科、カサゴ、スズキなど、哺乳類では、エゾシカ、トド、オットセイ、イヌ、エゾオオカミ、キタキツネ、ニホンカワウソ、ニホンダブネズミ、エゾヒグマ(?)などが確認されている（「フレベツ遺跡群」昭和54年度 道標文）。

海退後、低地帯には徐々に沖積が進行していったものと思われる。陸化に伴って、美沢川では 2-3 m にも及ぶ水位上昇があったらしい。美々 4 遺跡の斜面裾部では、焼土を伴うⅡ黒層の遺物包含層が、水面下 2.5 m くらいの現河床下に延びている。この地区の主要な出土遺物は、縄文時代後期中葉から晩期初頭にかけたの土器・石器である。これは、晩期以降に水位の上昇があったことを示すもので、Ta-c 軽石の降下と無関係ではないと思われる。なお、この水没包含層からは、四肢骨は少ないながら、成長段階の異なるイノシシの牙、臼歯が数多くみつかった（「美沢川流域の遺跡群」Ⅲ 前出）。

札幌～苫小牧低地帯南部は、冷温帯系広葉樹と亜寒帯系針葉樹の混交する、沉針広混交林帯に位置している。しかしながら、たび重なる火山噴出物の降下のためか、美沢川周辺では、植生復活の早い広葉樹のヤチハンノキ、ミズナラ、コナラ、カシワ、ヤチダモ、カツラ、シラカ

ンバ、エゾイタヤ、ハルニレ、オニグルミ、バッコヤナギ等を見るだけで、開拓期以後に植栽されたものを除けば、針葉樹はない。花粉分析を担当した北海道開拓記念館の山田悟郎氏は、II 黒層中～上部では *Quercus* が漸増することから、温暖化の傾向を示し、I 黒層下部では依然 *Quercus* が優勢であるが *Abies* がやや増加し、ほぼ現在の気候になったと推定している（『美沢川流域の遺跡群』I 昭和51年度 道教委）。

美沢川には、ごく最近までサケが遡上した。また、明治11年には北海道開拓使が直営でシカ肉缶詰工場（美々罐詰所）を建設したほどエゾシカが豊富に獲れたことを考慮に入れば、先史時代の美沢川畔は、居住適地であったにちがいない。（森田知忠）



10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

III 美々4遺跡の調査

1 概 要

美々4遺跡は、美沢川左岸の標高25m前後の台地上と、これに続く南向きの斜面に立地する。斜面の南縁は、美沢川の氾濫原へと続き、遺跡は現河床下にも広がっていることが、これまでの調査で確認されている。

本年度の調査地区は、昭和55年度の調査区の西側に続く台地上から斜面にかけての範囲で、面積は6,475m²。遺物包含層は、厚さ約50cmのTa-c層を挟むⅠ黒層およびⅡ黒層で、両層ともほぼ全域にわたって遺構、遺物の分布が認められた。内訳は、表1に示すとおりである。

Ⅰ黒層から検出された遺構は、土壌墓10個、墓の可能性のある土壌17個、およびその他の土壌85個であり、住居跡等の生活遺構は発見されていない。墓およびその可能性のある土壌の多くは、調査地区中央の緩やかな尾根状の斜面に分布しており、このなかには、石蔵286本を副葬したP-32、シラカンバ属の樹皮を伴うP-59などが含まれる。その他の土壌には、小型の鉢と貝殻が入れられた壺が出土したP-2がある。

出土遺物は包含層から土器10,149点、石器等653点、遺構から土器4,390点、石器等970点である。遺構の掘りこみによってⅠ黒層中から引きあげられた少量のものを除けば、縄文時代晩期末葉のV群c類土器とこれに伴うとみられる石器等に限られている。Vc土器は、大洞A式およびこれの地方化した形態を含む在地の土器群で、この地方ではタンネット式と称されているグループである。

Ⅱ黒層からは、住居跡13軒、周堤墓・不確かなものを含めて5基、周溝付土壌墓2基、盛土墓7個、土壌墓63個、Tピット10個、その他の土壌29個の遺構が検出されている。これらのうち、一部の住居跡およびTピットを除いて大部分の遺構は、縄文時代後期末葉から晩期初頭にかけてのもので、遺物もこの時期のものが大多数を占めている。

完掘された住居跡は、縄文時代前期2、後期中葉2の合わせて4軒で、南側の緑地保存地区に及んでいる他の9軒については、工事用地のみの調査にとどめた。

周堤墓は台地の突出部上でまともな発見されている。このうちの3基(X-1~3)は堅穴と周堤との高低差が大きく、Ⅰ黒層調査中から存在が予想されたものである。周堤墓の堤内または堤上にある土壌墓のうち、本来周堤墓に伴うものと、そうでないものとの区分は過去にも試みられたことがあったが、説得力のある結果は発表されていない。今回の調査では、この区分について一定の見通しを得ることができた。すなわち、周堤墓廃棄後に覆土上から、長軸方向・形状・規模(とくに深さ)・副葬品等の異なる土壌墓が設けられていて、これらは本来の墓と重複することがあり、かなり明瞭に二分できそうである。また、さらにそれらを覆って盛土墓が築かれた例も検出され(X-2)、埋葬様式の変遷に関しても興味深い資料と思われる。

表1 美々4遺跡遺構・遺物一覧

	名称・分類	I 黒層	II 黒層	名称・分類	I 黒層	II 黒層	名称・分類	I 黒層	II 黒層
遺構	住 居 跡		13	(基壇)		5	T ビ ッ ト		10
	周 境 基		5	盛 土 基		7	その他の土構	85	28
	(基壇)		44	土 構 基	10	48			
	周 邊 付 土 筑 基		2	基の可能性ある土構	17	22			
土 器	I b-1		1	II a		137	V a	10	39,250
	-2		4	III b-1		237	V b		179
	-3		2	-2		432	V c	10,061	940
	-4		19	-3	1	2,677	V a (光彩)		7
	II a-1		25	III b-		14	合 計	10,149	144,332
	-2	2	959	IV a		322	遺 構 内 出 土	4,390	15,799
	II a-		9	IV b	2	13,524			
	II b		477	IV c	73	86,117			
	石 鏃 IA2a		111	破 片	1	40	石 鏃 IB1		5
	b		3	スクレイパー IB1		5	破 片	1	18
石 器	3	5	143		2	2	石 鏃 ⅡA1		3
	4	1	29		3	71	破 片		2
	5	14	973	破 片	1	39	礫 石 ⅡB1	3	2
	IA-	1	3	石 斧 ⅡA1	1	16		2	53
	破 片	1	202		2	7	ⅡB-		1
	やり先またはナイフ IB1	1	33		3	1	破 片	5	63
	2		18		4	12	石 鏃 ⅡA1		2
	IB-		1		5	2	74	2	6
	破 片		30	ⅡA-		1	破 片		27
	石 鏃 ⅡA1	1	58	破 片	4	302	石 核 ⅡA	3	185
等	2		54	石 の み ⅡB1		4	剥 片 ⅡB	336	22,302
	3	1	53	たたき石 ⅡA	22	219	U・フレ ⅡA	41	621
	ⅡA-		1	破 片	22	323	U・礫 ⅡB	2	20
	破 片		19	台 石 ⅡB1		4	礫・礫 片	102	7,306
	つまみ付きナイフ ⅢA1		3	破 片		2	石 製 品		29
	2		20	すり石 ⅡA1		8	土 製 品		58
	3		69		2	2	漆 器		5
	4		6		4	28	合 計	653	34,002
	5		8	ⅡA-		2	遺 構 内 出 土	970	2,694
	ⅢA-		10	破 片		75			

周堤墓よりはやや後出のものとされる周溝付土墳墓は、昭和55年度に続いて検出されたもので、今回で6例となったが、他の遺跡での発見例がなく、普遍的な形態であったのかどうかは不明である。

土墳墓の分布は、調査地区のほぼ全域にわたっているが、周堤墓・周溝付土墳墓等のある台地突出部ではとくに密度が高い。縄文時代後期末～晩期初頭にかけて、かなり長期にわたって、この地区が特別の意味をもっていたのかもしれない。

Tピットには、細長い溝状のものと、長方形または小判形にちかい平面形をもつものがあり、後者の底面には杭穴様の小ピットがある。

調査地区南縁沿いの緩い谷状の地形のところには、遺物の密集地区があり、多量の焼土ブロックを伴っている。調査地区の南縁は、緑地保存地区を挟んで、昭和51年度の調査地区と35mしか隔たっておらず、盛土境を伴う51年度の遺物密集地区および55年度の斜面下部の包水面下の密集地区と関連があるものと思われる。

Ⅱ黒層からの出土遺物は、土器片144,332点、石器等34,002点である。土器は後期(Ⅳ群)に分類されるものが69%と最も多く、晩期(Ⅴ群)が28%でこれに次ぎ、中期(Ⅲ群)、早期(Ⅰ群)に属する土器は僅かである。Ⅳ・Ⅴ群の土器の分布は、調査区東寄りの遺物密集地区を最大に、これに続く西側の斜面下位にも広がりがみられる。Ⅲ群は斜面のほぼ全域に散見され、Ⅰ群は斜面の東端でやや多くみられる。石器等は土器の分布と同様な傾向がみとめられた。出土石器の中では、石鏃がもっとも多く、スクレイパー・石斧・たたき石等がこれに続く。石器以外では、耳飾・垂飾・玉・オロシガネ形土製品などが少数出土している。なお、遺構出土の遺物は土器片15,799点、石器等2,694点である。(青柳文吉)

2 第I黒色土層(I黒層)の遺構と遺物

I黒層からは、111個の土墳と、縄文時代晩期末葉の土器(V群C類)及び石器等が検出された。

(1) 遺構

1) 墓および墓の可能性のある土墳

111個の土墳のうち、遺体、ベンガラが存在で墓と確認されたものは10個、規模・平面形・覆土の状態などから墓の可能性があると判断されたものは17個である。これらは、尾根状の斜面となる部分に多く分布し、斜面下部では点在する程度である。台地平坦部では検出されていない。

斜面下部から検出された墓は、墳底がTa-c、II黒、Ta-d₁層を貫き、Ta-d₂層中に達している。覆土からは、II黒層中から掘り上げた遺物が多量に出土している(P-1, 6, 7, 9)。ほとんどの遺体は土中で腐食して、水分を含む灰白色のあたかも糊のような状態になっており、部位は判然としない。

P-32の墳口付近には、石畿(IA4・IA5)が286点副葬されていた。墓から多数の石畿が出土した例は本遺跡の東側に隣接する美々5遺跡で1例(AP-1)発見されている。この墓からは、212点の石畿が出土している(「美沢川流域の遺跡群」Ⅲ)。

緩い尾根状をなす斜面で検出された墓および墓の可能性のある土墳は、Ta-c層上面の、標高17-19mのところに密である。平面形が円形のものと同円形を呈するものがある。これより北へやや離れたところから、P-59が検出された。このP-59からは、遺体と、遺体の周囲および下部に樹皮が検出された。樹皮は、幾枚かが組み合わされており、遺体を包み込んだか、あるいは遺体を納める容器として使われたか、いずれの可能性も考えられる。この墓には、V群C類の土器2個体と垂飾が副葬されていた。

ほかの墓墳には、P-59のような例はみられなかったが、検出遺体に比べて墳底面積が大きい墓(たとえばP-117)などには、このような埋葬形態が存在していた可能性も考えられる。

P-1

斜面下位のI黒層中で確認された。墳底はTa-d₂層中につくられ、H-5(II黒層の遺構)の覆土を一部切っている。墳底から糊状の遺体が検出された。頭骨と歯の保存状態は、他の部位に比べて良好である。

位置	E ₂ -64-79, -89	平面形	楕円形
規模	1.25/1.53×1.50/0.95×0.80	長軸方向	N-41°-W
埋葬体位	南頭位	副葬品	なし
覆土	I 黒褐色土(黒色土>c)	II	黄褐色土(黒色土+c)
	II 暗黄褐色土(黒色土>c)	IV	暗褐色土(黒色土+c)

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| V 灰褐色土(c) | VI 暗褐色土(c>黒色土) |
| VII 黄灰色土(c) | VIII 暗黄灰色土(c>黒色土) |
| IX 暗灰褐色土(d+黒色土) | X 黒褐色土(黒色土+c) |
| XI 暗褐色土(黒色土>c) | XII 暗褐色土(黒色土>c+d ₁) |
| XIII 暗褐色土(黒色土+c+d ₂) | XIV 黒褐色土(黒色土>d ₂) |
| XV 暗黄灰色土(黒色土>d ₁) | |

遺物 覆土 土器IVb:22, IVc:196, Va:3, Vc:138, 石器IA5:3, IXB:56, XA:

1. 礫:6.

1 Vc 5.0/16.5(13.5)×—

2 Vc 7.5/9.6×—(写真図版2-1)

3・5 IVc 4 Vc

6 IA5 1.6×1.3×0.3 0.4 Obs.

7 IA5 1.7×1.3×0.3 0.5 Obs.

8 IA5 2.5×1.5×0.5 1.5 Obs.

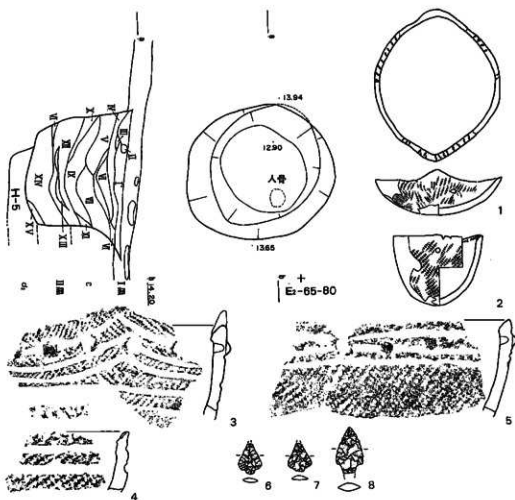


図6 P-1と遺物

III 美々4 遺跡の調査

P-4

墓の可能性がある。

位置 E₂-64-99

平面形 円形

規模 0.80/0.95×0.90/0.68×0.65

覆土 I 黒褐色土(黒色土>c>d₄)

II 暗黄褐色土(c>黒色土)

III 暗褐色土(黒色土>c)

IV 黄褐色土(c>黒色土)

V 黒褐色土(黒色土>c)

VI 暗褐色土(黒色土>c)

VII 黒褐色土(黒色土>c>d₄)

VIII 褐色土(黒色土+c)

遺物 覆土 石器IXB:10, XA:1。礫:1。

P-5

墓の可能性がある。

位置 E₂-64-99

平面形 円形

規模 0.54/1.02×1.00/0.68×0.68

覆土 I 黒褐色土(黒色土>c)

II 黄褐色土(c>黒色土)

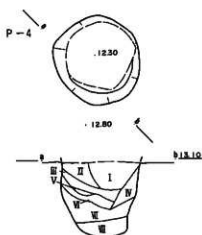
III 暗黄灰色土(c>黒色土)

IV 暗黄褐色土(c+黒色土)

V 暗黄褐色土(c>黒色土)

VI 褐色土(c>黒色土)

遺物 覆土 礫:2。



P-5 F1-64-09

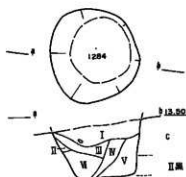


図7 P-4・5

P-6 (写真図版2-4・5)

斜面下位で検出された。墳底は、Ta-d₂層をわずかに掘り込んでつくられている。壁の立ち上りは全体に急である。遺体のほぼ全身の輪郭は確認できたが、骨の保存状態はあまり良くない。頭部の周囲にベンガラが認められた。

位置 E₂-64-19, -29

平面形 楕円形

規模 1.21/1.55×0.99/1.32×0.67

長軸方向 N-77°-E

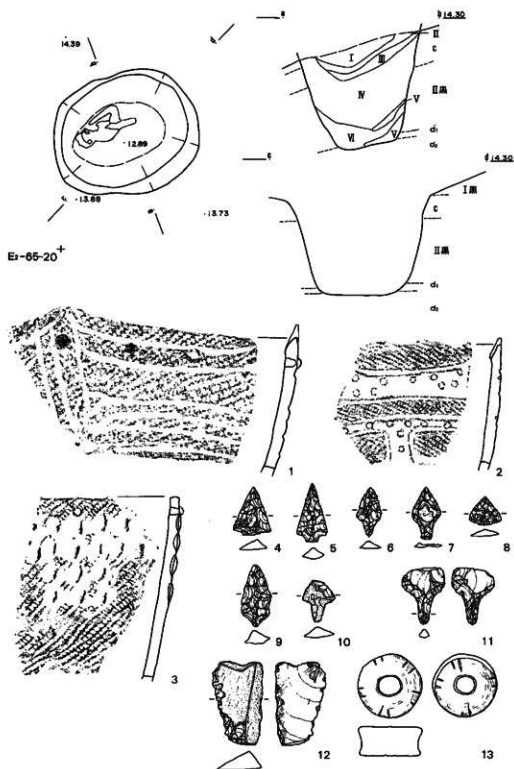


図8 P-6と遺物

III 美々4遺跡の調査

埋葬体位 南西頭位

副葬品 なし

覆土 I 黄褐色土(c)

II 黄褐色土(c)

III 暗黒褐色土(黒色土+c)

IV 黒色土($d_1 + d_2$)

V 黄褐色土(c)

VI 黒色土(黒色土 $> d_2 + c$)

遺物 覆土 土器Ⅱa-2:1, Ⅲb-2:1, IVb:11, IVc:646, Va:497, Vc:254, 石器ⅡA5:8, ⅡA:1, ⅡA3:1, ⅢA:1, ⅢB3:1, ⅣA:1, VA:1, IXB:160, XA:7. 礫:15. 土製品:1.

1・2 IVc 3 Va 4 ⅡA5 2.5×2.0×0.5 1.8 Obs.

5 ⅡA5 3.1×1.6×0.7 2.0 Obs. 6 ⅡA5 2.6×1.3×0.3 0.8 Obs.

7 ⅡA5 2.8×1.5×0.3 0.9 Obs. 8 ⅡA5 1.5×1.7×0.4 0.7 Obs.

9 ⅡA5 3.3×1.6×0.8 2.9 Obs. 10 ⅡA5 2.2×1.7×0.5 1.1 Obs.

11 ⅡA3 3.0×2.3×0.8 3.7 Sh. 12 ⅢB9 4.4×2.7×1.0 12.0 Obs.

13 土製品 3.3×3.4×3.3 15.3

P-7

底面はⅡ黒層につくられている。墳底南西すみで、樹状の遺体が検出された。遺体の周囲にはベンガラが認められた。

位置 E₁-64-99, E₂-64-09

平面形 楕円形

規模 0.95/1.64×1.35/1.27×0.97

長軸方向 N-39°-E

埋葬体位 不明

副葬品 なし

覆土 I 茶褐色土(黒色土 $> c$)

II 黄褐色土($c < 黒色土$)

III 明黄褐色土($c > 黒色土$)

IV 暗黄褐色土($c > 黒色土$)

V 灰褐色土(黒色土 $> c$)

VI 黄褐色土(c)

VII 黒褐色土(黒色土 $+ d_2 + c$)

遺物 覆土 土器Ⅱb-4:2, Ⅱa-2:2, Ⅲb-1:1, Ⅲb-3:1, IVb:8, IVc:530, Va:349, Vc:310. 石器ⅡA5:3, ⅢA2:1, ⅢA4:1, ⅢA5:1, ⅣA2:1, VA:3, VIA2:1, VIIb2:2, IXB:184, XA:7, XB:1. 礫:49.

1 Ⅲb-1 2 Ⅲb-3 3・4 IVc 5 ⅡA5 3.2×1.5×0.4 1.2 Obs.

6 ⅡA5 2.2×1.5×0.4 0.9 Obs. 7 ⅡA5 2.5×1.6×0.5 2.4 Obs.

8 ⅢA4 4.4×2.2×0.4 3.6 Obs. 9 ⅢA2 6.0×2.0×0.9 9.0 Obs.

10 ⅢA5 3.3×5.0×0.8 8.6 Obs. 11 IV2 8.8×3.4×3.0 163.0 Gr-Mud.

12 VIA2 4.5×11.3×2.9 180.0 And.

P-9

斜面下位の調査区境界で検出されたため、完掘することはできなかった。底面はⅡ黒層の下部に達している。壁の立ち上りは急である。遺体は樹状で、頭部と脚部と思われる部分が認めら

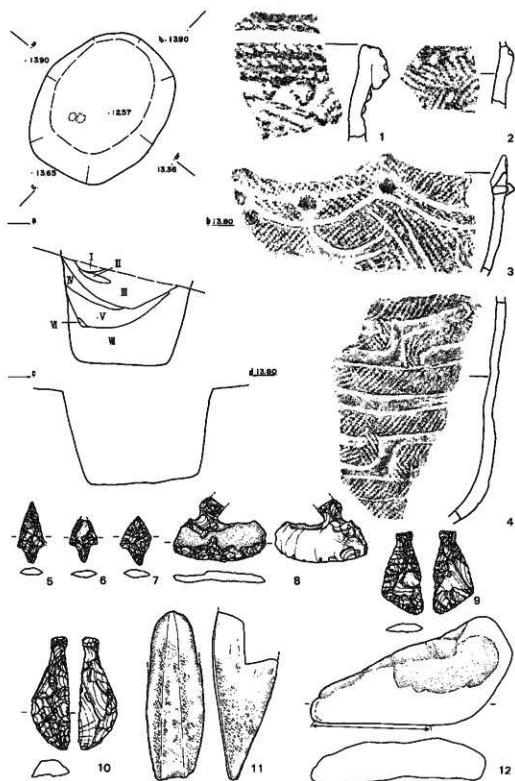


図9 P-7と遺物

れた。

位置 E₁-64-99

平面形 楕円形

規模 0.97/—/—

埋葬体位 屈葬と思われる

副葬品 なし

覆土 I 黒色土

II 茶褐色土(黒色土+c)

III 暗茶褐色土(黒色土>c)

IV 暗茶褐色土(黒色土>c)

V 黄褐色土(c>黒色土)

VI 黒色土

VII 明黄褐色土(c>黒色土)

VIII 黒褐色土(黒色土>c+EnP)

IX 黒褐色土(黒色土+c>d₂)

X 茶褐色土(黒色土+c)

XI 暗茶褐色土(黒色土>c)

XII 黄褐色土(c>黒色土)

XIII 暗茶褐色土(黒色土>c+d₂)

XIV 灰褐色土(黒色土+c)

XV 黒褐色土(c+d₂)

XVI 茶褐色土(c>黒色土)

XVII (黒色土+EnP)

遺物 覆土 土器 IVb: 5, IVc: 47, Va: 19, Vc: 41, 石器 IVA: 1, VII B: 1, IXB: 12, 礫: 6。

1~3 IVc

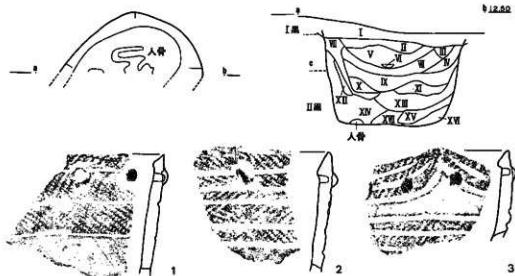


図10 P-9と遺物

P-15

墓の可能性がある。Ta-c層上面で確認した。北側壁がほぼ直立しているほかは、緩やかに立ち上り、墳口近くで外反する二段構造をなす。

位置 E₂-64-27

平面形 楕円形

規模 0.82/1.05×0.90/0.45×0.35

長軸方向 N-129°-E

覆土 I 黒色土(黒色土>c)	II 暗褐色土(c+d ₂)
III 暗黄褐色土(c)	IV 黄褐色土(c>黒色土)
V IVと同じ	VI 黒褐色土(黒色土>c+d ₂ +EnL)
VII 灰白色土(c)	VIII ペンガラ

P-16

墓の可能性がある。墳底はEn-aローム層中につくられ、平坦である。

位置 E ₂ -64-36	平面形 円形
規模 0.80/1.08×0.86/0.60×0.56	
覆土 I 黒色土	II 黒褐色土+c)
III 黄褐色土(c>黒色土)	IV 暗褐色土(c>黒色土)
V 茶褐色土(d ₂ >黒色土)	VI 暗黄褐色土(c)
VII 暗褐色土(c+d ₂ +EnL)	VIII VIと同じ
IX VIと同じ	X Vと同じ
XI VIと同じ	XII 黒褐色土(c+d ₂ +黒色土)

P-18

墓の可能性がある。Ta-c層上面で確認された。壁はわずかに内湾しながら立ち上り、墳口近くで大きく外へ開く。

位置 E ₂ -64-26, -27	平面形 楕円形
規模 0.75/1.10×1.00/0.55×0.40	長軸方向 N-7'-E
覆土 I 黒色土	II 暗黄褐色土(c)
III 黄色火山灰(c)	IV 暗褐色土(c>d ₂ +EnL+黒色土)
V 褐色土(黒色土+EnL+d ₂)	

P-19

墓の可能性がある。Ta-c層上面で確認した。壁は南東側が緩やかに立ち上るほかは、ほぼ直立する。

位置 E ₂ -64-16, -17	平面形 楕円形
規模 0.60/1.00×1.00/0.70×0.55	長軸方向 N-56'-E
覆土 I 暗黄褐色土(c>黒色土)	II 暗褐色土(c+黒色土)
III 黒褐色土(c>黒色土)	IV 黒褐色土(黒色土>c)
V 黒褐色土(c>黒色土)	VI 黒色土(黒色土>c)

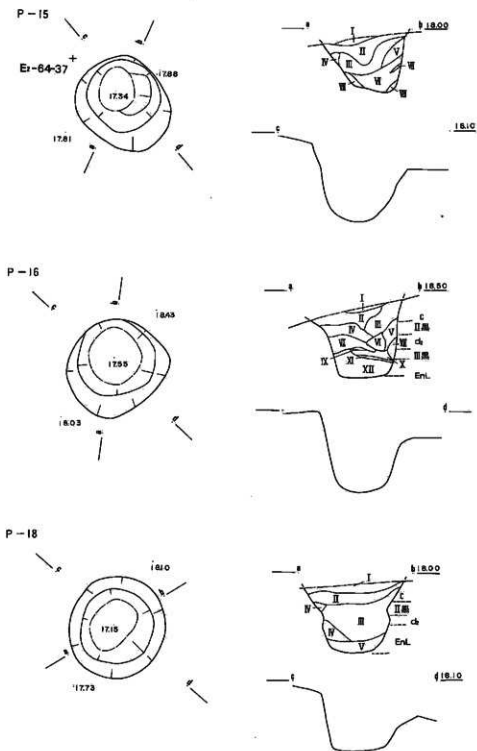
遺物 覆土 土器 Va: 1, Vc: 1。

P-20

墓の可能性がある。北東側壁の墳口近くでP-44を切る。

位置 E ₂ -64-27	平面形 楕円形
規模 0.70/0.90×0.90/0.60×0.50	長軸方向 N-46'-E

III 美々4遺跡の調査



図II P-15・16・18

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 覆土 I 暗褐色土(黒色土>c) | II 暗褐色土(c>黒色土) |
| III 灰白色土(c) | IV 暗黄褐色土(c) |
| V 黒褐色土($d_2 + c + \text{EnL}$) | VI 灰白色土(c) |
| VII 褐色土($c + d_1 + \text{EnL}$) | VIII 暗茶褐色土(c+黒色土) |
| IX 黒褐色土($d_2 + \text{EnL}$) | |

P-21

墓の可能性がある。

位置 E₂-64-16

平面形 円形

規模 1.25/1.60×1.25/0.80×0.80

- | | |
|---------------------|------------------|
| 覆土 I 黒色土 | II 黄褐色土(c) |
| III 黒灰色土(c+黒色土) | IV 灰褐色土(c>黒色土) |
| V 黒褐色土(黒色土> d_2) | VI 黄褐色土(c) |
| VII 黒色土(黒色土>c) | VIII 灰褐色土(c>黒色土) |
| IX 黒色土(黒色土> d_2) | |

遺物 覆土 土器 Va: 3。

P-22

墓の可能性がある。壁は全面緩やかに立ち上る。

位置 E₂-64-05

平面形 楕円形

規模 0.95/1.50×1.35/0.70×0.55

長軸方向 N-17°-E

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 覆土 I 黄灰色土(c>黒色土) | II 黒色土 |
| III 暗灰色土(c>黒色土) | IV 暗褐色土(c+ d_2) |
| V 暗灰色土(c) | VI 暗茶褐色土($d_2 > c$ 黒色土>c+ d_2) |
| VII 暗灰色土(c) | VIII 暗茶褐色土($d_2 > c$) |

遺物 覆土 土器 Vc: 4。

P-25

尾根状に張り出した斜面の中位で検出された。墳底は Ta- d_2 層中につくられ、壁の立ち上りは緩やかである。墳口は、墳底に比べて広い。

墳底東すみに頭部の痕跡が認められた。他の部位の保存状態は極めて悪く樹状である。

位置 E₂-64-47, -57

平面形 楕円形

規模 1.30/2.50×1.90/1.14×0.87

長軸方向 N-20°-W

埋葬体位 南東頭位

副葬品 なし

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 覆土 I 暗黄色地土(c) | II 暗褐色土(黒色土>c+ d_2) |
| III 暗黄色土(c) | IV 暗褐色土(黒色土+c> d_2) |
| V 明褐色土(黒色土+c+ d_2) | VI 暗茶褐色土(黒色土>c+ d_2) |
| VII 黒灰色土(黒色土+c) | VIII 黒色土(黒色土> d_2) |

遺物 覆土 土器IVb:9, IVc:4, Va:9, Vc:14, 石器VA1:1, VIA2:1, 礫:32。

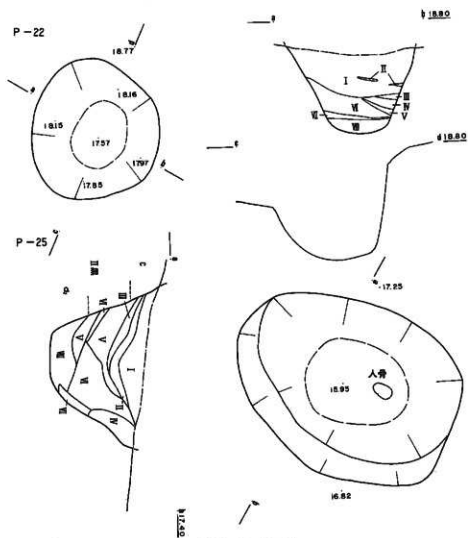


図13 P-22・25

P-32 (写真図版3)

坑底はTa-d₂層につくられ、壁は西側で急であるほかは、緩やかに立ち上り、坑口付近で外反する。底面東すみに頭部と、中央部で腕に相当すると思われる骨が検出された。

遺構確認面からは、石鏃が286点出土した。副葬品であろう。

位置 E₂-64-68

平面形 楕円形

規模 1.25/2.10×1.55/1.20×1.00

長軸方向 N-20°-W

埋葬体位 南東頭位で屈葬と思われる

副葬品 石鏃(IA4:5, IA5:279, IA-:1, IA:2)

覆土 I 黒色土

II 暗茶褐色土(c>黒色土)

III 暗黄褐色土(c>黒色土)

IV 暗褐色土(c>黒色土)

III 美々4遺跡の調査

V 黒褐色土 (d_1+c)	VI 茶褐色土 (d_2)
VII 黄褐色土 ($c>$ 黒色土)	VIII 黄灰色土 ($c>$ 黒色土)
IX 暗茶褐色土 ($d_2>$ 黒色土)	X 黒色土 (d_2)
XI 黒灰色土 ($c>$ 黒色土)	XII 暗黒褐色土 (黒色土 $> d_2$)
XIII 茶褐色土 (d_2)	XIV 暗黄色土 (c)
XV 暗褐色土 ($d_2>$ 黒色土)	XVI 暗黒褐色土 ($c+d_2$)

遺物 覆土 土器 Vc:212。石器 IVA:1, IVA2:1, IVA3:1, IVA5:1, VA:2, VA破片:7, IXB:5, X:1。礫:2。

1 Vc 6.0/13.3×7.8(写真図版3-4)

2~6 Vc

8 IA5	1.7×0.9×0.3	0.3	Obs.	7 IA5	1.7×1.0×0.2	0.2	Obs.
10 IA5	1.6×1.0×0.1	0.2	Obs.	9 IA5	1.7×0.9×0.2	0.1	Obs.
12 IA5	1.7×1.0×0.2	0.3	Obs.	11 IA5	1.6×1.0×0.2	0.3	Obs.
14 IA5	1.6×1.1×0.4	0.4	Obs.	13 IA5	1.5×1.1×0.2	0.2	Obs.
16 IA5	1.8×1.1×0.3	0.3	Obs.	15 IA5	1.7×0.9×0.2	0.3	Obs.
18 IA5	1.8×1.0×0.2	0.3	Obs.	17 IA5	1.8×1.0×0.2	0.3	Obs.
20 IA5	1.8×1.1×0.3	0.3	Obs.	19 IA5	1.8×1.1×0.3	0.3	Obs.
22 IA5	1.8×1.1×0.2	0.3	Obs.	21 IA5	1.8×1.0×0.2	0.3	Obs.
24 IA5	1.8×1.1×0.3	0.4	Obs.	23 IA5	1.9×1.1×0.3	0.5	Obs.
26 IA5	1.8×1.1×0.2	0.3	Obs.	25 IA5	1.9×1.1×0.3	0.5	Obs.
28 IA5	1.8×1.1×0.2	0.4	Obs.	27 IA5	1.9×1.0×0.3	0.4	Obs.
30 IA5	2.0×1.0×0.3	0.4	Obs.	29 IA5	1.9×1.1×0.3	0.4	Obs.
32 IA5	2.1×0.9×0.3	0.4	Obs.	31 IA5	2.6×1.1×0.4	0.4	Obs.
34 IA5	2.5×1.0×0.2	0.3	Obs.	33 IA5	1.8×1.1×0.3	0.2	Obs.
36 IA5	1.8×1.0×0.2	0.2	Obs.	35 IA5	2.0×1.1×0.3	0.4	Obs.
38 IA5	1.9×1.1×0.3	0.4	Obs.	37 IA5	2.0×1.1×0.3	0.4	Obs.
40 IA5	1.9×1.1×0.3	0.4	Obs.	39 IA5	1.9×1.1×0.3	0.4	Obs.
42 IA5	2.1×1.1×0.3	0.2	Obs.	41 IA5	2.1×1.1×0.2	0.3	Obs.
44 IA5	2.0×1.0×0.2	0.3	Obs.	43 IA5	1.9×1.1×0.3	0.4	Obs.
46 IA5	2.2×1.1×0.2	0.3	Obs.	45 IA5	2.1×1.0×0.3	0.4	Obs.
48 IA5	2.0×1.0×0.2	0.3	Obs.	47 IA5	1.9×1.1×0.2	0.4	Obs.
50 IA5	2.0×1.1×0.3	0.5	Obs.	49 IA5	1.4×1.0×0.3	0.5	Obs.
52 IA5	1.9×1.1×0.3	0.4	Obs.	51 IA5	2.0×2.1×0.3	0.5	Obs.
54 IA5	1.9×1.0×0.3	0.5	Obs.	53 IA5	1.9×0.9×0.2	0.4	Obs.
56 IA5	2.0×1.2×0.3	0.5	Obs.	55 IA5	2.0×1.1×0.3	0.5	Obs.
				57 IA5	1.9×1.3×0.3	0.4	Obs.

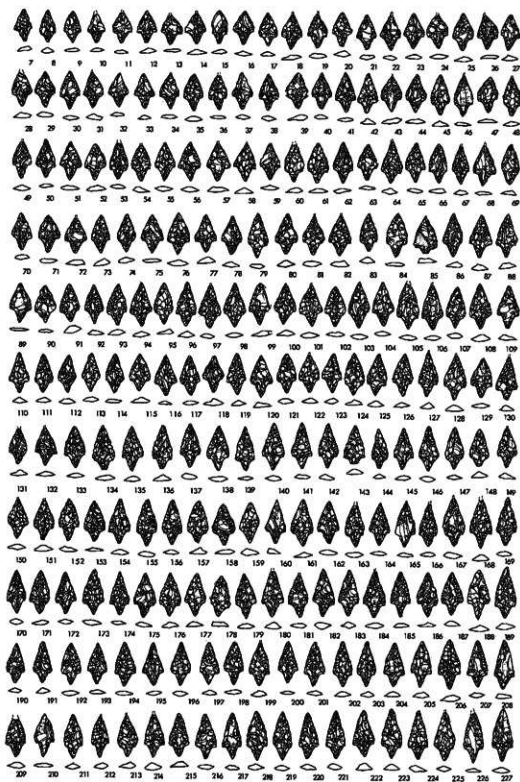
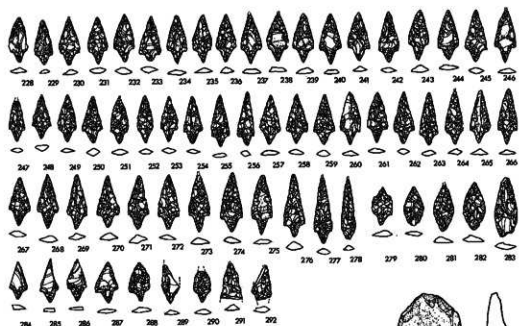


図15 P-32の遺物



293



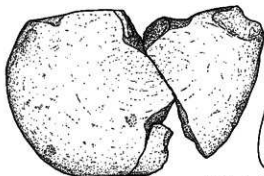
294



295



297



296

図16 P-32の遺物

58	IA5	2.0×1.1×0.3	0.5	Obs.	59	IA5	1.9×1.1×0.3	0.4	Obs.
60	IA5	1.9×1.0×0.3	0.4	Obs.	61	IA5	2.1×1.1×0.2	0.4	Obs.
62	IA5	2.1×1.0×0.2	0.4	Obs.	63	IA5	1.9×1.0×0.2	0.2	Obs.
64	IA5	2.2×1.2×0.4	0.5	Obs.	65	IA5	2.1×1.1×0.3	0.4	Obs.
66	IA5	2.0×1.0×0.2	0.4	Obs.	67	IA5	2.0×0.9×0.3	0.4	Obs.
68	IA5	2.1×1.2×0.2	0.3	Obs.	69	IA5	2.8×0.9×0.3	0.3	Obs.
70	IA5	1.9×1.1×0.3	0.5	Obs.	71	IA5	2.0×1.1×0.3	0.4	Obs.
72	IA5	1.8×1.1×0.2	0.5	Obs.	73	IA5	2.0×1.0×0.3	0.4	Obs.
74	IA5	2.0×1.0×0.3	0.3	Obs.	75	IA5	2.0×1.2×0.2	0.3	Obs.
76	IA5	2.2×1.2×0.3	0.5	Obs.	77	IA5	2.0×1.1×0.3	0.4	Obs.
78	IA5	2.0×1.1×0.3	0.5	Obs.	79	IA5	1.9×0.9×0.3	0.5	Obs.
80	IA5	2.0×1.2×0.3	0.6	Obs.	81	IA5	2.1×1.2×0.3	0.5	Obs.
82	IA5	2.1×1.2×0.3	0.6	Obs.	83	IA5	2.0×0.9×0.4	0.5	Obs.
84	IA5	2.3×1.1×0.2	0.6	Obs.	85	IA5	1.9×1.2×0.2	0.4	Obs.
86	IA5	2.3×1.0×0.2	0.4	Obs.	87	IA5	2.3×1.2×0.3	0.5	Obs.
88	IA5	2.0×1.1×0.3	0.6	Obs.	89	IA5	2.0×1.2×0.2	0.3	Obs.
90	IA5	1.9×1.1×0.2	0.4	Obs.	91	IA5	2.0×1.1×0.3	0.6	Obs.
92	IA5	2.0×1.0×0.3	0.3	Obs.	93	IA5	2.1×1.0×0.3	0.5	Obs.
94	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.	95	IA5	2.1×1.0×0.3	0.4	Obs.
96	IA5	2.3×1.0×0.3	0.6	Obs.	97	IA5	2.2×1.2×0.3	0.5	Obs.
98	IA5	2.3×1.2×0.3	0.5	Obs.	99	IA5	2.2×1.1×0.3	0.4	Obs.
100	IA5	2.1×1.1×0.3	0.5	Obs.	101	IA5	2.2×1.2×0.3	0.5	Obs.
102	IA5	2.1×1.1×0.2	0.4	Obs.	103	IA5	2.4×1.1×0.3	0.6	Obs.
104	IA5	2.3×1.2×0.3	0.5	Obs.	105	IA5	2.4×1.2×0.4	0.7	Obs.
106	IA5	2.4×1.2×0.2	0.4	Obs.	107	IA5	2.1×1.0×0.3	0.5	Obs.
108	IA5	2.4×1.2×0.4	0.7	Obs.	109	IA5	2.2×1.2×0.2	0.3	Obs.
110	IA5	2.1×1.1×0.3	0.4	Obs.	111	IA5	2.1×0.9×0.3	0.4	Obs.
112	IA5	2.0×0.9×0.2	0.4	Obs.	113	IA5	2.0×1.0×0.2	0.3	Obs.
114	IA5	2.1×1.0×0.3	0.4	Obs.	115	IA5	2.0×1.1×0.3	0.4	Obs.
116	IA5	2.1×1.2×0.1	0.3	Obs.	117	IA5	2.1×1.2×0.2	0.4	Obs.
118	IA5	2.1×1.1×0.3	0.4	Obs.	119	IA5	2.1×1.0×0.3	0.4	Obs.
120	IA5	2.2×1.2×0.3	0.4	Obs.	121	IA5	2.0×1.0×3.5	0.5	Obs.
122	IA5	2.0×1.1×0.3	0.5	Obs.	123	IA5	2.1×1.4×0.4	0.5	Obs.
124	IA5	2.2×1.0×0.3	0.3	Obs.	125	IA5	2.2×1.0×0.3	0.5	Obs.
126	IA5	2.2×1.1×0.2	0.4	Obs.	127	IA5	2.3×1.0×0.4	0.5	Obs.

128	IA5	2.3×1.2×0.4	0.6	Obs.	129	IA5	2.1×1.1×0.3	0.5	Obs.
130	IA5	2.3×1.1×0.3	0.6	Obs.	131	IA5	1.9×0.9×0.3	0.3	Obs.
132	IA5	2.4×1.1×0.2	0.4	Obs.	133	IA5	2.2×1.1×0.3	0.5	Obs.
134	IA5	1.5×1.2×0.3	0.4	Obs.	135	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.
136	IA5	2.2×1.0×0.3	0.5	Obs.	137	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.
138	IA5	2.3×1.2×0.3	0.5	Obs.	139	IA5	2.3×1.0×0.3	0.4	Obs.
140	IA5	2.5×1.2×0.3	0.5	Obs.	141	IA5	2.4×1.0×0.3	0.5	Obs.
142	IA5	2.3×1.0×0.3	0.4	Obs.	143	IA5	2.0×1.1×0.3	0.4	Obs.
144	IA5	2.1×0.9×0.3	0.3	Obs.	145	IA5	2.2×1.1×0.4	0.4	Obs.
146	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.	147	IA5	2.2×0.9×0.3	0.4	Obs.
148	IA5	1.9×1.0×0.3	0.5	Obs.	149	IA5	2.1×1.1×0.3	0.4	Obs.
150	IA5	2.1×1.1×0.3	0.3	Obs.	151	IA5	2.1×1.1×0.3	0.5	Obs.
152	IA5	2.2×1.0×0.3	0.4	Obs.	153	IA5	2.0×1.1×0.2	0.5	Obs.
154	IA5	2.4×1.1×0.3	0.4	Obs.	155	IA5	2.4×1.1×0.3	0.6	Obs.
156	IA5	2.4×1.1×0.3	0.5	Obs.	157	IA5	2.2×1.1×0.3	0.5	Obs.
158	IA5	2.2×1.2×0.3	0.5	Obs.	159	IA5	2.1×1.1×0.3	0.4	Obs.
160	IA5	2.3×1.1×0.3	0.4	Obs.	161	IA5	2.5×1.2×0.3	0.6	Obs.
162	IA5	2.2×1.1×0.3	0.5	Obs.	163	IA5	2.2×1.0×0.3	0.5	Obs.
164	IA5	2.2×1.1×0.3	0.5	Obs.	165	IA5	2.4×1.0×0.3	0.4	Obs.
166	IA5	2.3×1.0×0.3	0.4	Obs.	167	IA5	2.6×1.2×0.4	0.7	Obs.
168	IA5	2.5×1.2×0.3	0.8	Obs.	169	IA5	2.5×1.0×0.3	0.5	Obs.
170	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.	171	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.
172	IA5	2.2×1.1×0.3	0.5	Obs.	173	IA5	2.4×1.1×0.3	0.5	Obs.
174	IA5	2.2×1.1×0.2	0.4	Obs.	175	IA5	2.5×1.0×0.3	0.5	Obs.
176	IA5	2.3×1.1×0.4	0.7	Obs.	177	IA5	2.2×1.1×0.3	0.4	Obs.
178	IA5	2.1×1.0×0.2	0.3	Obs.	179	IA5	2.3×1.1×0.3	0.6	Obs.
180	IA5	2.4×1.1×0.3	0.7	Obs.	181	IA5	2.2×1.0×0.3	0.4	Obs.
182	IA5	2.5×1.2×0.4	0.7	Obs.	183	IA5	2.4×1.1×0.3	0.5	Obs.
184	IA5	2.4×1.2×0.3	0.5	Obs.	185	IA5	2.3×1.1×0.2	0.4	Obs.
186	IA5	2.3×1.1×0.2	0.4	Obs.	187	IA5	2.2×1.2×0.3	0.5	Obs.
188	IA5	2.6×1.1×0.4	0.7	Obs.	189	IA5	2.7×1.1×0.3	0.7	Obs.
190	IA5	2.1×1.0×0.3	0.4	Obs.	191	IA5	2.2×1.0×0.3	0.4	Obs.
192	IA5	2.2×1.1×0.3	0.4	Obs.	193	IA5	2.2×1.0×0.2	0.4	Obs.
194	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.	195	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.
196	IA5	2.3×1.1×0.3	0.5	Obs.	197	IA5	2.3×1.0×0.3	0.5	Obs.

198	IA5	2.3×1.0×0.3	0.5	Obs.	199	IA5	2.3×1.1×0.3	0.6	Obs.
200	IA5	2.2×1.0×0.3	0.4	Obs.	201	IA5	2.3×1.1×0.3	0.4	Obs.
202	IA5	2.4×1.0×0.3	0.4	Obs.	203	IA5	2.4×0.9×0.3	0.5	Obs.
204	IA5	2.3×1.1×0.3	0.4	Obs.	205	IA5	2.4×1.1×0.3	0.5	Obs.
206	IA5	2.6×1.2×0.3	0.8	Obs.	207	IA5	2.5×1.2×0.3	0.5	Obs.
208	IA5	2.6×1.1×0.2	0.5	Obs.	209	IA5	2.0×1.0×0.3	0.5	Obs.
210	IA5	2.3×1.1×0.2	0.5	Obs.	211	IA5	2.3×1.0×0.3	0.5	Obs.
212	IA5	2.2×0.9×0.3	0.5	Obs.	213	IA5	2.2×1.0×0.3	0.6	Obs.
214	IA5	2.3×1.1×0.4	0.6	Obs.	215	IA5	2.3×1.1×0.3	0.4	Obs.
216	IA5	2.4×1.1×0.2	0.4	Obs.	217	IA5	2.4×1.0×0.2	0.4	Obs.
218	IA5	2.6×1.1×(0.5)(0.8)	Obs.		219	IA5	2.8×1.9×0.3	0.7	Obs.
220	IA5	2.5×1.0×0.3	0.5	Obs.	221	IA5	2.6×1.0×0.3	0.5	Obs.
222	IA5	2.5×1.1×0.4	0.7	Obs.	223	IA5	2.6×1.1×0.3	0.6	Obs.
224	IA5	2.6×1.1×0.3	0.6	Obs.	225	IA5	2.6×1.1×0.3	0.5	Obs.
226	IA5	2.7×1.0×0.2	0.4	Obs.	227	IA5	2.8×1.1×0.3	0.8	Obs.
228	IA5	2.4×1.0×0.2	0.4	Obs.	229	IA5	2.4×1.0×0.2	0.5	Obs.
230	IA5	(2.4)×1.1×0.2	(0.5)	Obs.	231	IA5	2.5×1.1×0.3	0.6	Obs.
232	IA5	2.5×1.1×0.3	0.8	Obs.	233	IA5	(2.4)×1.2×0.3	(0.4)	Obs.
234	IA5	2.6×1.0×0.3	0.4	Obs.	235	IA5	2.5×1.0×0.2	0.5	Obs.
236	IA5	2.5×1.1×0.3	0.6	Obs.	237	IA5	2.6×1.1×0.2	0.5	Obs.
238	IA5	2.5×1.1×0.2	0.5	Obs.	239	IA5	2.6×1.1×0.2	0.5	Obs.
240	IA5	2.6×1.2×0.2	0.5	Obs.	241	IA5	2.6×1.2×0.3	0.5	Obs.
242	IA5	2.6×1.1×0.4	0.8	Obs.	243	IA5	2.7×1.1×0.3	0.7	Obs.
244	IA5	2.6×1.1×0.2	0.5	Obs.	245	IA5	2.7×1.2×0.3	0.7	Obs.
246	IA5	2.7×1.2×0.2	0.6	Obs.	247	IA5	(2.1)×0.8×0.3	(0.4)	Obs.
248	IA5	2.3×1.0×0.3	0.4	Obs.	249	IA5	2.3×1.2×0.3	0.5	Obs.
250	IA5	2.5×1.1×0.4	0.6	Obs.	251	IA5	2.4×0.9×0.3	0.5	Obs.
252	IA5	2.5×0.9×0.3	0.5	Obs.	253	IA5	2.1×1.1×0.3	0.5	Obs.
254	IA5	2.5×1.0×0.3	0.6	Obs.	255	IA5	2.7×1.0×0.3	0.5	Obs.
256	IA5	2.3×0.9×0.3	0.5	Obs.	257	IA5	2.6×1.1×0.2	0.4	Obs.
258	IA5	2.6×1.2×0.3	0.6	Obs.	259	IA5	2.6×1.1×0.4	0.7	Obs.
260	IA5	2.8×1.1×0.3	0.5	Obs.	261	IA5	2.7×1.1×0.3	0.6	Obs.
262	IA5	2.8×1.1×0.4	0.7	Obs.	263	IA5	2.8×0.9×0.3	0.5	Obs.
264	IA5	2.8×0.9×0.3	0.5	Obs.	265	IA5	2.8×1.1×0.3	0.5	Obs.
266	IA5	2.9×1.0×0.2	0.6	Obs.	267	IA5	2.5×1.1×0.3	0.5	Obs.

268	IA5	2.8×1.1×0.3	0.7	Obs.	269	IA5	2.9×1.1×0.3	0.6	Obs.
270	IA5	2.7×1.2×0.3	0.7	Obs.	271	IA5	2.8×1.1×0.4	0.8	Obs.
272	IA5	2.8×1.1×0.3	0.8	Obs.	273	IA5	3.0×1.1×0.3	0.8	Obs.
274	IA5	3.1×1.2×0.3	0.8	Obs.	275	IA5	3.1×1.1×0.2	0.6	Obs.
276	IA5	3.3×1.1×0.4	1.0	Obs.	277	IA5	3.4×1.0×0.3	0.9	Obs.
278	IA5	3.2×0.7×0.3	0.5	Obs.	279	IA5	2.0×1.1×0.3	0.4	Obs.
280	IA5	2.0×1.1×0.3	0.5	Obs.	281	IA5	2.5×1.1×0.3	0.7	Obs.
282	IA5	2.5×1.1×0.4	0.9	Obs.	283	IA5	(3.1)×1.2×0.4	(1.1)	Obs.
284	IA5	2.0×0.9×0.2	0.8	Obs.	285	IA5	2.4×1.0×0.2	0.4	Obs.
286	IA5	2.2×1.1×0.3	0.4	Obs.	287	IA5	2.2×1.2×0.3	0.5	Obs.
288	IA5	2.0×1.1×0.3	0.5	Obs.	289	IA5	(2.1)×0.9×0.2	(0.3)	Obs.
290	IA5	(1.7)×0.9×0.2	(0.3)	Obs.	291	IA5	(1.9)×1.1×0.3	(0.5)	Obs.
292	IA5	(1.9)×1.1×0.3	(0.5)	Obs.	293	IVA2	13.4×4.6×1.7	175.0	Gr-Mud.
294	IVA3	13.06×3.8×1.2	81.0	Gr-Mud.	295	IVA3	9.5×3.8×1.3	88.0	Gr-Mud.
296	VB	8.9×9.0×3.8	430.0	Sa.	297	IVA1	9.9×4.0×1.3	165.0	Gr-Mud.

(写真図版4)

P-43

墓の可能性がある。墳底は Ta-d₂層中につくられ、壁は墳口付近で外反する。北東部で P-52を切る。

位置 E₂-64-17, -27

平面形 楕円形

規模 0.80/(1.30)×1.15/0.70×0.55

長軸方向 N-43'-E

覆土 I 黒色土(黒色土>c)

II 褐色土(c>黒色土)

III 黒色土(黒色土+c)

IV 灰黒色土(黒色土>c)

V 褐色土(c)

VI 黄褐色土(c>黒色土)

VII 黒褐色土(c+黒色土)

VIII 暗褐色土(c>黒色土)

IX 黄色土(c>黒色土)

X 黒褐色土(黒色土>c)

XI 黒色土(黒色土>d₂)

P-45

墓の可能性がある。墳底は Ta-d₂層中にあり、壁は墳口近くで外反する。

位置 E₂-64-36

平面形 楕円形

規模 0.95/1.20×0.95/0.60×0.40

長軸方向 N-34'-E

覆土 I 茶褐色土(黒色土+c)

II 黒色土(黒色土>c)

III 暗黄褐色土(c>黒色土>d₂)IV 暗茶褐色土(黒色土>c+d₂)

V 暗黄褐色土(c<黒色土)

VI 黒褐色土(黒色土+d₂+EnL)VII 暗褐色土(黒色土+d₂+EnL)

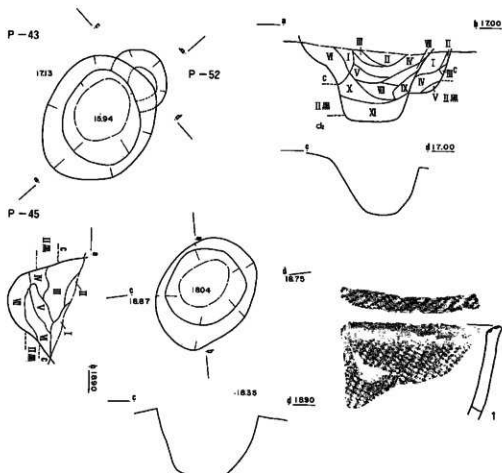


図17 P-43・52・45と遺物

遺物 覆土 土器 Vc:14。

 $1 \quad V_c$

P-49

墓の可能性がある。

位置 E₁-64-59

平面形 椭圆形

規模 0.85/1.40×1.00/0.80×0.40

長軸方向 N-56°-W

覆土 I 黃褐色土(c>黑色土)

II 暗褐色土(c>黑色土)

II 暗褐色土(c+黑色土+d₂)

IV 黑色土(黑色土 $>d_2>c$)

V 黑色土(d_2 > 黑色土 > c)

VI 黑色土(d_2 > 黑色土 > c)

VII 黑色土

遺物 覆土 土器IVc:1, Vc:17。石器ⅢB3:1 IXB:2。礫:2。

P-53

擴底は En-a ローム層中につくられ、平坦である。壁は、ほぼ垂直に立ち上り壙口近くでや

や外反する。遺体は、南東壁ぎわから、頭部と思われる部分および胴部上半が検出されたが、腐食が著しいため詳細は不明である。

位置 E₂-64-56

平面形 楕円形

規模 1.05/1.60×1.20/1.10×0.80

長軸方向 N-28'-W

埋葬体位 南東頭位?

副葬品 なし

覆土 I 黒色土(黒色土>c)

II 黒褐色土(黒色土>c>d₂)

III 黄褐色土(黒色土+c+d₂)

IV 黒色土(黒色土>c)

V 黄褐色土(c>黒色土)

VI 暗黄褐色土(c+黒色土)

VII 黒色土(黒色土>c+d₂)

VIII 黒色土(黒色土+c+d₂)

IX 黒色土(黒色土>d₂)

X 黄色土(c)

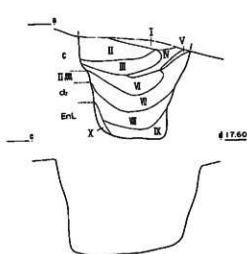
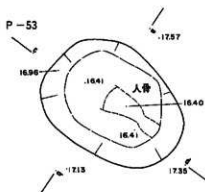
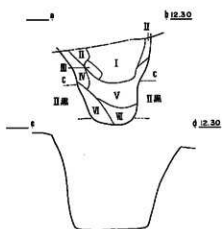
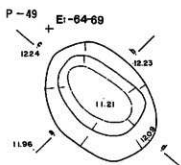


図18 P-49・53

P-59 (写真図版 5・6-1)

斜面の上部、標高20mほどのところに位置し、土壌内から樹皮で包まれた遺体が検出されたものである。墳底はII黒層中に作られ、中央部からシラカンパ属と思われる樹皮を用いた0.7×0.45mの容器状のものが出された。容器状のものには、底面に1枚の樹皮を用い、湾曲した側面に2〜3枚の樹皮を組み重ねて作られている。樹皮には炭化した部分が認められる。さらに覆土上からは、炭化材が多量に検出されたことから、容器の上部は焼失した可能性がある。遺体は

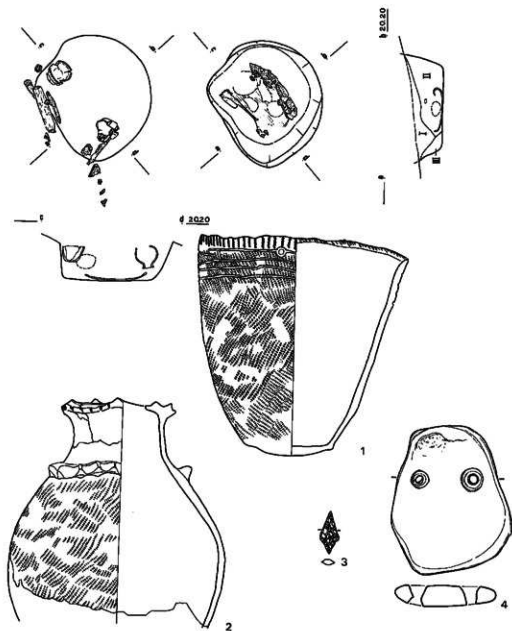


図19 P-59と遺物

腐食が著しく進行しており、埋葬体位、性別、年齢については不明であるが、頭位は、歯と上顎骨の位置から南東を向き、歯は焼けた可能性がある(付1参照)。副葬品には、V群C類の深鉢と壺、垂飾がある。深鉢は、容器の北西端に正立の状態、壺は、深鉢と相対して頭骨付近の上部に倒立した状態に置かれていた。垂飾は、深鉢の南側から出土した。また、深鉢の底部付近からは、焼けた獣骨が出土している。覆土上部の炭化材の¹⁴C年代は、2370±30y.B.P.(KSU-767)である。

本土墳墓周辺は、4発掘区にまたがって窪地を呈しており、遺物が多量に出土している。これらの遺物は、本土墳墓と密接に関連するものと考えられる。詳細については、遺物の項で記すこととする。

位置	E ₂ -64-34, -44	平面形	楕円形
規模	0.45/1.20×1.10/0.95×0.90	樹皮の規模	0.30/0.70×0.45
長軸方向	N-48°-W	埋葬体位	南東頭位屈葬?
副葬品	土器(Vc): 2 垂飾: 1		
覆土	I 黒色土(黒色土>c)	II 黄褐色土(c>黒色土)	
	III 黒色土		
遺物	覆土 石器 IA5: 1 IXB: 1。礫: 1。 1 Vc 23.0/22.0×9.2		
	2 Vc —/12.2×— 銅最大23.1cm(写真図版6-2)		
	3 IA5 2.2×1.0×0.3 0.5 Obs. 4 垂飾 7.8×6.2×1.2 65.0 Mud.		

P-74

墓の可能性ある。

位置	E ₂ -64-37	平面形	円形
規模	0.38/0.60×0.60/0.42×0.42		
覆土	I 黒土色	II 黄褐色土(c>黒色土)	
	III 黒色土(黒色土+c)	IV 黒色土(黒色土>c)	
	V 暗黄褐色土(c)	VI 黒色土	
遺物	覆土 土器 Vc: 19。	1 Vc	

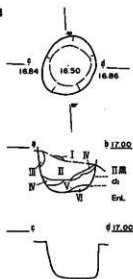
P-75

墓の可能性ある。

位置	E ₂ -64-36	平面形	円形
規模	0.45/0.85×0.85/0.55×0.55		
覆土	I 黄褐色土(EnL>d ₂ +c)	II 黄褐色土(EnL>d ₂)	
	III 暗黄褐色土(黒色土+EnL+c)	IV 暗茶褐色土(黒色土>EnL+d ₂)	
	V 黄色土(EnL>黒色土)	VI 黒色土(黒色土>EnP)	
	VII 茶褐色土(黒色土>c)		

III 美々4遺跡の調査

P-74



P-75

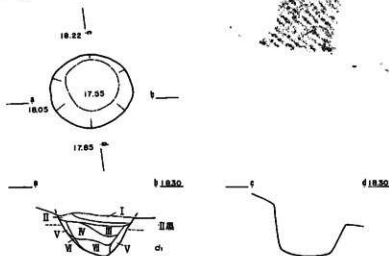


図20 P-74・75と遺物

P-84

調査地区西側の土壌集中区の中で唯一、墓の可能性のあるものである。墳底近くで円礫が出土した。

位置 F₁-64-06

規模 0.53/1.11×0.94/0.59×0.49

覆土 I 暗茶褐色土(黒色土>c)

II 暗茶褐色土(c>d₁)

V 暗褐色土(c+d₁)

平面形 槽四角形

長軸方向 N-33°-W

II 暗黄褐色土(黒色土>c)

IV 淡黒褐色土(c+d₁)

VI 茶褐色土(c>d₁)

VII 黒褐色土(黒色土+d₁)

遺物 覆土 土器 IVc: 4, Va: 1, Vc: 13. 礫: 1. 1 Vc

P-115

墓の可能性ある。墳底から礫石が出土した。P-116を切ってつくられる。

位置 F₁-64-06

平面形 楕円形

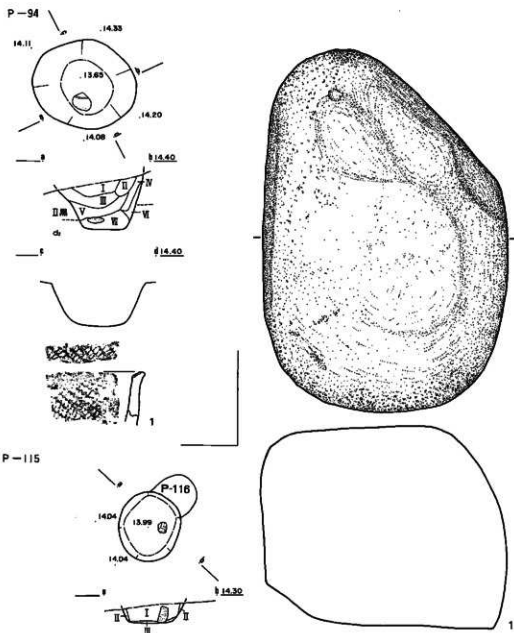


図21 P-94・115と遺物

規模 0.21/0.75×0.64/0.63×0.53 長軸方向 N-13'-E

覆土 I 暗褐色土(黒色土+c+d₂) II 褐色土(d₂)

III 黄茶褐色土(EnL+d₂)

遺物 底面 石器 VII B2: 1 1 VII B2 18.5×12.5×10.7 2, 125 Sa.

P-117

II黒層上面で確認された。墳底は Ta-d₂層中につくられ、壁はほぼ垂直に立ち上る。底面からは、頭部を南東に置いた遺体が検出された。遺体の保存状態は比較的良好。

なお、この土壌墓はII黒層中の土壌(P-328)を切って作られている。

位置 E₂-64-59 平面形 楕円形

規模 0.65/1.41×0.87/1.28×0.69 長軸方向 N-69'-W

埋葬体位 南東頭位側臥屈葬 副葬品 なし

覆土 I 暗黄褐色土(c) II 暗黄褐色土(c)

III 淡黒色土>c+d₂ IV 黒褐色土(c>黒色土)

V 褐色土(黒色土>c+d₂) VI 黄褐色土(EnL>d₂)

VII 暗褐色土(黒色土>d₂) VIII 暗褐色土(c)

IX 暗黄褐色土(c+d₂) X 暗褐色土(黒色土>d₂)

XI 赤褐色土(EnL+d₂)

遺物 覆土 土器 IVb: 3, IVc: 17, Va: 36. 石器 IA5: 2, IXB: 9. 礫: 3.

P-118

墓の可能性がある。

位置 E₂-64-17 平面形 楕円形

規模 0.45/0.81×0.76/0.58×0.55 長軸方向 N-22'-E

覆土 I 黒色土(黒色土>d₂+c) II 暗茶褐色土(d₂>黒色土)

III 暗茶褐色土(c) IV 黒褐色土(黒色土>c)

V 暗褐色土(c>d₂)

P-120

II黒層上面で確認された。底面は En-a 層中につくられ、壁は西側で緩く立ち上り、他は急である。底面はボウル状を呈し、遺体の痕跡が検出された。墓の出土位置から推定される頭位は、南東である。X-6 (II黒層周墳墓)の壁の一部を切っている。

位置 E₂-64-23 平面形 楕円形

規模 0.89/1.40×0.74/0.95×0.62 長軸方向 N-70'-W

埋葬体位 南東頭位 副葬品 なし

覆土 I 黒褐色土(c>黒色土) II 黄褐色土(c+EnL>d₂)

III 黄褐色土(EnP)

遺物 覆土 土器 IVc: 5. 石器 IXB: 1. 礫: 1.

2) その他の土壌

用途が判然としないものを、その他の土壌として一括した。これらは、主に尾根状の斜面と、調査区西側の斜面が内湾する部分とから集中して検出された。尾根状の斜面にある土壌は、遺物の集中地区とも重なり、何らかの関連があると思われる。西側斜面で検出された土壌は、大半が円形で規模は小さい。

これらの土壌には、ほとんど遺物が伴っていない。唯一、斜面下位で検出された小土壌(P-

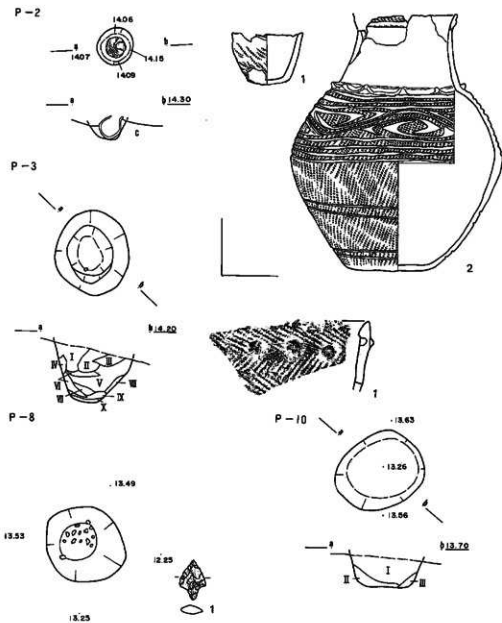


図23 P-2・3・8・10と遺物

2) には、V群c類の壺が正立の状態で見つめられていた。

P-2 (写真図版2-2)

土壌中から壺が正立した状態で出土した。口縁部の一部が欠けているほかは、完全である。壺の内部には、黒色土をわずかに混ざる Ta-c 火山灰とともに、小型の鉢とカワシンジュガイの貝殻が入っていた。

このP-2は、基壇(P-6)の西側に近接して検出されたことから、付随する可能性もある。

位置 E₂-64-29 平面形 円形

規模 0.20/0.40×0.40/0.30×0.30

覆土 I 黄褐色土(c)

遺物 底面 土器 Vc: 86, 完形土器 Vc: 1。貝殻

1 Vc 5.4/7.6×4.4 2 Vc 26.9/11.0×8.7 (写真図版2-3)

P-3

墳底はII黒層中につくられる。覆土からは、土器のほかには獣骨片が出土した。

位置 E₂-64-08 平面形 円形

規模 0.57/0.85×0.58/0.82×0.26

覆土 I 暗黄褐色土(黒色土+c) II 黄褐色土(c>黒色土)

III 暗褐色土(黒色土>c) IV 暗黄褐色土+c)

V 茶褐色土(黒色土>c) VI 黄褐色土(c>黒色土)

VII 黒色土(黒色土>c) VIII 暗黄褐色土(c+黒色土)

IX 黒色土 X 黄褐色土(c)

遺物 覆土 土器 IVc: 9。底面 土器 IVc: 1。IXB: 3

1 IVc

P-8

墳底は、II黒層をわずかに掘り込んでつくられている。

位置 E₂-64-08 平面形 円形

規模 0.65/0.91×0.38/—

遺物 覆土 土器 IVc: 12, Va: 2, Vc: 1。石器 IA5: 1。礫: 1。

1 IA5 2.1×1.5×0.5 1.1 Obs.

P-10

墳底は Ta-c 層中につくられている。

位置 E₂-64-89 平面形 楕円形

規模 0.30/1.00×0.79/0.76×0.67 長軸方向 N-49°-E

覆土 I 暗茶褐色土(黒色土+c) II 明黄褐色土(c>黒色土)

III 暗茶褐色土(黒色土+c)

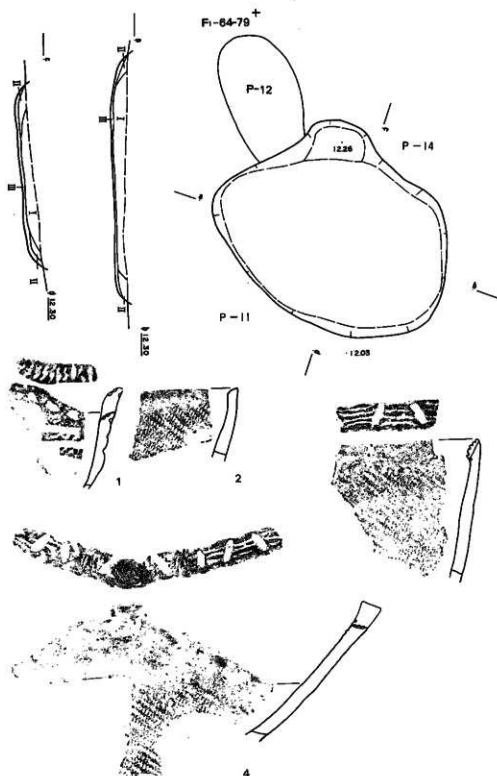


図24 P-11・14と遺物

P-11

遺構断面は浅皿状である。覆土中からV群c類土器が多量に出土した。このP-2は、P-14に切れられ、北西側では楕円形の土溝・P-12に切られる。

位置 F₁-64-69, -79 平面形 楕円形
規模 0.18/2.63×1.89/2.51×1.78 長軸方向 N-72'-W
覆土 I 黒色土 (黒色土>c) II 暗黄褐色土 (c>黒色土)
III 黄褐色土 (c)

遺物 覆土 土器Vc:168。石器ⅡB3:1, IXB:2。礫:3。

P-12

墳底はTa-c層中にあり、南東側でP-11を切る。

位置 F₁-64-69, -79 平面形 楕円形
規模 0.20/1.45×0.80/1.30×0.68 長軸方向 N-31'-W
覆土 I 黒色土 (黒色土>c) II 暗茶褐色土 (黒色土>c)
III 褐色土 (c>黒色土)

遺物 覆土 土器Vc:1。石器IVA2:1。

P-13

位置 F₁-64-68, -69 平面形 円形
規模 0.35/1.00×1.00/0.60×0.60
覆土 I 暗黄褐色土 (c>黒色土)

P-12

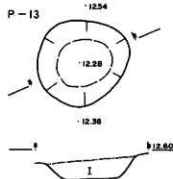
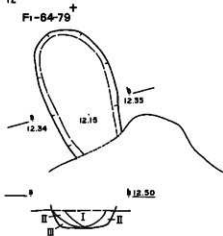


図25 P-12・13

P-14 (図24)

P-11に、大半が切られており、形状は不明である。

位置 F₁-64-69 平面形 不明

III 美々4遺跡の調査

規模 0.15/—/—

遺物 覆土 土器 Vc: 5。

P-17

位置 E₂-64-55

平面形 円形

規模 0.50/0.80×0.80/0.40×0.40

覆土 I 黒色土 (黒色土>c)

II 褐色土 (c)

III 暗褐色土 (c)

IV 黒褐色土 (c)

V 褐色土 (c)

遺物 覆土 土器 IVc: 1, Vc: 2。石器 IXB: 1, XA: 1。

1 Vc 2 IVc

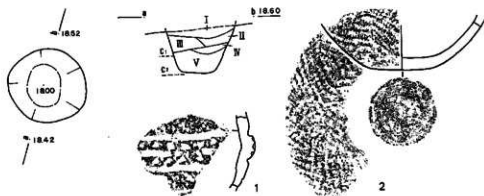


図26 P-17と遺物

P-23

位置 E₂-64-05, -15

平面形 楕円形

規模 1.00/1.40×1.15/1.10×0.90

長軸方向 N-62°-E

覆土 I 黒褐色土 (黒色土+c)

II 黄褐色土 (c)

III 暗黄褐色土 (c>黒色土)

IV 黒褐色土 (黒色土+c)

V 暗褐色土 (黒色土>c)

遺物 覆土 礫: 1。

P-24

位置 E₂-64-16, -26

平面形 円形

規模 0.60/0.80×0.80/0.50×0.50

覆土 I 灰黄褐色土 (c)

II 暗黄褐色土

Ⅲ 黄褐色土 (c)

Ⅳ 暗褐色土 (c > 黒色土)

V 黒褐色土 (c + 黒色土)

遺物 覆土 土器 Vc: 1。

P-23

位置 E₂-64-55

平面形 円形

規模 0.34/0.71×0.71/0.44×0.44

覆土 I 黒色土 (黒色土 > c)

Ⅱ 暗黄褐色土 (c > 黒色土)

Ⅲ 暗茶褐色土 (c > 黒色土)

Ⅳ 黄褐色土 (c > 黒色土)

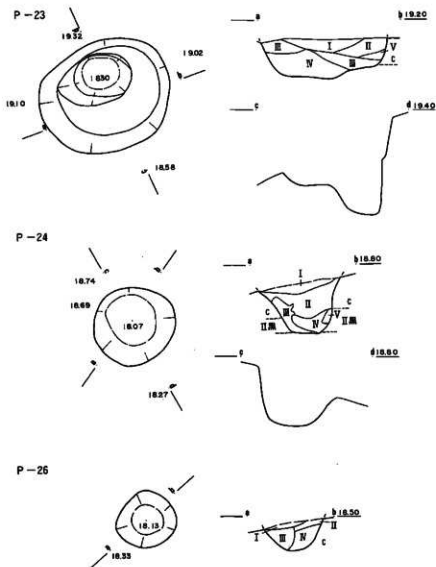


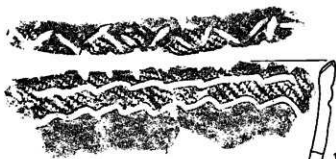
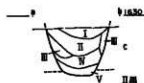
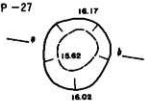
図27 P-23・24・26

P-27

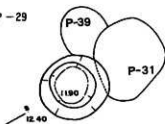
位置 E₂-64-48

平面形 円形

P-27



P-29



P-30

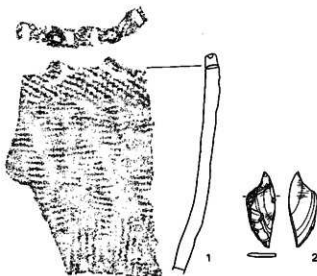
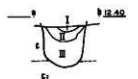
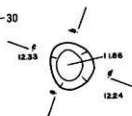


図28 P-27・29・30と遺物

規模 0.50/0.75×0.75/0.40×0.40

覆土 I 灰黄褐色土 (c)

II 暗黄褐色土 (c)

III 黄褐色土 (c)

IV 暗褐色土 (c>黒色土)

V 黒褐色土 (c+黒色土)

遺物 覆土 土器 Vc: 214。

1 Vc

P-29

P-31・39を切つてつくられている。

位置 F₁-64-28

平面形 円形

規模 0.50/0.70×0.70/0.35×0.35

覆土 I 黒褐色土 (黒色土+c)

II 暗褐色土 (c>黒色土)

III 黒褐色土 (c>黒色土)

IV 暗黄褐色土 (c)

遺物 覆土 土器 Va: 1。

P-30

位置 F₁-64-38

平面形 円形

規模 0.40/0.50×0.50/0.30×0.30

覆土 I 灰褐色土 (c)

II 黒褐色土 (c+黒色土)

III 暗黒色土 (c)

遺物 覆土 土器 Vc: 22。石器 III B3: 1。礫: 1。

1 Vc

2 III B3 4.0×(1.5)×(0.3) (16.0) Obs.

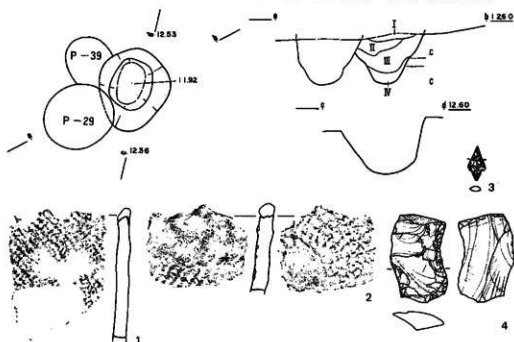


図29 P-31と遺物

P-31

西壁上部は、P-29に切られ、P-39を切る。

位置 F₁-64-28 平面形 楕円形
 規模 0.55/0.90×0.75/0.45×0.30 長軸方向 N-12'-E
 覆土 I 黒褐色火山灰 (c>黒色土) II 黄褐色土 (c)
 III 褐色土 (c) IV 暗黄褐色 (c)
 遺物 覆土 土器 Vc: 124. 石器 IA5: 1, III B3: 1, IXB: 1.
 1・2 Vc 3 IA5 1.8×0.9×0.3 4.0 Obs.
 4 III B3 4.6×3.0×0.9 13.6 Obs.

P-33

位置 F₁-64-38 平面形 円形
 規模 0.40/0.80×0.80/0.40×0.40
 覆土 I 黒色土 II 黄褐色土 (c)

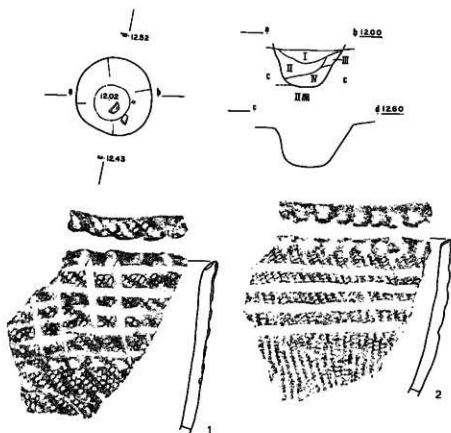


図30 P-33と遺物

Ⅲ 暗黄褐色土 (c>黒色土) IV 暗黄褐色土 (c>黒色土)
 遺物 覆土 土器 Va: 2, Vc: 7。石器 IXB: 5。

1・2 Vc

P-34

西壁は、P-38に切られる。

位置 E ₂ -64-68	平面形 楕円形
規模 0.46/1.42×0.80/1.10×0.56	長軸方向 N-29°-W
覆土 I 黒褐色土 (黒色土>c)	II 黄褐色土 (c)
Ⅲ 暗黄褐色土 (c>黒色土)	IV 黄褐色土 (c)
V 黒黄褐色土 (c>黒色土)	

P-35

位置 E ₂ -64-68	平面形 円形
規模 0.46/0.60×0.60/0.36×0.36	
覆土 I 暗褐色土 (c>黒色土)	II 黒褐色土 (c>黒色土)
Ⅲ 黒黄褐色土 (c>黒色土)	IV 黒黄褐色土 (c+黒色土)

P-36

位置 E ₂ -64-68	平面形 円形
規模 0.48/0.70×0.70/0.45×0.45	
覆土 I 暗褐色土 (c>黒色土)	II 黄褐色土 (c)
Ⅲ 黄褐色土 (c>黒色土)	IV 黄褐色土 (c)

遺物 覆土 土器 Vc: 3。

P-38

東側でP-34を切る。

位置 E ₂ -64-68	平面形 楕円形
規模 0.30/2.21×0.94/1.84×0.70	長軸方向 N-50°-W
覆土 I 黒褐色土 (黒色土>c)	II 暗茶褐色土 (c>黒色土)
Ⅲ 茶褐色土 (c>黒色土)	

P-39

上部をP-29・31に切られる。

位置 F ₁ -64-28	平面形 楕円形
規模 0.45/(0.60)×0.50/0.20×0.20	長軸方向 N-32°-W
覆土 I 黒色土 (黒色土>c)	II 黄褐色土 (c)
Ⅲ 黄褐色土 (c)	IV 暗黄土 (c)
遺物 覆土 土器 Vc: 11。石器 ⅢB2: 1。	1 Vc

III 美々4遺跡の調査

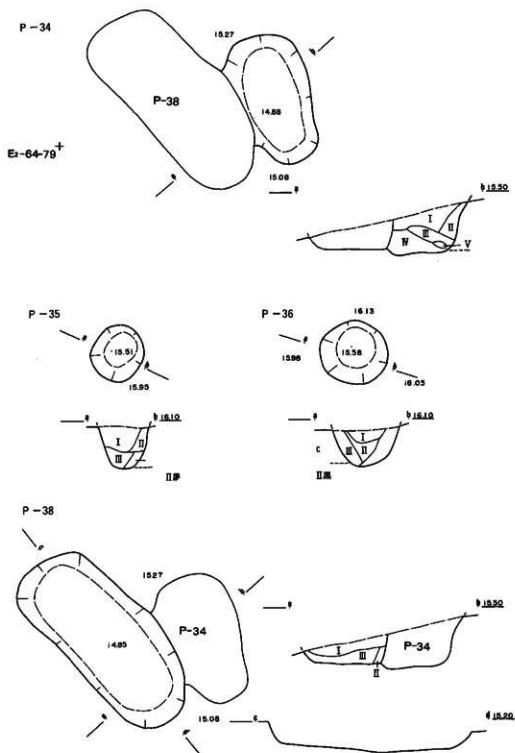
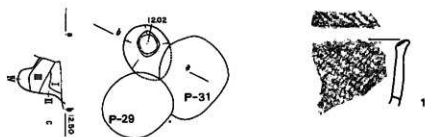
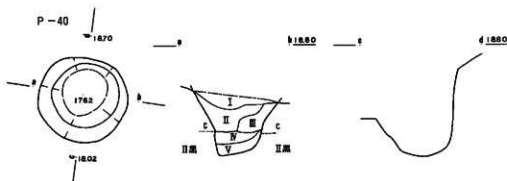


図31 P-34・35・36・38

P-39



P-40



P-41

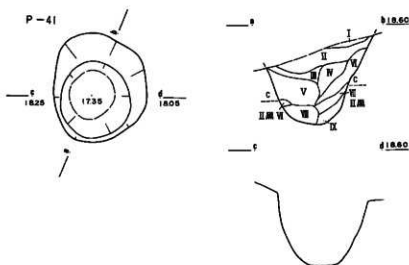


図32 P-39・40・41と遺物

P-40

位置 E₁-64-95

平面形 円形

規模 0.70/0.90×0.90/0.50×0.50

覆土 I 黒色土

II 黄褐色土 (c)

III 黄褐色土 (c>黒色土)

IV 黄褐色土 (c>黒色土)

IV 黒色土 (黒色土+c)

P-41

位置 E₁-64-95

平面形 楕円形

規模 0.90/1.20×1.00/0.50×0.50

長軸方向 N-30°-W

覆土 I 黒色土

II 黄褐色土 (c>黒色土)

III 黄褐色土 (c)

IV 黒褐色土 (c)

V 黄褐色土 (c>黒色土)

VI 茶褐色土 (c)

VII 暗褐色土 (c>黒色土)

VIII 黒褐色土 (黒色土+c)

IX 黄褐色土 (黒色土>c)

遺物 覆土 土器 Vc: 1。

P-42

位置 E₂-64-16

平面形 円形

規模 0.35/0.80×0.80/0.40×0.30

P-44

北側壁の上部はP-20・46に切られる。

位置 E₂-64-27

平面形 円形

規模 0.50/0.80×0.80/0.20×0.20

P-46

位置 E₂-64-27, -37

平面形 円形

規模 0.72/1.09×0.98/0.49×0.44

覆土 I 黒色土

II 暗褐色土 (c>黒色土)

III 暗褐色土 (c>黒色土)

IV 暗褐色土 (c+黒色土)

V 褐色土 (c+黒色土)

VI 暗茶褐色土 (d₁>c)

P-47

位置 E₂-64-27, -28

平面形 円形

規模 0.60/1.00×1.00/0.70×0.55

覆土 I 黒色土 (黒色土>c)

II 茶褐色土 (黒色土+c)

III 暗黄褐色土 (c 黒色土)

IV 黄褐色土 (c>黒色土)

V 暗茶褐色土 (c+黒色土)

VI 明黄褐色土 (c>黒色土)

VII 黒色土 (黒色土>c)

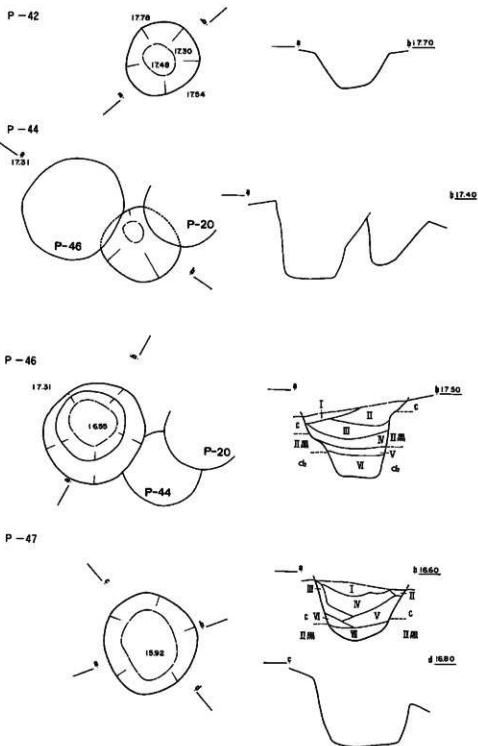


図33 P-42・44・46・47

III 美々4遺跡の調査

遺物 覆土 土器 Vc: 4。

P-48

位置 E₁-64-86

平面形 円形

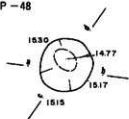
規模 0.40/0.60×0.60/0.30×0.20

覆土 I 暗黄褐色土 (c>黒色土) II 黒色土

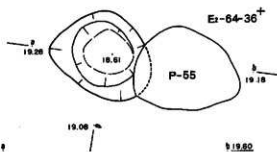
P-58

東側壁がP-55に切られる。

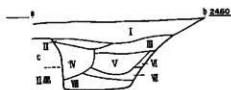
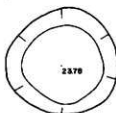
P-48



P-50



P-54



E₁-63-88⁺

図34 P-48・50・54

位置 E₂-64-36

規模 0.64/1.11×0.90/0.63×0.47

覆土 I 黒褐色土 (黒色土>c)

II 明黄褐色土 (c>黒色土)

V 黒褐色土 (黒色土>c)

VII 暗黄褐色 (c>黒色土)

遺物 覆土 土器 Vc: 7。

P-52 (図17)

南西部をP-43により切られている。

位置 E₂-64-17

規模 0.40/0.80×0.65/0.50×0.35

覆土 I 黒色土 (黒色土>c)

III 黒色土

V 褐色土 (c)

遺物 覆土 土器 Vc: 4。

P-54

位置 E₁-63-77

規模 0.55/1.12×1.12/0.85×0.85

覆土 I 黒色土

III 暗褐色土 (黒色土>c)

V 暗灰褐色土 (黒色土>c)

VII 茶褐色土 (c>黒色土)

P-55

P-50を切る。

位置 E₂-64-36

規模 0.49/1.13×0.53/0.85×0.24

覆土 I 黄褐色土 (c)

III 黄褐色土 (c+黒色土)

V 明黄褐色土 (c>黒色土)

VII 明黄褐色土 (c+黒色土)

遺物 覆土 土器 Vc: 39。

P-58

位置 E₂-64-55

平面形 槽円形

長軸方向 N-83°-W

II 暗黄褐色土 (c+黒色土)

IV 暗褐色土 (黒色土>c)

VI 暗褐色土 (黒色土>c)

VII 灰茶褐色土 (黒色土>c)

平面形 円形

II 褐色土 (c)

IV 灰黒色土 (c+黒色土)

平面形 円形

II 暗黄褐色土 (黒色土>c)

IV 黄褐色土 (c>黒色土)

VI 黄褐色土 (c)

VII 黒褐色土 (黒色土>c)

平面形 槽円形

長軸方向 N-73°-W

II 黒色土 (黒色土>c)

IV 暗茶褐色土 (c>黒色土)

VI 黒色土 (黒色土>c)

平面形 槽円形

III 美々4遺跡の調査

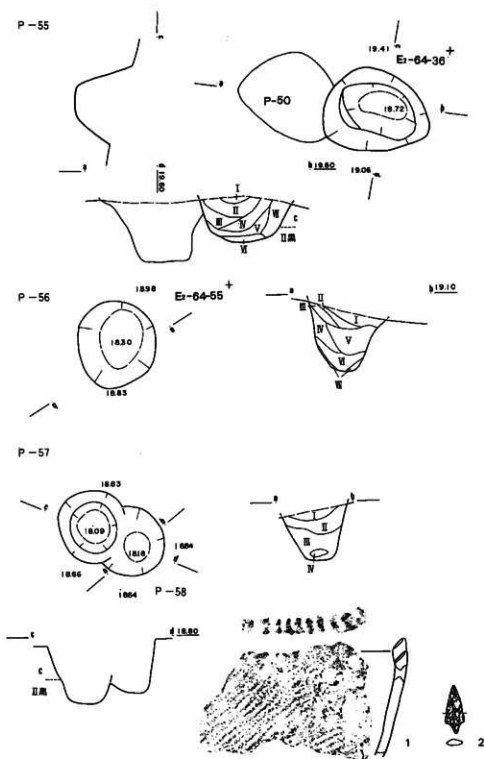


図35 P-55・56・57・と遺物

規模 0.60/0.95×0.80/0.60×0.50

長軸方向 N-6'-E

覆土 I 黒色土

I 黒褐色土 (黒色土>c)

III 暗黄褐色土 (c>黒色土)

IV 黄褐色土 (c>黒色土)

V 黒色土 (黒色土>c)

VI 黒色土 (黒色土>c>d₂)

VII 暗褐色土 (c>d₂)

遺物 覆土 土器 Vc: 39。

P-57・58

P-57はP-58の西側を切る。

位置 E₂-64-55

平面形 円形

規模 P-57 0.60/0.80×0.80/0.35×0.35

P-58 0.55/0.80×——/0.30×——

覆土 P-58 I 黒褐色土 (黒色土>c) I 黄褐色土 (c>黒色土)

III 黒色土 (黒色土>c) IV 黄褐色土 (c)

遺物 P-58覆土 土器 IA5: 1, III B3: 1, IXB: 2, XA: 1。礫: 1。

1 Vc

2 IA5 2.1×1.1×3.5 0.65 Obs.

P-60・73

P-60は、P-73を切る。

位置 E₂-64-34, -35

平面形 楕円形

規模 P-60 0.50/1.10×0.80/0.75×0.50

長軸方向 P-60 N-1'-E

P-73 0.50/0.7×——/0.35×——

長軸方向 P-73 N-11'-E

覆土 P-60 I 黒色土 (黒色土>c)

II 黄褐色土 (c)

III 茶褐色土 (黒色土+c)

IV 黒色土 (黒色土>c)

V 暗褐色土 (c)

VI 黒色土 (黒色土>c)

VII 黒褐色土 (黒色土>c)

VIII 黒色土 (黒色土>c+d₂)

遺物 P-60覆土 土器 Vc: 10, 土器 VA: 1。礫: 2。

P-73覆土 土器 IVA2: 1, VA: 1 礫: 1

1 Vc (P-60) 2 IVA3 (P-73) 8.9×3.8×1.8 124.3 Gr-Mud.

3 VA (P-73) 9.6×4.4×1.6 140.0 Gr-Mud.

4 VA (P-60) 20.3×8.5×4.5 1,245 Gni.

P-61・62・63・72

やや大きめの土坑 (P-63) の底面に、3個の土坑 (P-61・62・72) がつくられている。

P-61はP-62を切る。

位置 E₂-64-34, -35, -44, -45

平面形 円形

規模 P-61 0.50/0.50×0.60/0.20×0.20 P-62 0.50/0.80×0.80/0.30×0.20

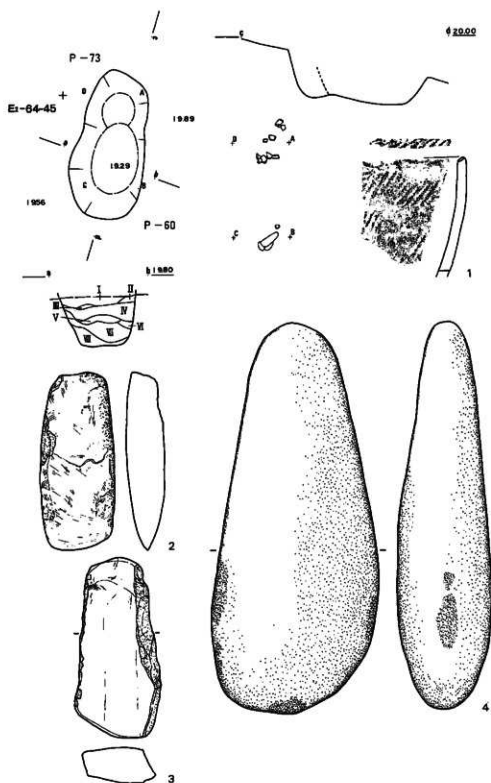


図36 P-60・73と遺物

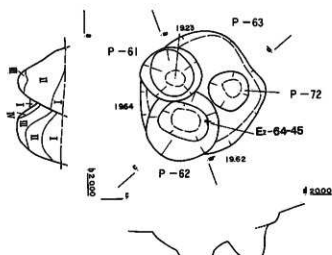


図37 P-61・62・63・72

P-63 0.20/1.30×1.30/1.10×1.10 P-72 0.40/0.40×0.40/0.20×0.20

覆土 P-61 I 黒色土 II 暗褐色土 (黒色土>c)

III 黄褐色土 (c)

P-62 I 暗褐色土 (黒色土>c>d₄) II 黄褐色土 (c)

III 黒褐色土 (黒色土+c) IV 黄褐色土 (c)

P-72 I 黒褐色土 (黒色土>c)

遺物 P-62 覆土 土器 Vc: 17.

P-64

位置 E₂-64-35

平面形 円形

規模 0.60/0.60×0.55/0.40×0.30

覆土 I 黒色土

II 暗黄褐色土 (c)

III 暗黄褐色土 (c>黒色土)

IV 黄褐色土 (c>黒色土)

V 黒色土

P-65

位置 E₂-64-44

平面形 楕円形

規模 0.25/0.50×0.40/0.30×0.25

長軸方向 N-31'-E

覆土 I 暗黄褐色土 (c>黒色土)

II 黒色土 (黒色土>c)

III 黄褐色土 (c+黒色土)

P-66

位置 E₂-64-44

平面形 楕円形

規模 0.45/0.85×0.65/0.55×0.30

長軸方向 N-19'-E

覆土 I 茶褐色土 (c+黒色土)

II 黒褐色土 (黒色土>c)

III 黄褐色土 (c)

IV 暗黄褐色土 (c>黒色土)

V 黒色土 (黒色土>c)

遺物 覆土 土跡 Vc:13, 確:1

P-67・68・69

3個は互いに切り合っており, P-68が, P-67・69を切っている。

位置 E₂-64-35

平面形 円形

規模 P-67 0.25/0.55×0.55/0.40×0.25

P-68 0.30/0.75×0.65/0.35×0.25

P-69 0.25/0.75×0.60/0.50×0.35

覆土 I 黄褐色土 (c>黒色土)

II 黒色土 (黒色土>c)

III 黒色土 (黒色土>c)

P-70

位置 E₂-64-35, -36

平面形 円形

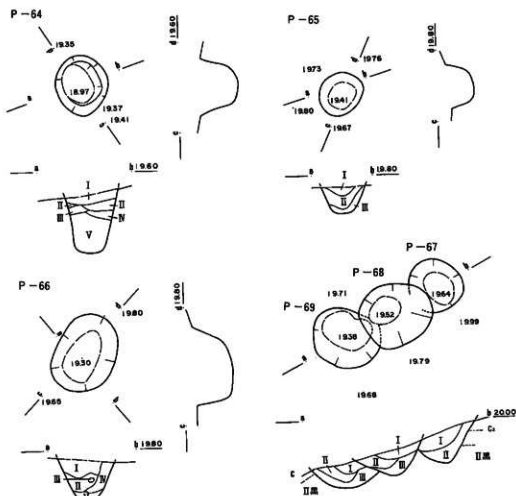


図38 P-64・65・66・67・68・69

規模 0.35/0.65×0.65/0.45×0.45

覆土 I 黒色土

II 黄褐色土 (c>黒色土)

遺物 覆土 土器 Vc: 25。石鈿 IVB: 2。礫: 1

1 Vc —/16.6×—

P-71

位置 E₂-64-44

平面形 円形

規模 0.50/0.70×0.70/0.45×0.40

覆土 I 褐色土 (黒色土+c)

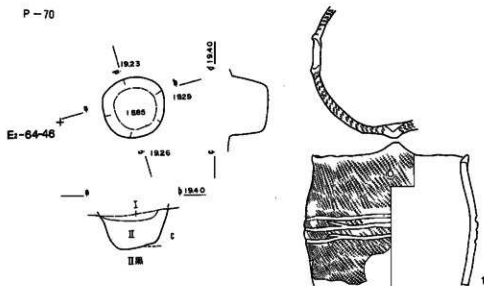
II 黄色土 (c)

III 黒色土 (黒色土>c)

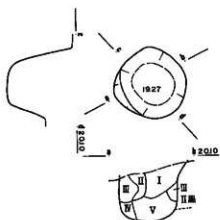
IV 黒色土 (黒色土+c)

V 黄色土 (c)

P-70



P-71



P-76

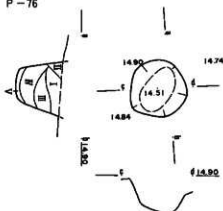


図39 P-70・71・76と遺物

P-76

位置 F₁-64-05

規模 0.40/0.62×0.62/0.52×0.30

覆土 I 暗茶褐色土 (黒色土>EnP)

II 褐色土 (c+EnL+d₂)

V 暗黄褐色土 (黒色土>d₂)

平面形 楕円形

長軸方向 N-28°-E

II 黒褐色土 (黒色土>c+d₂)

IV 暗褐色土 (黒色土>EnP+d₂)

P-77・78

P-77はP-78を切る。P-77の墳底から多量の炭化物が出土した。

位置 E₂-64-95, F₁-64-05

平面形 円形

規模 P-77 0.60/1.00×0.90/0.59×0.51

P-78 0.54/0.80×0.76/0.42×0.35

P-77

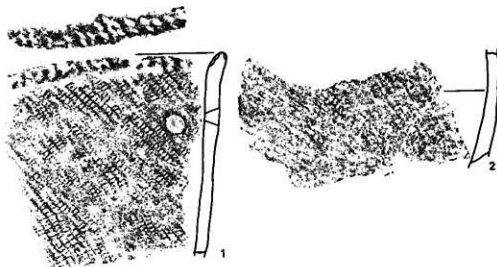
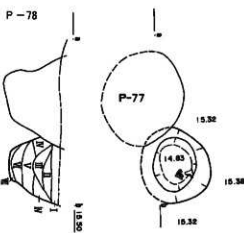
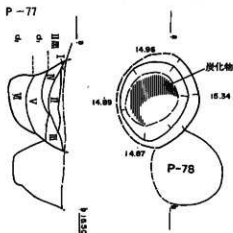


図40 P-77・78と遺物

- 覆土 P-77 I 黄茶褐色土 (黒色土+c) II 褐色土 (黒色土>c+d₂+EnP)
 III 暗褐色土 (黒色土+EnP) IV 茶褐色土 (黒色土>EnP)
 V 暗黄茶褐色土 (黒色土>EnL+d₂) VI 茶褐色土 (黒色土+d₂+EnP)
 P-78 I 黄褐色土 (EnL+d₂) II 褐色土 (黒色土+c)
 III 暗褐色土 (黒色土>c+EnL) IV 赤黄褐色土 (EnL+d₂)
 V 暗褐色土 (黒色土+c>d₂+EnP) VI 黄茶褐色土 (EnL+d₂>EnP)
 VII 黄色土 (EnP+EnL)

遺物 P-78 底面土器 Va: 4, Vc: 4。 1・2 Vc

P-79

- 位置 F₁-64-05 平面形 円形
 規模 0.17/0.73×0.69/0.50×0.48
 覆土 I 茶褐色土 (黒色土+c+d₂) II 暗茶褐色土 (黒色土+c+d₂)
 III 黄茶褐色土 (黒色土+c+d₂) IV 暗黄茶褐色土 (黒色土+c+d₂)

P-80

- 位置 F₁-64-05 平面形 円形
 規模 0.14/0.66×0.56/0.42×0.37
 覆土 I 濃茶褐色土 (黒色土>c+d₂) II 黄茶褐色土 (黒色土>c+d₂)
 III 茶褐色土 (黒色土>c+d₂)

P-81

- 位置 F₁-64-05 平面形 円形
 規模 0.23/0.63×0.58/0.35×0.31
 覆土 I 暗褐色土 (黒色土>c+d₂) II 黒色土 (黒色土>d₂+EnP)
 III 暗茶褐色土 (c) IV 暗黄褐色土 (EnP)

P-82

- 位置 F₁-64-05 平面形 円形
 規模 0.12/0.72×0.70/0.59×0.53
 覆土 I 暗褐色土 (黒色土>d₂) II 黄茶褐色土 (c+d₂)
 III 黄褐色土 (c+d₂) IV 赤黄色土 (d₂>c)

P-83

- 位置 E₂-64-95 平面形 円形
 規模 0.48/0.83×0.77/0.38×0.35
 覆土 I 黄褐色土 (c+黒色土) II 黒色土
 III 暗褐色土 (c+黒色土>d₂+EnL)

P-84

- 位置 E₂-64-95 平面形 円形

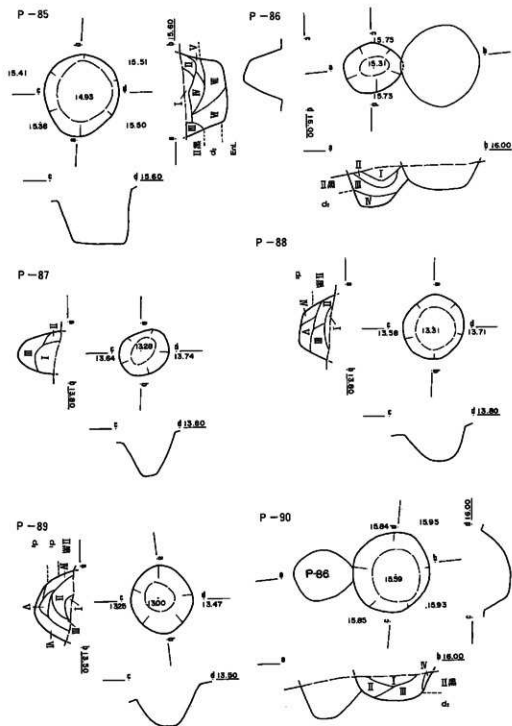


図42 P-85・86・87・88・89・90

規模 0.55/0.81×0.68/0.54×0.39

覆土 I 茶褐色土 (c)

II 褐色土 (d_1+c)

V 暗褐色土 (黒色土 $>d_1+EnP$)

II 黒色土

IV 淡黒色土 ($c+d_1+EnP$)

VI 暗茶褐色土 ($EnP>黒色土$)

P-85

位置 E₂-64-95

規模 0.45/0.87×0.79/0.63×0.59

覆土 I 茶褐色土 (c)

III 黒褐色土 (d_1)

V 暗黄茶褐色土 (黒色土 $+d_1+EnP$)

VII 茶褐色土 ($d_1>黒色土$)

平面形 円形

II 黒色土 (黒色土 $>c>d_1$)

IV 褐色土 ($c+d_1$)

VI 暗茶褐色土 (黒色土 $>c+EnL$)

遺物 覆土 土器 Vc: 1。

P-86

東壁の一部がP-90に切られる。

位置 E₂-64-95

規模 0.39/0.63×0.51/0.31×0.19

覆土 I 暗茶褐色土 (黒色土 $>c+d_1$)

III 暗黄茶褐色土 ($c>d_1$)

平面形 楕円形

長軸方向 N-65°-E

II 黄灰褐色土 ($c+黒色土$)

IV 茶褐色土 ($d_1>c$)

P-87

位置 F₁-64-16

規模 0.41/0.55×0.44/0.32×0.21

覆土 I 淡褐色地土 ($c>d_1$)

III 褐色土 (黒色土 $>c+d_1$)

平面形 楕円形

長軸方向 N-26°-E

II 暗褐色土 (黒色土 $>d_1$)

遺物 覆土 土器 Vc: 1。

P-88

位置 F₁-64-16

規模 0.33/0.68×0.65/0.45×0.42

覆土 I 茶褐色土 ($c>黒色土$)

III 褐色土 ($c+d_1$)

V 暗茶褐色土 (黒色土 $>d_1$)

平面形 円形

II 淡褐色土 (黒色土 $>d_1+d_2$)

IV 暗褐色土 (黒色土 $+d_1$)

P-89

位置 F₁-64-16

規模 0.38/0.74×0.68/0.31×0.28

覆土 I 褐色土 (d_1)

III 黄褐色土 (c)

平面形 円形

II 淡褐色土 ($c+d_1$)

IV 暗褐色土 (黒色土 $>d_1$)

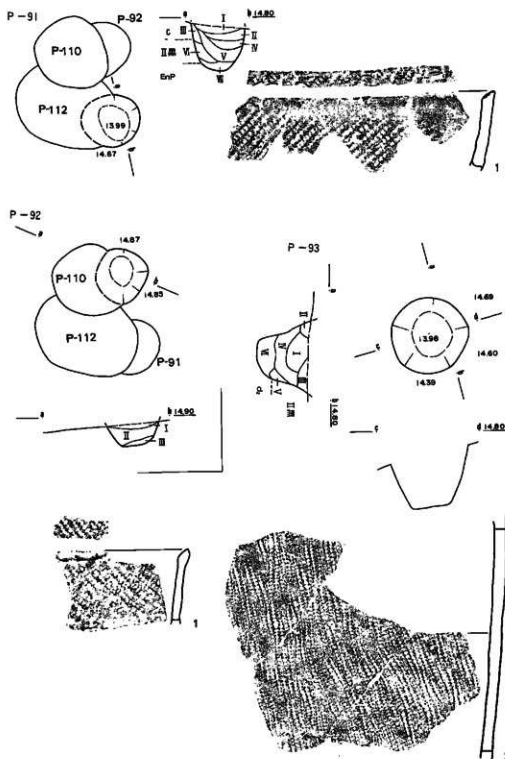


図43 P-91・92・93と遺物

V 淡黒色土 (黒色土>c)

VI 暗褐色土 (黒色土>d₁+d₂)

遺物 覆土 土器IVb: 1, IVc: 1, Va: 1。

P-90

西側でP-86を切る。

位置 E₂-64-95

平面形 円形

規模 0.28/0.85×0.81/0.55×0.50

覆土 I 暗黄褐色土 (c+d₂)

II 暗褐色土 (c>d₂)

III 黒褐色土 (c>d₂)

IV 黒茶褐色土 (黒色土+c)

P-91

西側の半分ほどをP-112に切られる。

位置 F₁-64-06

平面形 楕円形

規模 0.46/0.64×0.56/0.41×0.30

長軸方向 N-43°-W

覆土 I 黄褐色土 (c)

II 暗黄褐色土

III 黒色土

IV 明黄褐色土 (c+d₂+黒色土)

V 黒褐色土 (黒色土>d₂)

VI 赤褐色土 (d₂+EnP)

VII 褐色土 (EnP>d₂)

遺物 覆土 土器Vc: 1。

1 Vc

P-92

西側の半分ほどをP-110に切られる。

位置 F₁-64-06

平面形 楕円形

規模 0.23/0.58×0.55/0.32×0.25

長軸方向 N-18°-W

覆土 I 茶褐色土 (黒色土>c)

II 暗褐色土 (黒色土>d₁+d₂)

III 橙褐色土 (d₂>黒色土)

P-93

位置 F₁-64-06

平面形 円形

規模 0.56/0.81×0.80/0.47×0.42

覆土 I 黄褐色土 (c)

II 暗黄褐色土 (c)

III 暗黄褐色土 (d₂)

IV 黒褐色土 (黒色土>d₂)

V 暗黄褐色土 (c>d₂)

VI 暗茶褐色土 (黒色土+d₂)

遺物 覆土 土器IVc: 2, Vc: 22。

1-2 Vc

P-95

位置 F₁-64-06

平面形 円形

規模 0.23/0.51×0.49/0.26×0.22

覆土 I 茶褐色土 (c+d₁)

II 暗褐色土 (黒色土>c+d₂)

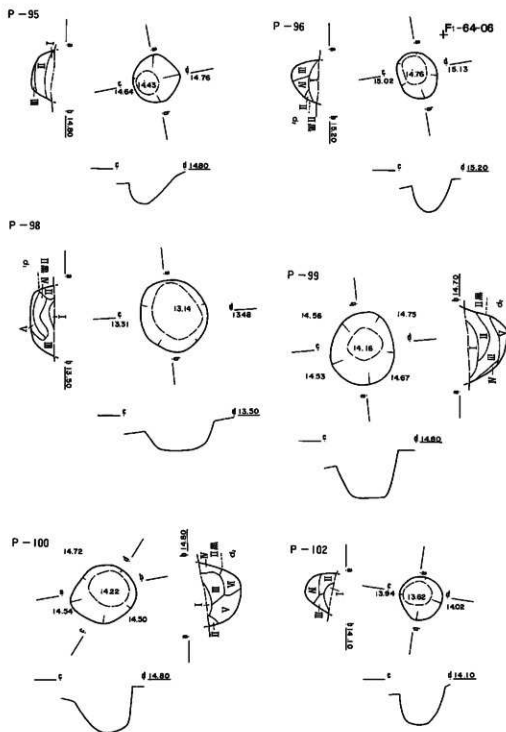


図44 P-95・96・98・99・100・102

Ⅱ 淡橙褐色土 ($d_2 > \text{黒色土}$)

遺物 覆土 土器 Vc: 8。

P-96

位置 F₁-64-06

規模 0.29/0.50×0.42/0.31×0.26

覆土 I 褐色土 (黒色土 > c)

Ⅲ 暗褐色土 ($d_1 + d_2$)

遺物 覆土 土器 Vc: 1。

P-98

位置 F₁-64-08

規模 0.26/0.78×0.72/0.51×0.49

覆土 I 暗黄色土 (c)

Ⅱ 淡黒色土 (黒色土 + c > d_1)

V 暗褐色土 (d_1)

P-99

位置 F₁-64-05

規模 0.42/0.78×0.67/0.37×0.33

覆土 I 茶褐色土 (d_1)

Ⅲ 褐色土 ($d_1 > c$)

V 暗茶褐色土 (d_1)

遺物 覆土 土器 Va: 1。

P-100

位置 F₁-64-05

規模 0.31/0.71×0.61/0.43×0.38

覆土 I 茶褐色土

Ⅲ 褐色土 (d_1)

V 暗褐色土 ($d_1 > d_2$)

遺物 覆土 土器 Va: 1。

平面形 楕円形

長軸方向 N-28'-W

Ⅱ 黒色土

IV 橙褐色土 (d_2)

平面形 楕円形

長軸方向 N-20'-W

Ⅱ 褐色土 (c)

IV 淡褐色土 (c > 黒色土)

平面形 円形

Ⅱ 暗褐色土 (c > d_1)

IV 暗褐色土 (d_1)

平面形 円形

Ⅱ 黒色土

IV 黒色土

VI 暗茶褐色土 (黒色土 > d_2)

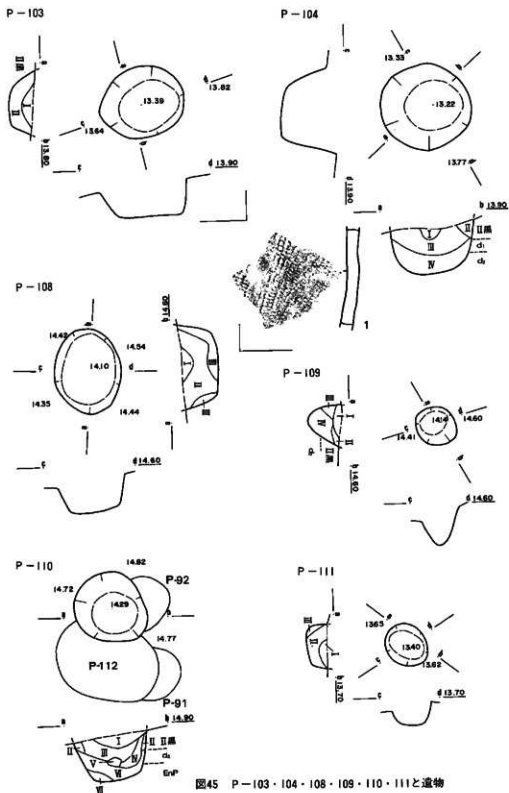
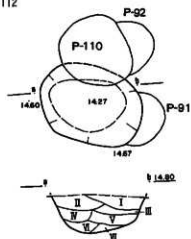


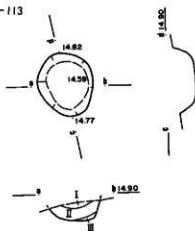
図45 P-103・104・108・109・110・111と遺物

III 英々4遺跡の調査

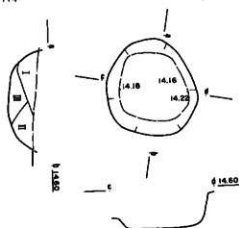
P-112



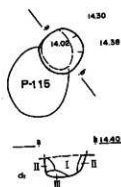
P-113



P-114



P-116



P-119

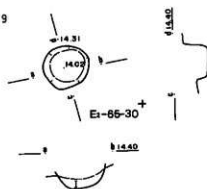


図46 P-112・113・114・116・119と遺物

P-102

位置 F₁-64-06

規模 0.27/0.47×0.44/0.31×0.25

覆土 I 淡黒色土 (黒色土+c)

Ⅲ 褐色土 (d₁)

平面形 円形

Ⅱ 暗褐色土 (c+d₁)

IV 暗茶褐色土 (c+d₁)

P-103

位置 F₁-64-07

規模 0.25/0.92×0.74/0.65×0.51

覆土 I 黄褐色土 (c)

遺物 覆土 土器 IVc: 1, Va: 3。

平面形 楕円形

長軸方向 N-67°-E

Ⅱ 暗褐色土 (c>d₂)

P-104

位置 F₁-64-07

規模 0.48/0.96×0.90/0.63×0.53

覆土 I 黄褐色土 (c)

Ⅲ 茶褐色土 (c>d₂)

遺物 覆土 土器 Vc: 1。

平面形 円形

Ⅱ 黒色土

IV 黒褐色土 (d₁>d₂)

I Vc

P-108

位置 F₁-64-05

規模 0.39/0.90×0.71/0.74×0.56

覆土 I 暗褐色土 (黒色土>c)

Ⅲ 褐色土 (d₂>黒色土)

平面形 楕円形

長軸方向 N-7°-W

Ⅱ 黒色土 (黒色土>d₁+d₂)

P-109

位置 F₁-64-06

規模 0.36/0.47×0.41/0.31×0.23

覆土 I 褐色土 (黒色土>d₂)

Ⅲ 淡黒色土 (黒色土>c+d₂)

平面形 円形

Ⅱ 茶褐色土 (c>黒色土)

IV 暗黄褐色土 (c+d₂)

P-110

東側でP-92・112を切ってつくられている。

位置 F₁-64-06

規模 0.48/0.82×0.72/0.47×0.44

覆土 I 茶褐色土 (c>黒色土)

Ⅲ 暗茶褐色土 (c>黒色土)

V 褐色土 (d₂+EnP)

VII 暗黄褐色土 (EnP>d₂)

平面形 円形

Ⅱ 黒色土 (黒色土>c)

IV 淡黒色土 (d₁+c)

VI 暗褐色土 (黒色土>d₂+EnP)

P-111

位置 F₁-64-16

規模 0.22/0.49×0.42/0.43×0.26

覆土 I 茶褐色土 (黒色土+d₁)

III 橙褐色土 (d₂>黒色土)

平面形 楕円形

長軸方向 N-65°-W

II 暗褐色土 (黒色土>d₁+d₂)

P-112

北側をP-110に切られ、東側でP-91を切る。

位置 F₁-64-06

規模 0.40/1.13×0.82/0.82×0.54

覆土 I 暗褐色土 (黒色土+c)

III 褐色土 (黒色土+c+EnP)

V 暗褐色土 (黒色土>d₂)

VII 淡黄褐色土 (d₂+EnP)

平面形 楕円形

長軸方向 N-87°-W

II 茶褐色土 (c>EnP+黒色土)

IV 淡黒色土 (黒色土+d₂+EnP)

VI 暗黄褐色土 (黒色土>d₂+EnP)

P-113

位置 F₁-64-05

規模 0.20/0.69×0.58/0.51×0.43

覆土 I 黒色土 (黒色土>c+d₁)

III 暗褐色土 (黒色土+d₂)

平面形 楕円形

長軸方向 N-29°-W

II 黒褐色土 (黒色土>c+d₁)

P-114

位置 F₁-64-05

規模 0.28/1.01×0.93/0.82×0.72

覆土 I 黒色土 (黒色土>c)

III 黒褐色土 (黒色土+c+d₂)

平面形 楕円形

長軸方向 N-46°-W

II 黒色土 (黒色土>c>d₂)

P-116

南西側をP-115に切られる。

位置 F₁-64-05, -06

規模 0.22/0.45×0.45/0.40×0.31

覆土 I 暗褐色土 (黒色土>d₂)

III 暗黄褐色土 (EnL+d₂)

平面形 円形

II 黄褐色土 (EnL)

P-119

位置 E₂-64-39

規模 0.26/0.50×0.50/0.35×0.35

覆土 I 黒褐色土 (黒色土>c)

遺物 覆土 土器 Va: 1, Vc: 1。

平面形 円形

1 Vc

表2 I 黒層検出遺構一覧

(基および基の可能性がある土壌)

名称	位置	平面形	規模 (m)			長軸方向	基層体位		調査品	備考
			最大深	確認面	底面		方位	姿勢		
P-1	E ₂ -64-79・80	楕円形	1.25	1.53 × 1.50	0.95 × 0.80	N-41°-W	南			
P-4	E ₂ -64-99	円形	0.80	0.95 × 0.90	0.68 × 0.55					
P-5	E ₂ -64-99	#	0.54	1.02 × 1.00	0.68 × 0.55					
P-6	E ₂ -64-19・29	楕円形	1.21	1.55 × 0.99	1.32 × 0.67	N-77°-E	南西			ベンガラ(確認) あり
P-7	E ₂ -64-99 E ₂ -64-09	#	0.95	1.64 × 1.35	1.27 × 0.97	N-90°-E				
P-9	E ₂ -64-99	(#)	0.97	-	-					
P-15	E ₂ -64-27	楕円形	0.82	1.05 × 0.90	0.45 × 0.35	N-10°-E				ベンガラ(確認) あり
P-16	E ₂ -64-36	円形	0.80	1.08 × 0.96	0.60 × 0.56					
P-18	E ₂ -64-25・27	楕円形	0.75	1.10 × 1.00	0.55 × 0.40	N-7°-E				
P-19	E ₂ -64-15・17	#	0.60	1.00 × 1.00	0.70 × 0.55	N-56°-E				
P-20	E ₂ -64-27	#	0.70	0.90 × 0.90	0.60 × 0.50	N-46°-E				
P-21	E ₂ -64-16	円形	1.25	1.60 × 1.25	0.80 × 0.80					
P-22	E ₂ -64-05	楕円形	0.95	1.50 × 1.35	0.70 × 0.55	N-17°-E				
P-25	E ₂ -64-47・57	#	1.30	2.50 × 1.90	1.14 × 0.87	N-20°-W	南東			
P-32	E ₂ -64-88	#	1.25	2.10 × 1.55	1.20 × 1.00	N-20°-W	南東	屋敷 石敷 286		
P-43	E ₂ -64-17・27	#	0.80	(1.30) × 1.15	0.70 × 0.55	N-43°-E				
P-45	E ₂ -64-36	#	0.95	1.20 × 0.95	0.60 × 0.40	N-34°-E				
P-49	E ₂ -64-59	#	0.85	1.40 × 1.00	0.80 × 0.40	N-56°-W				
P-53	E ₂ -64-56	#	1.05	1.60 × 1.20	1.10 × 0.80	N-28°-W	南東			
P-59	E ₂ -64-34・44	#	0.45	1.20 × 1.10	0.95 × 0.90	N-48°-W	南東	懸崖? 土器2 埴輪1	樹皮を伴う遺体	
P-74	E ₂ -64-37	円形	0.38	0.80 × 0.60	0.42 × 0.42					
P-75	E ₂ -64-36	#	0.45	0.85 × 0.85	0.55 × 0.55					
P-94	F ₁ -64-06	楕円形	0.53	1.11 × 0.94	0.59 × 0.49	N-33°-W				
P-105	F ₁ -64-06	#	0.21	0.75 × 0.64	0.63 × 0.53	N-13°-E				
P-117	E ₂ -64-59	#	0.65	1.41 × 0.87	1.28 × 0.69	N-69°-W	南東	懸崖		
P-118	E ₂ -64-17	#	0.45	0.81 × 0.76	0.58 × 0.55	N-22°-E				
P-120	E ₂ -64-23	#	0.89	1.40 × 0.74	0.95 × 0.62	N-70°-W	南東			

(その他の土壌)

名称	位置	平面形	規模 (m)			長軸方向	備考
			最大深	確認面	底面		
P-2	E ₂ -64-29	円形	0.20	0.40 × 0.40	0.30 × 0.30		登が出土
P-3	E ₂ -64-08	#	0.57	0.85 × 0.58	0.82 × 0.26		
P-8	E ₂ -64-09	#	0.65	0.91 × 0.38	-		
P-10	E ₂ -64-89	楕円形	0.30	1.00 × 0.79	0.76 × 0.67	N-49°-E	
P-11	F ₁ -64-69・79	#	0.18	2.63 × 1.89	2.51 × 1.78	N-72°-W	
P-12	F ₁ -64-69・79	#	0.20	1.45 × 0.80	1.30 × 0.68	N-31°-W	

III 美々4遺跡の調査

名 称	位 置	平面形	規 模 (m)			長軸方向	備 考
			最大値	確 証 面	底 面		
P- 13	F ₁ -64-68・69	円 形	0.35	1.00 × 1.00	0.60 × 0.60		
P- 14	F ₁ -64-69	不 明	0.15	—	—		
P- 17	E ₂ -64-55	円 形	0.50	0.80 × 0.80	0.40 × 0.40		
P- 23	E ₂ -64-05・15	楕円形	1.00	1.40 × 1.15	1.10 × 0.90	N-62°-E	
P- 24	E ₂ -64-16・26	円 形	0.60	0.80 × 0.80	0.50 × 0.50		
P- 26	E ₂ -64-55	#	0.34	0.71 × 0.71	0.44 × 0.44		
P- 27	E ₂ -64-48	#	0.50	0.75 × 0.75	0.40 × 0.40		
P- 29	F ₁ -64-28	#	0.50	0.70 × 0.70	0.35 × 0.35		
P- 30	F ₁ -64-38	#	0.40	0.50 × 0.50	0.30 × 0.30		
P- 31	F ₁ -64-28	楕円形	0.55	0.90 × 0.75	0.45 × 0.30	N-12°-E	
P- 33	F ₁ -64-38	円 形	0.40	0.80 × 0.80	0.40 × 0.40		
P- 34	E ₂ -64-68	楕円形	0.46	1.42 × 0.80	1.10 × 0.56	N-29°-W	
P- 35	E ₂ -64-68	円 形	0.46	0.60 × 0.60	0.36 × 0.36		
P- 36	E ₂ -64-68	#	0.48	0.70 × 0.70	0.45 × 0.45		
P- 38	F ₁ -64-68	楕円形	0.30	2.21 × 0.94	1.84 × 0.70	N-50°-W	
P- 39	F ₁ -64-28	#	0.45	(0.60) × 0.50	0.20 × 0.20	N-32°-W	
P- 40	E ₁ -64-95	円 形	0.70	0.90 × 0.90	0.50 × 0.50		
P- 41	E ₁ -64-95	楕円形	0.90	1.20 × 1.00	0.50 × 0.50	N-30°-W	
P- 42	E ₂ -64-16	円 形	0.35	0.80 × 0.80	0.40 × 0.30		
P- 44	E ₂ -64-27	#	0.50	0.80 × 0.80	0.20 × 0.20		
P- 46	E ₂ -64-27・37	円 形	0.72	1.08 × 0.98	0.49 × 0.44		
P- 47	E ₂ -64-27・28	#	0.60	1.00 × 1.00	0.70 × 0.55		
P- 48	E ₁ -64-86	#	0.40	0.60 × 0.60	0.30 × 0.20		
P- 50	E ₂ -64-36	楕円形	0.64	(1.11) × 0.90	0.63 × 0.47	N-83°-W	
P- 52	E ₂ -64-17	円 形	0.40	(0.80) × 0.65	(0.50) × 0.35		
P- 54	E ₁ -63-77	#	0.55	1.12 × 1.12	0.85 × 0.85		
P- 55	E ₂ -64-36	楕円形	0.49	1.13 × 0.53	0.85 × 0.24	N-73°-W	
P- 56	E ₂ -64-55	#	0.60	0.95 × 0.80	0.60 × 0.50	N- 6°-E	
P- 57	E ₂ -64-55	円 形	0.60	(0.80) × 0.80	0.35 ×		
P- 58	E ₂ -64-55	#	0.55	(0.80) ×	0.30 ×		
P- 60	E ₂ -64-35	楕円形	0.50	(1.10) × 0.80	0.75 × 0.50	N- 1°-E	
P- 61	E ₂ -64-44	円 形	0.50	0.50 × 0.60	0.20 × 0.20		
P- 62	E ₂ -64-34・35・44・45	#	0.50	0.80 × 0.80	0.30 × 0.20		
P- 63	E ₂ -64-34・35・44・45	#	0.20	1.30 × 1.30	1.10 × 1.10		
P- 64	E ₂ -64-35	#	0.60	0.60 × 0.55	0.40 × 0.30		
P- 65	E ₂ -64-44	楕円形	0.25	0.50 × 0.40	0.30 × 0.25	N-31°-E	
P- 66	E ₂ -64-44	#	0.45	0.85 × 0.65	0.55 × 0.3	N-19°-E	
P- 67	E ₂ -64-35	円 形	0.25	0.55 × 0.55	0.40 × 0.25		
P- 68	E ₂ -64-35	#	0.30	0.75 × 0.65	0.35 × 0.25		
P- 69	E ₂ -64-35	#	0.25	0.75 × 0.60	0.50 × 0.35		

名 称	位 置 置	平面形	規 模 (m)			長軸方向	備 考
			最大径	確 認 面	底 面		
P-70	Ea-64-35・36	円 形	0.35	0.65×0.65	0.45×0.45		
P-71	Ea-64-44	"	0.50	0.70×0.70	0.45×0.40		
P-72	Ea-64-34	"	0.40	0.40×0.40	0.20×0.20		
P-73	Ea-64-34・35	楕円形	0.50	0.7 × —	0.35 × —	N-11°-E	
P-76	F1-64-05	"	0.40	0.62×0.62	0.52×0.30	N-28°-E	
P-77	Ea-64-95 F1-64-05	円 形	0.60	1.00×0.90	0.59×0.51		
P-78	Ea-64-95 F1-64-05	"	0.54	0.80×0.76	0.42×0.35		
P-79	F1-64-05	"	0.17	0.73×0.69	0.50×0.48		
P-80	F1-64-05	"	0.14	0.66×0.56	0.42×0.37		
P-81	F1-64-05	"	0.23	0.63×0.58	0.35×0.31		
P-82	F1-64-05	"	0.12	0.72×0.70	0.59×0.53		
P-83	Ea-64-95	"	0.48	0.83×0.77	0.38×0.35		
P-84	Ea-64-95	"	0.55	0.81×0.68	0.54×0.39		
P-85	Ea-64-95	"	0.45	0.87×0.79	0.63×0.59		
P-86	Ea-64-95	楕円形	0.39	0.63×0.51	0.31×0.19	N-65°-E	
P-87	F1-64-16	"	0.41	0.55×0.44	0.32×0.21	N-26°-E	
P-88	F1-64-16	円 形	0.33	0.68×0.65	0.45×0.42		
P-89	F1-64-16	"	0.38	0.74×0.68	0.31×0.28		
P-90	Ea-64-95	"	0.28	0.85×0.81	0.55×0.50		
P-91	F1-64-06	楕円形	0.46	0.64×0.56	0.41×0.30	N-43°-W	
P-92	F1-64-06	"	0.23	0.58×0.55	0.32×0.25	N-18°-W	
P-93	F1-64-06	円 形	0.56	0.81×0.80	0.47×0.42		
P-95	F1-64-06	"	0.23	0.51×0.49	0.26×0.22		
P-96	F1-64-06	楕円形	0.29	0.50×0.42	0.31×0.26	N-28°-W	
P-98	F1-64-08	"	0.26	0.78×0.72	0.51×0.49	N-20°-W	
P-99	F1-64-05	円 形	0.42	0.78×0.67	0.37×0.33		
P-100	F1-64-05	"	0.31	0.71×0.61	0.43×0.38		
P-102	F1-64-06	"	0.27	0.47×0.44	0.31×0.25		
P-103	F1-64-07	楕円形	0.25	0.92×0.74	0.65×0.51	N-67°-E	
P-104	F1-64-07	円 形	0.48	0.96×0.90	0.63×0.53		
P-108	F1-64-05	楕円形	0.39	0.90×0.71	0.74×0.56	N-7°-W	
P-109	F1-64-06	円 形	0.36	0.47×0.41	0.31×0.23		
P-110	F1-64-06	"	0.48	0.82×0.72	0.47×0.44		
P-111	F1-64-16	楕円形	0.22	0.49×0.42	0.43×0.26	N-65°-W	
P-112	F1-64-06	"	0.40	1.13×0.82	0.82×0.54	N-87°-W	
P-113	F1-64-05	"	0.20	0.69×0.58	0.51×0.43	N-29°-W	
P-114	F1-64-05	"	0.28	1.01×0.93	0.82×0.72	N-46°-W	
P-116	F1-64-05・06	円 形	0.22	0.45×0.45	0.40×0.31		
P-119	Ea-64-39	"	0.26	0.50×0.50	0.35×0.35		

(2) 遺物

I 黒層からは、土器10,194点、石器等653点、合計10,802点出土した。土器は大半がV群c類に分類されるものであるが、遺構が検出された斜面からは、本来I層黒層中にあるII群～V群a類の土器も混在していた。石器も同様と思われるが、明瞭に区分することは困難であった。

遺物は、調査区東側の台地上と斜面の上部には少なく、それ以外の地域ではほぼ全域から検出している。とくに、尾根状の斜面付近に多く、斜面中腹にあるP-59周辺からはV群c類土器、石器等が多量に出土している。この地点から出土したV群c類土器と石器等については、そのほかの発掘区と区別してまとめて掲載した。

1) 土器 (図47～52・写真図版6～13)

I 黒層からは、10,149点が出土した。V群c類がほとんどで、本来、II黒層中にあるII群～V群a類土器がわずかに出土している。

土器は、実測図と写真とで示してある。実測図は個々の番号で、破片写真は個々の番号「写〇」で説明する。

II群～V群a類 (写58～60)

総計88点が出土した。本来II黒層中にあるもので、大半は遺構が検出された斜面の発掘区から出土している。分類別の内訳は、II群a-2類2点、III群b-3類1点、IV群b類2点(写58)、IV群c類73点(写59・60)、V群a類10点である。

V群c類 (1～17, 写真図版6～9, 写1～57)

総計10,061点が出土した。分布は、調査区東側の台地上および斜面の上部を除いて、ほぼ全域に広がる。特に尾根状に張り出した斜面付近に多く、P-59周辺の黒色土の落ち込みからはV群c類がまとめて出土した。主体はタンネトウL式およびこれに類するものである。ほかには大洞A式と認められる個体がわずかながらあり、これらはおもにP-59周辺から出土している。実測土器は、図上復原したものを含めて17個体がある。1～3・5・6・8～15・17, 写1～24・27・51～53は、P-59周辺から出土したものである。

1～3・写17～24・51～53は大洞A式に相当するもので、壺・浅鉢・深鉢がある。

3・写17は沈線が赤色塗彩されている。写22は、無文の壺と思われる胴部破片で赤色顔料の付着が認められる。口縁部から胴部にかけて平行沈線と工字文を組み合わせて文様を構成しているものが大半で、2・写19・20・51・52には内面にも沈線が施されている。写23・24は矢羽根状の沈線文が施されたものである。ほかには、タンネトウL式およびこれに類するもので、浅鉢・小型の深鉢・深鉢の器形がある。深鉢には、縄文のみのものと、口縁部に沈線文、刺突文を組み合わせて文様を構成しているものがあり、胴部にくびれがみられるものもある(写5)。口唇の断面は大半が切り出し形で、その上に縄文原体を回転させたもの、縦位もしくは横位に摺糸を押圧したもの、棒状工具等による刻みが施されたものがあり、これらを組み合わせて文様を構成しているものがほとんどである。また、口縁部に指頭や棒状工具等による刻みが施されたものもある。地文は斜行縄文で、RLのものが概して多いが、6・写50のように無節および複節のもの

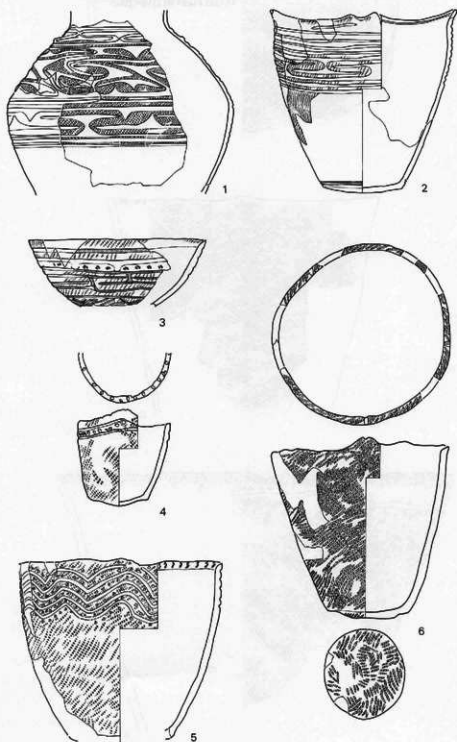


図47 I 黒層出土の土器

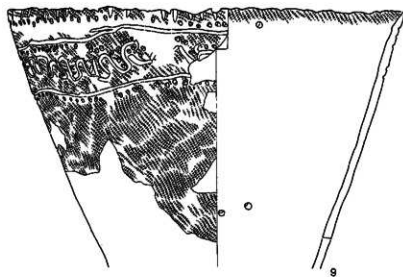
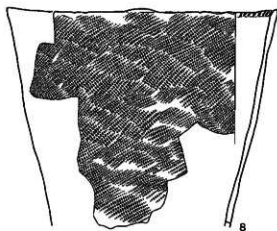
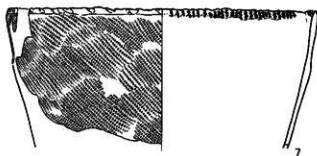


図48 I 黒層出土の土器

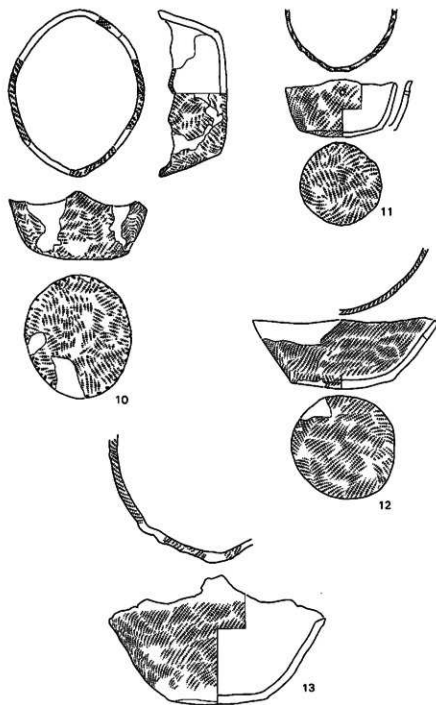


図49 I 層出土の土器

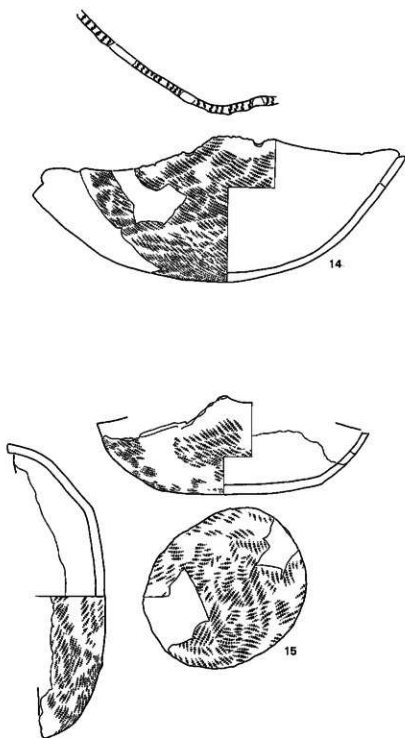


図50 I 黒層出土の土器

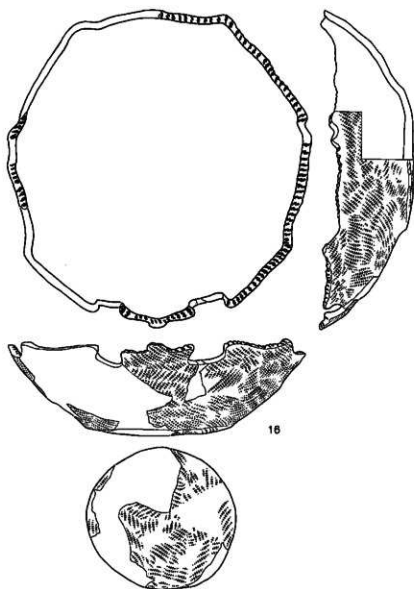


図51 I 黒層出土の土器



図52 I 黒層出土の土器

もみられ、縄文は底面にも施されることが多い。6は、無節の斜行縄文が器面全体に施されたもので、突起頂に棒状工具による刻みが付されている。写2・5は、突起下に貫通孔がみられる。写45は、胴部に貼付帯をもち、その下部に幅3cmほどの磨消帯が認められる。写49は、口縁下に縄を折って円形に押圧した刻みによって区切られた幅3cmほどの磨消帯がある。浅鉢には、口径15cm以下の小型のものと、大型のものがあり、無文または縄文のみのものが多く、深鉢にみられるような沈線等で文様を構成しているものは少ない。口唇の断面およびその上に付される文様は、深鉢と同様に、切り出し形で、縄文や棒状工具等による刻みを組み合わせたものがある。特に、燃糸の押圧文が施されたものが多く、突起の内面には溝巻状に燃糸が押圧されたものもある。小型の浅鉢には、口唇断面が角形となるものが多くみられる。10は底部の縁辺に燃糸の端部を用いて押圧した刻みが認められる。大型のものには、口縁部の平面観が動物を意匠していると思われるものがある(16・17)。地文は深鉢同様RLの斜行縄文が施されたものが多く、複節のもの(写28・29)もみられ、底面にも縄文が施されている。写27には赤色顔料の付着が認められる。写9の内面には1条の沈線が施されている。(野中一宏)

表3 掲載土器一覧(I 卑層)

(実測図)

番号	名称	分類	発掘区	大きさ (cm)			写真図 版番号	番号	名称	分類	発掘区	大きさ (cm)			写真図 版番号
				器高	口径	底径						器高	口径	底径	
1	壺	Vc	E1-64-46	(17.5)	—	—	6-4	10	浅鉢	Vc	E1-64-45・46	7.2	14.7	10.9	8-1
2	深鉢	#	E1-64-31・34・35	19.3	19.7	8.4	6-5	11	#	#	E1-64-44	8.1	11.8	8.6	8-2
3	浅鉢	#	E1-64-45	(7.0)	19.0	—	11-21	12	#	#	E1-64-35・45・46	7.4	19.6	10.9	8-3
4	鉢	#	E1-64-06	10.2	9.9	6.2	7-1	13	#	#	E1-64-46	13.6	23.0	10.2	8-4
5	深鉢	#	E1-64-34・35・44・45	(19.0)	21.5	—	7-2	14	#	#	E1-64-34・35・44・45	15.4	39.7	14.7	8-5
6	#	#	E1-64-35・45	19.2	18.8	8.5	7-3	15	#	#	E1-64-44・45	10.4	28.4	17.4	8-6
7	#	#	E1-64-47・57	(14.5)	33.3	—	7-4	16	#	#	E1-64-88	9.8	33.7	15.6	9-1
8	#	#	E1-63-35	(23.1)	29.0	—	7-5	17	#	#	E1-64-45・46	18.8	34.1	16.4	9-2
9	#	#	E1-64-34	(24.6)	42.4	—	7-6								

Ⅲ 美々4遺跡の調査

(写真)

番号	分類	発掘区	番号	分類	発掘区
1	Vc	E ₂ -64-35・45・46	31	Vc	F ₁ -64-47
2	#	E ₂ -64-45	32	#	E ₂ -64-09
3	#	E ₂ -64-45・46	33	#	F ₁ -64-19
4	#	E ₂ -64-44	34	#	F ₁ -64-07
5	#	E ₂ -64-36	35	#	F ₂ -64-17
6	#	E ₂ -64-35	36	#	E ₂ -64-28
7	#	E ₂ -64-35	37	#	F ₁ -64-28
8	#	E ₂ -64-44	38	#	E ₂ -64-11
9	#	E ₂ -64-35・55	39	#	F ₂ -68-28
10	#	E ₂ -64-45	40	#	F ₁ -64-38
11	#	E ₂ -64-45	41	#	E ₂ -64-46
12	#	E ₂ -64-45	42	#	E ₂ -64-11
13	#	E ₂ -64-36	43	#	E ₂ -64-09
14	#	E ₂ -64-56	44	#	E ₂ -64-11
15	#	E ₂ -63-34	45	#	E ₂ -64-17
16	#	E ₂ -64-45	46	#	F ₁ -64-59
17	#	E ₂ -64-44	47	#	F ₂ -64-09・17・27
18	#	E ₂ -64-36	48	#	F ₁ -64-88
19	#	E ₂ -64-46	49	#	F ₂ -64-16
20	#	E ₂ -64-45・46	50	#	F ₁ -64-38・49
21	#	E ₂ -64-45	51	#	E ₂ -64-36
22	#	E ₂ -64-44	52	#	E ₂ -64-36
23	#	E ₂ -64-36・46	53	#	E ₂ -64-36
24	#	E ₂ -64-45	54	#	E ₁ -64-89
25	#	F ₁ -64-57	55	#	F ₁ -64-38
26	#	F ₁ -64-25	56	#	E ₂ -64-37
27	#	E ₂ -63-45	57	#	E ₂ -64-89
28	#	F ₁ -64-19	58	Ⅳb	E ₂ -64-09
29	#	E ₂ -64-28	59	Ⅳc	E ₂ -64-09
30	#	E ₂ -63-36	60	#	E ₂ -64-09

2) 石器等 (図53-55, 図版14・15)

剥片石器100点、礫石器69点、フレイクおよび礫等が484点出土した。剥片石器では、不定形のスクレイパーが最も多く、次いで、有茎の石鏃が多い。やり先またはナイフ、つまみ付きナイフは1点ずつ出土した。剥片石器には、黒曜石、珪岩、頁岩が多く利用されている。礫石器は、約60%がたたき石で、石斧、砥石がこれに次ぐ。礫石器には、緑色泥岩、安山岩、砂岩が多く利用されている。40-55の遺物はP-59周辺から出土したものである。

石鏃 (1-15, 40-42): 22点出土した。そのうち14点が有茎のIA5 (6-14, 40-42) である。1-4は三角形のIA3で1は幅が狭く、基部は平らで細かい加工が施されている。2・3は基部がわずかに湾入する。5は菱形のIA4。有茎のIA5はかえしの部分があり明瞭ではない。15は珪岩製で、鏃身に比べて、基部が二倍以上あり、厚みがある。側縁は磨耗している。石鏃の可能性もある。石材は黒曜石が90%を占める。わずかに珪岩、頁岩がある。

やり先またはナイフ (17): 1点出土した。方形の基部をもつIB1で、鏃身の側縁がゆるやかに弧を描く。基部と、かえしの部分の磨耗が著しい。黒曜石製。

石鏟 (16-44): 2点出土した。16は頁岩製で刺突部が太く、つまみ部との区別が明瞭ではない。剥片全体が湾曲し、刺突部は磨耗している。44は黒曜石製で、刺突部のみが作り出されたIIA1で、粗雑な作りである。

スクレイパー (18-30, 44-49): 74点出土している。剥片石器の74%を占める。II B2のラウンド・スクレイパー (18・44) 2点を除けば円形、楕円形、尖頭部をもつものなど、不定形のIII B3である。19-24, 46・48・49は縦長剥片を、29・45・47は、横長剥片を利用している。30は大型のもの。不定形のもの、二次加工が表面周縁部のみに限られ、自然面を残す粗雑な作りのものが多い。石材は、86%が黒曜石で、珪岩、頁岩がこれに次ぐ。

石斧 (31-34, 50-52): 15点出土した。31は、IVA1で、全面研磨されており両側縁に擦り切り痕を残している。33, 34は敲打による整形後、刃部が研磨されたIVA2。34は断面楕円形の乳棒状石斧。52も敲打による整形がなされているが、刃部は研磨されていない。くぼみ石として利用されたと思われる痕跡がある。32は打ち欠きと敲打によって整形されている。石材は、大半が緑色泥岩で、わずかに片麻岩 (33) がある。

たたき石 (35-39, 53-55): 44点出土した。約半数が破損品である。形態は、扁平なもの (36-39, 54) と球形に近いもの (35・53) がある。36・37は、扁平で円形の礫の周縁に敲打痕があるもの。37は周縁がボロボロに剥け落ちている。38は、敲打と研磨によって石斧形に整形された礫の両先端に敲打痕をもつ。球形礫では、敲打痕がところどころにあるもの (35) と、ほぼ全面にあるもの (53) がある。55は細い棒状で、一側縁に敲打痕がある。39と54は表面にいか所くぼみがある。くぼみ石。石材は、緑色泥岩が最も多く、ほかに安山岩、片麻岩、頁岩、メノウなどがある。(遠藤香澄)

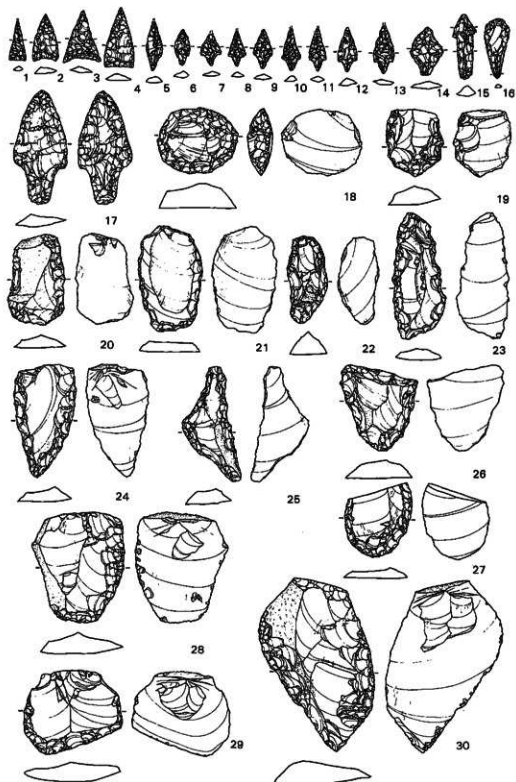


図53 I 黒層出土の石器

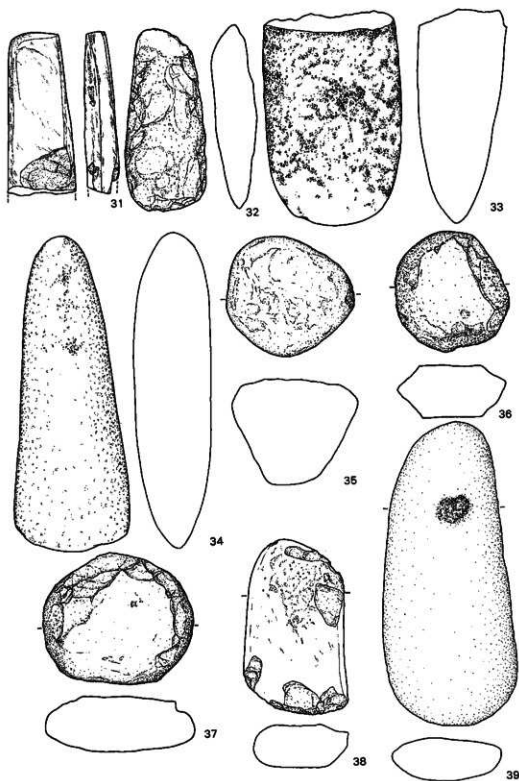


図54 I 黒層出土の石器

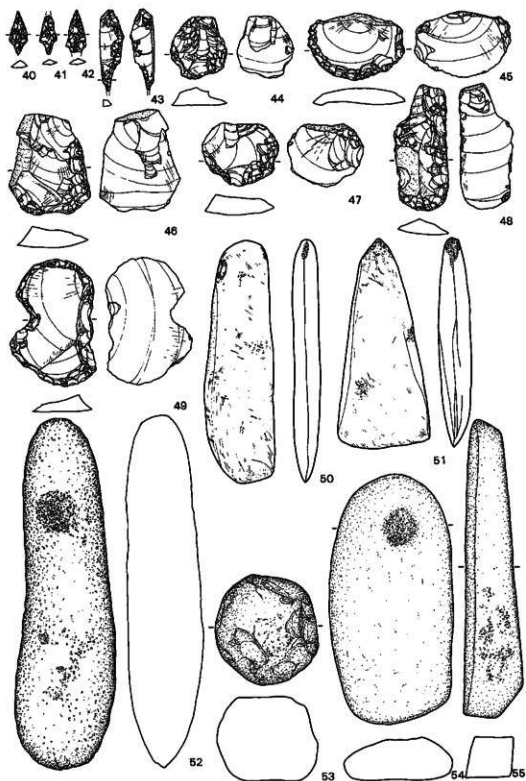


図55 I 黒層出土の石器

表4 掲載石器一覧(Ⅰ黒層)

番号	名称	分類	発掘区	大きさ	厚さ	材質	番号	名称	分類	発掘区	大きさ	厚さ	材質
1	石 鏃	IA3	Ea-64-06	2.1 X 0.9 X 0.2	0.2	Obs.	29	スクレイ バー	III B3	Ea-64-75	4.05 X 5.2 X 1.3	23.7	Obs.
2	"	"	Ea-64-08	2.5 X 1.4 X 0.3	0.3	"	30	"	"	Ea-64-67	9.3 X 5.4 X 1.3	71.0	"
3	"	"	Ea-63-39	2.7 X 1.9 X 0.3	1.1	"	31	石 斧	IIA1	Ea-64-26	(8.5) X 3.5 X 1.8	(143.0)	Gr-Mud.
4	"	"	Fa-64-35	3.1 X 1.5 X 0.35	1.3	"	32	"	IIA3	Ea-64-09	9.5 X 4.3 X 2.1	127.8	"
5	"	IA4	Ea-64-05	1.5 X 0.4 X 0.3	0.5	"	33	"	IIA2	Ea-64-06	(11.0) X 7.3 X 4.7	(610.0)	Gnl.
6	"	IA5	Ea-64-09	1.9 X 0.8 X 0.3	0.45	"	34	"	"	Ea-64-99	164. X 6.1 X 4.0	645.0	Gr-Mud.
7	"	"	Fa-64-29	1.7 X 1.1 X 0.2	0.4	"	35	たたき石	VA	Ea-64-96	5.8 X 6.2 X 5.7	285.0	Agg.
8	"	"	Fa-64-38	1.9 X 1.0 X 0.2	0.25	"	36	"	"	Ea-64-76	6.3 X 5.8 X 2.8	140.0	Cha.
9	"	"	Ea-64-29	2.1 X 1.0 X 0.3	0.4	"	37	"	"	Ea-64-14	8.0 X 6.9 X 3.0	230.0	"
10	"	"	Ea-64-25	2.2 X 0.9 X 0.3	0.4	"	38	"	"	Ea-64-43	9.3 X 5.5 X 2.4	200.0	Gr-Mud.
11	"	"	Ea-64-55	2.3 X 0.9 X 0.3	0.4	"	39	"	"	Ea-64-09	14.0 X 6.9 X 2.0	460.0	Cnl.
12	"	"	Ea-64-29	2.35 X 1.05 X 0.4	0.7	"	40	石 鏃	IA5	Ea-64-68	2.2 X 0.95 X 0.4	0.6	Obs.
13	"	"	Ea-64-38	2.5 X 1.1 X 0.25	0.4	"	41	"	"	Ea-64-45	(2.0) X 0.4 X 0.3	(0.4)	"
14	"	"	Ea-64-39	2.6 X 1.7 X 0.3	1.3	"	42	"	"	Ea-64-05	(2.2) X 1.35 X 0.3	(0.6)	"
15	"	IA-	Ea-64-09	3.4 X 1.2 X 0.5	1.4	Cha.	43	石 鏃	IIA1	Ea-64-64	4.3 X 1.2 X 0.3	3.0	"
16	石 鏃	IIA1	Ea-64-75	3.2 X 1.3 X 0.4	1.9	Obs.	44	スクレイ バー	III B2	Ea-64-65	3.45 X 0.3 X 0.95	9.5	"
17	やりまたは ナイフ	IB1	Fa-64-79	5.9 X 2.85 X 0.7	9.8	"	45	"	"	Ea-64-45	3.5 X 5.1 X 1.0	18.9	"
18	スクレイ バー	III B2	Ea-64-09	4.3 X 3.55 X 1.3	19.1	"	46	"	III B3	Ea-64-65	5.3 X 4.3 X 0.9	24.1	"
19	"	III B3	Ea-64-75	4.05 X 5.2 X 1.3	22.7	"	47	"	III B2	Ea-64-65	4.0 X 3.5 X 1.2	17.0	"
20	"	"	Ea-64-08	4.8 X 3.1 X 1.0	12.5	"	48	"	III B3	Ea-64-65	6.6 X 2.6 X 0.8	18.5	"
21	"	"	Ea-64-29	5.6 X 3.4 X 0.6	12.8	Sh.	49	"	"	Ea-64-45	3.1 X 2.6 X 0.6	5.4	"
22	"	"	Ea-64-31	4.6 X 2.1 X 1.2	11.4	Obs.	50	石 斧	IIA4	Ea-64-34	12.8 X 3.7 X 1.4	100	Gr-Mud.
23	"	"	Ea-64-08	(5.7) X 2.8 X 0.9	(13.4)	"	51	"	IIA5	Ea-64-44	11.0 X 4.9 X 1.8	130	"
24	"	"	Ea-64-05	6.1 X 3.3 X 1.1	19.1	"	52	"	IIA2	Ea-64-05	18.4 X 5.2 X 3.7	590	"
25	"	"	Fa-64-96	6.2 X 2.6 X 1.8	9.7	"	53	たたき石	VA	Ea-64-45	5.6 X 5.4 X 4.4	200.5	Mud.
26	"	"	Ea-64-25	4.5 X 4.1 X 0.9	18.7	"	54	"	"	Ea-64-45	13.2 X 6.6 X 2.3	295	Sa.
27	"	"	Ea-64-06	3.4 X 3.7 X 0.6	10.7	"	55	"	"	Ea-64-34	15.5 X 3.0 X 2.4	190	"
28	"	"	Ea-64-37	5.8 X 4.95 X 1.2	37.4	"							

3. 第Ⅱ黒色土層（Ⅱ黒層）の遺構と遺物

Ⅱ黒層からは、住居跡・墓・Tピットなどの遺構と、縄文時代後期（Ⅳ群）・晩期（Ⅴ群）が主体をなす土器と、石器等が検出された。

(1) 遺 構

1) 住居跡

標高13～14m以下の斜面下位から13軒が検出された。このうち8軒は、調査地区境界に位置しているため、遺構の一部あるいは大部分が未調査である。

伴出遺物から構築時期がとらえられたものは7軒で、縄文時代前期（H-3・4）、中期（H-7）・後期（H-1・2・8・9）に位置づけられる。

前期の住居跡は調査区東寄りの斜面で検出され、これらは昭和55年度の本遺跡調査でとらえられた同期集落の西限をなすと考えられる。

中期の住居跡は、堅穴径が2.5mほどで、平面形は円形と思われるが、一部が調査区外に及ぶため詳細は不明である。炉跡・柱穴は確認されていない。

後期のH-1・2は調査区西側の緩斜面においてⅡ黒層上面で浅いくぼみとしてとられられた。H-1は平面形がすみ丸長方形、H-2はほぼ円形である。いずれも床面から、多量の後期中葉の土器（Ⅳ群b類）が出土した。H-8の大部分は、調査地区外にある。確認された部分からは、規模の大きい住居跡と推測される。

H-1（写真図版17）

Ⅱ黒層上面近くから掘り込まれ、床の北半はTa-d₂層に、南半はTa-d₁層上面につくられる。床面は、南側にやや傾斜するが、平坦である。床面のほぼ中央に炉跡があり、径0.90mの範囲から焼土が検出された。厚さは約8cm。小ピットが床面と、北側壁とこの外側にある。この中に柱穴があると思われるが、浅いものが多く、決定できない。北西壁寄りの床面からは、深さ10～15cmの溝が検出された。また、この近くでは炭化材の集中がみられた。

床面のほぼ中央からⅣ群b類の土器、北東すみから多量のチップが出土した。

位置 F₁-64-47, -48, -57, -58, -67, -68 平面形 すみ丸長方形

規模 0.50/9.50×9.10/7.00×6.60 長軸方向 N-101°-W

覆土 I 黒色土（黒色土>d₁） II 黒褐色土（黒色土>d₂>d₁）

III 暗褐色土（黒色土>d₂） IV 暗茶褐色土（黒色土+d₂）

V 黒褐色土（黒色土>d₂） VI 黒褐色土（黒色土>d₂）

VII 黒褐色土（黒色土>d₁+d₂） VIII 暗茶褐色土（黒色土+d₁）

IX 黒色土（黒色土>d₁） X 黒色土（黒色土+d₁）

遺物 覆土 土器Ⅱb-1:1, Ⅱb-3:3, Ⅳa:2, Ⅳb:468, Ⅳc:87, Ⅴa:109, 石器 ⅠA5:10, ⅢA3:1, ⅢB3:1, ⅣA5:2, ⅣA片:4, ⅤA:3, ⅤA片:3,

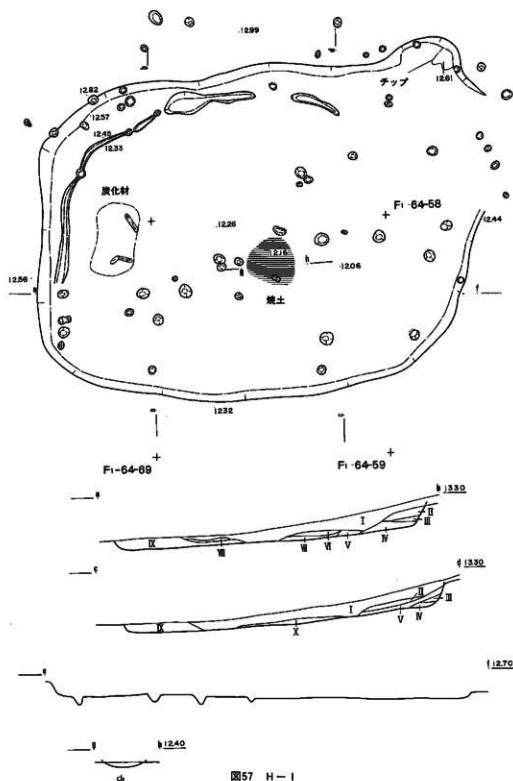


図57 H-I

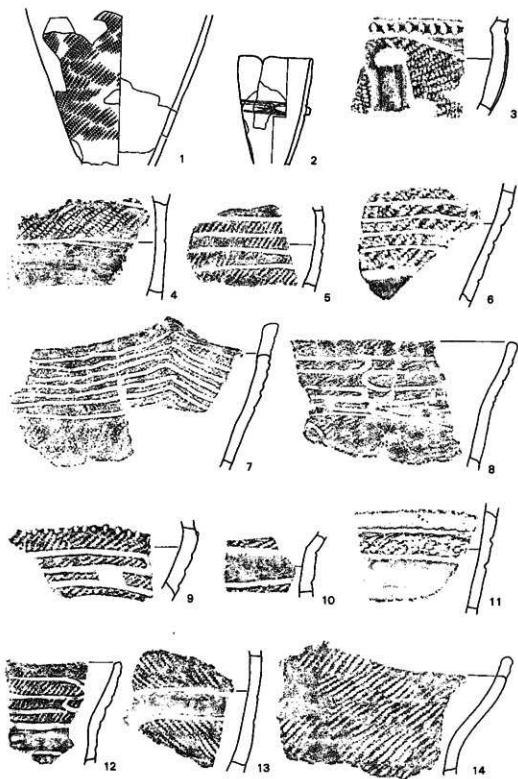


図58 H-Iの遺物

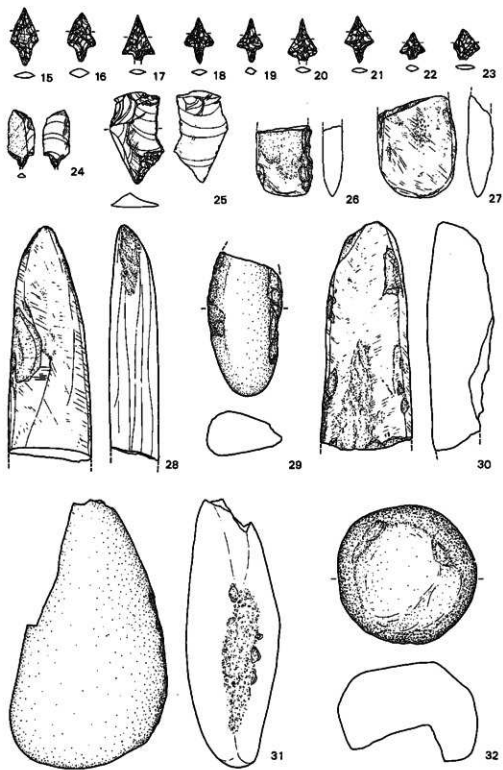


図59 H-1の遺物

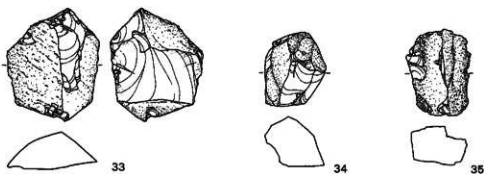


図60 H-1の遺物

IXA: 4, IXB: 215, XA: 2. 礫: 64

床面 土器IVb: 127. 石器 IA5: 1, IXB: 5.

1・3~14	IVb 床 (写真図版18-1)			2	IVb	—/8.0×— 床 (写真図版18-2)			
15	IA5	3.0×1.4×0.3	0.8	Sh. 覆土	16	IA5	2.5×1.4×0.5	1.0	Obs. 覆土
17	IA5	2.4×1.7×0.4	0.8	Obs. 覆土	18	IA5	2.4×1.5×0.4	0.7	Che. 覆土
19	IA5	2.3×1.4×0.5	0.7	Obs. 覆土	20	IA5	(2.2)×1.5×0.4	0.7	Obs. 覆土
21	IA5	2.4×1.5×0.3	0.5	Obs. 床	22	IA5	(1.4)×1.3×0.4	(0.4)	Obs. 覆土
23	IA5	(1.6)×1.4×0.3	0.4	Obs. 覆土	24	IIA1	(3.0)×1.5×0.4	1.8	Obs. 覆土
25	IB3	4.8×3.0×0.8	9.8	Che. 覆土	26	IVA片	(4.0)×(2.8×10.9)	(18.0)	Gr-Mud. 覆土
27	IVA片	(5.4)×4.1×1.3	35.0	Gr-Mud. 覆土	28	IVA5	(12.1)×4.5×2.5	230.0	Gr-Mud. 覆土
29	VA	(7.9)×3.9×2.8	100.0	Sh. 覆土	30	IVA5	(12)×4.9×3.2	410.0	Sch. 覆土
31	VA	14.2×8.2×4.1	590.0	Gr-Mud. 覆土	32	VA	7.0×7.8×4.8	410.0	Sch. 覆土
33	IXA			Obs. 覆土	34	IXA			Obs. 覆土
35	IXA			Obs. 覆土					

H-2

H-1の南西に近接する。II黒層上面近くから掘り込まれ、Ta-d₂層中に床がつくられる。床面は、南にやや傾斜し、若干の凹凸がある。炉跡は、竪穴中央のやや南寄りにあり、径0.7mの範囲で焼土が確認された。柱穴は、壁ぎわの全局から12個検出された。

炉跡の周囲からはIV群b類の土器片が多量に出土した。

床面の中央部から、長楕円形で茶褐色のシミが認められ、土壌が本住居跡によって削られ、横底のみが残されたものと判断された。このわずかに残存する土壌をP-309とした。

位置	F ₁ -64-68, -69, -78, -79	平面形	不整円形
規模	0.35/5.30×4.95/4.70×4.35	長軸方向	N-5°-W
覆土	I 黒色土 (黒色土>d ₁ +d ₂)	II	暗褐色土 (黒色土>d ₂)

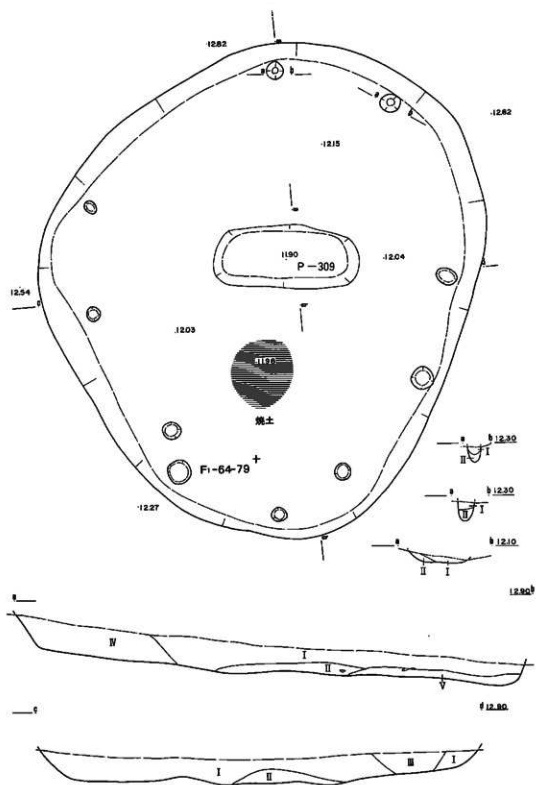


図61 H-2

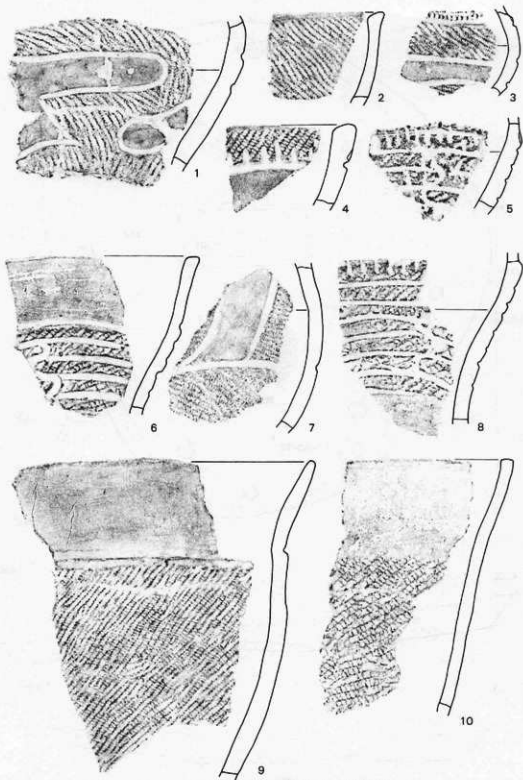


図62 H-2の遺物

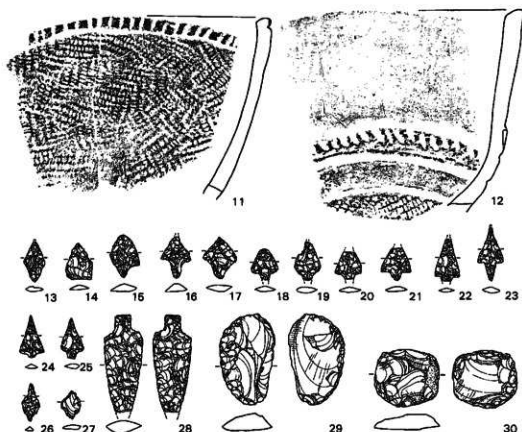


図63 H-2の遺物

Ⅱ 黒褐色土 (黒色土 $>d_1$)

Ⅳ 黒褐色土 (黒色土 $+d_1$)

Ⅴ 暗褐色土 (黒色土 $>d_1+d_2$)

(柱穴) Ⅰ 黒色土

Ⅱ 暗褐色土 (黒色土 $>d_2$)

遺物 覆土 土器Ⅱa: 1, Ⅱb-1: 1, Ⅱb-3: 1, Ⅳb: 580, Ⅳc: 103, Ⅴa: 93. 石器

ⅡA4: 4, ⅡA5: 11, ⅡA片: 1, ⅡA4: 1, ⅡB3: 1, ⅡXB: 469, ⅡXA: 2, 礫: 33.

床面 土器Ⅳb: 189, Ⅳc: 14. 石器ⅡA5: 1, ⅡB3: 1, ⅡXB: 5.

1~12 Ⅳb 床	13 ⅡA4 2.1×1.1×0.3 0.5 Obs. 覆土
14 ⅡA4 (1.9)×0.9×0.3 (0.6) Obs. 覆土	15 ⅡA5 2.3×1.6×0.4 1.0 Obs. 覆土
16 ⅡA5 2.2×1.5×0.5 0.8 Obs. 覆土	17 ⅡA5 2.2×1.8×0.4 1.0 Obs. 覆土
18 ⅡA5 (1.6)×1.9×0.3 (0.6) Obs. 覆土	19 ⅡA5 2.0×1.4×0.3 (0.5) Obs. 覆土
20 ⅡA5 (0.4)×0.4×0.3 (0.5) Obs. 覆土	21 ⅡA5 (1.7)×1.6×0.3 0.6 Obs. 床
22 ⅡA5 (2.2)×0.3×0.3 (0.7) Obs. 覆土	23 ⅡA5 2.8×1.3×1.2 1.0 Obs. 覆土
24 ⅡA5 (2.2)×1.3×0.3 (0.5) Obs. 覆土	25 ⅡA5 (1.9)×1.0×0.3 (0.3) Obs. 覆土

- 26 IA5 (2.1)×1.2×0.4 (0.6) Obs. 覆土 27 IA5 1.5×1.2×0.2 0.5 Obs. 覆土
 28 IIIA4 (5.1)×2.0×0.7 6.4 Obs. 覆土 29 IIIB3 4.9×2.9×1.8 13.6 Obs. 覆土
 30 IIIB3 3.4×3.1×0.8 9.8 Obs. 床

H-3 (写真図版18-3, 19-2)

II 黒層中～下層から掘り込まれ、床面はEn-a ローム層中につくられる。床はほぼ平坦で、堅くしまっている。壁の立ち上りは、北側で急傾斜をなし、他は緩やかである。炉跡はない。柱穴は東西壁の立ち上りから各1個検出された。竪穴内へ傾いている。

床面から石斧5点と、東側の壁面からII群a類の土器が出土した。

位置 E₁-64-57, -58, -67, -68 平面形 すみ丸長方形

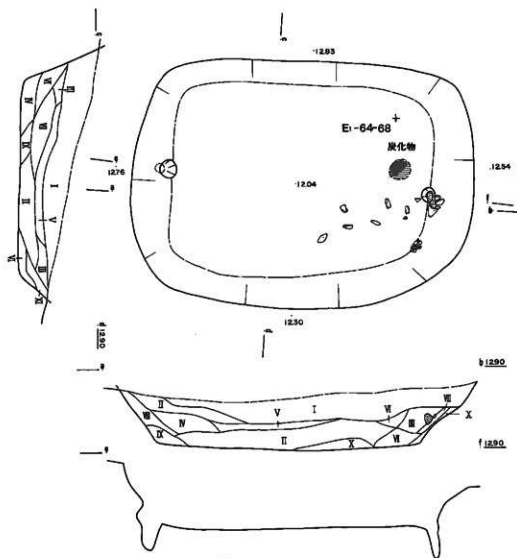


図64 H-3

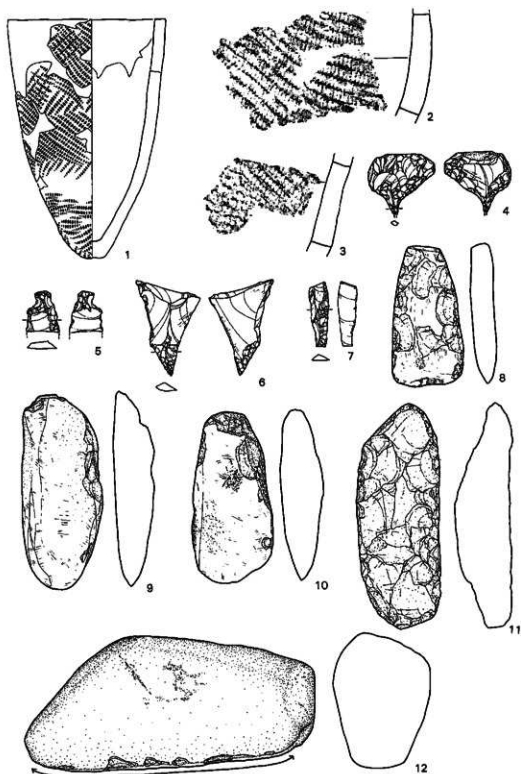


図65 H-3の遺物

III 美々4遺跡の調査

規模 0.60/3.60×2.65/2.75×2.02

長軸方向 N-98'-W

覆土 I 黒色土 (黒色土>d₂)

II 黒黄褐色土 (黒色土+d₂>EnL)

III 暗褐色土 (黒色土+d₂)

IV 暗茶褐色土 (d₂>黒色土)

V 暗茶褐色土 (d₂+黒色土)

VI 暗橙褐色土 (d₂>黒色土)

VII 暗黄褐色土 (EnL>黒色土>d₂)

VIII 黒色土 (黒色土>d₂)

IX 褐色土 (d₂)

X 黒褐色土 (黒色土>d₁)

XI 黒褐色土 (黒色土>d₂+EnL)

遺物 覆土 土器Ⅱa-2:65。石器ⅡA1:1, ⅡA片:1, ⅢB3:2, IVB片:1。礎:1。

床面 石器ⅣA1:1, ⅣA3:1, ⅣA5:2, ⅣA片:1。礎:1。

1 Ⅱa-2 25.3/16.8×- 胎土に繊維をきむ。尖底部の裏文は摩耗している(写19-1)。

2・3 Ⅱa-2

4 ⅡA1 3.0×3.1×1.0 10.0 Obs. 覆土

5 ⅡA片 (2.1)×1.2×0.4 (1.8) Sh. 覆土 6 IVB片 4.7×3.5×1.2 9.0 Obs. 覆土

7 ⅢB3 3.4×1.0×0.4 Obs. 覆土 8 ⅣA3 7.4×3.8×1.3 55.6 Gr-Mud. 床

9 ⅣA3 (11.0)×3.8×2.1 132.0 Gr-Mud. 床 10 IVB3 9.0×4.3×2.0 120.0 Gr-Mud. 床

11 ⅣA片 11.8×4.3×2.9 228.0 Gr-Mud. 床 12 ⅥA1 7.1×15.3×5.0 800.0 Mud. 床

H-4 (写真図版19-3)

床は、En-a ローム層中につくられ、ほぼ平坦で堅くしまっている。北側の壁の立ち上りは急で、他はゆるやかである。炉跡はない。柱穴は壁と床面に認められた。径が20cm前後で深さは15~20cmである。壁面で検出された柱穴は、それぞれ竪穴内に傾いている。

床面からの出土遺物はないが、北西方向に約5m離れたH-3の形態に類似することから、同一時期の住居跡と考えられる。

位置 E₁-64-69, -79

平面形 すみ丸方形

規模 0.55/3.35×2.85/2.12×2.15

長軸方向 N-102'-W

覆土 I 黒色土 (黒色土>d₂+EnP)

II 黒褐色土 (d₂>黒色土+EnP)

III 褐色土 (d₂>黒色土)

IV 暗褐色土 (黒色土>d₂)

V 黒褐色土 (黒色土>d₂)

VI 黒褐色土 (黒色土+d₂)

VII 褐色土 (d₂>黒色土)

VIII 暗黄褐色土 (d₂+EnL>黒色土)

IX 黄褐色土 (EnL>d₂)

遺物 覆土 土器Ⅱa-2:1, IVb:1, IVc:13。石器ⅥA片:1, IXB:1。

1 IVb

H-5

大部分が調査地区外に及んでおり、確認されたのは北側の壁の一部と、これにつづく床面のみである。床はTa-d₂層中につくられ、ほぼ平坦である。柱穴は、未確認である。

位置 E₂-64-89, -99

平面形 不明

H-6

尾根状に張り出した斜面の下位で検出された。大部分が調査地区外に及んでいるため、詳細は不明である。

位置 F₁-64-59, -49 平面形 不明

規模 不明

遺物 覆土 土器IVb:21。

1 IVb —/—×8.4 (写真図版20-1)

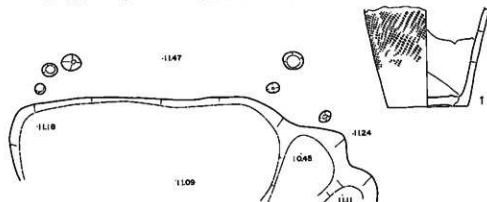


図68 H-6と遺物

H-7

尾根状に張り出した斜面が、緩やかな傾斜をなす斜面へ続くところで検出された。また、斜面下部でもあったことからⅡ黒層が厚く堆積している。

床面はTa-d₂層中につくられ、ほぼ平坦である。炉跡および柱穴は認められなかった。北側の壁から、Ⅲ群a類の土器が一個体出土した。

本住居跡は、P-329を切ってつくられている。

位置 F₁-64-29 平面形 不明

規模 0.40/—/—

覆土 I 黒色土 II 黒色土 (黒色土>d₁+d₂)

III 褐色土 (黒色土+d₂) IV 黒色土 (黒色土>d₁+d₂)

V 明黄褐色土 (EnL+d₂)

遺物 覆土 土器Ⅲa:1。礫:2。 床面 土器Ⅲa:11。礫:1。

1 Ⅲa 12.4/12.2×4.0 床 口唇はやや外反する。器内面は磨きかけられる (写真図版20-2)。

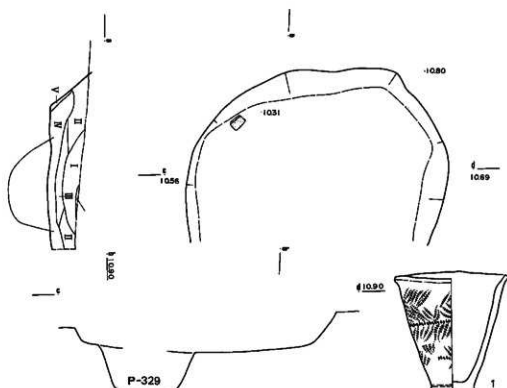


図69 H-7と遺物

H-8

調査区西側の斜面下部で検出された。調査地区境界に沿って東西に長い壁と、床面の一部が確認された。西端はH-12と切り合うが、新旧関係はとらえられなかった。また、床面の一部を掘り抜いてP-332が作られている。

位置 F₁-64-69, -79, -89

平面形 不明

規模 0.30/—/—

覆土 I 黒色土

II 暗褐色土 (黒色土 > d₂)

III 赤褐色土 (d₄)

IV 暗灰褐色土 (EnL + d₂)

遺物 覆土 土器IVb: 49, IVc: 27. V a: 2.

床面 土器IVc: 1. 石器IA5: 2, IVA3: 1, VIIb2: 1, VIIA片: 1.

1 IVb 床 2 IA5 (1.0)×1.5×0.3 0.2 Obs. 覆土

3 IA5 (2.2)×1.6×0.5 1.31 Gr-Mud. 床 4 IVA3 (9.1)×3.6×1.6 110.0 Gr-Mud. 床

5 VIIb2 11.6×8.6×2.5 370.0 And. 床 6 VIIA片 9.6×8.5×1.9 240.0 And. 床

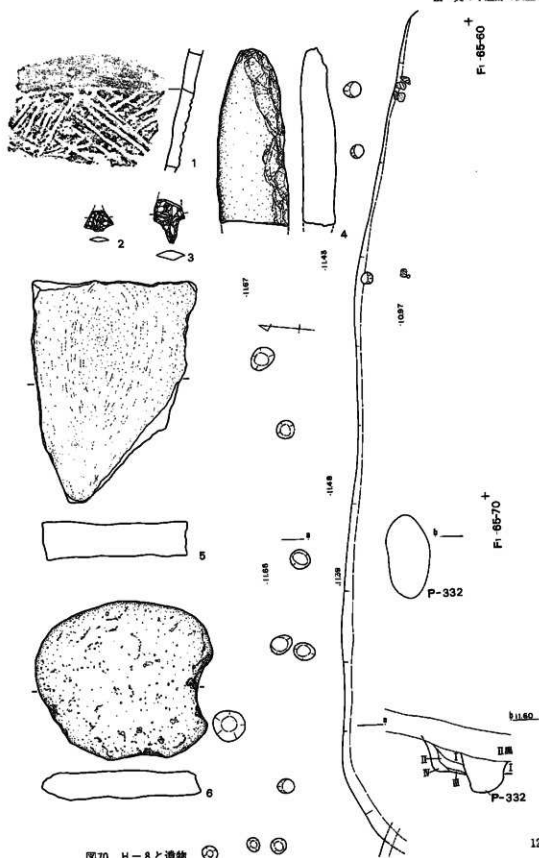


図70 H-8と遺物

H-9

尾根状の斜面が、調査地区南側の境界に接するところで検出された。この尾根状の斜面は、下位になるにしたがって、Ta-d層やEn-a層が薄くなっており、ほとんど存在しないところもある。

H-9は、このようなところにつくられており、床はSpfl層に達している。主体部は、調査地区外にあるため、詳細は不明である。調査で確認されたのは南側壁とこれに続く床面である。床面は、ほぼ平坦で、壁ぎわからIV群b類の土器片が数点出土した。

覆土上面には、本住居跡東側の遺物密集地区から続く、IV群c類・V群a類の土器を多量に含んだ二次堆積層がある。

位置 E₂-64-29, -39

平面形 不明

規模 1.05/—/—

覆土 I 黒褐色土 (黒色土>EnP)

II 褐色土 (黒色土+EnP+Sf)

III 黄褐色土 (黒色土+Sf)

IV 黒褐色土 (黒色土>Sf)

V 灰黄色土 (Sf+EnP)

VI 茶褐色土 (Sf+EnP>黒色土)

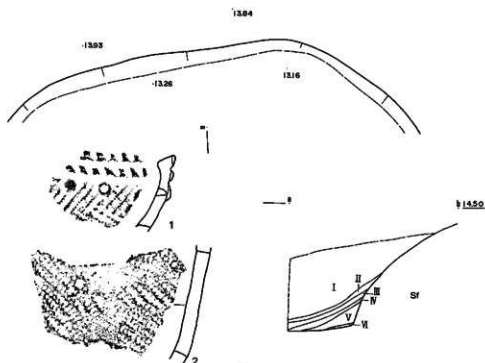


図71 H-9と遺物

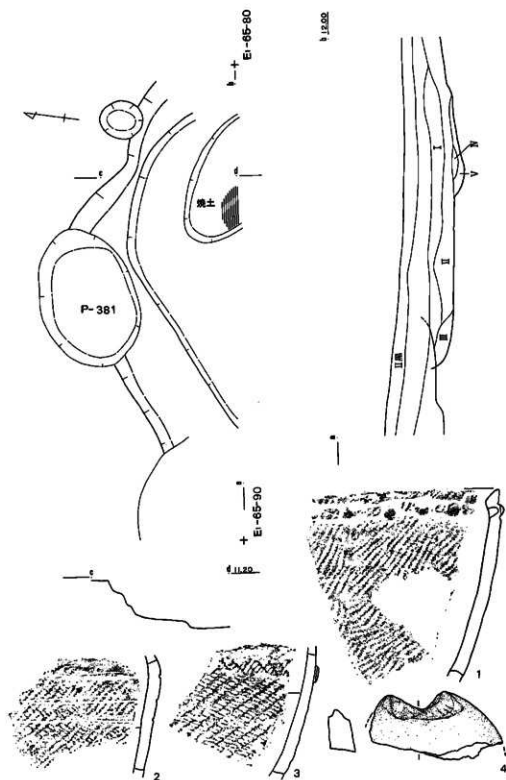


図72 H-10と遺物

遺物 床面 土器 IVb: 6

1・2 IVb

H-10

斜面下部の遺物集中区から検出された。遺構の大部分は調査地区外に及んでおり、北半を確認したのみである。床面は Ta-d₆ 層中に作られ、床は段差のある構造となっており、一段高い床の幅は0.6~1.0mである。北東側の壁ぎわで0.45×0.40mの楕円形で深さ0.20mの小ビットが検出された。柱穴と思われる。また、床中央付近に楕円形の浅いくぼみがあり、焼土を伴うことから炉跡の可能性がある。

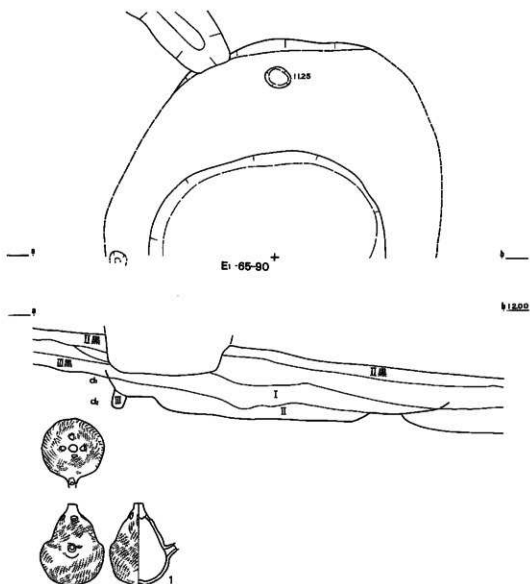


図73 H-11と遺物

北側壁はP-381に、北西側はH-11によって切られる。

位置 E₁-64-89・99

平面形 不明

規模 0.40/—/—

覆土 I 黒色土 (黒色土+d₁) II 黒色土 (d₁>黒色土)

III 黒褐色土 (黒色土+d₂) IV 赤褐色土 (焼土)

V 黒褐色土 (黒色土>d₂)

遺物 覆土 土器Ⅱb: 1。Ⅲb-2: 1, IVa: 1, IVb: 23, IVc: 53。石器 VA: 4, VⅢA片: 1, IXB: 9, XA: 1。礫, 1。

1・2 IVc

3 IVa

4 VⅢA片

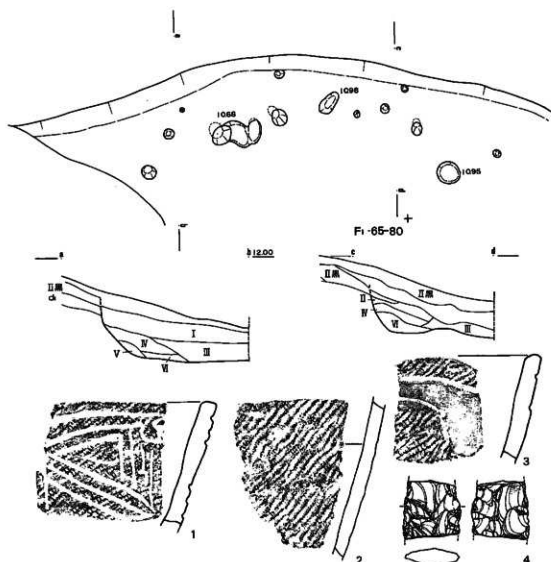


図74 H-12と遺物

位置 E₁-64-99, E₂-64-09

平面形 不明

規模 0.50/—/—

覆土 I 黑色土 (黑色土)

II 黑色土 (黑色土 $>d_1$)

Ⅲ 黒色土（柱穴の覆土）

遺物 覆土 土器 IVb: 7, Va: 1. 礎: 1.

1 Va 注口部の先端が一部欠けている，ほぼ完全である。胴部に若干のくびれがある。上部には4個の穴があげられている（写20-4）。

H-12 (写真図版20-3)

調査地区西側の斜面下部で検出された。大半が調査地区外に及んでおり、北側の一部のみを調査した。西側はH-13に切られ、東側もH-8と切り合うが新旧関係は不明である。

床面は En-a 層中につくられ、ほぼ平坦である。壁ぎわに15個の小ピットが認められた。この中に柱穴が含まれていると思われるが、明確に判断できなかった。

位置 F₁-64-79, -89

平面形 不明

規模 0.50 / — / —

覆土 I 暗褐色土 (黑色土 + d₂)

II 黑褐色土 (黑色土+d₁)

Ⅲ 暗黄褐色土 (EnL>d₂)

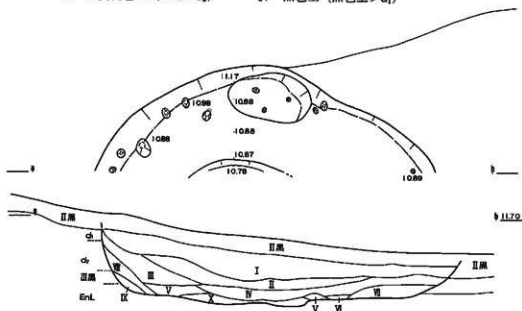
IV 黑色土 (黑色土 $\geq d_1$)

图75 H-13

V 暗黄褐色土 (黒色土>EnL>Ⅲ黒>d₂) VI 黄色土 (EnL>d₂)

遺物 覆土 土器Ⅲb-1:1, Ⅲb:49。石器 ⅢB-1, IXB:7。礫:3。

1~3 IVb

4 ⅢB片 (3.2)×3.1×1.1 (11.1) Obs 覆土

H-13 (写真図版20-3)

調査地区西側の斜面下部で検出された。大半は調査地区外に及んでおり、北側の一部を確認したのみである。北東部はH-12を切っている。床面はEn-a層中につくられ、段をもつ床構造と思われるが詳細は不明である。壁ぎわから径10cmほどの円形ないし楕円形の小ピットが11個検出された。

位置 F₁-64-89,-99

平面形 不明

規模 0.50/—/—

覆土 I 黒色土 (黒色土>d₁+d₂)II 黒褐色土 (黒色土>d₁+d₂>EnL)III 黒褐色土 (黒色土>d₁)IV 暗黄褐色土 (EnL>d₂)

V 黒褐色土 (黒色土>EnL)

VI 黄色土 (EnL)

VII 暗褐色土 (Ⅲ黒>EnL>d₂)VIII 暗褐色土 (Ⅲ黒>EnL>d₁+d₂)

IX 暗黄褐色土 (EnL>Ⅲ黒)

X 黄褐色土 (EnL>d₂)

2) 周墳墓

周墳墓は「円形の堅穴を掘って墓域をつくり、堅穴内に深い墓壇を設けたもので、堅穴を掘った時の排土を、墓域の外側に盛って周境を築く形態」(「美沢川流域の遺跡群」Ⅲ)の遺構とされる。

これまでの美沢川流域の遺跡群の調査では、美沢川をはさんだ対岸にある美沢1遺跡から6基、本遺跡の東に接する美々5遺跡から1基(「美沢川流域の遺跡群」Ⅲ)、昭和55年度の本遺跡の調査から2基が確認されている(「美沢川流域の遺跡群」Ⅳ)。

本年度の調査区からは、台地の縁辺部とこれに接続する台地平坦部から4基(X-1~4)と、斜面から不確実な1基(X-6)が検出された。X-1~4は、これまで確認されている周墳墓の立地と同じく、美沢川に突出した台地の先端をえらんで構築されている。

X-1~3はTa-a層あるいはI黒層上面ですでに規模の大きいくぼみとして、また、X-4はTa-c層除去後に、II黒層の若干の高まりとして周境部の存在が確認されたものである。斜面に検出されたX-6は、II黒層上面がややテラス状を呈する状態でとらえられた。

台地上にある4基はII黒層上面の観察から、互いに近接しており、すくなくとも周境部での重なり合いから新旧関係がとらえられる位置にあること、また、これまでのこの種の遺構調査では、堅穴内に多数の墓壇の存在が確認されていることなどから、周境部には数本のトレンチを、堅穴内には1m方眼を設定して調査を行った。

X-1～3はⅡ黒層上面近くから掘り込まれ、堅穴床面はⅢ黒～En-a層に達する。覆土除去後明らかになった堅穴は、いずれも10mをこえる大規模なもので、X-2はその径が15.6mと、3基中で最大である。それぞれの周堤には、一部が切れたり(X-3)、低みとなっている部分がある(X-1, 2)。出入口と推定される部分である(図76の矢印の部分)。

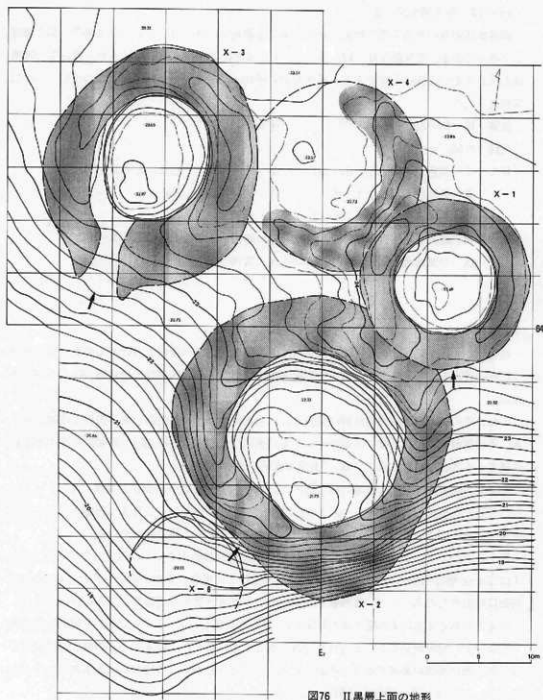


図76 Ⅱ黒層上面の地形

竪穴からは、それぞれ墓墳が検出された。X-1は2個、X-2は22個、X-3は14個、X-4は1個である。

X-1の2個の墓墳のうちの1個は竪穴のほぼ中央に、他の1個は北西壁寄りに位置する。周堤上にも土墳墓が存在し、掘り込み面の不明瞭なものも含めて6個検出された。

X-2の墓墳は、規模・平面形・副葬品の違いから2群に大別することができる。一方は、平面形が長楕円形で、深く、主な副葬品が石斧・石棒にほぼ限られる一群(15個)と、他方は、平面形が楕円形で概して浅くつくられ、石斧・石棒の他に玉・漆器などを副葬する一群(7個)である。前者を後者が切る例や、後者の中には覆土中に掘り込み面が確認された例などがあることから、前者は周堤墓に伴う墓であり、後者は周堤墓が放棄された後につくられた墓と判断される。周堤墓に伴うと判断される一群の墓は、その長軸をほぼ東西に向け、1例を除いた他の墓墳の長軸両端には小ピットが伴う。これら一群の墓墳の中には、平面規模のやや小さい墓が4例ある。また、X-2の周堤上にも環状をなす盛土に沿って墓墳がつくられている。墓墳の規模・副葬品などから、竪穴内の楕円形で浅い一群の墓とはほぼ同時期につくられたと判断される。

X-1・2のように周堤墓竪穴内と周堤上に墓墳がつくられる例は、柏木B遺跡(「柏木B遺跡」昭和56年度 恵庭市教育委員会)で1例(第1号環状土庫)、昭和55年度の本遺跡調査で1例(BS-3)²⁾あるのみである。2例ともX-2で明らかとなった墓墳間の時間差を示すような結果は得られていない。柏木B遺跡ではこれらすべての墓墳を、周堤墓の「性格を規定する土墳墓群」としてとらえられている。BS-3ではこれについては触れられていない。

X-3の竪穴内の墓墳も、周堤墓に伴う墓とそうでないものとに分けられ、X-2と同様な傾向がみられた。前者の墓墳規模は、X-2の周堤墓に伴う墓の中でも小さいグループに近似している。ただしその長軸はほぼ南北に向けられ、X-2とは違ったあり方を示す。後者は、平面形が円形～楕円形で、竪穴の壁ぎわにつくられている。後者としたなかには、規模・平面形ともさほど前者と変わらない墓もあり、この墓からは櫛が出土している。

X-4は、X-1とX-3の間にあり、Ⅱ黒層上面で、周堤の存在がとらえられたのみで、竪穴の立ち上りは確認されなかった。周堤から推定される竪穴のほぼ中央から墓墳長軸を東西に向けた墓1個が検出された。

これら台地上で検出された4基の新旧関係は、X-1の周堤がX-2に及んでいることを土層断面から確認した他は、とらえられていない。しかし、Ⅱ黒層上面の地形図からは、X-4の周堤にX-1・3の周堤が重なっていることが判読された(図76)。以上のことから時間的關係は、4→1、4→3、2→1と判断される。

また、4基の周堤墓にそれぞれ伴う墓墳の長軸方向から、2基ずつの組み合わせとしてとらえることができそうである。X-1・3のように長軸を南北向きにとるものと、X-2・4のようにほぼ東西方向にとるものとである。美沢1遺跡、柏木B遺跡でも2個が隣接して1組をなす傾向が認められている。周堤の重なり合いも、X-2・4が先につくられ、その後、X-1・3

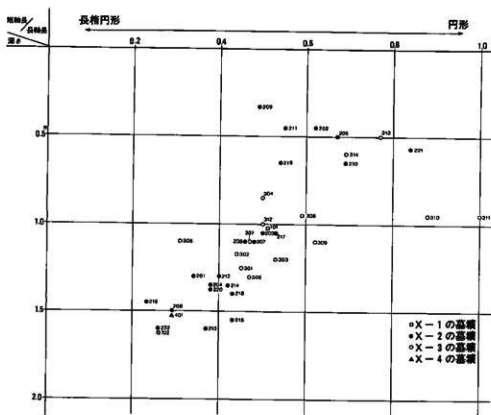


図77 長幅比と深さの相関

がつくられたことを示しており、この考え方に矛盾しない。

X-6は、X-2の南西に隣接して検出された。竪穴の北側壁とはえられたものの、南側壁と床面は地形的な条件でとえられていない。竪穴の推定範囲からは5個の墓墳と多数の小ピットが検出された。このX-6は、周堤が認められなかったことや、墓墳の配列に規則性がうかがわれなかったことから、「周堤墓」とするにはやや疑問を残すものである。なお、このX-6はX-2の周堤を切ってつくられている。(青柳文吉)

※ BS-3は、幅の広い周溝をめぐらし、周溝で区画された中央と、周溝の底面、周溝の排土で形成された周堤上に墓墳がつくられる形態の墓である。報告書では「溝で区画された墓」として報告されているが、「まとめ」で述べられているように、周堤墓の範疇に含めて考えて良いものである。BS-3と同様な形態と思われる遺構には、千歳市末広遺跡(「末広遺跡における考古学的調査」(下)昭和57年度 千歳市教育委員会)のⅡK-1がある。周堤上には墓墳は確認されていない。また、千歳市キウス遺跡の1号(「千歳市における埋蔵文化財」上 昭和46年 間)も、現地表面の観察からBS-3に類する形態のものと思われる。

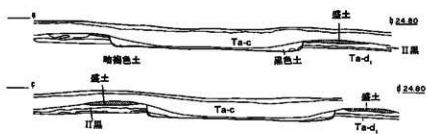
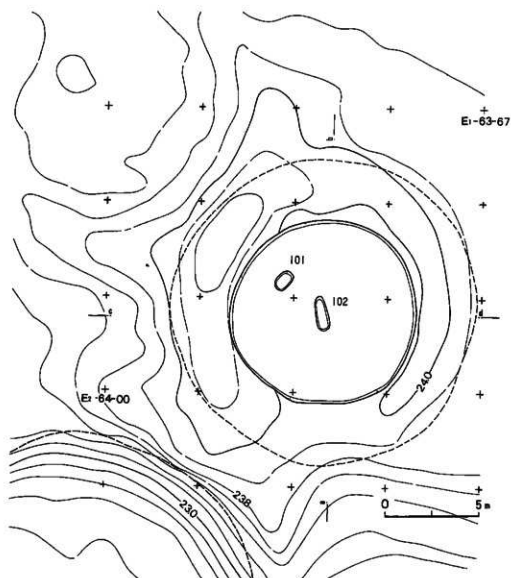


図78 X-I

X-1 (写真図版22-1)

X-1は、調査地区の東縁近くの標高約25mの台地の縁辺に位置し、X-2・X-4および周溝付土墳墓X-5と隣接している。Ta-a層除去後、I黒層がすり鉢状にくぼんでいて、遺構の存在を予想することができた。

竪穴は、I黒層上面付近から掘り込まれ、床は平坦で、Ta-d₂層をわずかに掘り込んで作られている。平面形は円形で、掘り込み面の径約9.9m、床面の径約9.65mである。壁の立ちあがりは、全周にわたって確認された。周堤の北東部の一部は削平されていた。壁の崩落土は比較的少なく、壁ぎわにわずかにみられるのみで、竪穴内には15cmほどの厚さで覆土が堆積していた。南西部の床面直上の黒色土から、縄文時代晩期のV群a類土器がまとめて出土したが、周堤墓廃棄後に流れ込んだものと思われる。

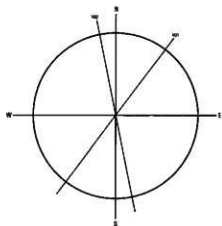


図79 長軸方向

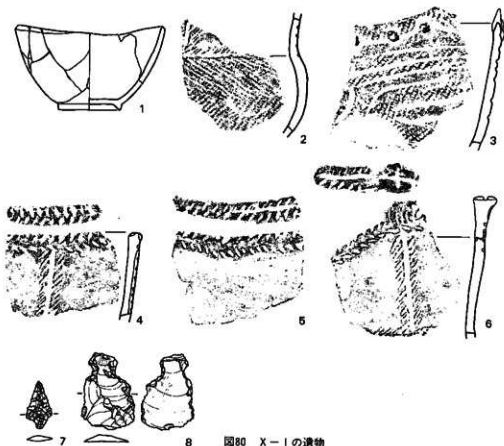


図80 X-1の遺物

竪穴内からは、長軸方向を具にする2個の墓墳が検出された。X-101は竪穴の北西部にあり、長軸方向を北東-南西にとる楕円形の平面形をもち、墓墳両端の覆土上に大型の礫を配してあった。X-102は、長軸方向南-北、平面形は長楕円形で、中央に位置しており、X-101に比べて規模が大きい(図77・79)。いずれの墓にも副葬品はなかった。

X-1の周堤の裾は、X-2の周堤およびX-4の周堤と推定される範囲を覆っている。また、南東側に隣接する屈溝付土墳墓(X-5)との切り合い関係は、工事による削平のためとらえられなかった。(遠藤香澄)

位置 E₁-63-67-69, -77-79, -87-89, -98, -99 E₁-64-60, -70, -80

平面 竪穴、周堤とも円形

規模 周堤頂から床面までの深さ0.7m

周堤部外径 16.40×16.10 竪穴 0.45/9.90×9.55/9.65×9.20

遺物 覆土 土器 Ib-1:2, Ib-2, Iib-1:1, Iib-3:4, IVb:23, IVc:123, Va:428。石器 IA3:2, IA5:1, IB片:1, IIA1:1, IIA3:1, IIA片:1, IIA3:1, IIA片:1, IIB3:4, IVA5:1, IVA片:1, IXB:33, XA:3。

1 Va 8.9/15.5×6.5 無文の浅鉢である。

2~6 IVc 7 IA5 2.5×1.3×0.4 1.0 Obs.

8 IIA3 4.1×2.8×0.4 4.1 Obs.

X-101 (写真図版22-2, 3)

墳底はEn-a層につくられ、遺体は痕跡が認められただけである。墓墳の両端の覆土上には、掘り方はないが半ば埋めた状態で大型礫が配してあった。北側の礫は、長さ50cmほどの砂岩の円柱礫で、ほぼ直立に立てられていた。この礫の側面に研磨痕があり、石皿を利用したものと思われる。南側の礫も安山岩製の石皿破片。

墳口付近にはベンガラが散布されており、両端の礫の下半分にはべったりと付着していた。また、墳底にも、ほぼ全面に厚さ5cmほどのベンガラ層が認められた。埋葬体位は、墳底の規模からみて屈葬と思われる。副葬品はない。

位置 E₁-63-88

平面形 楕円形

規模 1.02/1.17×0.65/1.07×0.55

長軸方向 N-37°-E

埋葬体位 (屈葬)

副葬品 なし

覆土 I 茶褐色土 (黒色土+EnP>d₂) II 黄褐色土 (EnL>d₂)

III 黄褐色土 (EnP)

IV 灰茶褐色土 (EnL>黒色土+EnP+d₂)

V 黄褐色土 (EnL>d₂)

VI ベンガラ

遺物 覆土 土器 Va:6。石器 VA2:1, VA:3, VIB:1。礫:1。

1 Va

2 VA 1.3×5.8×3.8 170.0 Ch.

3 VA 10.4×4.8×1.9 185.0 Gr-Mud. 4 VA 11.1×5.2×3.0 330.0 Mud.

5 IVA2 14.3×7.4×3.3 600.0 Gr-Mud.

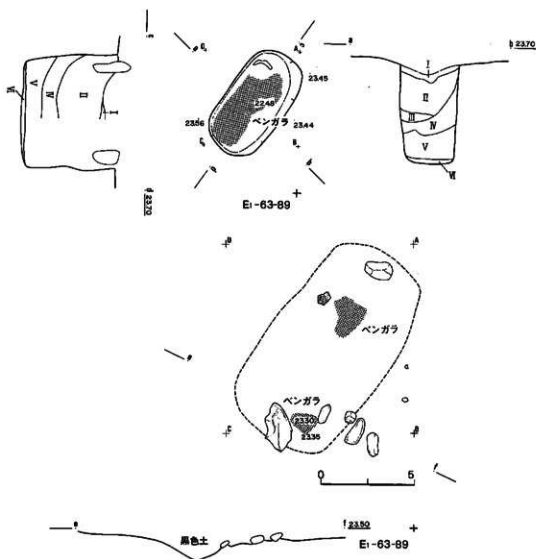


図81 X-101

X-102

竪穴のほぼ中央で検出された。墳底はEn-a層中につくられ、壁の崩れは認められない。覆土上部は、あたかも踏み詰められたかのように締まっている。

墳底からは北頭位の遺体が検出された。頭部は良好に残っており、それ以下は腐食が進んで痼状となっているが伸張葬であることが確認された。ベンガラが墳底全面に認められた。胴部にあたるどころのベンガラは、やや厚めである。

位置 E1-63-79

平面形 長楕円形

規模 1.63/1.75×0.55/1.66×0.43	長軸方向 N-12°-W
埋葬体位 北頭位伸展葬	副葬品 なし
覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)	II 褐色土 (EnP>黒色土)
III 黄褐色土 (EnP)	IV 黄褐色土 (EnP>EnL+d ₂)

X-2 (写真図版23)

台地が斜面にかかる縁辺部に位置し、Ta-a層上面ですでに大堅穴の存在をうかがわせるくぼみとしてとらえられたものである。Ta-c層除去後のII黒層上面では、堅穴の周境部の高まりが明瞭に把握された。堅穴中央部と周境最頂部との比高は1.7m。堅穴内の覆土上面では若干の凹凸が認められ、墓墳の標柱かと思われる自然礫が一部露出していた。

堅穴はII黒層上面付近から掘り込まれ、斜面に作られている。このために北壁は床面まで1.2mと深い。南壁は明瞭でない。北半の床面はEn-a層であるが、南半は貼床である。この貼床はII黒層、Ta-d層、III黒層等を取り除き、その後En-a軽土を敷きつめたものである。床面は、南側にわずかに傾斜するがほぼ平坦である。

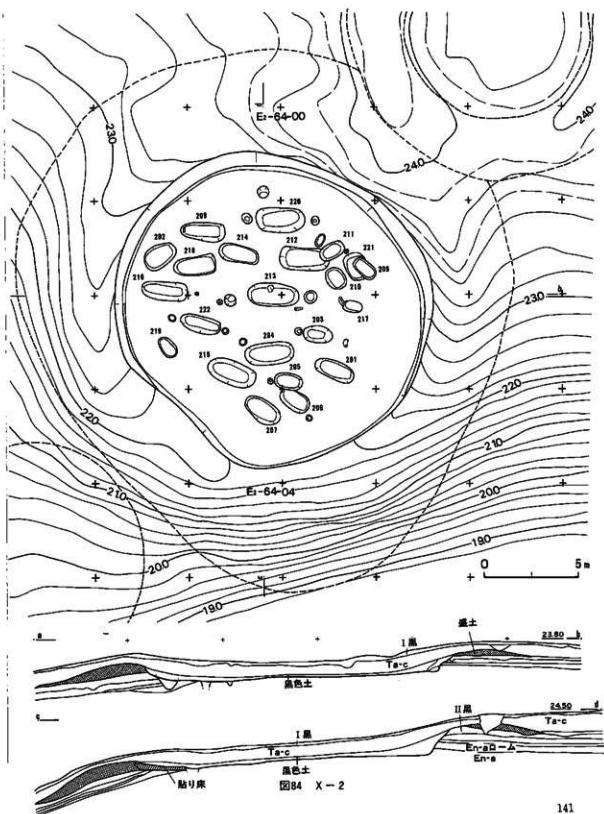
覆土は、深く掘り込まれた北側の壁ぎわでは、壁あるいは周境からの崩落土が厚く堆積し、中央に向かって漸減し、中心部ではごく薄い。さらに、この上にII黒層最上部がうすく堆積している。南側床面では、崩落土とII黒層が合せて10cm前後であり両者の見分けは困難である。

覆土除去後明らかになった堅穴の規模は、掘り込み面で径16.9m、床面で径15.6mである。平面形はほぼ円形であるが、南西壁はやや堅穴内に張り出している。

堅穴内からは22個の墓墳が検出された。これらの墓墳は、形態、規模などから大きく2群に大別される。平面形が長楕円形で、深さが1mを超え、墳底がSpfl層中につくられるもの(X-201・203・204・206~208・212~218・220・222)と、平面の長幅比が前者に比べて大きく、墳底がEn-a層中にある浅いもの(X-202・205・209~211・219・221)とである(図77)。前者は、堅穴中央に位置するX-213を中心に墓墳長軸を東西に向けほぼ整然と配されている(図85)。これに対して後者は、長軸方向は不定で中央部を避けて壁ぎわ近くにつくられる傾向がある。また、墓墳の切り合いが3例みられ、そのうちの2例は前者が後者によって切られるもので、他の1例は後者同士の重複である。これら二者の間には墳底から検出された副葬遺物にも違いがみられる。前者の副葬品はほぼ石斧・石棒に限られるのに対して、後者にはこれらのほかに連ねた玉、朱塗りの櫛・漆器などの装飾品が伴っている。

つぎに墓墳の掘り込み面についてであるが、前者は堅穴床面(南側の貼床部分も含む)から掘り込まれ、墓墳覆土には黒色土をほとんど含まないのに対して、後者の墓は覆土中に明らかに黒色土が混じり、X-202のように堅穴の覆土上面で既に確認されているものもある。

以上から、二つに大別したX-2の墓墳は、時間差をもってとらえることができる。つまり、周境墓造営時につくられたものは長楕円形の深い墓墳であり、そののち周境墓が放棄されて堅穴床面が埋まって行く過程で楕円形の浅い墓がつくられることを示している。



以下に平面形が長楕円形で深い、周堤墓本来の墓墳について記すことにする。

X-201以外には、墓墳長軸の両端に小ピットが設けられている。小ピットは墓墳の外にある場合と、覆土中にある場合とがあり、大半は深い。これらは個々の墓墳に付随する何らかの標柱の跡かと考えられる。堅穴床面で検出された細長い礎は、このような標柱であった可能性がある。X-208では、1 m にちかい角柱礎が墓墳の覆土中から直立の状態検出されている。

遺体の頭位は西である。また、2体合葬が2例(X-212-207)、3体合葬が1例(X-215)あった。X-215では、2体が西頭位であるが、1体は例外的に東頭位である。埋葬に際してはベンガラが用いられている。X-213では、ベンガラ層中の遺体の周囲に黒い輪郭が認められ、何らかの遺体梱包があったことをうかがわせる。

これら一群の墓には、長幅比、深さなどに若干の差異が認められる。巨視的にみれば長幅比が0.5前後で、深さが1.1 m のもの(X-203・206・207・217)と長幅比が0.2-0.4で深さが1.5 m 前後のものに区分できる。前者は、規模の点ではX-3の周堤墓に伴う楕円形の墓に近い(図77)。またこれらは、小ピットを伴わないX-201とともに南東-南壁寄りにまとまって配置され、北-中央部につくられる墓墳群とは一線を画すことができそうである。

つぎに、楕円形の浅い墓と堅穴覆土からの出土遺物との関係についてみることにする。

出土した遺物のほとんどは、堅穴北半の壁および周堤の崩落土が混った土の上面にあり、X-215を除いた浅い墓の分布と一致している。X-202の覆土上部からは大型の甕が出土した。また、X-209・211の覆土中からと、この二つの墓とはやや離れたところにつくられた盛土墓(P-334)の上部から、同一個体の破片がそれぞれまとまって出土している。墓墳間の何らかの関連性をうかがわせるものである。詳細については、X-209の項で述べる。

周堤は堅穴の全周にある。平均的な幅は5.4 m-5.7 m であるが、南側は斜面に崩れ落ちているため7.6 m に及ぶ。厚さは、周堤の北側では0.60-0.70 m、東側では比較的薄く0.85 m である。また、壁が堅穴内に張り出した部分の周堤は、やや低く、出入口を思わせる。

周堤上からは、楕円形の墓墳が12個検出され、1個を除いて長軸が周堤に沿うようにつけられている。周堤部の高まりを意識したものであろう。ほとんどの墓墳から、石斧、石棒、玉、柄、漆器などの副葬品が出土している。P-378に副葬された土器と、堅穴内の浅い墓に伴うとみられる土器と形式上の差はほとんどないことから、両者の時間的なへだたりは考えにくい。これらの周堤上の墓については、5) 土墳墓の項で詳細を述べる。

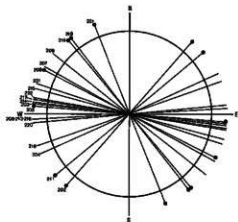


図85 長軸方向

このX-2の調査において、遺構の保存に関する二つの試みを行なった。ひとつは、竪穴の覆土と周境を含む土層断面の剥ぎ取り転写である。X-2のほぼ東西に設定した土覆観察用のベルトを対象とした(写真図版28-2)。このベルトの西端、壁の立ち上がる部分に1個の土壇が存在していたが、ベルト設定時に切断されて平面形は確認できなかった。覆土上面から掘りこまれた土壇で、墓の可能性もある。

もうひとつの試みは、墓壇の切り取り保存である。X-202・204・207・221を対象とした。それぞれの墓壇の調査後、検出された遺体・遺物をそのままの状態にして、壇内の空間に発泡ウレタンを充てんし、壁・底面から約20cmの厚みをもたせ、周囲の土から墓壇を切り離し、格納した(写真図版28・3・4)。(青柳文吉・中村千春)

位置 E₁-63-99, E₁-64-71-74, -80-84, -90-94, E₂-64-00-04, -10-14, -20-23

平面形 周境部：楕円形 竪穴：円形

規模 周境頂から床面までの深さ1.55m

周境部外径29.00×26.50 竪穴 1.30/16.90×16.88/15.90×15.60

墓壇 22個

遺物 覆土 土器Ⅱa-2:3, Ⅲb-1:1, Ⅲb-3:1, IVb:12, IVc:1,689, Va:2,639, Vc:1. 石器IA4:1, IA5:12, IA片:2, ⅢA4:1 ⅢB3:2, IVA2:1, IV A3:1, VA:3, VII B2:1, VII A2:1, IXB:31. 礫:73. 石製品:3.

1 IVb 一/一×4.7(写真図版29-1) 2 IVc 11.8/13.8×一(29-2)

3 IVc 一/25.3×一(29-3) 4 Va 一/10.7×一無文の注口土器(29-4).

5 Va 一/一×4.9 胴上半部に沈線で模様が描かれる。下半は無文(29-5).

6 Va 一/10.4×一 沈線で区画された部分に細かい縄文が施される(29-6).

7 Va 12.7/11.0×4.5 口縁と胴部に文様帯あり。他は無文(30-1).

8 Va 8.0/14.2×5.4(30-2) 9 Va一/11.9×一(30-3)

10 Va 33.6/32.0×9.0 図上復原 緩い波状の口縁で、これに沿って、器内面から刺突文がある。

11 Va 44.4/37.2×8.4 平縁で、口唇は器内に僅かに斜めに削がれている。直下に器内面からの突起がめぐり、中には貫通しているものもある(30-4)。出土の詳細はX-209の項で述べる。

12 Va 18.8/31.0×14.1 無文の浅鉢で、高台が顕著につくり出される。

13 Va 胴部の大型破片。胴部の張り出したところに貼瘤が等間隔に付けられ、沈線で区画された三叉状のすり消し部以外の部分には角張った節をもつ縄文が施される。連続した爪形文が2列胴部をめぐり。胴部下半と器内面は磨きがかけられている(30-6)。

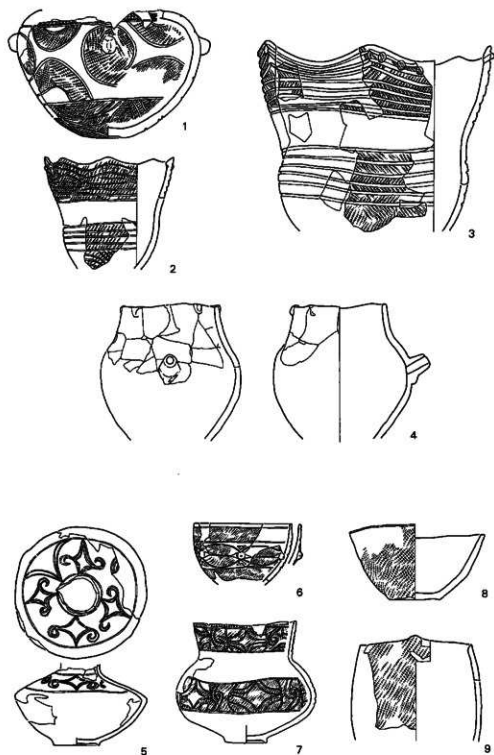
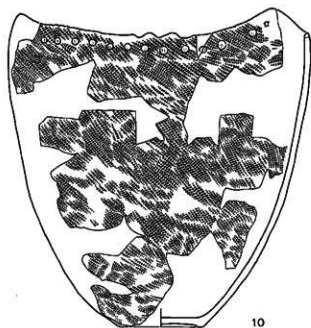
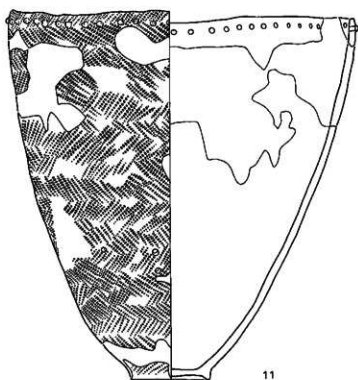


図86 X-2の遺物



10



11

図87 X-2の遺物

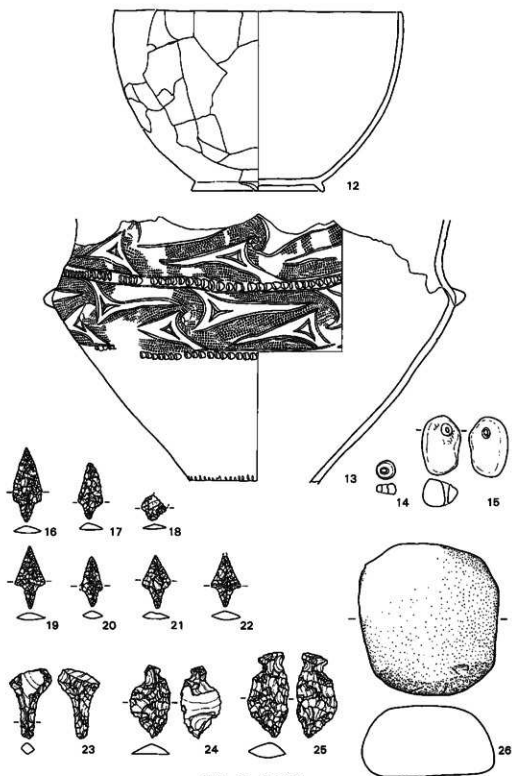


図88 X-2の遺物

14	玉	0.9×0.8×0.7	0.8	Ta.	15	垂飾	3.2×2.1×1.7	13.0	Ta.
16	IA5	3.9×1.6×0.4	1.6	Obs.	17	IA5	2.9×1.3×0.5	1.2	Obs.
18	IA5	(1.3×1.3×0.2)	0.5	Obs.	19	IA5	3.2×1.6×0.4	1.2	Obs.
20	IA5	2.6×1.1×0.4	0.7	Ods.	21	IA5	2.8×1.5×0.4	1.1	Obs.
22	IA5	(2.7)×1.5×0.5	1.1	Obs.	23	IIA3 (3.8)×(2.2)×0.7	4.1	Sh.	
24	IIA2 (3.8)	2.1×0.7	4.3	Sh.	25	IIA4	4.4×2.1×0.9	7.0	Obs.
26	VA	8.3×7.4×3.6	416.0	Gr-Mud.					

X-201

墳底は Spfl 層中につくられる。壁はほぼ垂直に立ち上り、墳中から墳口にかけてやや外反する。遺体は、頭部と胴部上半がわずかに残存しているだけで、その他は腐食している。ベンガラは墳底一面になく、遺体の範囲を示すかのようなあり方を呈している。

 位置 E₁-64-92

平面形 長楕円形

規模 1.30/2.16×0.95/1.75×0.60

長軸方向 N-72°-W

埋葬体位 北西頭位仰臥伸展葬

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土+EnP)

II 黄褐色土 (EnP+Sf)

遺物 覆土 石器 IA 片: 1。

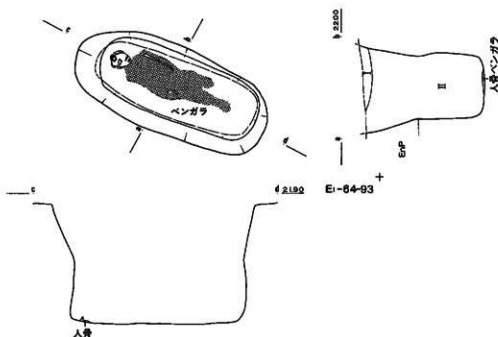


図89 X-201

X-202

堅内の覆土上面から掘り込まれていることが確認された。墳底は En-a 層中につくられる。底面から部位不明の遺体と、梅・玉・石器などの副葬品が検出された(写真図版 26-5)。

調査後、塘底の切り取りを行ない保存した。このため塘底副葬品の実測図は掲載されていない。

位置 E₁-64-11

平面形 橢圓形

規模 0.45/1.70×1.20/1.45×0.90

長軸方向 N-131°-W

埋葬体位 不明

副葬品 石鐮 (IA5): 1, 石錐 (IIA3): 3

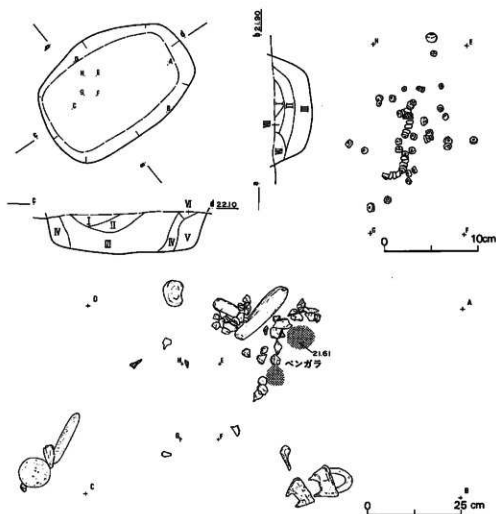


图90 X-202

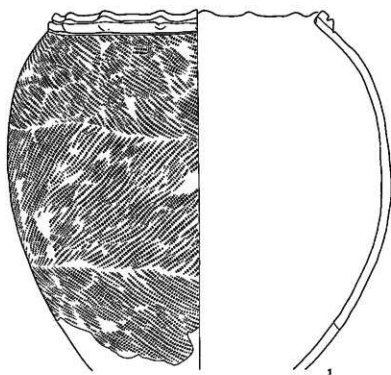


図91 X-202の遺物

スクレイパー (ⅢB3) : 1, 石斧 (ⅣA片) : 3, たたき石 (ⅤA片) : 1, 石皿 (ⅥB-):
1, 剥片 (ⅨB) : 31, 玉 : 51, 櫛 : 2, 漆器 : 4

覆土 I 暗褐色土 (黒色土+EnL+EnP)

II 黄褐色土 (EnL+EnP)

III 黄褐色土 (EnL+EnP)

IV 黒褐色土 (黒褐色土 > d₂ + EnL)

V 黄色土 (EnP > EnL)

VI 黒色土 (黒色土 > EnP)

VII 黄褐色土 (EnP > 黒色土)

VIII 灰褐色土 (黒色土 + EnP > d₂)

遺物 覆土 土器 Va : 238.

1 Va —/30.5×— 胴部が球形に丸みをもち、これに伴って口の部分がすばまった壺型の土器である。口唇は器内に向かって傾斜する。胴部全面に縄文が施されるが口縁は無文で、ほぼ等間隔に貼瘤がありさらにこの上から沈線がめぐらされているため、あたかも1か所に2個の瘤が存在するかのように見える。また、この下部にも沈線が一条施され、胴部の縄文との境をなしている (写真図版26-6)。

X-203

墳底は Spfl 層中につくられる。壁の立ち上がりは墳底から墳口にかけて急である。底面からは頭骨と歯が検出された。ベンガラが墳底一面に認められた。墳底の規模から屈葬と考えられる。墓域長軸方向の西側には、径0.42mの小ピットが、東側にはやや離れて細長い自然礫がある。

位置 E₁-64-92

平面形 楕円形

規模 1.05/1.50×0.95/0.90×0.45

長軸方向 N-84°-W

埋葬体位 西頭位屈葬

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

II 黄褐色土 (EnP>黒褐色)

III 黄褐色土 (EnL+EnP+Sf)

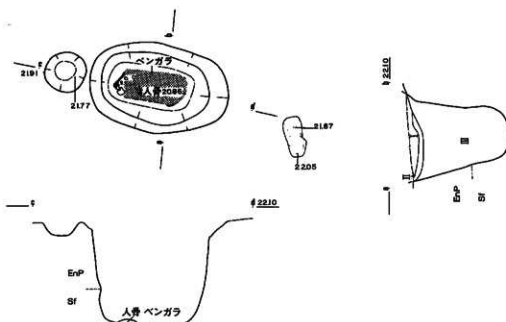


図92 X-203

X-204

墳底は Spfl 層中につくられている。壁は東側で墳中から墳口にかけてオーバーハングするほかほぼ垂直に立ち上る。覆土上面の東西すみに、小ピットが2個検出された(写真図版24-2)。底面から検出された遺体の保存状態は良好で、左肩を下にした伸展葬である。ベンガラは遺体の周囲でわずかに認められた。

調査後、墳底の切り取り保存を行った。

位置 E₁-64-92, E₂-64-02

平面形 長楕円形

規模 1.35/2.55×1.15/2.10×0.80

長軸方向 N-114°-W

埋葬体位 西頭位側臥伸展葬

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

Ⅱ 暗灰褐色土 (黒色土+EnP)

Ⅲ 暗黄褐色土 (EnP>黒色土)

Ⅳ 黄褐色土 (EnP>EnL)

V 黄褐色土 (EnL+EnP)

遺物 覆土 土器 Va: 2. 石器ⅡA3: 1.

1 ⅡA3 4.2×1.6×0.5 1.9 Ha-Sh.

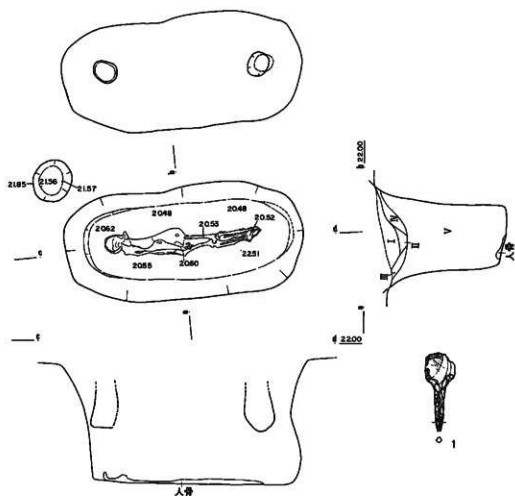


図93 X-204と遺物

X-205 (写真27-1)

墳底は En-a 層中につくられる。壁の立ち上りは緩やかで、南側の壁の一部がX-206を切っている。底面にはベンガラが一面に髹められ、勾玉が出土した。また、覆土下部からサメの歯が検出された。

位置 E₁-64-92, E₂-64-02

平面形 槽円形

規模 0.50/1.40×0.95/1.05×0.70

長軸方向 N-85'-W

埋葬体位 不明

副葬品 勾玉：1，サメの歯：2

覆土 I 黒色土 (黒色土 > EnP)

II 褐色土 (EnP > 黒色土)

III 黒色土 (黒色土 > EnP)

IV 暗褐色土 (EnP + 黒色土)

V 暗黄褐色土 (EnP 流れ込み)

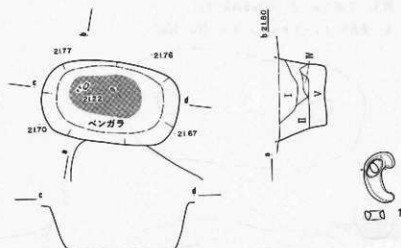


図94 X-205と遺物

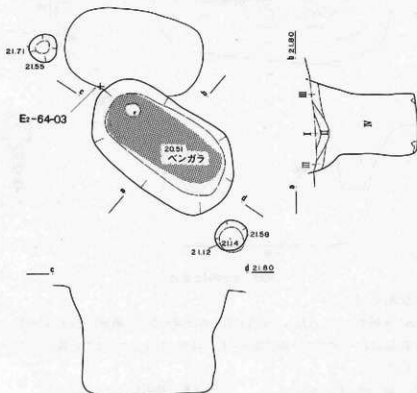


図95 X-206

遺物 覆土 土器 Va:1。 底面 石器 XB:1。

1 勾玉 2.7×1.6×0.8 4.4 Ser. (写真図版27-2)

X-206

竪穴の南側、貼床されたところに位置し、墳底は Spfl 層中につくられる。壁は垂直に立ち上るが、墳口付近でやや外へ広がる。北側壁の一部は X-205 に切られる。底面には一面にベンガラが認められ、西すみで頸骨が確認された。墓墳長軸の両端に小ビットがあり、北西の小ビットはやや離れるが、この墓に伴うものと考えられる。

位置 E₁-64-93

平面形 楕円形

規模 1.10/1.70×0.95/1.40×0.65

長軸方向 N-52°-W

埋葬体位 北西頭位伸展葬

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

II 暗灰褐色土 (黒色土>EnP)

III 淡灰褐色土 (黒色土+EnP)

IV 黄褐色土 (EnL>EnP)

X-207

竪穴の南側、貼床されたところに位置する。墳底は Spfl 層中につくられる。壁は墳底で丸みをもち、墳口にかけてやや外反する。覆土上面の南北すみで2個の小ビットが確認された。底面からは、墓墳長軸に沿って置かれた2本の石棒をはさんで、2体の遺体が検出された。

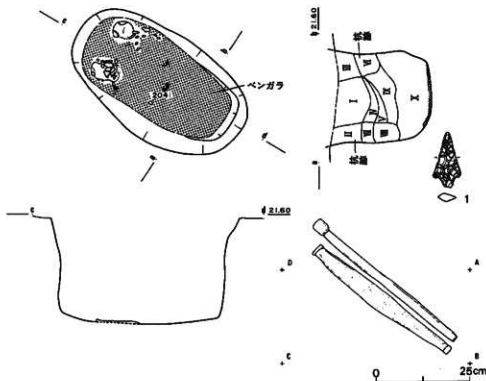


図96 X-207と遺物

遺体範囲からは、ベンガラが認められている。

調査後、底面を切り取り保存したため、石棒の実測図は示していない。

位置	E ₂ -64-03	平面形	楕円形
規模	1.10/2.00×1.15/1.67×0.80	長軸方向	N-61°-W
埋葬体位	2体合葬北西頭位伸展葬	副葬品	石棒：2
覆土	I 黒色土（黒色土>EnP） II 黒色土（黒色土>EnP） V 灰褐色土（Sf+EnP） VII 暗黄褐色土（黒色土+EnP） IX 黄褐色土（Sf>EnP）	I 黒褐色土（黒色土>EnP） IV 灰褐色土（黒色土+Sf） VI 暗褐色土（黒色土>Sf+EnP） VIII 暗灰褐色土（黒色土+Sf+EnP） X 黄褐色土（Sf>EnP）	

遺物 覆土 石器 IA5：1，IB片：1。

1 IA5 (2.9)×1.5×0.4 1.1 Obs.

X-208 (写真図版25-3)

墳底はSpfl層中につくられる。壁は、東側で墳口にかけてややオーバーハングするほかは、垂直に立ち上る。覆土上面の東側すみからは小ビットが、西側からは長さ0.95mの角柱礫が検出された(写真図版25-1)。土層断面から、この角柱礫には、掘り方を伴わないことが確認された。埋め戻す過程で立てられたものであろう。底面からは比較的保存状態の良い遺体が検出された。遺体の周囲には黒いシミが認められ、また、上半身にはベンガラが撒かれている。遺体の右横には、石棒が副葬されていた。

覆土I層とII層との間にもベンガラがうすく認められた。

位置	E ₂ -64-01	平面形	長楕円形
規模	1.50/2.35×0.95/1.90×0.55	長軸方向	N-93°-W
埋葬体位	西頭位伸展葬	副葬品	石棒：1
覆土	I 暗黄褐色土 (EnP+黒色土)	II	黄褐色土 (EnP>Sf)
Ⅱ	黄灰褐色土 (EnP>Sf)		

遺物 覆土 土器 IVc：53。礫：2。

1 IVc -/10.0×-

図228-1 石棒 39.1×4.3×3.7 956.0 Gran. (写真図版25-2)

X-209

竪穴の東壁寄りに位置し、浅い墓(X-221)を切ってつくられている。墳底はEn-a層中にあり、北東および南西の底面から壁にかけては丸みをもって立ち上る。

墳底一面にベンガラが認められたが、遺体は残存していない。北壁寄りの底面から、違った状態の玉が出土した。

出土状況図に示した土器について若干述べる。

これらは、墓壇のランプ確認面よりやや上方で、竪穴の覆土中で検出されたもので、同一個

体の口縁部破片が主体で、胴部片がわずかに含まれている。これと同一個体の破片は、X-211 および壺土墓（P-334）からも出土しており、これらを集めて復元したのが図87-11の土器で、ほぼ完形である。

X-211では墓墳のプランを確認したのち、やや掘り進んだ覆土中から一括出土した（図-

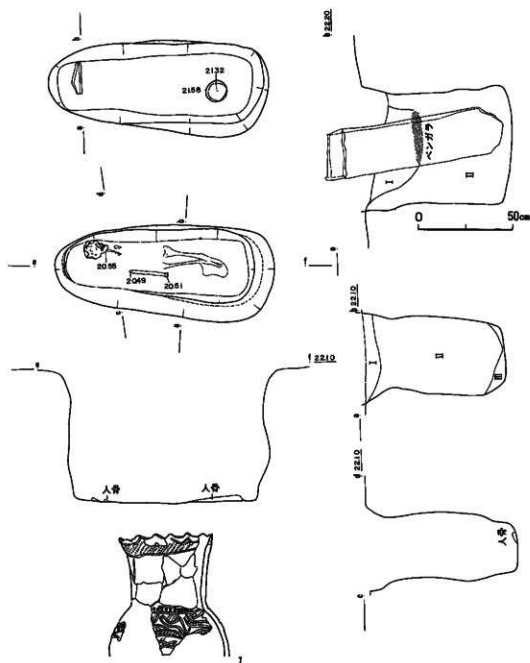


図97 X-208と遺物

100)。ここでは底部とこれに続く胴部下半の土器片が主体である。

また、壁穴の北壁りに確認されたP-334では、円形のマウンド状を呈する盛土北側すみの直上で一括出土した。主に胴部を構成する破片で、口縁部の破片も数点ある。

同一個体の土器が伴うこれらの墓は、周堤および壁の崩落土が堆積して急勾配をなす北壁に沿ってつくられている。したがって、自然の状態でこのような土器の分布は考えにくく、何らかの意図で一個の土器を分散させたものであろう。

位置 E₁-64-81, 91

平面形 楕円形

規模 0.33/1.35×0.78/1.13×0.55

長軸方向 N-63°-W

埋葬体位 不明

副葬品 玉: 70

覆土 I 黒褐色土 (黒色土+EnP)

II 黄褐色土 (EnP>黒色土)

遺物 覆土 土器 Va: 173.

1 垂飾 2.0×1.6×1.8 4.2 Zeo.	2 玉 1.6×0.7×0.6 0.5 Amb.
3 玉 径0.7×0.6 0.5 Ser.	4 玉 径0.7×0.3 0.3 Ser.
5 玉 径0.9×0.5 0.5 Ser.	6 玉 径0.9×0.7 0.7 Ser.
7 玉 径0.8×0.8 0.4 Ser.	8 玉 径0.9×0.6 0.6 Ser.
9 玉 径0.8×0.4 0.3 Ser.	10 玉 径0.8×0.5 0.4 Ser.
11 玉 径0.8×0.5 0.3 Ser.	12 玉 径0.8×0.4 0.3 Ser.
13 玉 径0.8×0.4 0.3 Ser.	14 玉 径0.8×4.5 0.3 Ser.
15 玉 径0.8×0.4 0.3 Ser.	16 玉 径0.8×4.5 0.4 Ser.
17 玉 径0.9×0.6 0.6 Ser.	18 玉 径0.9×0.5 0.5 Ser.
19 玉 径0.8×0.8 0.5 Ser.	20 玉 径0.8×0.6 0.4 Ser.
21 玉 径0.9×0.6 0.5 Ser.	22 玉 径0.9×0.6 0.5 Ser.
23 玉 径0.9×0.7 0.8 Ser.	24 玉 径1.1×0.9 1.0 Ser.
25 玉 径1.0×0.7 0.9 Ser.	26 玉 径1.0×0.6 0.7 Ser.
27 玉 径1.1×0.4 0.8 Ser.	28 玉 径1.2×0.8 1.4 Ser.
29 玉 径1.1×0.4 0.3 Ser.	30 玉 径1.3×1.0 2.0 Ser.
31 玉 径1.3×0.9 1.8 Ser.	32 玉 径1.4×0.9 2.2 Ser.
33 玉 径1.3×1.0 1.6 Ser.	34 玉 径2.5×0.9 1.5 Ser.
35 玉 径1.3×1.0 1.9 Ser.	36 玉 径1.3×0.8 1.7 Ser.
37 玉 径1.1×0.6 0.9 Ser.	38 玉 径1.1×0.7 0.7 Ser.
39 玉 径1.1×0.2 0.1 Ser.	40 玉 径1.1×0.7 1.0 Ser.
41 玉 径1.1×0.1 1.1 Ser.	42 玉 径0.8×0.6 0.5 Jad.
43 玉 径0.9×0.6 0.6 Ser.	44 玉 径1.0×0.7 0.8 Ser.
45 玉 径0.9×0.5 0.5 Ser.	46 玉 径1.0×0.7 0.6 Ser.
47 玉 径1.0×0.5 0.7 Ser.	48 玉 径0.8×0.6 0.5 Ser.

III 美々4遺跡の調査

49 玉 径0.9×0.7 0.8 Ser.	50 玉 径1.0×0.8 1.0 Ser.
51 玉 径1.0×0.7 0.8 Ser.	52 玉 径0.9×0.7 0.7 Ser.
53 玉 径0.9×0.5 0.4 Ser.	54 玉 径1.0×0.7 0.8 Ser.
55 玉 径1.1×1.5 0.8 Ser.	56 玉 径1.1×0.7 1.1 Ser.
57 玉 径0.9×0.7 0.7 Ser.	58 玉 径0.8×0.6 0.6 Ser.
59 玉 径0.9×0.6 0.4 Ser.	60 玉 径0.8×0.4 0.4 Ser.
61 玉 径0.7×0.5 0.4 Ser.	62 玉 径0.8×0.7 0.5 Ser.
63 玉 0.8×0.3×0.5 0.5 Ser.	64 玉 径0.3×0.4 0.3 Ser.
65 玉 径0.9×(0.4) 0.4 Ser.	66 玉 径0.9×0.5 0.5 Ser.
67 玉 径0.9×0.6 0.5 Ser.	68 玉 径0.8×0.6 0.4 Ser.
69 玉 径0.8×0.5 0.4 Ser.	70 玉 1.3×1.2×0.9 1.6 Ser.

X-210

墳底は En-a 層中につくられ、壁は西側で緩く立ち上るほかは、ほぼ垂直である。墳底にはベンガラが一面に認められ、痕跡程度の遺体が中央部に残っていた。

残存する遺体の近くから、環状の漆器が2個体と板状の漆器が1個体、玉7点が出土した。

位置 E₁-64-91

平面形 楕円形

規模 0.65/1.25×1.10/0.94×0.65

長軸方向 N-40°-W

埋葬体位 不明

副葬品 玉：7、漆器：3

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

II 黒褐色土 (黒色土>EnP)

III 黒褐色土 (黒色土>EnP)

IV 褐色土 (EnP>黒色土)

遺物 覆土 土器 Va: 6。石器 IIIA3: 1。

1 IVc

2 垂飾 1.7×1.4×0.6 1.9 Ser.

3 垂飾 1.4×1.0×1.0 1.2 Ser.

4 玉 径1.5×1.1 2.2 Ser.

5 玉 径1.2×0.8 1.3 Ser.

6 玉 径1.0×0.7 0.8 Ser.

7 玉 径1.1×0.8 1.0 Ser.

8 玉 径1.0×0.6 0.6 Ser.

9 IIIA3 6.4×2.5×0.7 11.6 Ha-Sh.

X-211

墳底は En-a 層中につくられる。底面は丸みをもち、壁の立ち上りは緩やかで、南西側で X-212 の壁を切っている。底面からは腐食した遺体の一部が検出された。遺体の南西側にはベンガラが認められた。

位置 E₁-64-91

平面形 楕円形

規模 0.45/1.40×0.80/1.00×0.55

長軸方向 N-50°-E

埋葬体位 不明

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

II 黄褐色土 (EnP>黒色土)

遺物 覆土 土器 Va: 51。

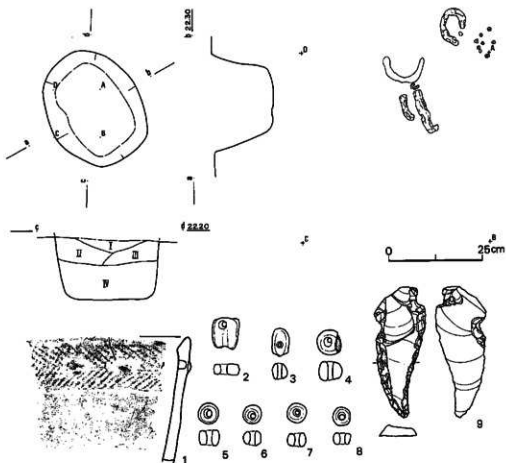


図99 X-210と遺物

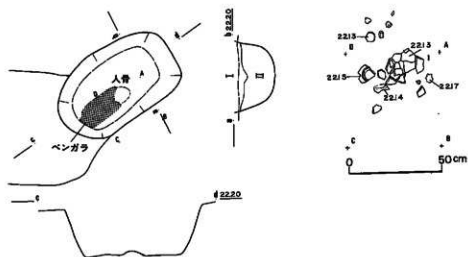


图 100 X-211

X-212

墳底は Spfl 層中につくられ、壁は西側でやや外反する。東側の上部壁はX-211によって切られる。覆土上面の西すみで小ピットが検出された。他の墓墳の例から東側にも小ピットが存在していたと思われるが、その部分はX-211に切られているため確認されなかった。底面からは棚状の2体の遺体が確認された。遺体の範囲には、ベンガラがあり、その外側には黒い輪郭が認められた。

位置 E₁-64-91

平面形 長楕円形

規模 1.30/2.55×1.25/2.10×0.85

長軸方向 N-91°-W

埋葬体位 2体合葬 西頭位伸展葬

副葬品 なし

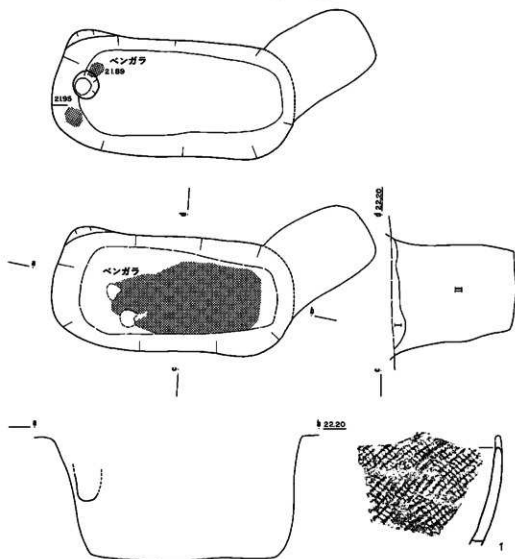


図101 X-212と遺物

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

II 黄褐色土 (EnP+EnL)

遺物 覆土 土器IVc: 3。

1 IVc

X-213 (写真図版25-4)

竪穴中央に位置する。墓墳規模は、X-2の墓墳中で最大である。墳底はSpfl層中につくられ、壁はほぼ垂直に立ち上る。底面は遺体の大きさに比較して広い。遺体の保存状態は良好で、上半身にベンガラが撒かれている。遺体の周囲には、ほぼ方形に黒い輪郭が残存している。

墓墳長軸方向の両端に小ピットがある。東側の小ピット覆土からはV群a類の土器片が多数出土した。墳口部の北側と、墓墳南東側のやや離れたところから大型の自然礫が検出された。

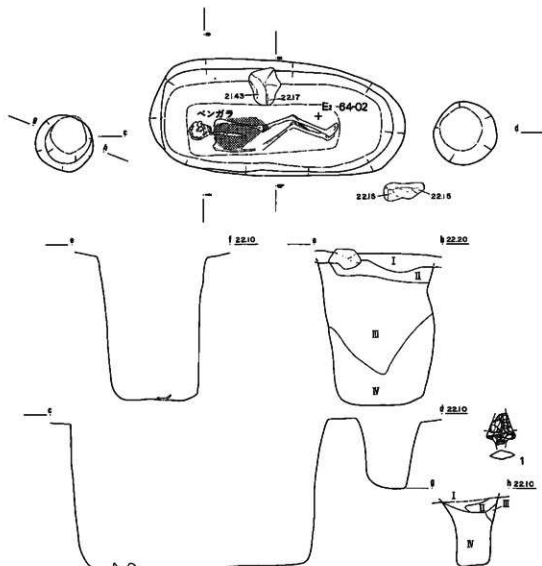


図102 X-213と遺物

III 美々4遺跡の調査

位置 E₂-64-01.-02

規模 1.60/2.70×1.20/2.30×0.85

埋葬体位 西頭位伸展葬

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

III 黄褐色土 (EnP+Sf)

(小ピット) I 黒色土 (黒色土>EnP)

III 黄褐色土 (EnP)

遺物 覆土 石器 IA5: 1。礫: 1。

平面形 長楕円形

長軸方向 N-93°-W

副葬品 なし

II 暗褐色土 (黒色土+EnP)

IV 黄灰色土 (Sf>EnP)

II 暗褐色土 (黒色土+EnP)

IV 黒褐色土 (EnP>黒色土)

1 IA5 (1.7)×1.5×0.5 0.9 Obs.

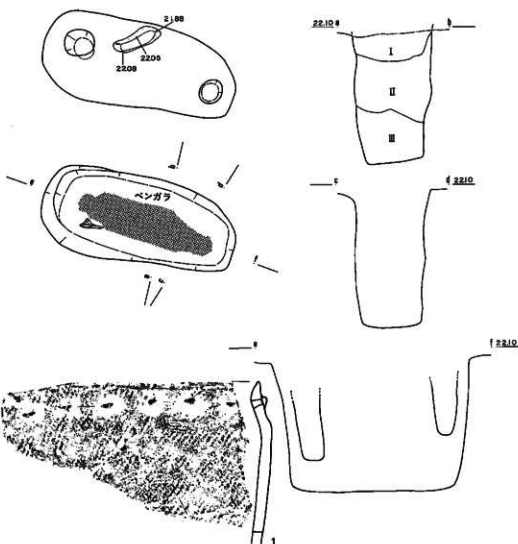


図103 X-214と遺物

X-214

墳底は Spfl 層につくられ、壁はほぼ垂直に立ち上る。覆土上面の東西すみで小ビットが検出され、その深さは墳口から 1 m ほどである。底面では、頭骨の一部が確認された。遺体が存在していた範囲には、ベンガラが認められた。墳口北壁寄りから、大型の円柱礫が出土した。

 位置 E₂-64-01

平面形 長楕円形

規模 1.35/2.10×0.90/1.80×0.75

長軸方向 N-83°-W

埋葬体位 西頭位伸屍葬

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

II 黄褐色土 (EnP+Sf)

III 黄灰色土 (Sf>EnP)

遺物 覆土 土器 IVc: 14, Va: 14. 礫: 2. 1 IVc

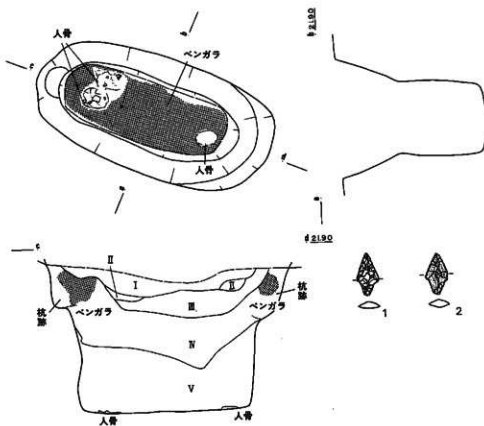


図104 X-215と遺物

X-215

墳底は Spfl 層中につくられる。壁は垂直に立ち上り、墳中から墳口にかけて外反する。覆土上面の東西端には小ビットがあり、この覆土中にはベンガラが含まれている。

底面にはベンガラが全面に厚く敷かれるようにあり、その中から3体の遺体が確認された。このうち2体は西側に頭部が、もう1体は東側に頭部が置かれた伸展葬である。

位置 E₂-64-02

平面形 長楕円形

規模 1.55/2.60×1.25/1.75×0.75

長軸方向 N-75'-W

埋葬体位 3体合葬 2体は西頭位伸展葬

1体は東頭位伸展葬

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

II 暗褐色土 (EnP+黒色土)

III 灰褐色土 (EnP>Sf)

VI 黄褐色土 (EnP+Sf)

V 黄褐色土 (Sf>EnP)

遺物 覆土 土器 Va:12。石器 IA5:2。

1 IA5 2.2×1.2×0.4 0.7 Obs.

2 IA5 2.2×1.2×0.4 0.8 Obs.

X-216

墳底は Spfl 層中につくられ、壁の立ち上りはほぼ垂直で、墳口にかけてやや外反する。覆土上面の東西両端から、小ビットが検出された。底面では、頭骨の一部と、遺体の範囲を示すようにベンガラが認められた。

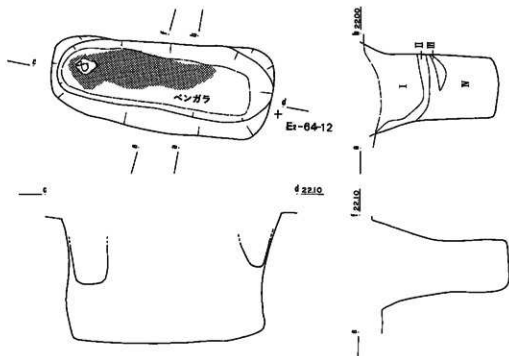


図105 X-216

位置 E₂-64-11

平面形 長楕円形

規模 1.45/2.35×0.95/2.00×0.45

長軸方向 N-93°-W

埋葬体位 西頭位伸展葬

副葬品 なし

覆土 I 暗黄褐色土 (EnP>黒色土)

II 黄褐色土 (EnP>Sf)

III 黄褐色土 (EnP>黒色土)

IV 黄灰色土 (EnP+Sf)

遺物 覆土 土器IVc: 7, Va: 15.

X-217

墳底は Spfl 層中につくられ、壁の立ち上りはほぼ垂直である。底面中央部からは、糊状の遺体とベンガラが検出された。墳底が Spfl 層中に達する他の墓とは、平面の規模にかなりの開きがある。

墓墳の西側には大型の円柱状の礫がある。この礫を取り除いた後、その直下で小ピットが確認された。

位置 E₁-64-92

平面形 楕円形

規模 1.05/1.00×0.60/0.85×0.45

長軸方向 N-82°-W

埋葬体位 不明

副葬品 なし

覆土 I 暗黄褐色土 (EnP>黒色土)

II 暗黄褐色土 (EnP)

III 黄灰色土 (EnP+Sf)

遺物 覆土 礫: 1。

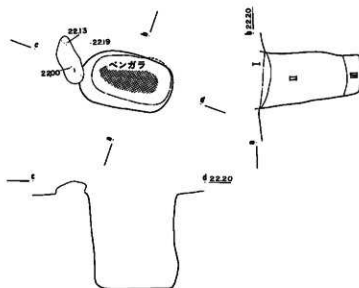


図106 X-217

X-218

墳底は Spfl 層中につくられ、壁の立ち上りはほぼ垂直である。覆土上面の東西両端で小ピット

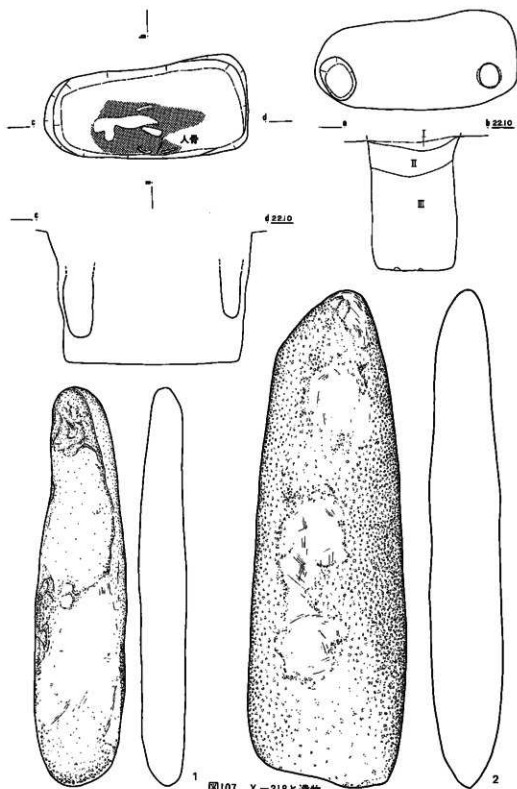


図107 X-218と遺物

トが確認された。底面には、棚状の遺体とこれに沿ってベンガラが認められた。また、ベンガラの範囲のはば中央から石斧が2点出土した(写真図版25-5)。

位置 E₄-64-01, -11

平面形 長楕円形

規模 1.40/2.20×0.95/1.90×0.82

長軸方向 N-109°-W

埋葬体位 西頭位伸展葬

副葬品 石斧 (IVA2): 2

覆土 I 暗褐色土 (黒色土>EnP)

II 黄褐色土 (EnP)

III 黄灰色土 (EnP+Sf)

遺物 1 IVA2 21.0×4.8×2.3 440.0 Gr-Mud. 2 IVA2 26.6×8.2×3.7 1380.0 Gr-Mud.

(写真図版26-1)

X-219

竪穴南西壁寄りに位置する。墓壇上部には、盛土墓(P-342)がある。墳底はEn-a層中につくられ、北西壁寄りから頭部の痕跡が検出された。この周囲にはベンガラがあり、朱塗り

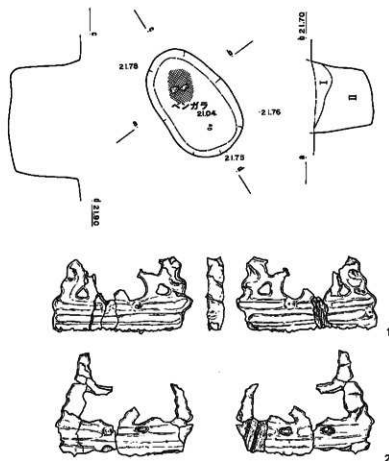


図108 X-219と遺物

の櫛が並んだ状態で2点、また、南東壁付近からは、フレイクが2点出土した。

位置 E₂-64-13

平面形 楕円形

規模 0.65/1.25×0.75/1.08×0.58

長軸方向 N-38°-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 櫛：2

覆土 I 褐色土 (黒色土>EnP)

II 黄褐色土 (EnP)

遺物 1 櫛 (3.5)×7.5×0.9

2 櫛 5.4×7.3×— (写真図版26-2)

X-220

墳底はSpfl層中につくられ、壁の立ち上りは垂直で開口付近がやや外反する。底面からは一面にベンガラと黒いシミが検出され、西壁寄りに頭骨の一部が残存していた。

墓墳長軸方向の両端には小ピットがある。東側的小ピットは西側に比べて浅く、覆土からは多数の土器片と漆器の破片が出土した。

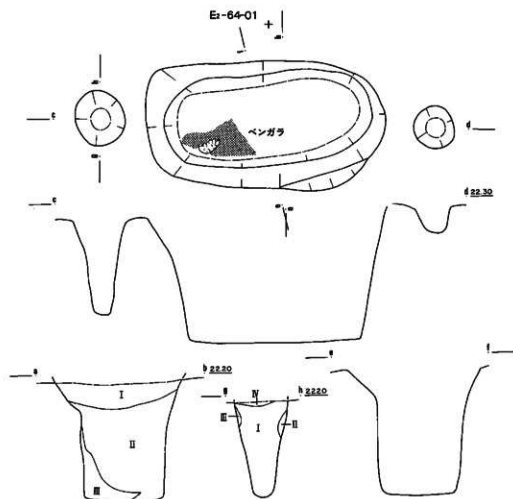


図109 X-220

位置 E₁-64-91, E₂-64-01

規模 1.37/2.55×1.32/1.95×0.75

埋葬体位 西頭位伸展葬

覆土 I 暗褐色土 (黒色土+EnP)

II 黄灰色土 (Sf>EnP)

(小ピット) I 黒色土

II 黄褐色土 (EnP)

平面形 長楕円形

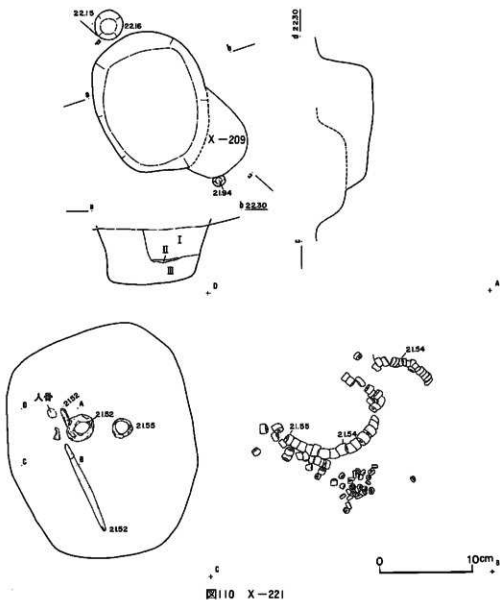
長軸方向 N-95°-W

副葬品 なし

II 黄褐色土 (EnP>Sf)

II 黄色土 (EnP)

IV 暗褐色土 (黒色土>EnP)



X-221

竪穴の北西壁寄りに位置し、墓墳南東側の上部はX-209に切られる。墳底はEn-a層中につくられ、遺体は腐食が著しく一部を検出したにとどまった。

底面のほぼ中央から環状の漆器2点が並んだ状態で、その西側からは石斧および連なるようにして玉が出土した。また、西壁沿いに石棒が置かれていた。

石棒は、長さ51cm、粘板岩製で、中央部で最大径5cm、両端に細くなる形態をもつ。一方の先端近くには一条の刻みがめぐらされている。

なお、この墓は調査後、墳底を切り取り保存した。このため個々の遺物の実測図は示していない。

位置 E₁-64-91,-92

平面形 楕円形

規模 0.57/1.50×1.20/1.17×0.98

長軸方向 N-22'-W

埋葬体位 不明

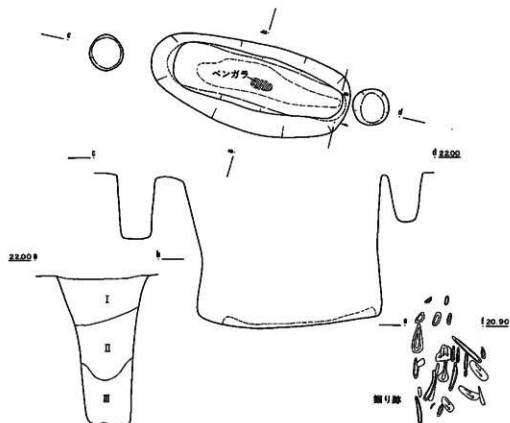
副葬品 スクレイパー(ⅢB3):1, 石棒:1, 玉

:77, 環状漆器:2, 漆器:1

覆土 I 暗黄褐色土(黒色土+EnP)

II 黒色土(黒色土+ベンガラ)

III 黄褐色土(EnP)



図III X-222

X-222 (写真図版26-4)

墳底はSpII層中につくられ、壁は墳口でいくらか外反する。底面からは遺体の痕跡が検出された。ベンガラは遺体の腹部に若干みられた。壁面には、墓構築時の掘り跡があった(写真図版26-3)。

墓墳長軸方向の両端で小ビットが検出された。

位置 E₂-64-02

平面形 長楕円形

規模 1.60/2.15×0.95/1.82×0.47

長軸方向 N-81°-W

埋葬体位 西頭位伸展葬

副葬品 なし

覆土 I 黄褐色土 (EnP)

II 黄褐色土 (EnP+Sf)

III 黄灰色土 (Sf>EnP)

X-3 (写真図版31)

調査地区北西隅の台地上に位置し、東側にはX-4がある。本周墳墓はX-1・2と同様、I黒層上面のくぼみによってすでにその存在が予想された。この時点でくぼみのほぼ中心を通るように東西・南北に二本のトレンチを設け調査したところ、II黒層上面で竪穴と周堤の一部が確認された。II黒層上面からは、※印状に土層観察用のベルトを設けて層ごとに調査した。

周堤部は、南側の一部が開く馬蹄形に竪穴の周囲に幅4~5m、厚さは最大で25cmほどに盛土されており、竪穴の床面から堤頂までの高さ90cmほどである。東側に位置するX-4との先後関係は、盛土の堆積状況からは明確に把握することはできなかったが、II黒層上面での地形図(図76)からみるとX-4の盛土に本周墳墓の盛土が覆っているように観察できる。

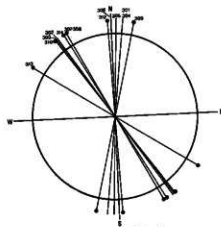


図112 長軸方向

竪穴はII黒層上部から掘り込まれ、平面形はほぼ南北に長軸をもつ楕円形である。床面はII黒層およびEn-aローム層中にあり、竪穴構築時の面からの深さは65cmほどである。覆土は壁際に堆積した崩落土を除けばII黒層一層のみで、中心部の厚さは10cmほどである。

竪穴内では14基の墓墳が検出され、確認時の状況、土壌の規模、形状、副葬品等から北半部のもの(X-301~307)と南半部のもの(X-308~314)とに二分される。

北半部の群は、本周墳墓に伴うと考えられる墓で、En-aバミスが混入したスポットとして確認された。竪穴床面から掘り込まれ、墳底はEn-a層中に作られている。平面形は長楕円形(X-301・302・304~307)と楕円形(X-303)のものがある。規模は1.2×0.6m、深さ1.2m

ほどのものが大半で、最大は $1.6 \times 0.67\text{m}$ 、深さ 1.1m (X-305)、最小は $0.65 \times 0.37\text{m}$ 、深さ 0.84m (X-304)である。長軸方向は、X-302・303・307が北から 30° 前後西偏するほかはほぼ南北をとる。長軸の延長上に、墓標用かと思われる小ピットや大型の礫を配しているもの(X-302・304~307)、墳口部に礫が置かれたものなどがあり、これらの礫には、石皿などの石器を転用したものがある。

墳口部にベンガラが散布されているものが3例ある(X-302・303・305)。墳底には、ベンガラが敷かれているもの(X-302・303・305~307)と、黒褐色の土が一面に認められたもの(X-301・304)がある。遺体は満足な状態で検出されたものはないが、X-301~303・305・307では、北側壁際に頭骨の痕跡が認められた。合葬の例はない。埋葬体位は、墓墳の規模からみて屈葬の可能性が高い。副葬品を伴ったものは4例あり、X-302は石棒1点、X-305・306は石斧各1点、X-307は石斧3点・石鏃1点で、いずれも墳底から出土した。

南半部の群(X-308~311・313・314)と北西壁際のX-312についてみると、X-308~312は黒色土の落ち込みとして、X-313・314はEn-aバミスを多量に含む黒色土のスポットとして確認されている。このうち、X-310・312は堅穴の覆土中に掘り込み面をもつことが確認されており、同様の堆積状態を示すX-308・309・311も、堅穴が埋まってゆく過程で掘り込まれた可能性が高い。墳底は全例En-a層中に作られており、平面形は、楕円形のもの(X-308~310・312~314)と、円形(X-311)のものがある。規模は、X-308~310・312が $1.4 \times 1.2\text{m}$ 、深さ 1m 前後、X-313・314は小型で深さ 0.6m 以内である。長軸の方向は、南北のもの1例(X-309)を除けば、北西~南東である。いずれも、墓墳外に小ピットが付属する。長軸の延長上にあるもの(X-308~311)と、墓墳の北西もしくは南西コーナーにあるもの(X-312~314)とがある。また、X-311の北西側墳口には石皿転用の礫が置かれている。

墳底には、X-314を除いてベンガラが敷かれている。また、ベンガラ部分が方形に落ち込んだもの(X-309)、遺体を取り囲むように幅 $2\sim 5\text{cm}$ の黒褐色土がみられるもの(X-312)がある。遺体は北半部の群と同様に、満足な状態で検出されたものはないが、X-308・309・311・312では北壁際に頭骨の痕跡が認められた。このうち、X-311には、北側に2個の痕跡があり、合葬と思われる。また、X-310も他に比べて幅広であることから合葬の可能性もある。埋葬体位は北半部の群と同様である。副葬品を伴ったものは3例(X-309~311)である。墳底からは、X-309で漆塗りの櫛2点・石斧1点、X-310で環状の漆器1点・石棒1点、X-311で環状の漆器1点・石斧2点・玉1点がそれぞれ検出されている。また、X-311の覆土Ⅱ層中からは、V群a類の完形土器が出土し、3例とも、墳口に復元可能なV群a類土器を伴っている。

なお、両群の墓のなかには、墳底一面に黒褐色土のみられたもの(X-301・304)、遺体を取り囲むように黒色の輪郭が認められたもの(X-312)、ベンガラが範囲が方形に落ち込んであるもの(X-309)などがあり、埋葬にあたって、遺体を梱包したか、容器もしくは敷物が用いられた可能性も考えられる。(野中一宏)

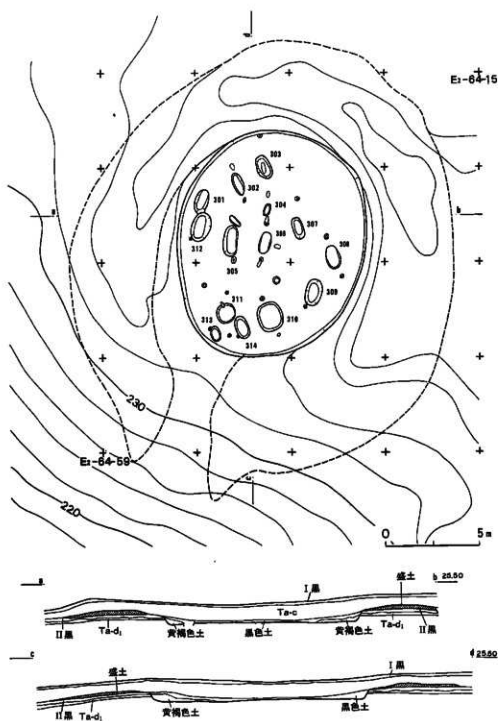


図113 X-3

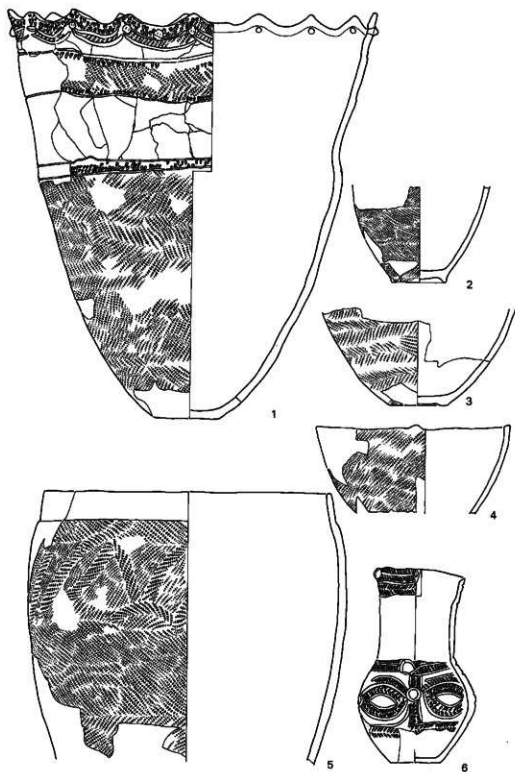


図114 X-3の遺物

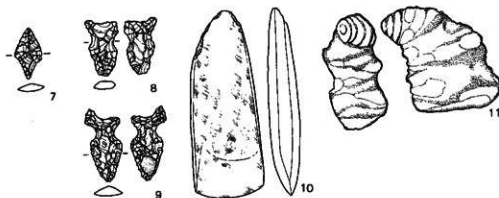


図115 X-3の遺物

位置 E₂-63-14-18, -24-29, -34-39, -45-49, -56-58

平面形 周境部：馬蹄形 竪穴：楕円形

規模 周境頂から床面までの深さ0.9m

周境部径：24.8×20.0 竪穴：0.52/11.96×10.00/11.26×9.50

長軸方向 N-1'-E

基壇 14個

遺物 覆土 土器Ⅱb：9, Ⅲb-1：4, Ⅲb-3：1, IVa：4, IVb：38, IVc：653, Va：216。
石器ⅠA2a：1, ⅠA3：1, ⅠA5：1, ⅠA1：1, ⅡA-：2, ⅡB3：3, ⅡB破片：1, IVA破
片：3, VA：2, VA破片：3, VIA4：1, VIA破片：3, VIIb2：1, VIIA破片：1, IXB：
21, XA：6。礫：72。石製品：5。土製品：1。

床面 石器ⅠA5：1, IVb：1。礫：4。

1 IVc 43.0/39.6×6.7 口唇は切り出し形。波状口縁で、高い部分に内面からの
突瘤が配される。胴部はややくびれ、上半は無文帯および縄文に刺突文を配した
文様帯がある（写真図版35-1）。

2 IVa —/—×5.9 (35-2) 3 Va —/—×6.3 (35-3)

4 Va 20.7/—×— (35-4)

5 Va —/28.1×— 口縁部は無文。胴部全面に縄文が施文され、上半にはその
上に、3cmほどの原体で文様が描かれる（35-5）。

6 IVc 20.6/9.7×5.2 頸部は細長く、器高の2分の1である。口縁と胴部には、
沈線で区画されたところにハの字形の刺突が連続してつけられる。口唇下には貼
瘤がある（35-6）。

7 ⅠA5 2.7×1.5×0.4 0.9 Obs.覆土 8 ⅡA- 3.0×1.8×0.4 2.2 Che. 覆土

9 ⅡA- 3.7×1.9×0.5 2.6 Che.覆土 10 ⅠA5 9.7×3.7×1.4 92.0 Gr-Mud. 覆土

11 礫 Aga. 覆土

X-301

竪穴の西壁際で検出された。竪穴床面から掘り込まれ、底面はEn-a層中につくられる。壁は北側と南西側の一部が若干内湾するほかは、ほぼ垂直に立ち上る。南壁の一部は、X-312によって切られている。底面一面に暗褐色がかかった土が認められ、遺体等の腐食によって形成されたものと思われる。この土層の北壁すみに、径20cmほどのくぼみがみられた。頭部の痕跡であろう。このくぼみの周囲には、ベンガラがわずかに検出された。

位置 E₂-63-36、-46

平面形 長楕円形

規模 1.25/1.29×0.70/1.05×0.47

長軸方向 N-7'-E

埋葬体位 北頭位

副葬品 なし

覆土 I 黄褐色土 (EnP)

II 黒色土 (黒色土>EnP>d₂)

III 黄色土 (EnP)

IV 黄褐色土 (EnP>EnL)

V 黒褐色土

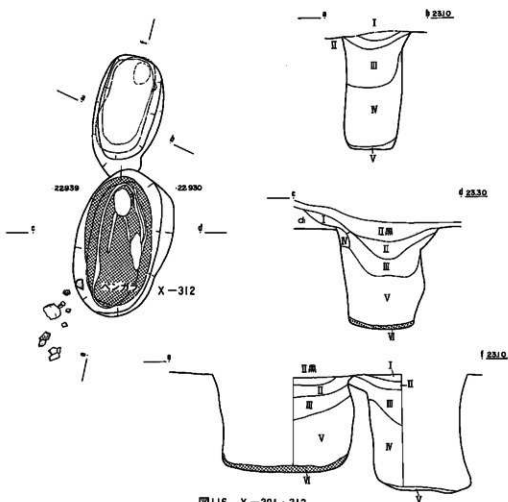


図116 X-301・312

X-302

竪穴床面から掘り込まれ、底面は En-a 層中につくられる。竪口より竪底で広い、フラスコ状である。竪底一面には、茶褐色を呈した厚さ 3 cm ほどの土層が存在する。ベンガラが遺体の腐食によって変化したものであろうか。この中から、径 10 cm ほどのくぼみがみとめられた。頭部の痕跡と思われる。西壁ぎわからは、石棒 1 点が出土した。竪口近くの覆土中からベンガラが検出された。

墓墳の南東側には平面形が楕円形の小ピットがある。また、北西側の竪口近くには、細長い自然礫が検出された。

位置 E₂-63-36

平面形 長楕円形

規模 1.17/1.20×0.58/1.25×0.55

長軸方向 N-34°-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 石棒：1

覆土 I 黒色土 (黒色土 > EnP)

II ベンガラ

III 黄色土 (EnP > EnL)

IV 茶褐色土

遺物 図228-2 石棒 44.0×3.8×3.1 765 Sl. (写真図版32-2)

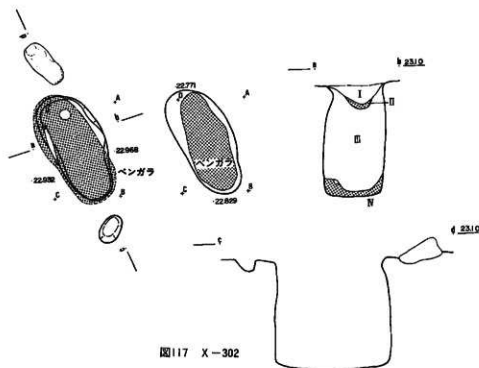


図117 X-302

X-303

竪穴内の墓墳のうちで、一番北側に位置する。竪穴床面から掘り込まれ、竪底は En-a 層中につくられる。壁はほぼ垂直に立ち上る。竪口部から、細長い自然礫とその周囲にはベンガラ

が確認された。底面には厚さ3cmほどの茶褐色土があり、北壁寄りに円形のくぼみがみられた。頭部痕跡と思われる。遺体の範囲と思われる部分にはベンガラが認められた。

位置	E ₂ -63-35, -36	平面形	楕円形
規模	1.20/1.25×0.80/1.10×0.58	長軸方向	N-35°-W
埋葬体位	北西頭位	副葬品	なし
覆土	I 黒色土 (黒色土>EnP) II 暗褐色土 (EnL>黒色土) III 黄色土 (EnP) IV 黄褐色土 (EnP>EnL)		
遺物	覆土 礫: 1		

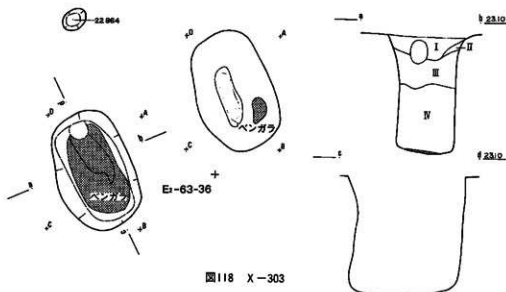


図118 X-303

X-304

竪穴床面から掘り込まれ、墳底はEn-a層中につくられる。壁はほぼ垂直に立ち上る。底面には黒味がかった褐色土が2~3cmの厚さで認められた。墓墳の長軸線上の北側には、細長い礫がある。また、南側にも同様な礫があり、この下部から小ビットが検出された。この南側の礫および小ビットはX-306との間にあるため、どちらに伴うものか判然としない。

このX-304は、周墳墓に伴う墓墳の中ではとくに小型である。底面の規模では、大人の上半身を入れるのも困難と思われる。しかし、底面が他の墓墳の墳底と同様な状態を呈していること、あるいは墳底がEn-a層を十分に掘り込んであることなどから、墓墳として考えることは十分可能である。

位置	E ₂ -63-36	平面形	楕円形
規模	0.85/0.65×0.37/0.60×0.30	長軸方向	N-7°-E
埋葬体位	不明	副葬品	なし
覆土	I 黒色土 (黒色土>EnP) II 黄褐色土 (EnL>EnP) III 黄褐色土 (EnP) IV 黒褐色土		

X-305 (図-121)

竪穴床面から掘り込まれ、墳底は En-a 層につくられる。壁はほぼ垂直である。底面からと墳口近くの覆土中からベンガラが検出された。北壁すみから頭骨の痕跡が検出された。

西側に隣接する X-312 は、この墓を覆っている周堤墓竪穴の覆土から掘り込まれていることから、この X-305 よりも新しい。

墓墳の南側には、近接して深さ 20cm ほどの小ピットがある。北側には、立石の存在を思わせ

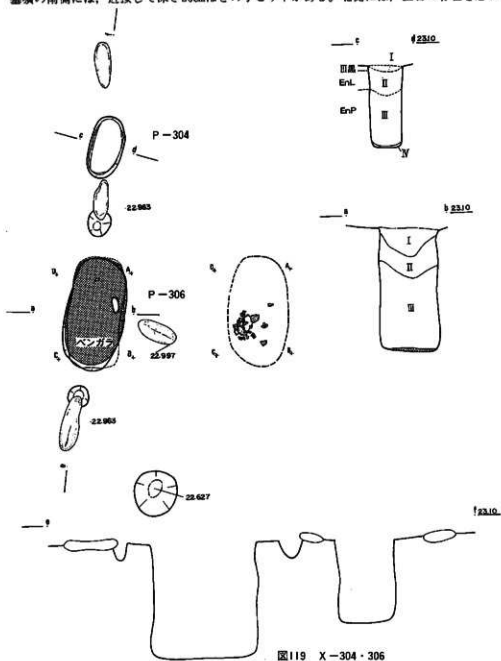


図119 X-304・306

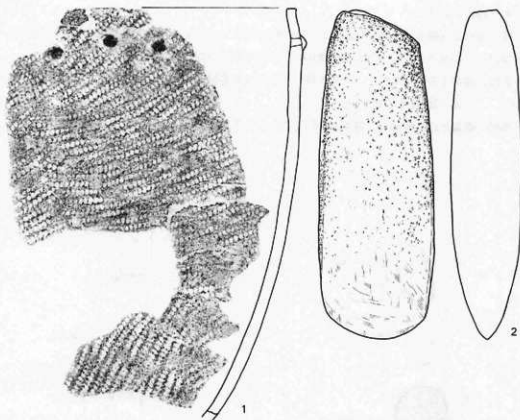


図120 X-306の遺物

る長楕円形のくぼみがみとめられた。

位置 E₂-63-36

規模 1.10/1.60×0.67/1.30×0.40

埋葬体位 北頭位

覆土 I 黒色土 (黒色土>EnP)

III 黄褐色土 (EnP>EnL)

平面形 長楕円形

長軸方向 N-3°-E

副葬品 なし

II ベンガラ

X-306 (図119)

竪穴の中央部に位置する。竪穴床面から掘り込まれ、墳底はEn-a層中につくられる。壁はほぼ直立する。底面には明瞭な遺体は検出されず、茶褐色を呈した厚さ3cmほどの土が全面にみとめられた。覆土I層中からV群a類土器、墳底からは石斧と刺片が出土した。

墓墳の南北に近接して礎が検出された。この礎の下には、径20cmほどの小ピットがある。北側の小ピット及び礎は、X-304との間にあり、どちらに伴うものかは不明である。また、墳口の東側にも礎が検出されている。

位置 E₂-63-36

規模 1.30/1.17×0.62/1.17×0.55

平面形 楕円形

長軸方向 N-0°-S

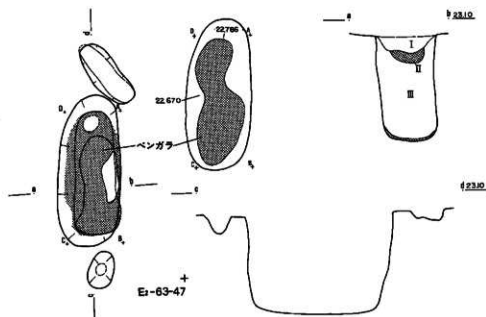


図121 X-305

埋葬体位 不明

副葬品 石斧 (IVA2) : 1

覆土 I 黒色土 (黒色土 > EnP)

II 黄色土 (EnL > EnP)

III 黄色土 (EnP > EnL)

遺物 覆土 土器IVc : 50. 底面 石器IXB : 1.

1 Va

2 IVA2 17.3×6.1×3.5 674 Gr-Mud.床 (写真図版32-3左)

X-307

竪穴中央の墓X-306の北東側、約1.5mのところに位置する。竪穴床面から掘り込まれ、底面はEn-a層中につくられる。壁はほぼ垂直に立ち上り、墳口部近くでやや外反する。底面からベンガラが検出された。頭部の痕跡と思われる径20cmほどのくぼみを北東壁寄りで確認した。また、東側壁寄りの底面から、1か所にかたまった状態の石斧3点と、その南側から石鏃1点が出土した。

墓墳の北側、1mほど離れたところに、40×30cm、深さ20cmほどの小ピットがある。

 位置 E₂-63-26

平面形 槽円形

規模 1.10/1.10×0.60/0.85×0.40

長軸方向 N-28°-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 石鏃(IA5) : 1, 石斧(IVA5) : 3

覆土 I 黒色土 (黒色土 > EnP)

II 黄褐色土 (EnL)

III 黄褐色土 (EnP)

IV 黄褐色土 (EnL > EnP)

遺物 1 IA5 (2.3)×1.7×0.65 1.6 Obs. 2 IVA5 10.1×4.7×1.5 94.0 Gr-Mud.

3 IVA5 8.5×3.3×0.9 43.3 Gr-Mud. 4 IVA5 7.4×3.2×1.3 53.8 Gr-Mud.

(写真図版32-3)

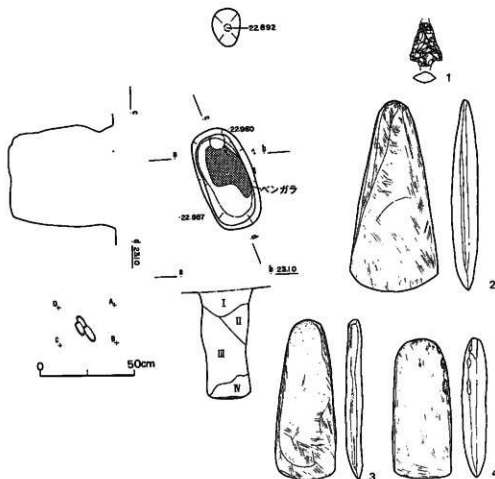


図122 X-307と遺物

X-308

堅穴の東側壁寄りて検出された。堅穴の床直上層から掘り込まれ、底面はEn-a層に達する。壁は、北西側の境口近くでオーバーハングする外は、ほぼ垂直に立ち上る。底面一面にベンガラが認められた。明瞭な遺体はなく、北壁の立ち上り部で径15cmほどの頭部痕跡と思われるくぼみが発見された。

基壇長軸線上の両端から、径30cm深さ10cmほどの小ピットが検出された。

位置 E₂-63-26, -27

平面形 椭圆形

規模 0.95/1.30×0.85/1.35×0.80

長軸方向 N-27°-W

埋葬体位 北西頭位

副薬品 なし

覆土 I 黑色土

II 黑褐色土 (黑色土 > EnP)

Ⅲ 暗褐色土 (Ⅲ黑>EnP)

IV 黄褐色土 ($E_nP > E_nL$)

V 褐色土 (EnP)

遺物 覆土 土器IVc:1

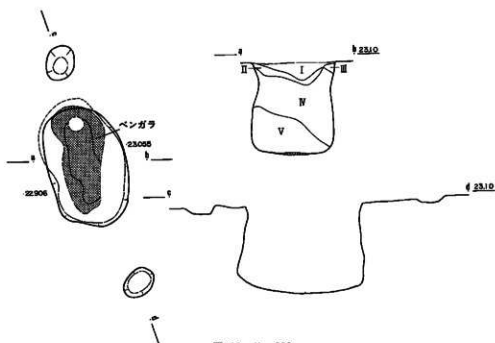


図123 X-308

X-309

竪穴南西壁近くから検出された。竪穴の床直上層から掘り込まれ、底面はEn-a層中につくられる。壁は、墓域内にややオーバーハングしながら立ち上り、墳口近くで外反する。墳口から多量のV群a類土器が出土した。底面の北すみからは、2個の朱塗りの櫛が重なった状態で、また、ほぼ中央から石斧が1点出土した(写真図版32-4)。明瞭な遺体は認められなかったが、櫛が出土したところに接するように、径20cmほどのくぼみが認められ、頭部の痕跡と思われる。

墓域の南北両端で小ピットが検出された。北側の小ピットは墳口に接している。

位置 E₂-63-27

平面形 楕円形

規模 1.10/1.35×0.85/1.05×0.65

長軸方向 N-14°-E

埋葬体位 北東頭位

副葬品 櫛: 2, 石斧 (IVA2): 1

覆土 I 黒色土

II 黒褐色土 (黒色土>EnP)

III 黄色土 (EnL>EnP)

IV 黄色土 (EnP)

V 黄褐色土 (EnP>EnL)

遺物 覆土 土器 Va: 167。

1 Va —/11.6×—

2 櫛 (5.6)×7.8×0.9

3 櫛 (0.2)×8.3×0.7(写真図版32-5)

4 IVA2 17.8×4.5×2.2 368 Gr-Mud.(32-6)

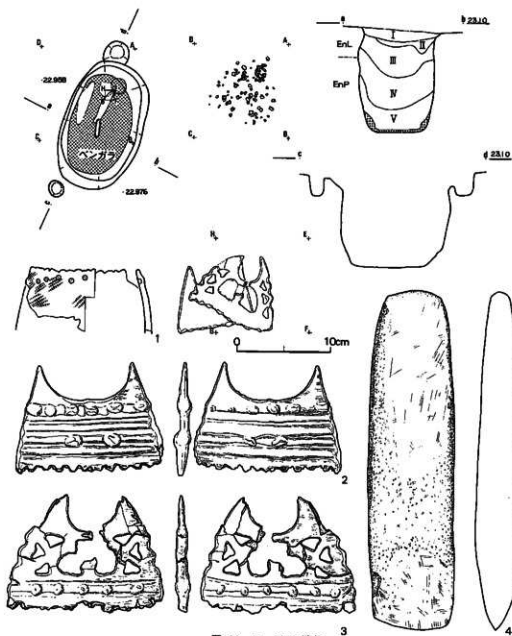


図124 X-309と遺物

X-310

竪穴床面の直上層から掘り込まれ、墳底はEn-a層中に達する。壁はほぼ垂直に立ち上る。墳底には、ベンガラおよび茶褐色を呈する土が一面にみられた。東壁寄りで石棒と環状の漆器が出土した(写真図版33-2)。また、墳口付近からは、V群a類の土器片が多量に出土した。

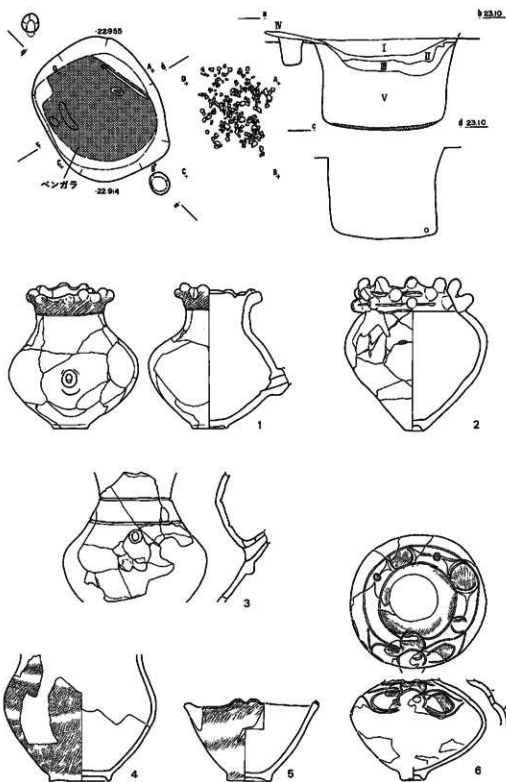


図125 X-310と遺物

このX-310は、他の墓に比べて幅広くつくられているので、合葬の可能性も考えられる。

位置	E ₂ -63-37	平面形	楕円形
規模	0.95/1.50×1.25/1.25×1.10	長軸方向	N-36°-W
埋葬体位	不明	副葬品	石棒：1、漆器：1
覆土	I 黒色土	II 黒褐色土 (黒色土>EnL+EnP)	
	III 黄褐色土 (EnL>EnP)	IV 暗黄褐色 (EnL>III黒)	
	V 黄色土 (EnP)		

遺物 覆土 土器：354。

- 1 Va 15.2/9.4×3.6 丸い瘤が口唇をめぐる。縄文は口縁部に施される。
- 2 Va 16.1/11.0×2.0 丸い瘤が口唇と口縁につけられ、胴部は無文。
- 3 Va 胴部最大径15.2 4 ———/——×6.3
- 5 Va 9.0/14.3×4.5
- 6 Va ———/——×2.5 注口土器である(写真図版33-3)。

図228-4 石棒 60.3×3.3×2.25 800.0 SL(33-4)

X-311

竪穴内では唯一の円形土墳墓である。竪穴の南西壁寄りに位置している。南東側はX-314と接する。

墳底はEn-a層につくられ、壁は北東側の墳口近くでオーバーハングするほかは、ほぼ垂直に立ち上る。墳底一面にベンガラが認められ、北側すみで2個の円形のくぼみが検出された。頭骨の痕跡と思われ、合葬の可能性がある。墳底からは石斧2点、玉1点、環状の漆器1点、不明の漆器1点が検出された(写真図版34-2)。墳口には、細長い自然礫が墓境内に傾いた状態で埋まっており、この礫の下からはV群a類の完形土器が1個体出土した(34-1)。

墓域の南北、各70cmほど離れたところに小ピットがある。

位置	E ₂ -63-37	平面形	円形
規模	0.95/1.10×1.08/0.95×0.95		
埋葬体位	不明	副葬品	土器(Va)：1、石斧(IVA2)：2
漆器	2、玉：1		
覆土	I 黒色土 (黒色土>EnP)	II 黒褐色土 (黒色土>EnP)	
	III 黄褐色土 (EnL>EnP)	IV 黄褐色土 (EnP)	

- 遺物
- 1 Va 9.5/13.6×3.5 覆土中から出土。口唇は棒状工具で細かい刻みが入れられる。体部には細かい縄文が全面に施される。
 - 2 Va ———/6.0×——— 口唇には小さく丸い貼瘤がめぐらされる。胴部には1か所透しがある(写真図版34-3)。
 - 3 玉 1.0×0.7 .0 Ta. 4 IVA2 10.2×4.7×1.9 118.8 Gr-Mud.
 - 5 IVA2 15.9×5.5×1.4 220 Gr-Mud. (写真図版34-4)

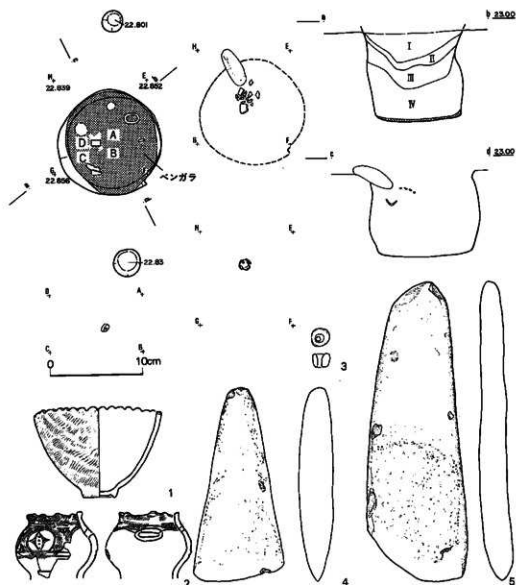


図126 X-311と遺物

X-312 (図116, 写真図版32-1)

竪穴の西壁ぎわで検出された。竪穴の覆土中から掘り込まれ、坑底は En-a 層中にある。壁は、全周垂直に立ち上り、坑口は外反する。北側壁は、X-301の一部を切る。

坑底には茶褐色を呈する土層が一面にあり、北すみに頸部の痕跡と思われるくぼみがみとめられた。また、遺体があったと思われる範囲をとりまくように、幅 2～5cmほどの黒褐色の若干の高まりをもった部分がある。

墓墳の南側に近接して小ピットが検出された。

位置 E₂-63-36、-46

平面形 楕円形

規模 1.00/1.56×1.00/1.30×0.65

長軸方向 N-2'-W

埋葬体位 北頭位

副葬品 なし

覆土 I 黒褐色土 (d₁+EnL)

II 黄褐色土 (EnL)

III 黄褐色土 (EnL>EnP)

IV 暗黒褐色土 (黒色土>d₂)

V 黄褐色土 (EnP)

VI 茶褐色土 (d₂>黒色土)

X-313

竪穴の南側ぎわで検出された。墳底中央にベンガラと思われる範囲が確認された。

位置 E₂-63-37

平面形 楕円形

規模 0.50/0.85×0.75/0.75×0.50

長軸方向 N-57'-W

埋葬体位 不明

副葬品 なし

覆土 I 黒色土

II 暗褐色土 (黒色土+EnL+EnP+d₂)

III 黒色土

IV 暗褐色土 (d₂+EnP+EnL)

V 黄褐色土 (EnP>EnL)

VI 暗褐色土 (黒色土+EnL+Enp)

VII 黄色土 (EnP)

X-314

竪穴の南側近くで検出された。竪穴内の墓墳の中では、極立って浅くつくられている。墳底

X-313

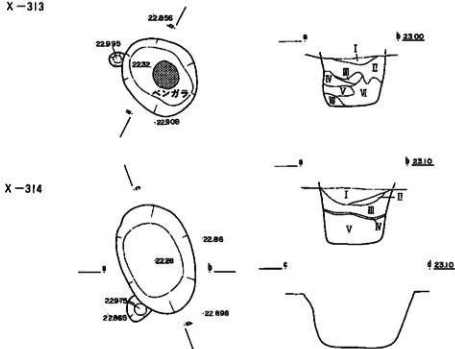


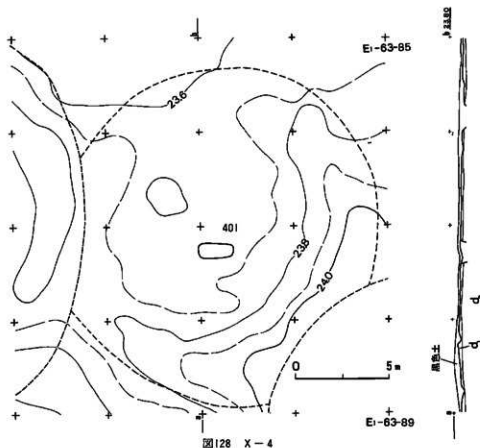
図127 X-313・314

からは、遺体およびベンガラ等は検出されなかった。覆土の一部が、X-311に及んでいることが認められた。南側壁に接して、径25cm、深さ15cmの小ピットが設けられている。

位置	E ₂ -63-37	平面形	楕円形
規模	0.60/1.20×0.80/0.80×0.55	長軸方向	N-31'-W
埋葬体位	不明	副葬品	なし
覆土	I 暗褐色土 (黒黒+EnP+EnL) II 黄褐色土 (EnL>EnP) V 黄褐色土 (EnP>EnL)	IV 黒色土	
遺物	覆土 土器IV c : 1。		

X-4 (写真図版36-1)

Ta-C層除去後のII黒層上面で、X-1に接してのびる周塹の存在が確認された。推定される周塹外径は17~18mである。竪穴床面はII黒層中にあると思われるが、明瞭にとらえることはできなかった。II黒層上面の地形からの推定竪穴径は11m前後である。この中央から、東西



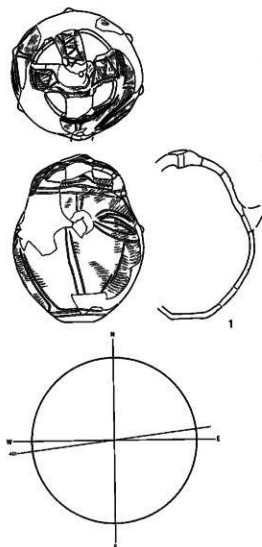


図130 長軸方向

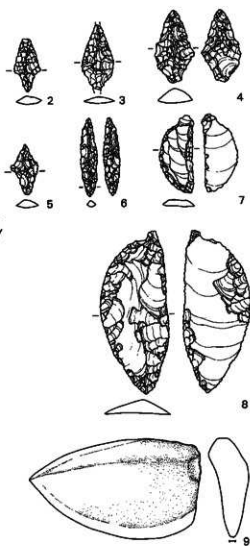


図129 X-4の遺物

に長軸をもつ墓墳1個が検出された(図130)。

本遺構は、位置関係からX-1・3と重複すると思われたが、土層断面から判断することはできなかった。しかし、Ⅱ黒層上面の地形からX-1・3の周境を形成する盛土が、X-4の周境あるいは推定される周境範囲を覆っていることがみとめられている。(青柳文吉)

位置 E₁-63-85-87, E₁-63-95-98, E₂-63-05,-06, E₂-63-15-18

平面形 円形(推定)

規模 周境外径17~18m 竪穴径10~11m

遺物 覆土 土器Ⅱa-2:3, Ⅱb:15, Ⅳb:12, Ⅳc:66, Va:9. 石器ⅠA5:3, ⅠA片:

3, IB1:1, II A2:1, III A3:2, IVA4:1, VA:1, VA片:4, VIA片:5, VII A1:1, IXB:15, XA:1。礫:30。土製品:4。

1 V a 17.6/—×3.3 香炉形の注口土器である。全面に細かい縄文が施され、その上に2本一組の沈線がつけられる。口唇には幅の広い粘土帯が十字に渡され、その交わる中央に貫通孔がある(写真図版36-2)。

2 IA5 (2.8)×1.4×0.5 1.2 Obs. 3 IA5 (3.4)×1.7×0.4 1.5 Obs.

4 IB2 3.8×2.1×0.8 5.0 Obs. 5 IA5 2.6×1.4×0.5 1.1 Obs.

6 IA2 4.2×0.9×0.5 1.5 Obs. 7 III A3 8.5×3.5×0.7 2.2 Sh.

8 III A3 4.1×1.8×0.5 3.9 Sh. 9 VII A— 5.4×9.1×1.8 92.9 Sa.

(36-3)

X-401

推定される竪穴のはは中央から検出された。壁の崩れはなく垂直に立ち上る。墳底は En-a 層中にあり、全面にベンガラが認められた。ベンガラの中に棚状の遺体が確認された。

位置 E₁-63-97

平面形 長楕円形

規模 1.53/2.02×0.86/1.79×0.52

長軸方向 N-83'-E

埋葬体位 西頭位伸展葬

副葬品 なし

覆土 I 黒色土(黒色土>EnP)

II 茶褐色土(d₁+d₂)

III 黄褐色土(EnP)

IV 暗黄褐色土(EnP+EnL)

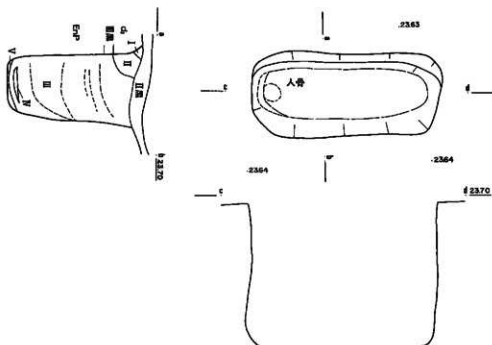


図131 X-401

X-6 (写真図版37-1)

X-2の南西斜面で検出された。Ⅱ黒層上面では、斜面がややテラス状を呈していた。北側はEn-a層中まで掘り込まれているため、明瞭な壁があるが、南半の壁と床面は斜面であるため明らかではない。竪穴の推定径は10m前後である。竪穴の周囲からは、盛土と思われるものは見いだされなかった。

竪穴内からは、北壁寄り2個(X-601・602)、南側斜面上で3個(X-603・604・605)の墓墳と、多数の小ピットが検出された。X-605の墳底からは、小型の壺が出土した。小ピットからも遺物が検出されている(写真図版38-2・3)。

竪穴の立地、周境部がまったく存在しないこと、墓墳配列に規則性が認められないことなど

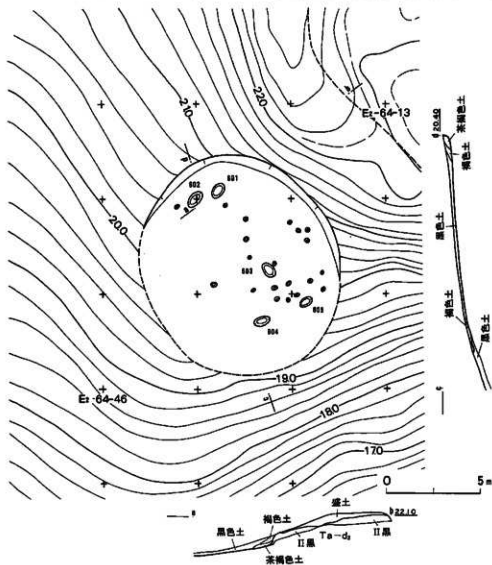


図132 X-6

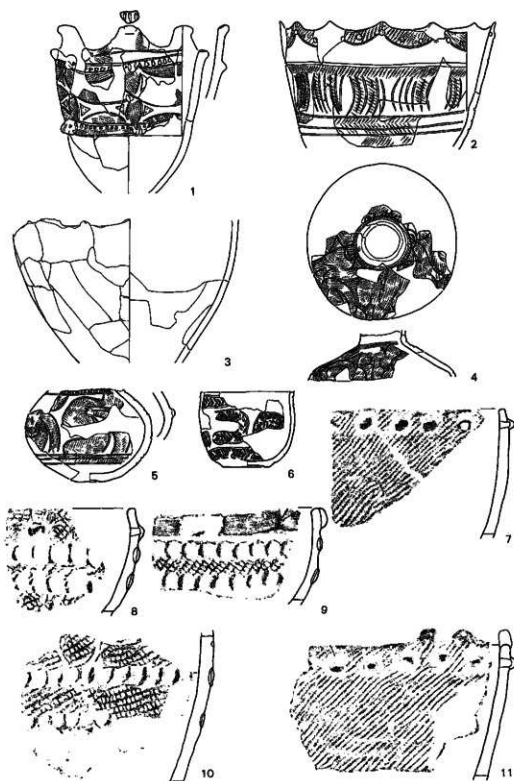


図133 X-6の遺物

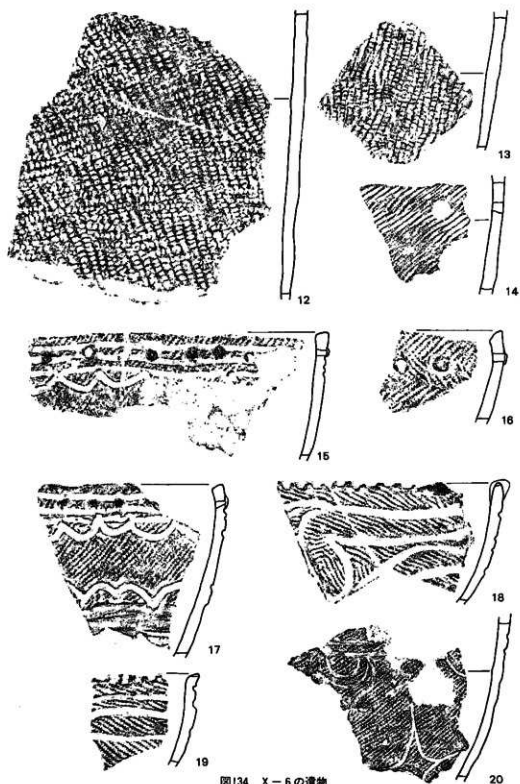


図134 X-6の遺物

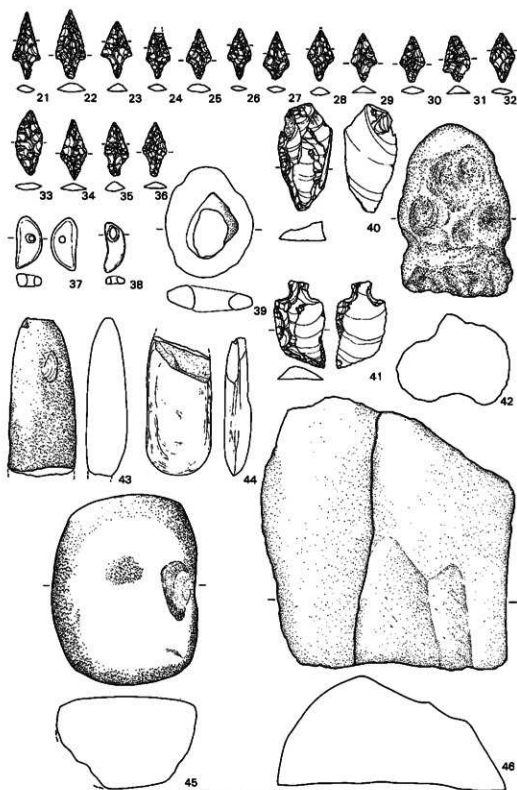


図135 X-6の遺物

から、周堤墓の範疇に含めることには疑問が残る遺構である。

なお、本遺構はX-2の周堤を切つてつくられている。(佐藤和雄)

位置 E₂-64-14, -15, -23-25, -33, -34 平面形 円形(推定)

墓壇 5個

規模 最大深0.42m 竪穴径10~11.00m

遺物 覆土 土器IIa-:2, IIb:1, IIb-1:2, IIIb-3:3, IVa:5, IVb:3, IVc:3, 373, Va:1.024。石器IA3:1, IA4:4, IA5:23, IB片:1, IIIA3:1, IIIA-:1, IIIA片:1, IIIb3:4, IVA片:6, VA:3, VIB片:1, IXB:264, XA:16。礫:65。石製品:5。

1 Va—/14.3×——山形の突起がある。胴部下半は無文(写真図版39-1)。

2 IVc—/22.7×——(39-2) 3 Va (39-3)

4 Va 小型の壺の胴部上半である(39-4)。

5 IVc 胴部最大径13.4cm, 貼瘤がある(39-5)。

6 IVc—/——×5.0 浅鉢で、沈線で区画されたところにハの字状の刺突文が連続して施される(39-6)。

7~20 Va	21 IA5 3.6×2.5×0.5 1.4 Obs.
22 IA5 3.6×1.6×0.5 1.9 Obs.	23 IA5 3.0×1.6×0.5 1.2 Obs.
24 IA5 (2.4)×1.2×0.5 1.0 Sh.	25 IA5 2.6×1.3×0.5 0.8 Obs.
26 IA5 2.7×1.3×0.3 0.6 Obs.	27 IA5 2.5×0.4×0.4 0.9 Obs.
28 IA5 2.7×1.4×0.5 1.0 Obs.	29 IA5 3.5×1.4×0.4 0.7 Obs.
30 IA5 (2.4)×1.3×0.4 0.7 Obs.	31 IA5 (2.4)×1.5×0.4 0.8 Obs.
32 IA4 2.6×2.3×0.3 0.7 Obs.	33 IA4 3.4×1.4×0.4 1.4 Obs.
34 IA4 3.1×1.4×0.4 1.0 Obs.	35 IA5 2.8×1.3×0.4 1.4 Obs.
36 IA5 2.8×1.3×0.3 0.6 Obs.	37 玉 2.7×1.3×0.7 4.5 Jad.
38 勾玉 2.6×1.6×0.6 2.0 Ser.	39 孔穴石 5.8×4.7×1.1 3.3 Mud.
40 IIIA1 4.9×2.7×0.8 9.0 Sh.	41 IIIb3 5.5×2.8×1.1 17.3 Sh.
42 VA 5.0×8.9×5.9 250 And.	43 VA 8.4×3.7×2.3 125.0 Gr-Mud.
44 IVA1 4.9×2.2×0.3 11.2 Che.	45 VA 10.1×7.7×5.2 640.0 Sh.
46 VIIb2 14.0×13.0×7.1 1,455.0 Sa.	(写真図版38-4)

X-601

室内の北壁寄りで検出された。墳底はEn-a層中にあり、南西に頭部を置いた屈葬の状態の遺体が認められた。

位置 E₂-64-23, -24

平面形 楕円形

規模 0.66/1.08×0.87/0.78×0.46

長軸方向 N-58°-E

埋葬体位 南西頭位屈葬

副葬品 なし

- 覆土 I 黒色土 (黒色土 > EnL) II 暗褐色土 (黒色土 + EnP)
 III 暗褐色土 (黒色土 > d₂) IV 黄色土 (EnP)
 V 暗褐色土 (黒色土 + EnL) VI 黄色土 (EnP)
 VII 暗黄褐色土 (EnL > 黒色土)

X-602 (写真図版37-2)

竪穴の北西壁寄り、X-601に隣接したところから検出された。竪底は En-a 層中にあり、

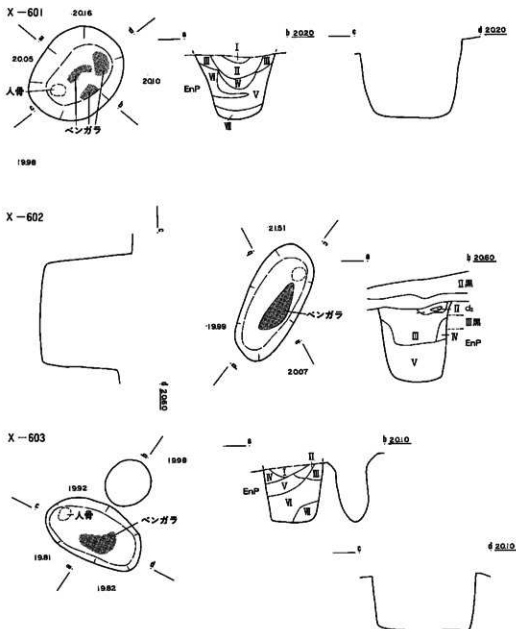


図136 X-601・602・603

頭部を北東壁寄りに置いた側臥屈葬の状態の遺体が認められた。

位置	E ₂ -64-33, -34	平面形	楕円形
規模	0.78/1.23×0.59/1.07×0.43	長軸方向	N-26°-E
埋葬体位	北東頭位側臥屈葬	副葬品	なし
覆土	I 黒色土	II 黄色土 (EnP)	
	III 暗黄褐色土 (EnL>黒色土+d ₂)	IV 黒褐色土 (黒色土+EnL)	
	V 暗褐色土 (黒色土+d ₂ +EnL)		
遺物	覆土 石器 IXB:1, 礫:1,		

X-603

竪穴の中央で検出された。墳底は En-a 層中にあり、北西すみに頭部を置いた遺体が認められた。墓墳の北東に近接して小ピットがあるが、伴うものかどうかは不明である。

位置	E ₂ -64-24	平面形	楕円形
規模	0.49/1.10×0.64/0.97×0.46	長軸方向	N-69°-W
埋葬体位	北西頭位屈葬	副葬品	なし
覆土	I 黒色土 (黒色土>EnP>d ₂)	II 黒褐色土 (黒色土+EnP)	
	III 暗褐色土 (EnP>黒色土)	IV 暗黄褐色土 (黒色土+d ₂ +EnP)	
	V 黒褐色土 (黒色土+EnP>d ₂)	VI 暗黄褐色土 (黒色土>EnP>d ₂)	

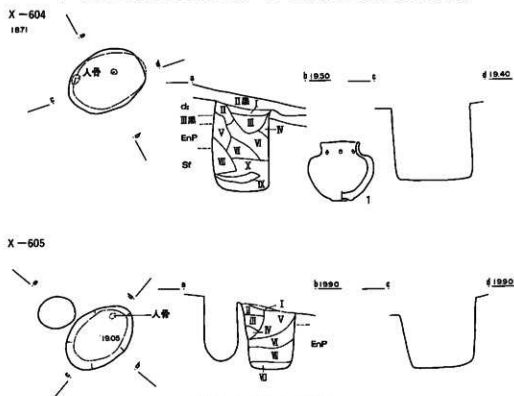


図137 X-604・605と遺物

VII 暗褐色土(黒色土+EnP)

遺物 覆土 土器IVb:1, IVc:18. 底面 土器IVc:6.

X-884

竪穴内の5個の墓壇のうち一番南側、斜面から検出された。墳底はSpfl層中につくられ、壁は垂直である。墳底西壁ぎわに頭部の痕跡が認められ、また中央部からは小型の壺形土器が出土した(写真図版37-3)。

位置 E ₂ -64-25	平面形 楕円形
規模 0.87/0.85×0.61/0.77×0.54	長軸方向 N-66°-E
埋葬位位 西頭位	副葬品 土器(Va):1
覆土 I 黒色土(黒色土+EnP>d ₂)	II 暗茶褐色土(d ₂ +EnP>黒色土)
III 黄褐色土(EnP+Sf>d ₂)	IV 褐色土(EnP>黒色土)
V 橙褐色土(d ₂ +Sf)	VI 暗黄褐色土(Sf>EnP+d ₂)
VII 茶褐色土(黒色土>d ₂ +EnP)	VIII 暗黄褐色土(EnP>d ₂)
IX 黄色土(EnP)	X 暗褐色土(黒色土>EnP+d ₂)

遺物 覆土 土器IVb:1, IVc:15. 石器IXB:1. 礫:1.

1 Va 5.8/4.3×2.0 無文で、磨きがかけられる。底部には高さ2mmほどの高台がつけられる。頭部には、焼成後せん孔された可能性のある8個の穴が、等間隔にめぐる(写真図版38-1)。

X-885

竪穴の東壁が途切れるところの近くで検出された。墳底はEn-a層中にあり、北東すみに頭骨の一部と歯が残存している。その他の部位はとらえられなかった。

位置 E ₂ -64-15	平面形 楕円形
規模 0.65/0.82×0.58/0.71×0.43	長軸方向 N-31°-E
埋葬位位 北東頭位	副葬品 なし
覆土 I 黒色土(黒色土>EnP)	II 茶褐色土(黒色土+EnP)
III 灰褐色土(黒色土+d ₂ >EnP)	IV 黄色土(EnP)
V 暗灰褐色土(EnP>黒色土+d ₂)	VI 暗褐色土(黒色土>EnP+d ₂)
VII 暗灰褐色土(黒色土+d ₂ +EnP)	VIII 暗黄色土(EnP)

3) 周溝付土墳墓

台地上の周溝墓(X-1)の南東に隣接して1基(X-5)、X-1とX-2の周堤部に接するように1基(X-7)が検出された。環状あるいは馬蹄形に溝をつくり、その中央に長楕円形の深い墓壇1個を配した形態の遺構である。

この周溝付土墳墓は、昭和55年度に行なわれた本遺跡の調査でも4基(BS-3~6)が検

出されている。BS-3は、中央部から1個、幅約1.3mの全周する溝底面から10個の墓墳が確認されている。また、溝の周囲には、排土を盛って周堤を形成し、この上にも墓墳が配されている。中央部にマウンド状の高まりをもつ以外は、周堤墓と同様の形態をとる遺構である。BS-4~6は幅30~70cmの環状あるいは馬蹄形の溝をめぐらし、その区画された中央に1個の土墳墓がつくられている。

本年度検出されたX-5は、溝底面にも墓墳が設けられていること、遺構上面が削平されているものの、溝構築時には周堤の存在が推測されることから、BS-3に近い形態のものと考えられる。X-7の溝は浅く、Ta-d層にわずかに届いている。溝幅もX-5に比べ2分の1

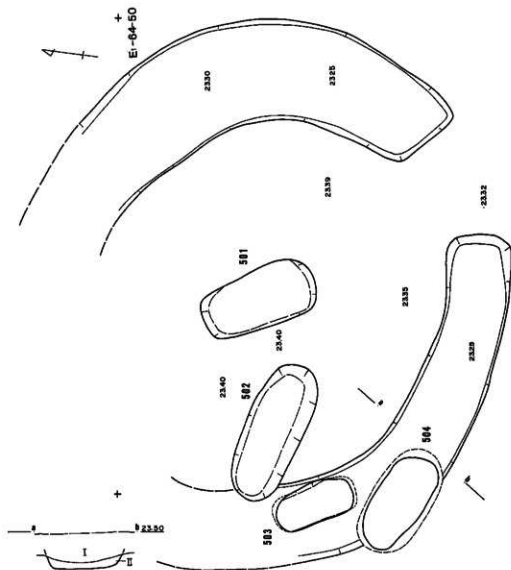


図138 X-5

ほどで、中央の墓墳を区画するだけの機能しかもっていないBS-4~6と同様な形態である。

(佐藤和雄・青柳文吉)

X-5

調査区東端、X-1の南東に隣接する。ほとんどが工事により遺構上部が削平されたため、残存する周溝はわずかである。

Ta-d₃層の精査でプランを確認した。溝底面はEn-a直上層につくられる。現状に溝がめぐると思われるが、北側は不明である。この溝の南東は約1mにわたって明らかに切れている。

溝で区画されたほぼ中央(X-501)と、西側の溝中(X-503)からそれぞれ墓墳が検出された。また、溝の一部を切る状態で2個の墓墳(X-502・504)が検出されたが、これらはX-5本来の墓ではない。

X-501は周溝で掘り残された中央に位置することから、周溝はこのX-501を区画する意味をもったものであろう。周溝内に構築されたX-503は、周溝形成との時間差は感じられない。また、中央のX-501と長軸方向と深さがほぼ一致しており、両者に何らかの関連性をうかがわせる。X-502・504は周溝を切って構築され、覆土の状態・深さ・長軸方向はX-501・503と違ったあり方を呈する。周溝等を意識したものとは考えられない。

位置 E₁-64-50、-60

平面形 円形

規模 溝外径5.5m 溝幅0.65~1.0m

墓墳 4個

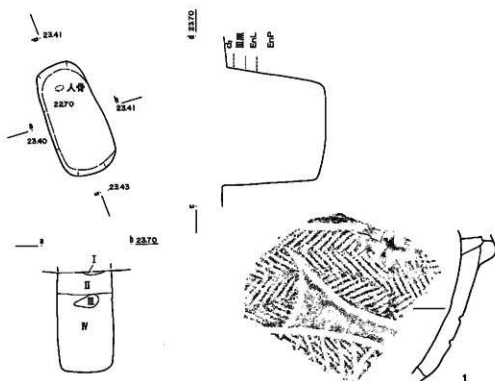
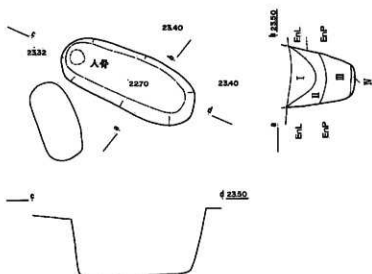


図139 X-501

III 美々4遺跡の調査

X-502



X-503

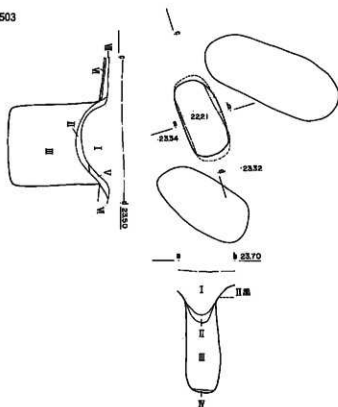


図140 X-502・503

覆土 I 黒色土

II 黒褐色土 (黒色土>EnP)

遺物 覆土 土器IVc:11。

X-501

周溝で区画されたほぼ中央に位置する。工事による削平を受けたため、掘り込み面は不明である。墳底はEn-a層中につくられ、壁はほぼ垂直に立ち上る。底面北すみで、遺体の頭部の痕跡と歯が検出された。また、底面は全面にわたって茶褐色を呈する。

 位置 E₁-64-50

平面形 楕円形

規模 1.06/1.23×0.62/1.08×0.58

長軸方向 N-26'-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 なし

覆土 I 黒色土(黒色土>EnP)

II 黄褐色土(EnP>黒色土)

 III 黒褐色土(黒色土>EnP+d₂)

 IV 黒褐色土(EnP>黒色土+d₂)

遺物 覆土 土器IVb:35。石器IXB:1。礫:1。

1 IVb

X-502

主体部は周溝で区画された部分にあり、X-501の西側に隣接する。墳底はEn-a層中にある。覆土上部は踏み固められたように、堅くしまっている。墳底西すみに頭部の痕跡と思われる空隙があった。遺体は腐食し、残存していない。墳口西側で周溝の壁を切っていることが確認された。

 位置 E₁-64-50

平面形 長楕円形

規模 0.60/1.50×0.62/1.34×0.40

長軸方向 N-74'-W

埋葬体位 推定北西頭位伸展葬

副葬品 なし

覆土 I 黄褐色土(EnL) 堅い

II 黄褐色土

III 黒褐色土(黒色土+EnP)

IV 黒色土

遺物 覆土 土器IVb:2。

X-503

周溝中につくられる。墳底はEn-a層中にあり、壁はほぼ垂直に立ち上る。遺体は残存していないが、底面がX-501のように一面茶褐色を呈する。覆土の一部が周溝の底面に及んでいることから、溝形成後につくられたものである。また、黒色土をほとんど含まない覆土の状態から、溝の形成から時間を経ずに構築されたと推定される。

 位置 E₁-64-50,-60

平面形 長楕円形

規模 1.00/0.84×0.42/0.92×0.35

長軸方向 N-27'-W

埋葬体位 不明

副葬品 なし

覆土 I 黒色土

II 黒色土(黒色土>EnP)

III 黄色土(EnP)

IV 茶褐色土

V 黄色土(EnP)

 VI 暗褐色土(黒色土+d₂+EnP)

VII 褐色土(EnP>黒色土)

(VI・VIIは溝の覆土。)

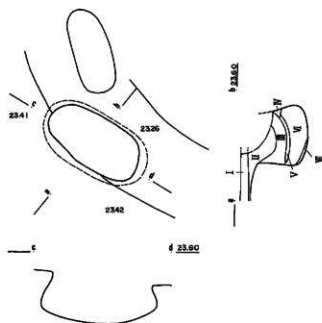


図141 X-504

X-504

主体部は周溝中にあるが、横口西側で溝の壁を切つてつくられている。横底は En-a 層中にあり、遺構断面は横口から横底にかけて広がるフラスコ状を呈する。遺体は検出されなかったが、覆土の状態から墓と推定される。

位置	E ₁ -64-50, -60	平面形	楕円形
規模	0.40/1.06×0.54/1.20×0.63	長軸方向	N-70°-W
埋葬体位	不明	副葬品	なし
覆土	I 黒色土	II	黄褐色土(EnP>黒色土)
	III 暗黄褐色土(黒色土+EnP+d ₂)	IV	暗黄褐色土(EnP+d ₂)
	V 黒色土(黒色土>EnP)	VI	暗黄褐色土(EnP>黒色土+d ₂)

X-7 (写真図版40)

Ta-d₂層上面で確認された。幅25cmほどの溝が環状にめぐらされる。溝の底面は Ta-d₂層にあり、断面はU字形である。溝で区画された中央部に長軸を東西に向けた楕円形の墓墳が設けられている。

位置	E ₁ -64-61, -70, -71	平面形	円形
規模	溝外径: 3.82×3.73m	溝の深さ	: 0.15m
		溝幅	: 0.25m
墓墳	1個		

X-701

溝で区画されたほぼ中央に位置する。横底は En-a 層中につくられ、壁はほぼ垂直に立ち上

る。底面から糊状の遺体が検出された。

位置 E₁-64-71

平面形 長楕円形

規模 0.73/1.20×0.63/0.95×0.52

長軸方向 N-87°-W

埋葬体位 西頭位

副葬品 なし

覆土 I 黒色土(黒色土>EnP)

II 黄褐色土(EnP+EnL>d₂)

III 暗黄褐色土(EnP+EnL+d₂)

IV 暗褐色土(EnL>EnP+d₂)

23.48

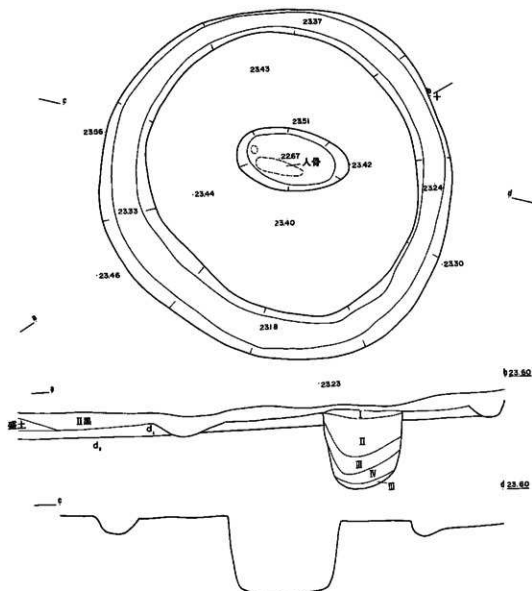


図142 X-7

4) 盛土墓

土壌を設けない墓で、発見時の状況から次の形態に分けられる。遺体の上に盛土を施し、それがマウンド状をなすもの(P-334・342)、埋まり切らない土壌のくぼみに遺体を置くもの(P-313・356・392・396)、Ⅱ黒層上面で掘り込みのない墓としてとらえられたもの(P-335)の3形態である。いずれも、遺体を安置して土で覆ったものと思われる。

マウンド状をなすP-334・342は、周堤墓(X-2) 堅穴の床直上にあり、周堤墓に伴う墓と周堤墓廃棄後につくられた墓を覆っている。ベンガラを敷かれた面からは、遺体の痕跡と、副葬されたと思われる縄文時代晩期初頭(V群a類)の土器・玉・漆器が出土した。

くぼみに遺体を置くP-313・356・396は、斜面にある円形土壌の覆土中から遺体が発出され、それとわかったものである。P-396はV群a類の注口土器を伴う。P-396のある土壌底面からは、再び遺体が発出され、こちらは土壌(P-317)本来のものと確認された。P-392は、周堤墓(X-2)の周堤上から掘り込まれた土壌墓の覆土上面につくられている。

Ⅱ黒層上面で確認されたP-335は斜面下部にあり、楕円形に広がるベンガラ範囲から玉・アンモナイトの一部と思われる化石とともに遺体の痕跡が発出されている。

これらの盛土墓は、出土遺物から縄文時代後期末～晩期に形成されたと考えられる。

P-313

土壌(P-355)の覆土中から遺体を検出した。P-355のくぼみを利用して埋葬が行われたと考えられる。検出された遺体から仰臥であるが、伸展葬か屈葬かは定かでない。くぼみの規模から後者の可能性が高い。胸部と思われるところから台石が出土した(写真図版50-1・2)。

位置 E₂-64-66

平面形 楕円形

規模 0.51/2.15×1.65/1.23×0.84

長軸方向 N-46°-E

埋葬体位 不明

副葬品 孔あき石

覆土 I 黒色土(黒色土>d₁+d₂)

II 暗黄褐色土

III 暗褐色土(黒色土+d₃)

遺物 覆土 土器 Va:29. 石器 IA3:1, VB1:1, 礫:2. 底面 土器 Va:9. 礫:1.

1・2 Va 底面

3 孔あき石 3.4×3.2×2.2 Sa.

4 IA3 2.5×1.6×0.3 1.1 Obs. 5 VB1 (19.0)×22.0×9.5 7000 And.

P-334

周堤墓(X-2)の堅穴北壁寄りの覆土IV・V層中から検出された。Ⅱ黒層上面では若干の高まりとして認められた。掘り込みは伴わず、遺体に約20cm(最高部)の盛土を施している。盛土の一部にはSpfl層起源の灰白色土が使われている。

盛土除去後、ほぼ中央部に部位不明の遺体と、北西側にわずかなベンガラを確認した。この面からはV群a類土器2個体、平玉・勾玉・環状の漆器が出土した(写真図版50-4)。

このP-334除去後、堅穴床面からは墓坑(X-208・214・220)のプランが一部確認された。

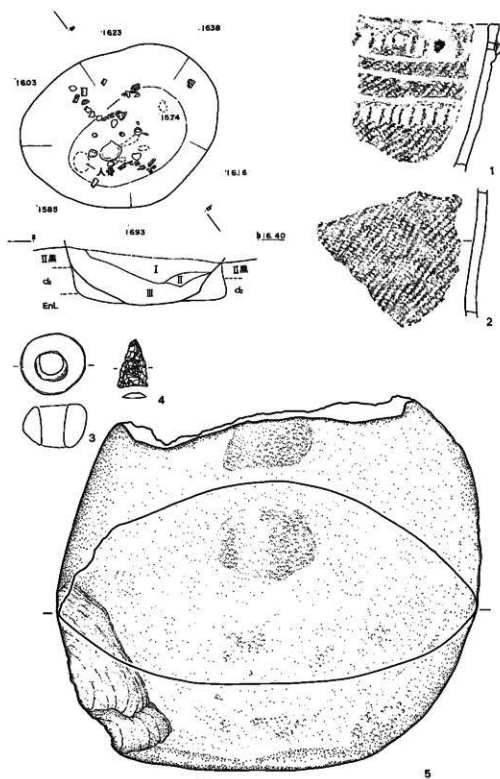


図143 P-313と遺物

位置 E₂-64-01

平面形 楕円形

規模 0.20/3.15×2.85

長軸方向 N-17-W

埋葬体位 不明

副葬品 玉:30, 勾玉:2, 漆器:2

覆土 1 灰白色土 (Sf)

 2 黒色土 (黒色土+d₁)

 3 黒褐色土 (黒色土>d₁)

I 黒褐色土 (黒色土>EnL)

II 黒色土 (黒色土>EnP)

 III 黒褐色土 (黒色土>d₂)

IV 黒色土 (黒色土+EnP)

V 黄褐色土 (EnP>黒色土)

遺物 覆土 土器Ⅲb-3:3, IVc:13, Va:560, 石器IA5:3, ⅢA 3:1, VA片:1, IXB:5, 礫:23.

底面 土器Va:450, 石器ⅢA3:1, VB:1, IXB:1, 礫:3.

1 Va—/6.5×— 注口土器。口縁と胴部上半部に文様帯が限られ, 他は無文である。底面出土。

2 Va—1—×6.0 小型の壺で, 無文。底面出土。

3 玉 径0.6×0.3 0.2 Ser.

4 玉 径1.1×0.4 0.3 Ser.

5 玉 径0.8×0.3 0.2 Ser.

6 玉 径0.8×0.3 0.4 Ser.

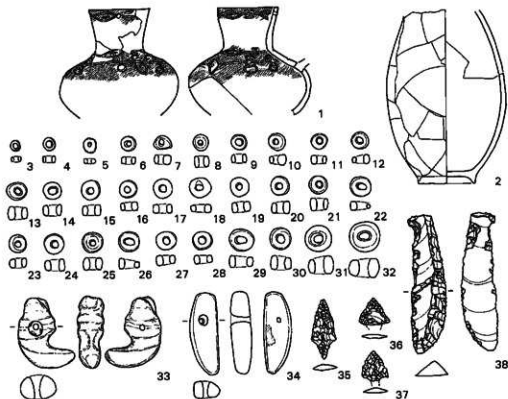


図145 P-334の遺物

ものと考えられる。腐食の進んだ遺体の周囲からはベンガラが検出された。ベンガラの面からは、玉、アンモナイトの化石が出土した（写真図版51-2）。

位置 E₂-64-59 平面形 楕円形
規模 —/0.95×0.44 長軸方向 N-57°-W
埋葬体位 北東頭位 副葬品 玉：11, アンモナイト化石片：1
覆土 I 黒色土 II ベンガラ

遺物 覆土 土器IVb：57, Va：2。石器IA5：1, IIA1：1, IXB：8。礫：1。

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 玉 径1.0×0.6 0.7 Ser. | 2 玉 径1.2×0.4 1.6 Ser. |
| 3 玉 径1.3×0.9 1.8 Ser. | 4 玉 径1.2×0.8 1.7 Ser. |
| 5 玉 径1.5×0.8 2.4 Ser. | 6 玉 径1.4×1.2 2.6 Ser. |
| 7 玉 径1.2×1.1 2.0 Ser. | 8 玉 径1.4×1.2 3.8 Ser. |
| 9 玉 径1.3×1.0 2.4 Ser. | 10 玉 径1.4×1.1 2.6 Ser. |
| 11 玉 径1.5×1.2 3.4 Ser. | 12 アンモナイト化石片 |
| 13 IA5 2.4×1.3×0.4 0.6 Sh. | 14 IIA1 2.3×2.3×0.7 2.6 Sh. |

（写真図版51-3）

P-342

周墳墓(X-2)の堅穴西壁寄りの覆土中から検出された。明瞭な盛土とはとえられなかった。遺体は残存せず、ベンガラの範囲がみとめられただけである。この面から、玉、漆器などの副葬品が出土した。

このP-342除去後、土墳墓(X-219)のプランが確認された。

位置 E₂-64-12 平面形 楕円形
規模 0.25/2.27×2.05 長軸方向 N-29°-W
埋葬体位 不明 副葬品 すり石(VIA片)：1, 玉：55, 垂飾：1,
土製品：1, 孔あき石：4, 漆器：2

覆土 I 黄褐色土 (EnL>EnP) II 暗灰褐色土 (EnL+EnP)
III 暗黄色土 (EnP) VI 黒色土

遺物 土器IVb：71, IVc：157。石器IVA1：1。礫：1。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 玉 径0.9×0.5 0.5 Ta. | 2 玉 径1.0×0.4 0.2 Ser. |
| 3 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser. | 4 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser. |
| 5 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser. | 6 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser. |
| 7 玉 径0.7×0.4 0.2 Ser. | 8 玉 径0.7×0.4 0.1 Ser. |
| 9 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser. | 10 玉 径0.7×0.3 0.1 Ser. |
| 11 玉 径0.7×0.4 0.1 Ser. | 12 玉 径0.6×0.2 0.1 Ser. |
| 13 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser. | 14 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser. |
| 15 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser. | 16 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser. |

- 27 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 28 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser.
 29 玉 径0.7×0.2 0.2 Ser.
 30 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser.
 31 玉 径0.6×0.4 0.1 Ser.
 32 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 33 玉 径0.5×0.3 0.2 Ser.
 34 玉 径0.5×0.3 0.1 Ser.
 35 玉 径0.6×0.4 0.1 Ser.
 36 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 37 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 38 玉 径0.6×0.2 0.2 Ser.
 39 玉 径0.6×0.5 0.3 Ser.
 40 玉 径0.6×0.5 0.2 Ser.
 41 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 42 玉 径0.7×0.4 0.3 Ser.
 43 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 44 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser.
 45 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 46 玉 径0.6×0.3 0.2 Ser.
 47 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 48 玉 径0.6×0.3 0.2 Ser.
 49 玉 径0.6×0.3 0.2 Ser.
 50 玉 径0.7×0.4 0.2 Ser.
 51 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 52 玉 径0.6×0.3 0.1 Ser.
 53 玉 径0.5×0.2 0.2 Ser.
 54 玉 径0.6×0.4 0.2 Ser.
 55 玉 径0.6×0.4 0.1 Ser.
 56 石製品 2.0×1.1×1.0 Jad.
 57 土製品 径3.4×1.3
 58 孔あき石片 Mud.
 59 孔あき石 3.1×2.6×0.2 16.5 Mud
 60 孔あき石 4.0×2.9×1.8 20.5 Mud
 61 孔あき石 4.9×4.5×1.7 38.6 Mud.

(写真図版52-3・53-1)

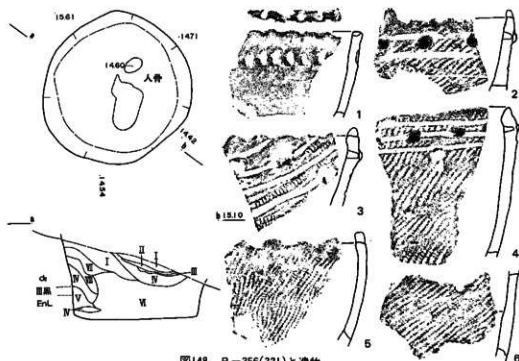


図148 P-356(321)と遺物

P-356

斜面で検出された円形土坑（P-321）のくぼみから、遺体が検出された。遺体は、北頭位で屈葬の状態である。

位置 E₂-64-17

平面形 円形

規模 0.25/0.80×0.80

埋葬体位 北頭位屈葬

副葬品 なし

覆土 I 黒色土

II 暗黒褐色土（黒色土+EnP）

III 人骨

VI 赤褐色土（d₂+黒色土）

遺物 覆土 土器IVb: 2, IVc: 25, Va: 20。 1-3・5・6 Va 4 IVc

P-392

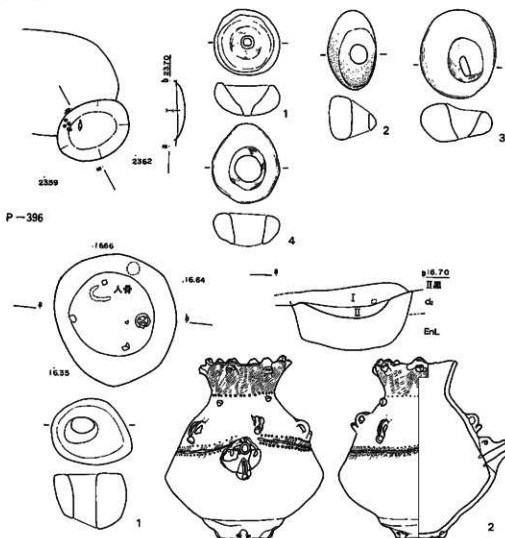


図149 P-392・396と遺物

P-392

周堤墓(X-2)の周堤上から掘り込まれた土墳墓(P-376)のくぼみに、埋葬が行なわれたものである。遺体は残存せず、ベンガラの広がり、ベンガラ面から漆器、石製品が検出されている。

位置 E₁-64-90, E₂-64-00

平面形 不明

規模 不明

埋葬体位 不明

副葬品 漆器:1, 孔あき石:1, 有孔石製品:3

覆土 I 赤褐色土(d₂が主体で、ベンガラを含む)

遺物 1 有孔石製品 径3.5×13.0 13.0 Mud. 2 孔あき石 4.2×2.7×2.1 19.0 Mud.
3 有孔石製品 4.7×4.1×2.0 33.0 Sa. 4 有孔石製品 4.3×3.6×0.2 25.0 Mud.

(写真図版53-2)

P-396

斜面で検出された土墳墓(P-317)の覆土上面で遺体が確認された。くぼみに埋葬が行なわれたものである。遺体の直上からは、注口の付いた壺形の土器が出土した(写真図版53-3)。完形であるが、底部の一部が打ち欠かされている。

位置 E₂-64-66

平面形 円形

規模 —/0.90×0.85

埋葬体位 北頭位

副葬品 土器(Va):1, 孔あき石:1

覆土 I 黒色土

II 黒色土(黒色土>d₂)

遺物 1 孔あき石 4.5×3.6×3.3 40.0 Sa.
2 Va 19.2/9.0×5.7 注口土器。口唇上に小さな瘤がめぐられる。縄文・刺突文・沈線で形成された文様帯は、口縁部と胴部上半の一部に限られ、他は無文。また、胴部文様帯の上部には紐を通すような孔がつけられている(写真図版53-4)。

5) 墓および墓の可能性のある土墳

周堤墓堅穴内の墓墳・周溝付土墳墓内の墓墳・盛土墓以外の単独の土墳墓と、規模、平面形や覆土の堆積状態から墓の可能性があると判断される土墳は63個で、調査区の全域から検出された。

台地上では周堤墓(X-1, 2)の周囲に濃く分布する。とくに周堤の範囲で検出された墓には、周堤形成前につくられたものと、周堤形成以後にその上から掘り込まれたものがある。

X-1の周堤下から検出されたP-362の墳口からは、縄文時代後期(IV群b類)の土器が出土した。周堤上から掘り込まれているP-352・361・371~374は、墓墳長軸が環状を呈する周堤に沿ってつくられる。P-373の底面からは女性を象った土偶が出土した。

X-2の周堤上から掘り込まれた墓は12個で、P-395以外は墓墳長軸が周堤に沿う傾向が認

められる。これらの墓の大半からは副葬品が出土しており、土器・石鐏・石錐・石斧・孔あき石・石棒・櫛・漆器・玉・サメの歯等、多彩である。P-383には、円礫が二重の環状に配置され、さらにその中ほどから角柱礫が検出されている。また、P-378の墳口からは晩期初頭(V群a類)の土器が9個体、周堤に沿わないP-395の墳口からは3個体の土器が出土した。

P-391の掘り込み面はとらえられなかったが、平面形・規模がP-362あるいはX-3の周堤下で検出されたP-346と類似することから、周堤形成以前の墓と判断される。

周堤範囲外から検出された墓には墳底に炭化材が敷きつめられた例(P-306)、貝製の玉が人骨と密着して出土した例(P-399)などがある。

斜面で検出された墓は25個で、墓墳長軸がほぼ北～南をとるP-328・333・341のほかは、そ

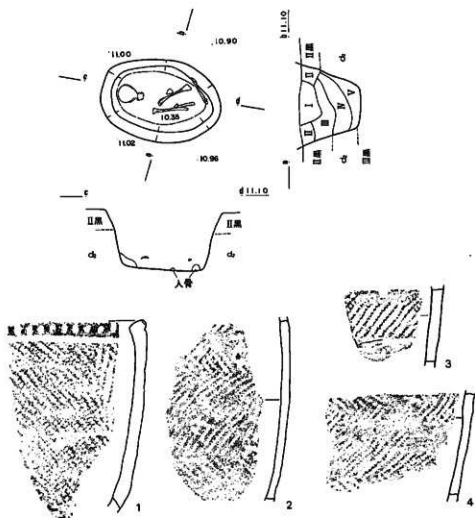


図150 P-301と遺物

の長軸が等高線に沿ってつくられている。副葬品が伴う墓はすくなく、P-325で壺形土器、P-368で勾玉、漆器が検出されたのが主なものである。

P-301 (写真図版41-1)

Ⅱ黒層上面で確認された。墳底はEn-a層中につくられ、壁の立ち上りは緩やかである。仰臥屈葬と判断される遺体が検出された。

位置 F₁-64-39

平面形 楕円形

規模 0.67/1.28×0.87/1.04×0.54

長軸方向 N-84°-W

覆土 Ⅰ 暗褐色土 (黒色土>d₂)

Ⅱ 黒色土

Ⅲ 褐色土 (d₂>黒色土)

Ⅳ 暗茶褐色土 (d₂+黒色土)

V 黒褐色土 (黒色土>d₂)

遺物 覆土 土器IVb: 2, IVc: 23, Va: 1。石器XA: 1。礫: 1。

1・2 IVb 3・4 IVc

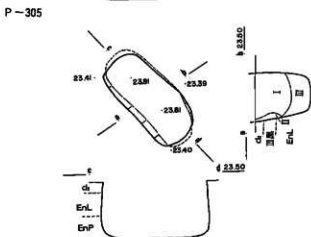
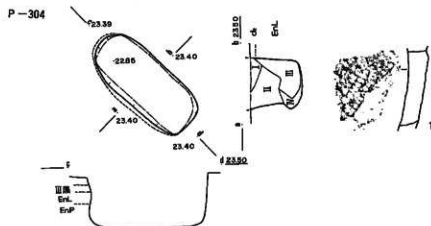


図151 P-304・305と遺物

P-304

墓の可能性がある。壁の崩れはなく、ほぼ垂直に立ち上る。墳口付近は工事により削平を受ける。

位置	E ₁ -63-58, -59	平面形	楕円形
規模	0.55/1.30×0.55/1.15×0.45	長軸方向	N-61°-W
覆土	I 黒褐色土 (黒色土>EnL+d ₂)	II 暗黄褐色土 (黒色土+d ₂ +EnL) 堅い	
	III 暗黄褐色土 (黒色土+d ₂ +EnL)	IV 黒色土 (黒色土>EnL+d ₂)	
遺物	覆土 土器Ⅱa-2 : 1。	1	Ⅱa-2

P-305

墓の可能性がある。壁の崩れはなく、垂直に立ち上る。墳口は工事により削平される。

位置	E ₁ -63-58	平面形	楕円形
規模	0.62/1.10×0.50/1.05×0.45	長軸方向	N-50°-W
覆土	I 暗黄褐色土 (黒色土+d ₂ +EnL)	II 黄色土 (EnP)	
	III 黄色土 (EnL>EnP)		

P-306

墳底には炭化材が敷かれるように一面に検出された。炭化材の一部は、壁に沿って立ち上るのが認められた(写真図版41-2)。覆土の状態から墓の可能性のあるものと判断される。遺体は確認されなかった。墳口は工事により削平されている。

位置	E ₁ -64-51	平面形	楕円形
規模	0.57/1.20×0.67/1.05×0.59	長軸方向	N-27°-W
覆土	I 黒褐色土 (黒色土>EnP)	II 赤褐色土 (d ₂)	
	III 暗褐色土 (EnP>黒色土)	IV 灰黄褐色土 (EnL+黒色土)	
	V 黒色土 (黒色土>EnP+d ₂)		

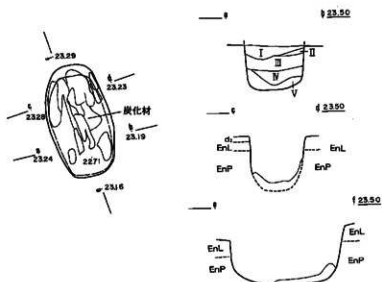
遺物 底面 炭化材

P-307

壁の崩れなく、立ち上りは急である。底面にベンガラが薄く認められ、その直上に径2~3cmのリング状の漆器が連なるように検出された(写真図版41-3)。保存状態はきわめて悪い。

位置	E ₁ -63-59	平面形	楕円形
規模	0.55/1.25×0.65/1.25×0.53	長軸方向	N-84°-W
埋葬体位	不明	副葬品	漆器
覆土	I 暗黄褐色土 (EnL>d ₂ +EnP)	II 灰黒褐色土 (黒色土>EnP+d ₂)	
	V 黒色土 (墳底は薄赤味がある。)		
遺物	覆土 土器Ⅲb-1 : 7, IVb : 5, 曜 : 1。	1~3	Ⅲb-1

P-306



P-307

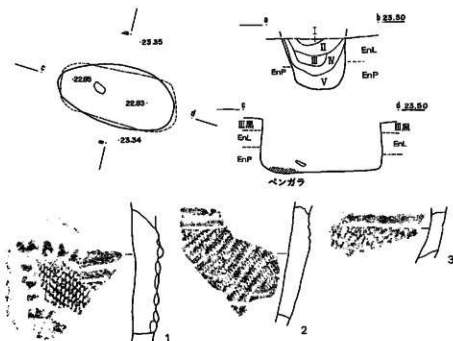


図152 P-306・307と遺物

P-308

工事による削平のため墳底に近い部分のみを検出したにとどまった。部分的にベンガラがうすく分布している。

位置 E₁-64-51

平面形 槽円形

規模 0.17/1.03×0.56/0.90×0.43

長軸方向 N-26°-W

埋葬体位 不明

副葬品 なし

覆土 I 黒褐色土 (黒色土+EnL>d₂)

遺物 覆土 石器IVA5:1 礫:1

1 IVA5 4.1×3.6×0.9 25.0 Sch.

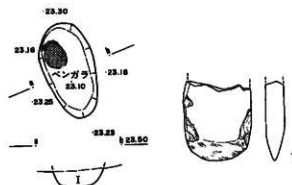
P-310

墓の可能性はある。壁の立ち上りは緩やかである。

位置 F₁-64-67

平面形 槽円形

P-308



P-310

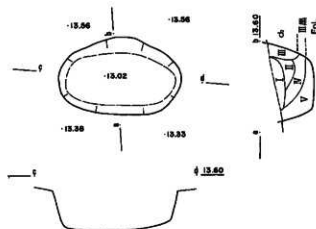


図153 P-308・310と遺物

規模 0.44/1.30×0.81/1.16×0.54

長軸方向 N-101'-E

覆土 I 黒色土 (黒色土>d_g)

II 褐色土 (EnL+d_g)

III 赤褐色土 (d_g)

IV 暗褐色土 (黒色土+d_g+EnL)

V 赤褐色土 (d_g>EnL)

P-311

底面は丸みをもち、壁は緩やかに立ち上る。墳底の西すみから頭骨の一部が検出された。

位置 F₁-64-45

平面形 楕円形

規模 0.40/1.45×0.73/1.16×0.59

長軸方向 N-82'-E

埋葬体位 西頭位

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土>d_g)

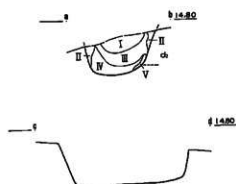
II 褐色土 (d_g)

III 暗褐色土 (黒色土>d_g+EnL)

IV 暗黄褐色土 (黒色土+EnL)

V 黒色土

P-311



P-312

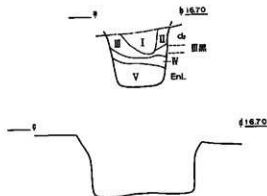
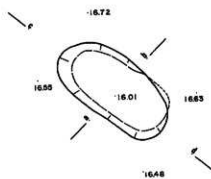


図154 P-311・312

P-312

墓の可能性はある。

位置 E₂-64-73

平面形 楕円形

規模 0.58/1.33×0.65/1.12×0.66

長軸方向 N-57°-E

覆土 I 褐色土 ($d_2 > \text{EnP}$)

II 褐色土 (d_2)

III 黄褐色土 ($\text{EnL} + d_2 > \text{EnP}$)

IV 暗褐色土 ($\text{EnL} > d_2 + \text{EnP}$)

V 淡黄褐色土 ($\text{EnL} + \text{EnP} + d_2$)

P-314

墓の可能性はある。II黒層中で確認された。

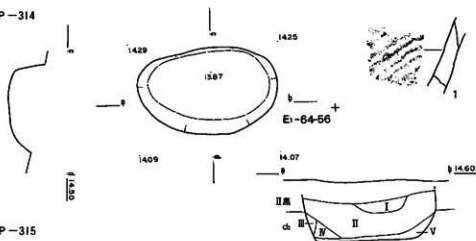
位置 F₁-64-56

平面形 楕円形

規模 0.41/1.49×0.91/1.3×0.7

長軸方向 N-80°-E

P-314



P-315

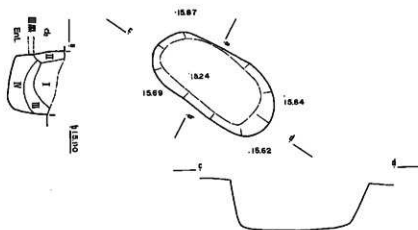


図155 P-314・315と遺物

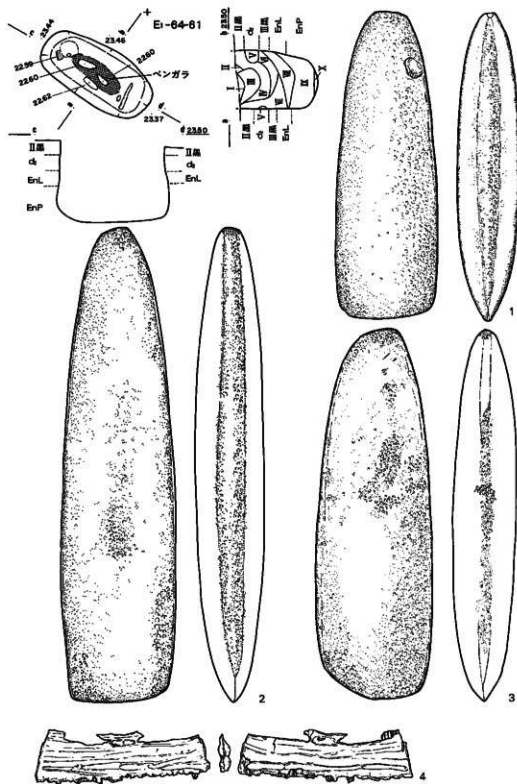


図156 P-316と遺物

- 覆土 I 褐色土 ($d_2 + \text{EnL}$) II 暗褐色土 ($\text{EnL} > d_2$)
 III 褐色土 (d_2) IV 黄褐色土 ($\text{EnL} > d_2$)
 V 黒色土 (黒色土 $> d_2$)

遺物 覆土 土器Ⅲb-3: 1, IVc: 2, Va: 1。石器 IXB: 7, 礫: 1。

1 Ⅲb-3

P-315

墓の可能性がある。

- 位置 $E_2-64-76, -77, -67$ 平面形 楕円形
 規模 $0.50/1.44 \times 0.71/1.16 \times 0.57$ 長軸方向 N-60°-W
 覆土 I 黒色土 (黒色土 $> d_2$) II 褐色土 ($\text{EnL} > \text{黒色土}$)
 III 灰褐色土 ($\text{EnL} + \text{黒色土} + d_2$) IV 黄褐色土 ($\text{EnL} + d_2$)

P-316

墳底は En-a 層中にあり、壁はほぼ垂直に立ち上る。墳底全面にベンガラがみとめられ、その中に埋もれるように頭骨と四肢骨の一部が確認された。遺体の頭部から朱塗りの髷、胴部に当るところからは石斧が3本出土した (写真図版41-5)。

- 位置 $E_1-64-61$ 平面形 楕円形
 規模 $0.88/1.08 \times 0.64/1.18 \times 0.43$ 長軸方向 N-67°-W
 埋葬体位 北西頭位屈葬 副葬品 石斧 (IVA2): 3, 櫛: 1
 覆土 I 黒色土 (黒色土 + EnP) II 暗黄褐色土 ($\text{EnP} > \text{黒色土}$)
 III 黄色土 (EnP) IV 黒色土 (黒色土 + EnP)
 V 橙色土 (d_2) VI 橙褐色土 ($d_2 > \text{黒色土}$)
 VII 黄褐色土 ($\text{EnP} > \text{黒色土}$) VIII 黒褐色土 (黒色土 + $\text{EnP} + \text{EnL}$)
 IX 黄褐色土 ($\text{EnP} + \text{EnL}$) X ベンガラ

遺物 1 IVA2 14.3 $\times$ 5.4 $\times$ 3.2 480.0 Gr-Mud. 2 IVA2 24.4 $\times$ 6.1 $\times$ 3.5 910.0 Gr-Mud.
 3 IVA2 24.0 $\times$ 6.2 $\times$ 3.3 660.0 Gr-Mud. 4 櫛 - $\times$ 9.2 $\times$ 0.7 (写真図版41-5)

P-317 (写真図版53-5)

Ⅱ黒層の調査時点で遺体が検出された。さらに掘り進めると土壌のプランとその墳底から遺体が確認され、墓が重複していることが分かった。先に作られた墓をP-317とし、その上にある埋葬遺体をP-369とした。平面形はほぼ円形で、壁の立ち上りは急である。北西すみに頭骨が検出された。

- 位置 $E_2-64-56, -66$ 平面形 円形
 規模 $0.47/1.36 \times 1.26/1.10 \times 0.94$
 埋葬体位 北西頭位 副葬品 なし
 覆土 I 黄褐色土 ($\text{EnL} + d_2$) II 黒色土 (黒色土 $> d_1 + d_2$)
 III 褐色土 ($\text{EnL} > d_2$) IV 黒色土 (黒色土 $> d_2$)

V 橙褐色土

VI 茶褐色土

VII 褐色土 ($EnL + d_2$)

VIII 淡橙褐色土 ($EnL > d_2$)

P-318

墓の可能性ある。掘り込み面はⅡ黒層上面である。墳底は丸みをもち、壁の立ち上りは急である。

位置 F₁-64-67, -77

平面形 楕円形

規模 0.70/1.36×0.68/1.04×0.48

長軸方向 N-79°-E

覆土 I 黒色土 ($黒色土 > d_2$)

II 褐色土 ($EnL > d_2$)

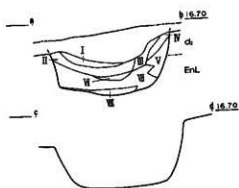
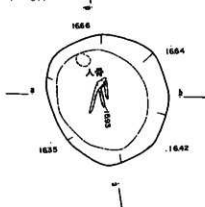
III 暗褐色土 ($黒色土 + EnL$)

IV 暗黄褐色土 ($EnL + d_2$)

V 暗茶褐色土 ($黒色土 + EnL + d_2$)

遺物 覆土 石器 IXB: 2。

P-317



P-318

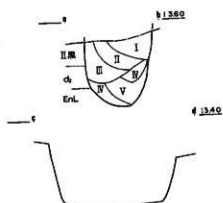
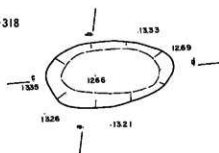


図157 P-317・318

P-319

壁の立ち上りは急で、北側は狭口近くでややオーバーハングする。北西の壁近くで頭部と思われる痕跡が認められた。

位置 E₂-64-47

平面形 楕円形

規模 0.85/1.30×0.67/1.10×0.53

長軸方向 N-63°-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 なし

覆土 I 暗黄色土 (EnP)

II 暗黄色土 (EnL+EnP>d₂)

III 暗褐色土 (黒色土<EnP+d₂) IV 黄褐色土 (EnL+EnP)

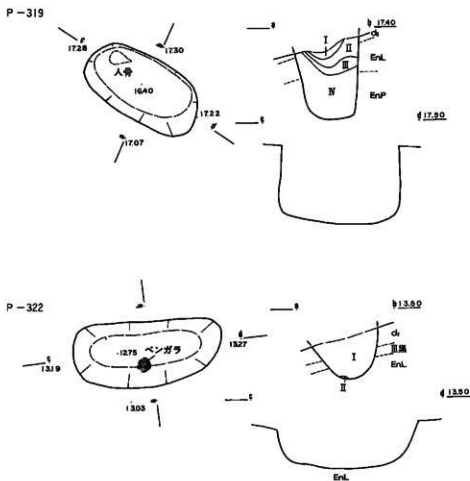


図158 P-319・322

P-322

墓の可能性がある。墳底は丸みをもち壁の立ち上りは緩やかである。墳底南すみにベンガラと思われる褐色土ブロックが検出された。

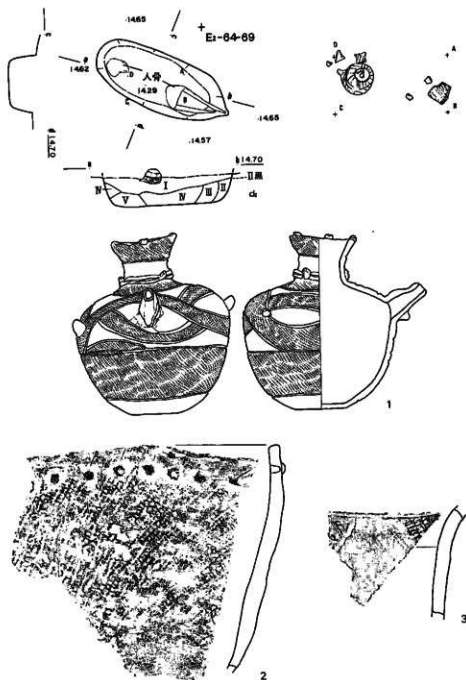


図159 P-325と遺物

位置 E₁-64-57

平面形 楕円形

規模 0.45/1.55×0.70/1.18×0.35

長軸方向 N-79°-E

覆土 I 暗褐色土 (黒色土+d₂)

II 褐色土 (ベンガラ?)

P-325 (写真図版42-2)

墳底は Ta-d₂層中につくられる。人骨の残存状態から仰臥伸展葬と思われる。墳口付近から壺形の注口土器が出土した (写真図版42-1)。

位置 E₂-64-69

平面形 楕円形

規模 0.29/1.53×0.59/1.22×0.50

長軸方向 N-74°-W

埋葬体位 北西頭位仰臥伸展葬?

副葬品 土器 (Va): 1

覆土 I 黒褐色土 (黒色土>d₂)

II 暗茶褐色土 (黒色土>d₂)

III 暗褐色土 (黒色土>d₂)

IV 茶褐色土 (黒色土>d₂)

V 黒色土 (黒色土>d₂)

遺物 覆土 土器IVb: 10, IVc: 4, Va: 3。石器IXB: 1。

1 Va 18.0/7.2×5.3 (写真図版42-3) 2・3 Va

P-327

墓の可能性ある。周溝付土墳墓 (X-7) の東側に近接する。

位置 E₁-64-60, -61

平面形 楕円形

規模 0.55/1.05×0.60/0.88×0.43

長軸方向 N-65°-W

覆土 I 黄褐色土 (EnP>EnL+d₁)

II 暗褐色土 (d₂>EnL)

III 褐色土 (EnL>d₂+EnP)

IV 黒色土 (黒色土>d₂+EnL)

V 暗褐色土 (d₂+EnL+EnP)

VI 灰褐色土 (d₂+EnP)

遺物 覆土 礫: 1。

P-328

東壁はP-117 (I 黒層の遺構) により切られる。遺体の状態から側臥屈葬と思われる。頭骨付近に、つまみ付きナイフが副葬されている。

位置 E₂-64-59

平面形 楕円形

規模 0.46/1.32×0.82/1.19×0.69

長軸方向 N-10°-W

埋葬体位 北頭位側臥屈葬

副葬品 つまみ付きナイフ (IIIA5): 1

覆土 I 暗褐色土

遺物 覆土 土器IVb: 2, IVc: 3, Va: 2。石器IIA3: 1, IVB1: 1

1・2 Va

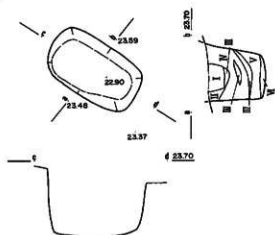
3 IVA 13.7×2.7×1.3 82.0 Sch.

4 IIIA5 (4.3)×4.9×1.3 16.6 Sh 底面 5 IIA3 3.4×2.6×0.6 2.4 Obs.

P-333

墓の可能性ある。墳底は丸みをもち、壁は緩やかに立ち上る。墳底から獣骨片が検出された。

P-327



P-328

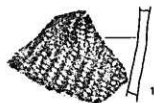
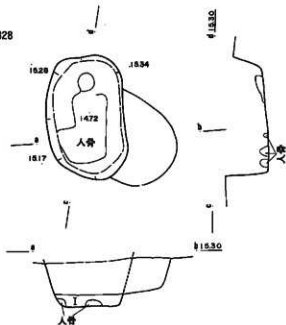


図160 P-327・328と遺物

位置 F ₁ -64-48	平面形 楕円形
規模 0.43/1.25×0.66/0.99×0.42	長軸方向 N-35°-W
覆土 I 褐色土 (EnL+d ₁)	II 暗褐色土 (黒色土>EnL+d ₂)
III 褐色土 (d ₁)	IV 淡黒色土 (黒色土>d ₂)
V 黒色土 (黒色土>d ₁ +d ₂)	

遺物 覆土 土器IVb: 8, IVc: 2。石器IXB: 4。礫: 4。

P-337

確認面は墳底に近い。墳底はEn-aローム層中にあり、平坦である。西すみに頭骨が残存する。

位置 E ₁ -64-36	平面形 楕円形
規模 0.30/1.45×0.98/1.25×0.90	長軸方向 N-77°-E
覆土 I 黒褐色土 (黒色土>d ₂ +EnP)	II 赤褐色土 (d ₂)
III 暗黄褐色土 (EnL+d ₂)	IV 暗黄褐色土 (EnL)
遺物 覆土 土器IIb-1: 1。	

P-341

墳底はEn-a層中につくられ丸みを持ち、墳口に比べ狭く東西断面はV字状である。遺体は、下肢を折り曲げるような状態で検出された。

位置 E ₁ -64-75	平面形 楕円形
規模 0.75/1.20×0.70/0.75×0.25	長軸方向 N-9°-W
埋葬体位 北頭位側臥屈葬	副葬品 なし
覆土 I 黒色土	II 黄色土 (EnL)
III 褐色土 (EnL+d ₂)	IV 黒色土 (黒色土+d ₂)
V 褐色土 (EnL+d ₂ +黒色土)	

P-344

II黒層の下部に近いところに掘り込み面が確認された。壁の崩れなく、ほぼ垂直に立ち上る。頭骨が墳底の西すみで確認された。保存状態は良くない。

位置 F ₁ -64-88	平面形 楕円形
規模 0.90/1.83×0.96/1.59×0.69	長軸方向 N-83°-E
埋葬体位 西頭位	副葬品 なし
覆土 I 黒色土	II 黒色土 (d ₁)
III 黄褐色土 (EnL+d ₂)	IV 褐色土 (EnL+III黒+d ₂)
V 黒褐色土 (黒色土+d ₂)	VI 黒色土

遺物 覆土 土器IIIb-3: 4。IVb: 4。石器IIA2: 1, IXB: 2, 礫: 2。

1 IIA2 2.7×1.0×0.7 1.8 Sh.

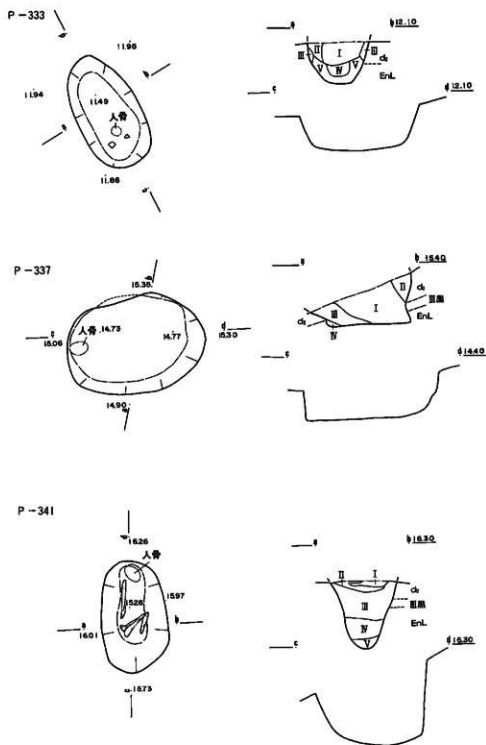


図161 P-333・337・341

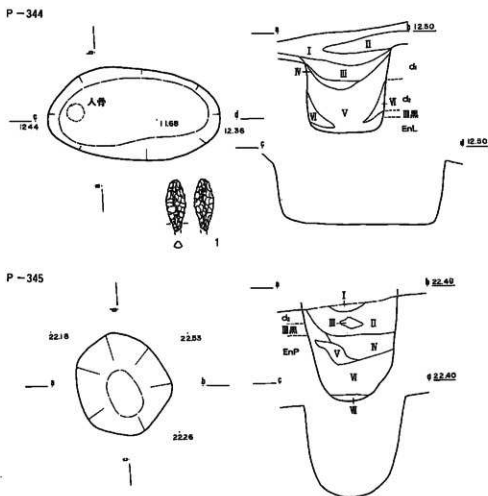


図162 P-344・345と遺物

P-345

覆土の状態、平面形が、隣接する墓（P-346）に類似することから墓の可能性がある。墳底はボウル状で、壁の立ち上りは急である。

位置 E₂-63-58

平面形 不整形円形

規模 1.02/1.08×1.00/0.48×0.33

長軸方向 N-31°-W

覆土 I 黒色土

II 橙褐色土 (d₂>EnP)

III 黒色土

IV 明褐色土 (EnP+d₂)

V 黒色土 (黒色土>d₂)

VI 黄色土 (EnP)

VII 暗褐色土 (黒色土>EnP)

P-346

墳底はEn-a層中につくられ、丸みをもつ。壁の立ち上りは急である。底面からベンガラ

と、腐食の著しい遺体が検出された。周堤墓 (X-3) の周堤除去後確認された墓である。

位置 E ₂ -63-48	平面形 不整円形
規模 0.88/1.04×0.95/0.72×0.58	長軸方向 N-45°-W
埋葬体位 不明	副葬品 なし
覆土 I 黒色土 (黒色土>d ₂ +EnP)	II 橙褐色土 (d ₂ +EnP)
III 黒色土	IV 褐色土 (d ₂)
V 暗褐色土 (黒色土+d ₂ +EnP)	VI 黄色土 (EnP)
VII 暗褐色土 (EnL>EnP)	

P-348

墓の可能性がある。

位置 E ₂ -63-35	平面形 不整円形
規模 0.23/0.91×0.79/0.45×0.43	
覆土 I 灰褐色土 (EnL+d ₂)	II 黒色土 (黒色土>d ₂)
III 暗灰褐色土 (EnL>d ₂)	IV・V 褐色土 (d ₂)

P-350

墓の可能性がある。墳底に小ビットが2個検出された。周堤墓 (X-3) の周堤上から掘り込まれた可能性もあるが判然としない。

位置 E ₂ -63-25, -26	平面形 楕円形
規模 0.22/1.23×1.08/0.94×0.81	長軸方向 N-45°-W
覆土 I 黒色土 (黒色土>d ₁ +d ₂)	II 橙褐色土 (d ₂ +EnL)
III 褐色土 (d ₂)	IV 褐色土 (EnL>d ₂)
V 暗褐色土 (黒色土+d ₂)	VI 黒褐色土 (黒色土>d ₂)

遺物 覆土 土器IVc: 1。

P-352

墓の可能性がある。

位置 E ₁ -63-87, -88	平面形 楕円形
規模 0.28/1.05×0.72/0.93×0.58	長軸方向 N-70°-E
覆土 I 黒色土	II 褐色土 (黒色土>d ₂)
III 黒色土 (黒色土>d ₂)	IV 橙褐色土 (d ₂ +EnL)
V 黒色土	VI 褐色土 (d ₂)

P-361

周堤墓 (X-1) の周堤上につくられている。墳底にはベンガラが認められた。

位置 E ₁ -63-88	平面形 楕円形
規模 0.76/1.15×0.85/1.05×0.76	長軸方向 N-1°-W
覆土 I 橙褐色土 (d ₂ >黒色土)	II 黒色土 (黒色土>d ₂)

II 黒色土 (黒色土 $>d_2$)

IV 黒色土

遺物 覆土 土器IIIb-3: 1, IVc: 1, Vb: 1。石器XA: 1。礫: 2。

P-362

墓の可能性ある。墳底はEn-a層中につくられ平坦で、壁は上部が大きく開く。周堤墓(X-1)の周堤が上部を覆う。南側壁の一部は小土墳(P-363)の一部を切っている。

位置 $E_1-63-69$

平面形 楕円形

規模 $0.75/1.30 \times 1.00/0.70 \times 0.50$

長軸方向 N-72°-W

覆土 I 橙褐色土 ($d_2 > \text{黒色土} > \text{EnP}$) II 暗褐色土 (黒色土 $>\text{EnL}$)

III 黒色土 (黒色土 $>\text{EnL} > \text{EnP}$) IV 暗褐色土 (黒色土 $>\text{EnL}$)

V 黄褐色土 ($\text{EnL} > \text{EnP}$) VI 暗黄褐色土 ($\text{EnL} + d_2 + \text{黒色土}$)

VII 黒色土 VIII 暗黄褐色土 ($\text{EnL} > d_2 < \text{黒色土}$)

IX 黒褐色土 (黒色土 $>d_1 + \text{EnL}$) X 黒色土

XI 黒褐色土 (黒色土 $+d_2 + \text{EnL}$) XII 黄褐色土

XIII 暗褐色土 (黒色土 $+ \text{EnL}$) XIV 黒色土

遺物 覆土 土器IVb: 27。

1・2 IVb

P-364

遺体の下肢とおもわれる部分を確認した。遺体の範囲にはベンガラが検出された。覆土の状態から周堤墓(X-1)構築以前につくられた可能性がある。

位置 $E_1-63-59, -69$

平面形 楕円形

規模 $1.10/1.65 \times 0.95/1.05 \times 0.50$

長軸方向 N-68°-W

埋葬体位 北西頭位屈葬

副葬品 なし

覆土 I 暗黄褐色土 ($\text{EnL} + \text{黒色土}$) II 暗褐色土 (黒色土 $>\text{EnP}$)

III 暗褐色土 (黒色土 $>\text{EnL}$) IV 暗黄褐色土 ($\text{EnL} > d_2 + \text{黒色土}$)

V 黒褐色土 (黒色土 $>d_2$) VI 黄褐色土 ($\text{EnL} > d_2$)

VII 黒褐色土 (黒色土 $>\text{EnL}$) VIII 黒褐色土 (黒色土 $>\text{EnP} + \text{EnL}$)

IX 黄色土 (EnL) X 黒褐色土 (黒色土 $>d_1 + d_2$)

遺物 覆土 土器IVc: 8

P-365

墓の可能性ある。

位置 $E_2-64-49$

平面形 楕円形

規模 $0.45/1.15 \times 0.66/1.07 \times 0.55$

長軸方向 N-66°-E

覆土 I 黄褐色土 ($\text{EnL} + d_2$)

II 褐色土 (黒色土 $<\text{EnL}$)

III 黒褐色土 (黒色土 $>d_2$)

P-364

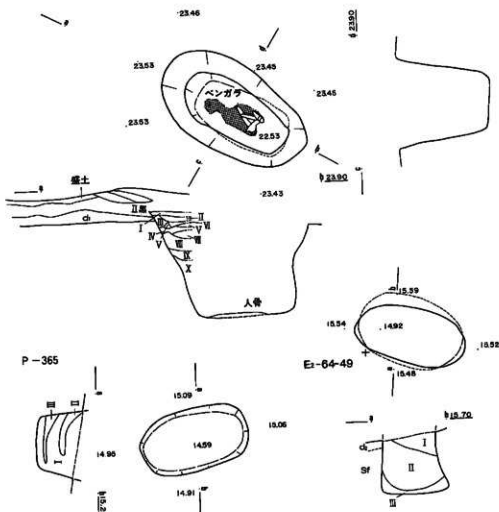


図165 P-364・365・366

P-366

墓の可能性ある。墳底はSpfl層中につくられる。

位置 E₂-64-38

平面形 楕円形

規模 0.62/1.20×0.58/1.10×0.74

長軸方向 N-72°-W

覆土 I 灰褐色土 (Sf>黒色土)

II 灰色土 (Sf+d₂)

III 褐色土 (黒色土+d₄)

P-368

墳底はEn-a層中につくられる。墳底北西寄りに頭部の痕跡と、玉、漆器が検出された。覆土上部にSpfl層の白色火山灰が混じる。西隣りのP-366の上げ土の可能性ある。

位置 E₂-64-48

平面形 楕円形

III 美々4遺跡の調査

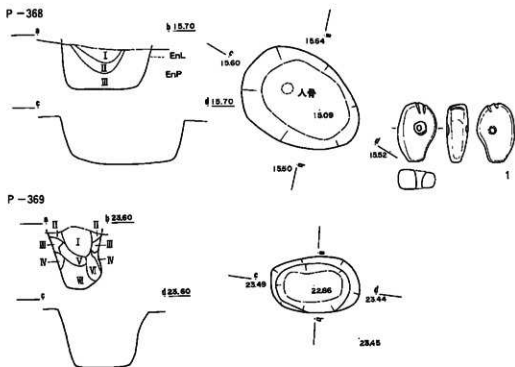


図166 P-368・369

規模 0.47/1.33×0.98/0.98×0.67

埋葬体位 北西頭位

覆土 I 黒褐色土 (黒色土+Sf)

II 暗黄褐色土 (EnP>d₂)

遺物 覆土 土器IVc: 2。

P-369

墓の可能性ある。

位置 E₁-64-60

規模 0.65/0.95×0.59/0.62×0.30

覆土 I 黄褐色土 (EnL)

III 橙褐色土 (黒色土+d₂)

V 暗褐色土 (黒色土+d₂)

VII 黒褐色土 (黒色土<d₂)

長軸方向 N-57°-W

副葬品 玉: 1, 漆器: 1

II 暗黄褐色土 (EnL>d₂)

I 玉 3.1×2.1×1.0 12.0 Jad.

平面形 槽円形

長軸方向 N-83°-E

II 黒色土

IV 黄褐色土 (EnL)

VI 黒色土 (黒色土+EnL)

P-371

墳底は En-a ローム層につくられ、全面にベンガラが認められた。南西壁寄りから石斧が出土した。平面形、長軸方向、墳底の状況から X-1 の周堤上から掘り込まれた可能性がある。

位置 E₁-64-70

平面形 槽円形

規模 0.33/1.13×0.73/1.03×0.50 長軸方向 N-61'-E
 埋葬体位 不明 副葬品 石斧 (IVA2) : 1
 覆土 I 茶褐色土 (EnL>d₂) II 暗褐色土 (EnL+d₂)
 III 暗茶褐色土 (d₂>E₂L) IV 褐色土 (d₂)
 V 黒色土 (黒色土>d₂)
 遺物 1 IVA2 17.6×5.5×3.1 473.0 Mud.

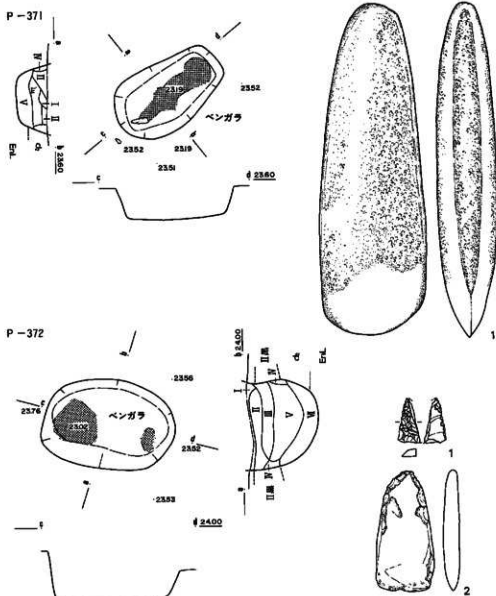


図167 P-371・372

P-372

周墳墓 (X-1) の周境が低みをなし出入口を思わせるところから検出された。墳底のほぼ全面にベンガラが認められ、その直上から、スクレイパー、石斧と30点ほどのフレイクが出土した。X-1の周境を切って構築されている。

位置 E₁-64-70

平面形 楕円形

規模 0.72/1.38×0.95/1.24×0.63 長軸方向 N-76°-W

埋葬体位 不明 副葬品 スクレイパー (ⅢB片) : 1, 石斧 (IVA5) : 2, 剥片 : 30

覆土 I 暗灰褐色土 (黒色土+EnL>d₂) II 黄褐色土 (黒色土+EnL>d₂)

Ⅲ 暗灰褐色土 (EnL+d₂)

IV 黒褐色土 (黒色土>d₂)

V 橙褐色土 (EnL+d₂)

VI 黒色土 (黒色土+d₂)

遺物 覆土 土器 IVa : 5, IVb : 1, 石器 IXB : 10, XA : 1, 礫 : 2。

底面 土器 IVc : 1。

1 ⅢB片 (2.4)×(1.2)×0.6 1.1 Obs. 2 IVA5 6.4×3.2×0.8 31.0 Sch.

P-373 (写真図版43)

P-372の西側に隣接して検出された。墳底はEn-aローム層中につくられ、壁は南東で緩やかに立ち上るほかは、ほぼ垂直である。墳底から土偶、覆土IV層からスクレイパー、台石、Ⅱ層から石皿、Ⅰ層から土器がそれぞれ検出された。埋めもどす際規則的な副葬がなされた可能性が強い。

土偶は、墳底西すみの8cmほどの厚みをもつベンガラ除去後に検出した。頭が南向きでうつ伏し、東側に傾いた状態で出土した (43-4)。

X-1周境上から掘り込まれたものと推定される。

位置 E₁-64-80

平面形 楕円形

規模 0.74/1.46×0.72/1.28×0.50 長軸方向 N-61°-W

埋葬体位 不明

副葬品 土器 (Va) : 1, 台石 (VB1) : 1, 石皿

(VIB片) : 1, 土偶 : 1 (写真図版44)

覆土 I 茶褐色土 (EnL>d₂)

II 暗褐色土 (EnL>d₂)

Ⅲ 黒色土

IV 暗茶褐色土 (EnL+d₂)

V 黒色土 (黒色土>d₂)

遺物 1 Va 5.7/7.4×2.4 無文の浅鉢である。

2 土偶 高さ20.0, 肩幅9.2, 胴部の厚さ1.8cmの板状の土偶である。円形工具での刺突が肩に一条、腰に二条めぐらされている。乳房と下腹部は盛り上り、その上にも刺突が施される。顔面には目・鼻・口・耳が顕著につくり出され、顎は突き出ている。後頭部に櫛を思わせるような張り出しがあり、3か所穿孔されている。

3 VB1 23.1×13.2×6.0 1173.0 And. 覆土

4 VIB片 (11.0)×(19.3)×9.8 1170.0 And. 覆土

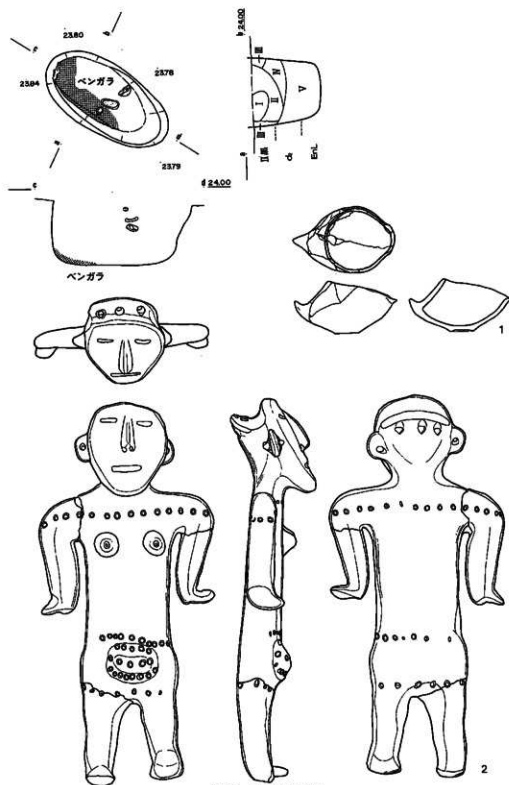


図168 P-373と遺物

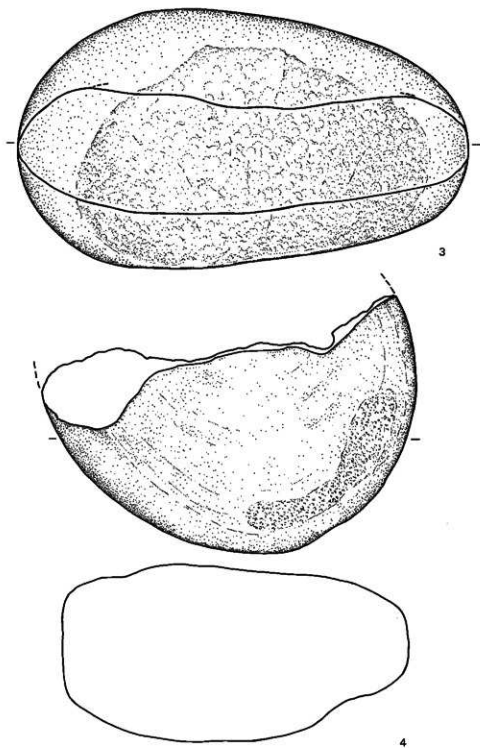


図169 P-373の遺物

P-374

墳底は Ta-d₂層につくられ、ベンガラが認められた。墳底より勾玉が出土した。

墳底に近い部分を確認したにとどまったが、X-1の周境上から掘り込まれたものと推定される。

位置 E₁-63-89

平面形 楕円形

規模 0.20/0.90×0.72/0.83×0.56

長軸方向 N-33°-W

埋葬体位 不明

副葬品 勾玉: 1

覆土 I 暗褐色土 (黒色土>d₂)

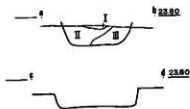
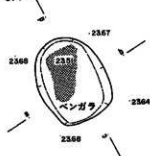
II 黒色土 (d₁)

III 黒褐色土 (黒色土>d₁+d₂)

遺物 覆土 土器IVb: 1。

1 石製品 2.3×1.1×1.0 3.2 Ser.

P-374



P-375

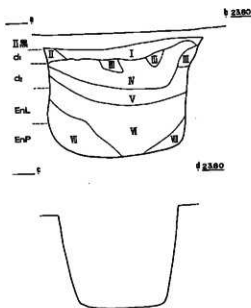
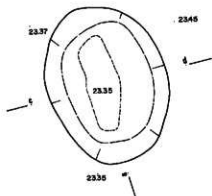


図170 P-374・375と遺物

P-375

II 黒層下部から掘り込まれ、墳底は En-a 層中につくられる。遺体は、壺状に腐食した状態で検出された。墳底にはベンガラはなく玉が2個、石鉄が1個検出された。

位置	E ₃ -63-09	平面形	楕円形
規模	1.18/1.70×1.27/1.25×0.90	長軸方向	N-22°-W
埋葬体位	不明	副葬品	石鉄 (IA5) : 1, 玉 : 2
覆土	I 黒色土 (黒色土>d ₂ +EnP)	II 黒色土 (EnP ブロック状に含む)	
	III 灰褐色土 (EnL+EnP)	IV 黄褐色土 (EnP>d ₂)	
	V 淡黒色土 (黒色土+EnP+d ₂)	VI 淡灰褐色土 (EnL+d ₂ >EnP)	
	VII 黒色土 (黒色土>EnL+d ₂)	VIII 黄褐色土 (EnP)	
遺物	覆土 石器 IA5 : 1 IVb : 3 礫 : 2.		
	1 IA5 1.8×1.0×0.3 0.3 Obs.	2 玉 径0.9××0.7 1.0 Jad.	
	3 玉 径1.0×0.8 1.0 Jad.		

P-376

X-2の周壁を切って作られ底面は Ta-d₂層中にある。墳底から検出された遺体は腐食していたが、歯の保存状態は良好である。遺体の南側から石棒、西壁寄りに玉、サメの歯がそれぞれ検出された (写真図版45-1)。ベンガラは2か所にかたまって確認された。

位置	E ₁ -64-90, E ₃ -64-00	平面形	楕円形
規模	0.78/1.60×1.08/1.28×0.87	長軸方向	N-90°-W
埋葬体位	西頭位	副葬品	石棒 : 1, 玉 : 38, サメの歯 : 1
覆土	I 暗褐色土 (黒色土>d ₂)	II 黒褐色土 (黒色土+d ₂)	
	III 暗褐色土 (黒色土>d ₂)	IV 暗茶褐色土 (d ₂ >黒色土)	
	V 黒褐色土 (黒色土>d ₂)	VI 暗茶褐色土 (d ₂ >黒色土)	
	VII 茶褐色土 (d ₂ >EnP)	VIII 暗褐色土 (黒色土>d ₂)	
	IX 黒色土	X 褐色土 (黒色土+d ₂)	
遺物	覆土 石器 VB : 1. 礫 : 3. 土製品 : 1.		

1 サメ(アオザメ)の歯(写真図版55-2下)	2 玉 径0.7×0.6 0.3 Ser.
3 玉 径0.8×0.5 0.4 Ser.	4 玉 径0.7×0.4 0.2 Ser.
5 玉 径0.6×0.4 0.1 Jad.	6 玉 径1.0×0.8 1.0 Ser.
7 玉 径0.6×0.4 0.2 Jad.	8 玉 径1.2×0.9 1.8 Ser.
9 玉 径1.2×0.9 2.0 Ser.	10 玉 径1.1×0.9 1.4 Ser.
11 玉 径0.8×0.7 0.5 Ser.	12 玉 径0.7×0.5 0.3 Ser.
13 玉 径0.7×0.7 0.5 Ser.	14 玉 径0.8×0.7 0.5 Ser.
15 玉 径0.8×0.7 0.7 Ser.	16 玉 径0.8×0.8 0.7 Ser.
17 玉 径0.8×0.7 0.6 Ser.	18 玉 径0.7×0.6 0.4 Ser.

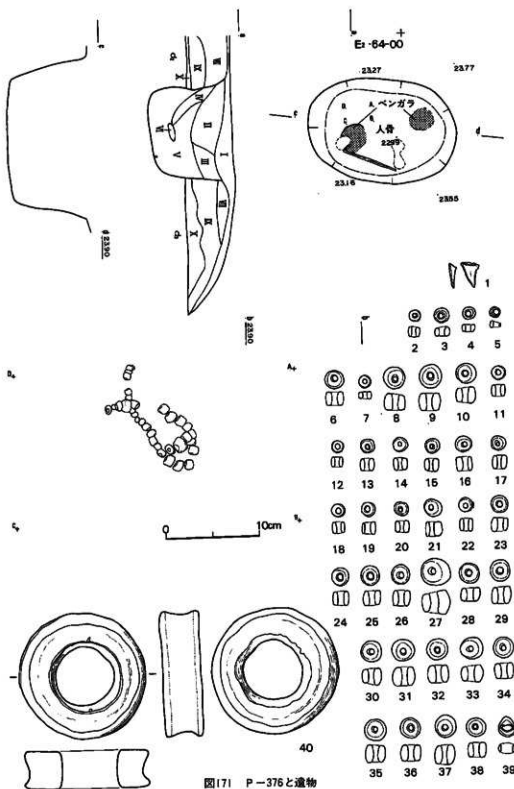


図171 P-376と遺物

19 玉 径0.9×0.7 0.4 Ser.	20 玉 径0.8×0.6 0.5 Ser.
21 玉 径1.0×0.8 1.0 Ser.	22 玉 径0.7×0.7 0.5 Ser.
23 玉 径1.0×0.8 0.9 Ser.	24 玉 径0.9×0.8 0.9 Ser.
25 玉 径1.0×0.8 1.1 Ser.	26 玉 径1.0×0.8 1.1 Ser.
27 玉 径1.6×1.3 4.3 Ser.	28 玉 径1.1×0.8 1.1 Ser.
29 玉 径1.1×0.9 1.4 Ser.	30 玉 径1.2×0.9 1.7 Ser.
31 玉 径1.2×1.0 2.1 Ser.	32 玉 径1.2×1.0 2.0 Ser.
33 玉 径1.2×1.0 1.9 Ser.	34 玉 径1.1×0.9 1.6 Ser.
35 玉 径1.2×1.0 2.1 Ser.	36 玉 径1.2×0.9 1.7 Ser.
37 玉 径1.2×1.0 2.1 Ser.	38 玉 径1.1×0.8 1.3 Ser.
39 玉 径1.0×0.6 0.6 Jad.	40 土製品 径6.6×1.9 57 (45-2)
図228-3 石棒58.5×4.5×2.7 880.0 Sa. (45-3)	

P-377

墳底は En-a ローム層中につくられ、壁は南東でややオーバーハングするほかは垂直に立ち上る。遺体の保存状態は良くないが、北西壁寄りに頭部と、歯が検出された。

位置 E₁-63-99

平面形 楕円形

規模 0.75/1.57×1.05/1.46×1.03

長軸方向 N-32°-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 なし

覆土 I 橙褐色土 (EnL+d₁>EnP)

II 黒色土 (黒色土+d₂)

III 黒色土 (黒色土>d₂)

IV 暗灰褐色土 (黒色土+d₂)

V 黒色土

VI 黄褐色土 (EnL+d₂>EnP)

遺物 覆土 石器 XA: 1。

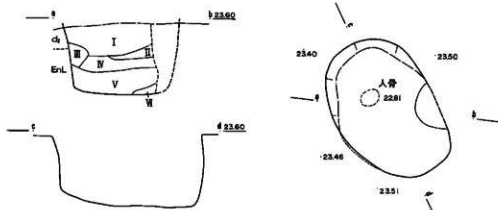


図172 P-377

P-378 (写真図版45-5)

周堤基 (X-2) 北東側の周堤上から掘り込まれる。墳底は En-a 層中につくられ、平坦で、壁の立ち上がりは急である。

プラン確認後まもなく、完形も含めた9個体の土器が一括出土した(45-4)。墳底の北西すみには頭部の痕跡とベンガラ集中がみられた。石斧・つまみ付きナイフ・玉が伴って出土した。

位置 E₁-64-81

平面形 楕円形

規模 0.65/1.47×1.20/1.32×0.82

長軸方向 N-47°-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 土器(Va):9, つまみ付きナイフ(ⅢA5):

1, 石斧(ⅣA2):1, 玉:6

覆土 I 黒褐色土(黒色土>d₁+EnP) II 黒色土(黒色土>d₂)Ⅲ 黒色土(黒色土>EnP) VI 黄褐色土(EnL>d₃)V 黄茶褐色土(EnL>d₂) VII 茶褐色土(EnL+d₂, 黒色土)VII 黒茶褐色土(黒色土+d₂+EnP) VIII 黒褐色土(黒色土>d₃)IX 暗黄褐色土(EnP>d₂>黒色土) X 黒茶褐色土(黒色土+EnP+d₂)XI 黒色土(黒色土>d₂) XII 暗茶褐色土(EnL+d₂)XIII 黒色土(黒色土>d₂+EnP)

遺物 覆土 土器Ⅱb-1:3, Ⅳc:8, 石斧VB1:1, 礫:8, 石製品:1.

1 Va —/13.5×— 口唇に4個の山形突起がつけられる。胴部のくびれは顕著である。縄文を地文とし、沈線が平行あるいは曲線となって描かれる。

2 Va 7.0/10.6×4.8 底部は丸底がかる。 3 Va 5.5/11.0×5.8

4 Va —/16.0×— 5 Va 15.3/7.6×3.7 注口土器で胴部上半と口縁部が文様帯となり、それ以外は無文である。胴部上半は、縄文地に沈線で描かれた円弧・円がこれをめぐっている。

6 Va 13.2/3.7×3.0 細かい縄文が施文される。胴張り出し部の上下は縄文がすり消され、磨かれたようにやや光沢がある。

7 Va —/3.0×— 頸部は無文、胴部には細かい縄文が施され、その上に沈線で文様が描かれる。頸部との境には横位の刺突文が連続して、1条めぐる。

8 Va —/16.3×— 大型壺の頸部。

9 Va —/18.3×— 大型壺の頸部。細かい縄文が施文される。胴から頸への立ち上り部に、紐を通すような穴がつけられる。口縁にドーナツ形の貼瘤がある。

10 玉 1.1×1.3×0.8 1.6 Jad. 11 玉 径1.2×0.9 1.8 Jad.

12 垂飾 1.5×0.6×0.4 0.4 Ta. 13 玉 径0.6×0.3 0.1 Ta.

14 玉 0.7×0.6×0.4 0.2 Ta. 15 垂飾 3.0×0.8×0.2 0.5 Sh.

16 玉 径0.7×0.4 0.3 Jad. 17 ⅢA5 3.8×5.2×0.7 8.6 Obs.

18 ⅢA片 3.8×2.2×0.4 3.3 Obs. 19 ⅣA2 13.0×4.9×2.6 153.4 Gr-Mudl

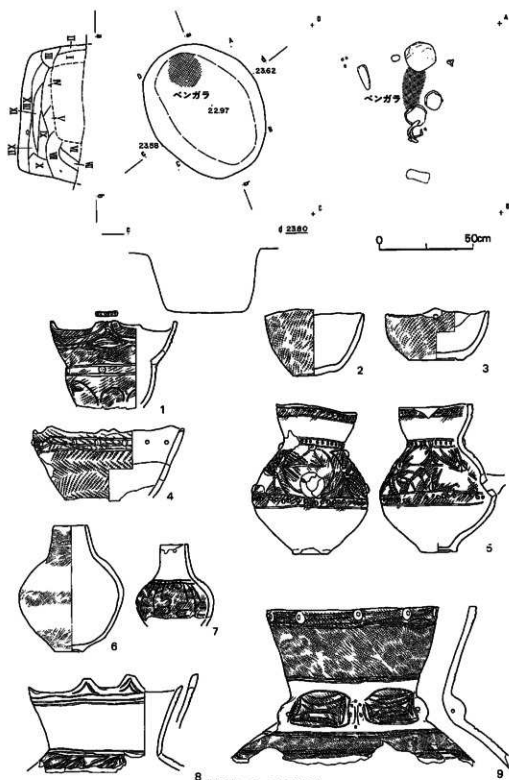


図173 P-378と遺物

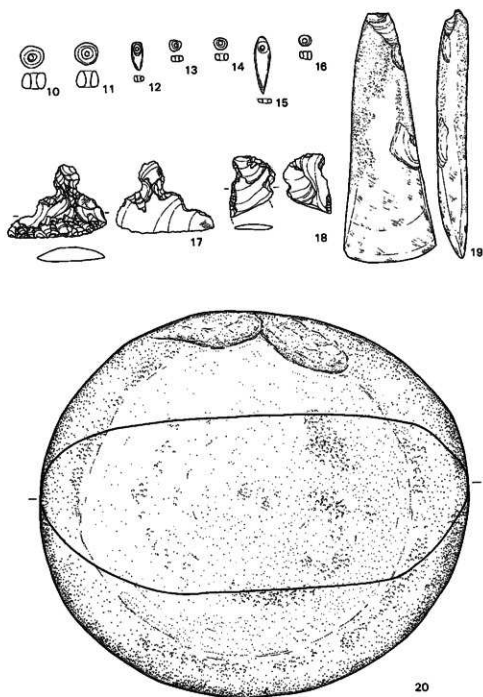


図174 P-378の遺物

20 VB1 22.5×26.0×0.9 6,000.0 And.

P-379

斜面下部で検出された。遺体はほぼ全身を確認したが、頭骨を除いて保存状態は良くない。下肢は折り曲げられている。P-380を切って構築されている。

位置 E₁-64-99

平面形 楕円形

規模 0.40/1.40×0.70/1.30×0.60

長軸方向 N-64'-E

埋葬体位 南西頭位側臥屈葬

副葬品 なし

覆土 I 暗褐色土

II 黒色土 (黒色土>d₂)

II 黒褐色土 (d₂+黒色土)

P-381

斜面下部で検出された。遺体の保存状態は悪く、糊状に腐食した一部分を検出したにとどまった。H-10を切って構築されている。

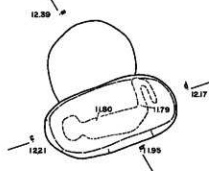
位置 E₁-64-89

平面形 楕円形

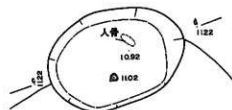
規模 0.25/1.50×1.00/1.20×0.85

長軸方向 N-61'-E

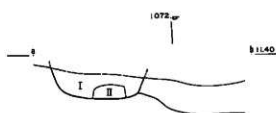
P-379



P-381



12.50



10.72

11.40



12.50



11.40

図175 P-379・381

埋葬体位 不明

副葬品 なし

覆土 I 黒色土 (黒色土 $> d_1 > d_2$)

II 暗褐色土 (黒色土 $> d_2$)

遺物 覆土 土器IVb:1。

P-383 (写真図版54-1・2)

墳口に礎を置き、中心に角柱礎を直立させた基である。礎は、本来二重にめぐらされていたと思われるが、南側では斜面に崩れ落ちている。角柱礎は、倒れた状態で検出したがその下より浅い掘り込みが確認されたことから本来、直立していたと思われる。墓壁はX-2の盛土を切って構築されており、墳底から玉、垂飾が出土した。

位置 E₂-64-03, -04

平面形 楕円形

規模 0.63/1.12×0.84/0.99×0.74

長軸方向 N-83°-E

埋葬体位 不明

副葬品 玉:4, 垂飾:1

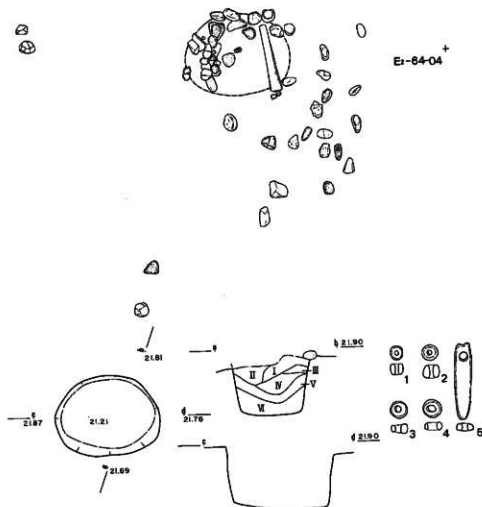


図176 P-383と遺物

- 覆土 I 暗黄褐色土 (EnP+黒色土>d₂) II 黒黄色土 (黒色土+EnP)
 III 黒黄褐色土 (黒色土>EnP+d₂) IV 暗褐色土 (黒色土+EnP+d₂)
 V 黒褐色土 (黒色土>EnP>d₂) VI 黒色土 (黒色土>d₂)
- 遺物 覆土 土器 Va: 2。石器 VIB 1: 2, VII B 片: 50。 礫: 46。
 1 玉 径0.8×0.6 0.7 Ser. 2 玉 径0.9×0.7 0.9 Ser.
 3 玉 径1.0×0.5 0.6 Ser. 4 玉 径0.9×0.4 0.5 Ser.
 5 垂飾 4.0×1.0×0.4 2.2 Jad. (写真図版54-3)

P-384

X-2の周堤範囲にあり、この上から掘り込まれたものと推定される。遺体の保存状態は悪く、西壁寄りに頭部の痕跡を検出したにとどまった。床面からは、頭部寄りに石斧と玉が検出された(写真図版46-2)。

- 位置 E₁-64-84, -94 平面形 楕円形
 規模 0.79/1.38×1.15/0.82×0.63 長軸方向 N-79°-E
 埋葬体位 西頭位 副葬品 石斧 (IVA2): 1, 玉: 13
- 覆土 I 灰黄褐色土 (d₂+EnP+EnL) II 黒色土 (黒色土>d₂+EnP)
 III 暗褐色土 (黒色土>EnP) IV 黒色土 (黒色土>d₂+EnP)
- 遺物 覆土 石器 IA5: 1。礫: 1。
 1 IVA2 12.0×4.8×2.4 210.0 Gr-Mud. 2 IVA5 7.5×3.3×1.1 38.9 BL-Sch.
 3 玉 径1.0×0.6 0.7 Ta. 4 玉 径1.0×0.7 1.1 Ta.
 5 玉 径1.1×0.7 1.3 Ta. 6 玉 1.3×1.0×0.6 1.1 Ta.
 7 玉 1.2×1.1×1.3 2.0 Ta. 8 玉 1.4×1.1×0.7 1.2 Ser.
 9 玉 1.5×1.3×0.8 2.2 Ser. 10 勾玉 2.1×1.2×0.9 3.7 Ser.
 11 玉 径0.9×0.6 0.5 Ser. 12 玉 1.3×0.9×0.7 0.7 Ta.
 13 玉 1.0×0.8×0.5 0.5 Ser. 14 玉 径1.0×0.6 0.8 Ta.
 15 玉 1.2×1.1×0.7 1.2 Ta. (写真図版46-3)

P-385

X-2の周堤が南西部で低みをなし、出入口を思わせるところから検出された。周堤を切ってつくられていることが確認された。墳底の南すみにベンガラが検出された。覆土IV層から石斧・石鎌、覆土下層からはサメの歯がそれぞれ出土した。

- 位置 E₂-64-13 平面形 楕円形
 規模 0.60/1.30×1.10/0.90×0.72 長軸方向 N-39°-W
 埋葬体位 不明 副葬品 石鎌 (IA5): 1, 石鎌 (IIA3): 3, 石斧 (IVA2): 2, (IVA): 1, たたき石 (VA): 6, サメの歯: 1

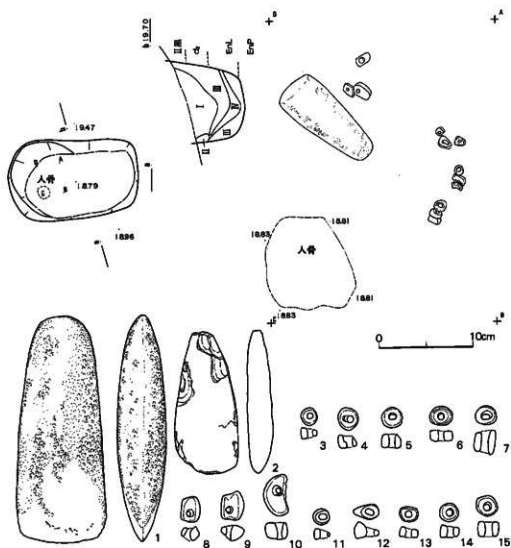


図177 P-384と遺物

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| Ⅰ 黒色土 (黒色土>EnP) | Ⅱ 黒褐色土 (黒色土>EnP+d ₂) |
| Ⅲ 黒色土 (黒色土>EnP) | Ⅳ 暗黒褐色土 (黒色土+EnP) |
| Ⅴ 黒褐色土 (黒色土>EnP+d ₂) | Ⅵ 暗褐色土 (EnL+黒色土+EnP) |
| Ⅶ 暗茶褐色土 ((d ₂ >黒色土) | Ⅶ 黒褐色土 (黒色土>EnP) |
| Ⅷ 黒茶褐色土 (黒色土+d ₂ +EnP) | Ⅹ 黒褐色土 (黒色土+EnP+d ₂) |
| Ⅸ 暗黒褐色土 (黒色土>EnP) | Ⅺ 暗黄褐色土 (EnP>黒色土+EnL) |
| ⅩⅢ ベンガラ | |

遺物 覆土 土器 Va:47, 石器 IA5:1, IA3:3, IVA2:2, IVA5:1, VA:6, IXB:

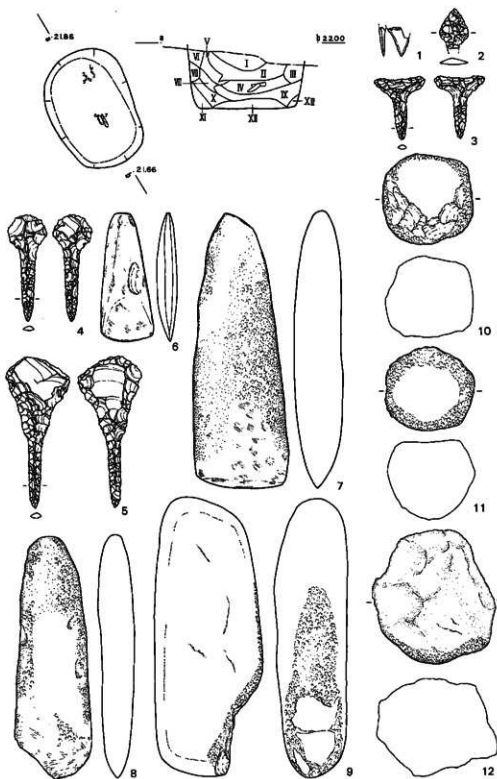


図178 P-385と遺物

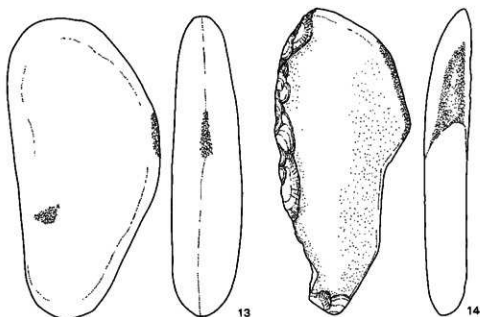


図179 P-385の遺物

8, 礫: 2。

1 サメの歯(ホオジロザメ)(写真図版55-2上)

2	IA5	2.1×1.6×0.4	0.9	Obs.	3	IIA3	3.3×2.7×0.6	2.0	Sh.
4	IIA3	5.6×2.0×1.0	5.0	Sh.	5	IIA3	7.9×3.4×0.6	10.5	Sh.
6	IVA5	6.8×2.9×1.0	27.0	Gr-Mud.	7	IVA2	12.9×4.1×1.7	143.0	Gr-Mud.
8	IVA2	14.4×4.9×2.4	276.0	Gr-Mud.	9	VA	5.2×14.8×3.8	570.0	Gr-Mud.
10	VA	4.8×4.7×4.1	141.6	Sh.	11	VA	4.2×4.7×—	128.0	Che.
12	VA	7.0×6.9×4.9	255.0	Che.	13	VA	8.7×15.8×3.6	700.0	Gr-Mud.
14	VA	7.1×16.1×2.3	420.0	Gr-Mud.	(47-1)				

P-386

X-2の周堤上から掘り込まれ、墳底はⅡ黒層につくられる。墳底はやや丸みをなし、壁の立ち上りは急である。覆土上面には大礫が置かれている。遺体の保存状態は悪く、一部分が潮状で検出されたにとどまった。墳底からは石斧・玉・漆器が出土した。

 位置 E₂-64-12

平面形 楕円形

規模 0.78/1.22×0.80/0.96×0.49

長軸方向 N-42°-W

埋葬体位 不明

副葬品 石斧(IVA2): 1, 玉: 3, 漆器: 2

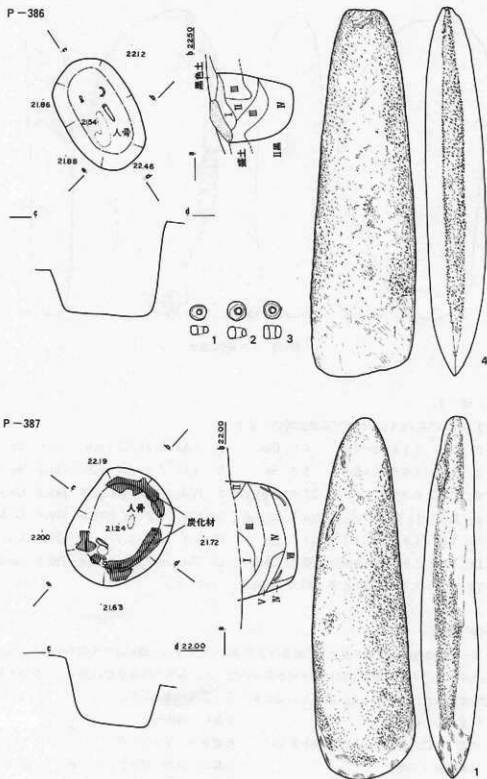


図180 P-386・387と遺物

覆土 I 黒色土 (黒色土 > EnP) II 褐色土 (黒色土 + EnP > d₂)

III 暗褐色土 (黒色土 > EnL + EnP) IV 黒色土 (黒色土 > d₂ + EnP)

遺物 覆土 石器IX B: 2。礫 12。

1 玉 径0.9×0.5 0.5 Jad. 2 玉 1.1×1.0×0.6 0.8 Jad.

3 玉 径0.9×0.8 0.8 Jad. 4 IVA2 19.4×5.6×3.1 523 Gr-Mud.

(写真図版47-3)

P-387

周堤上から掘り込まれた墓である。南西壁寄りに頭骨と、これに密着した状態で櫛が、また、墳底ほぼ中央に石斧が検出された。ベンガラは東壁立ちあがり部分で確認された。覆土中層から下層の壁ぎわにかけて炭化材が検出された。

位置 E₁-64-83

平面形 楕円形

規模 0.62/1.28×0.99/1.08×0.71

長軸方向 N-27°-E

埋葬体位 南西頭位

副葬品 石斧 (IVA2): 1, 櫛: 1

覆土 I 褐色土 (EnP + d₂)

II 橙褐色土 (EnL + d₂ > EnP)

III 黒色土 (黒色土 > EnP + d₂)

IV 褐色土 (EnP + d₂)

V 黒色土

VI 橙褐色土 (d₂)

VII 暗褐色土

遺物 1 IVA2 18.8×5.2×2.9 462.0 Gr-Mud.

P-388

墓の可能性がある。墳底付近を検出したにとどまったが、形状等から周堤上から掘り込まれたと推定される。墳底から石斧が検出された。

位置 E₂-64-11

平面形 すみ丸方形

規模 0.20/1.00×0.78/0.79×0.70

長軸方向 N-41°-E

覆土 I 茶褐色土 (d₂ + EnP)

遺物 覆土 土器Ⅱa-2: 1。礫: 3。底面 石器IVA2: 1。

1 IVA2 18.7×4.9×2.6 340.0 Gr-Mud.

P-389 (写真図版48-1)

墳底は En-a ローム層中につくられ、壁はほぼ垂直に立ち上る。墳底全面にベンガラが認められた。遺体の保存状態は悪く、頭骨と下肢骨の一部が検出されたのみである。頭骨に密着して櫛が2個、南西壁寄りで石斧が出土した (48-2)。覆土中に軽石が混じることから、周堤上から掘り込まれたものと判断される。

位置 E₁-64-71

平面形 楕円形

規模 0.75/1.57×1.04/1.43×0.83

長軸方向 N-32°-W

埋葬体位 北西頭位屈葬

副葬品 石斧 (IVA5): 1, 櫛: 2

覆土 I 黒色土 (黒色土 > d₂ + EnP)

II 褐色土 (EnP > 黒色土)

- III 黄褐色土 ($EnL > EnP + d_2$) IV 茶褐色土 ($d_1 + EnL$)
 V 褐色土 ($d_2 > EnL$) VI 黄褐色土 ($EnP + EnL + d_2$)
 VII 黒色土 (黒色土 $> d_2 + EnP$)

遺物 覆土 石器 IA5: 1, IVA5: 1, IXA: 1. 玉: 2.

- 1 IA5 2.7×1.6×0.4 1.2 Obs. 2 玉 2.1×1.5×1.0 Amb.
 3 玉 1.6×0.9×1.0 Amb. 4 IVA5 7.9×4.2×1.2 77.0 Gr-Mud.
 5 櫛 (5.4)×6.4×0.6 6 櫛 (3.9)×6.8×—

(写真図版48-3)

P-390

墳底部分のみが確認された。底面はII黒層中につくられる。櫛と玉が底面から出土した。周境上から掘り込まれたと推定される。

位置 E₂-64-11

平面形 楕円形

規模 0.20/1.00×0.60/0.78×0.52

長軸方向 N-22°-E

埋葬位位 不明

副葬品 玉: 3, 櫛: 1

覆土 I 褐色土 (黒色土 (黒色土 $> d_2$) II 暗褐色土 (黒色土 $> d_2$)

遺物 覆土 土器 IVc: 1, IVb: 2. 礫: 1. 1 櫛 (5.3)×—×0.6

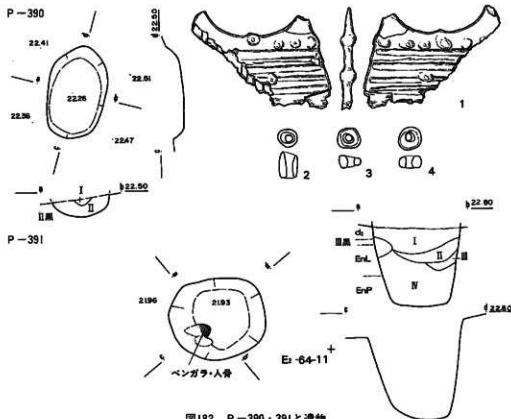


図182 P-390・391と遺物

2 玉 徑1.4×1.1 2.0 Jad. 3 玉 徑1.3×0.8 1.5 Ser.

4 玉 径 1.3×0.7 1.7 Ser. (写真图版48-4)

P-391

墳底はEn-a層中につくられ、ボウル状である。遺体は、墳底より約30cm上部の東壁で検出された。保存状態はよくない。ベンガラは遺体の直下で検出された。平面形・規模がP-346・362に類似することから周堤形成以前に構築された墓と判断される。

位置 E₂-64-10, -11

平面形 不整凹形

規模 0.84/1.00×0.62/0.94×0.62

長軸方向 N-44°-W

埋葬体位 蹲葬？

副葬品 なし

覆土 I 黑褐色土 (黑色土 $> d_1 + E_nP$)

II 暗褐色土 (黑色土+d₂+EnP)

Ⅲ 黄茶褐色土 ($EnP+d_2>$ 黑色土) IV 黄褐色土 ($EnP>$ 黑色土)

IV 黄褐色土 ($E_nP > \text{黑色土}$)

P-393

遺体は、北西すみに頭部の痕跡が検出された。保存状態はよくない。確認面と掘り込み面はほぼ同じである。

位置 E₂-64-22, -23

平面形 槽円形

規模 0.79/0.93×0.73/0.62×0.39

長軸方向 N-26°-W

埋葬体位 北頭位

副葬品 なし

覆土 I 黄茶褐色土 ($EnL > d_2 > \text{黑色土}$)

II 黑褐色土 (黑色土>d₂>EnP)

Ⅲ 橙褐色土 ($d_2 > \text{EnP}$)

IV 暗黄褐色土 (EnL+EnP)

V 暗褐色土 (黑色土 + d₂ > EnL)

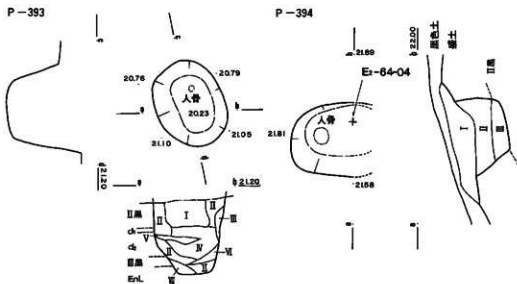
VI 黄褐色土 ($EnP > EnL > \text{黑色土}$)VII 黑茶褐色土 (黑色土 $E_{np} > d_s$)

图 183 P—393·394

P-394

周堤墓(X-2)の南側、台地の縁辺部で検出された。周堤の土層観察用に設定したトレンチにかかったもので、盛土を掘り抜いてつくられていることが確認された。

東-西に長軸をとり、墳底西すみから頭部の痕跡とベンガラが検出された。

位置	E ₁ -64-94, E ₂ -64-04	平面形	楕円形
規模	0.60/—×0.79/—×0.55	長軸方向	N-81'-E
埋葬体位	西頭位	副葬品	なし
覆土	I 暗褐色土(EnP+EnL>d ₂)	II 暗茶褐色土(EnP+EnL)	
	III 暗黄褐色土(EnP>黒色土+d ₂)		

P-395

X-2構築時の排土上から掘り込まれ、墳底はII黒層中にある。覆土上部から3個体の土器が圧し潰された状態で出土した(写真図版48-5)。墳底の北西すみから頭骨の一部と、わずかにベンガラが検出された。また、ほぼ中央から打ち欠きのある礫、石斧がまともに出土した(49-1)。

位置	E ₁ -64-85	平面形	楕円形
規模	0.46/(0.95)×0.72/0.77×0.51	長軸方向	N-46'-W
埋葬体位	北西頭位	副葬品	土器(Va): 3, 石斧(IVA2): 3, 打ち欠きのある礫(XB): 1

遺物 1 Va 10.7/20.0×5.0 口唇に1個の山形突起がある浅鉢。体部全面に縄文が施されるが、器表面の剥落が著しいため文様をとどめていない。

2 Va 16.2/12.0×7.3 顕著な高台のつけられた注口土器。胴部と頸部内面は磨かれる。頸部と高台は縄文地に沈線がめぐる。頸部の各所にドーナツ状の貼りつけがある。

3 Va 16.0/41.6×8.2 体部全面に横走気味の縄文が施される。口縁には形の違った貼り瘤が交互に配され、横走する沈線がこれをつないでいる。この下部に連続した爪形文が4条体部をめぐる。高台がつくられている(写真図版49-3)。

4 IVA2 9.6×(4.7)×0.5 99.0 Gr-Mud. 5 IVA2(9.0)×6.1×2.1 210.0 Gr-Mud.

6 IVA2 10.2×5.0×1.9 156.2 Gr-Mud. 7 XB 11.9×6.0×2.2 252.0 Gr-Mud. (49-2)

P-398

台地の4基の周堤墓の周堤に囲まれたところに検出された。墳底はEn-a層に達し、壁の立ち上りは急である。墳底北西壁寄りに頭骨がある。歯の残存は良好である。

位置	E ₂ -63-09	平面形	楕円形
----	-----------------------	-----	-----

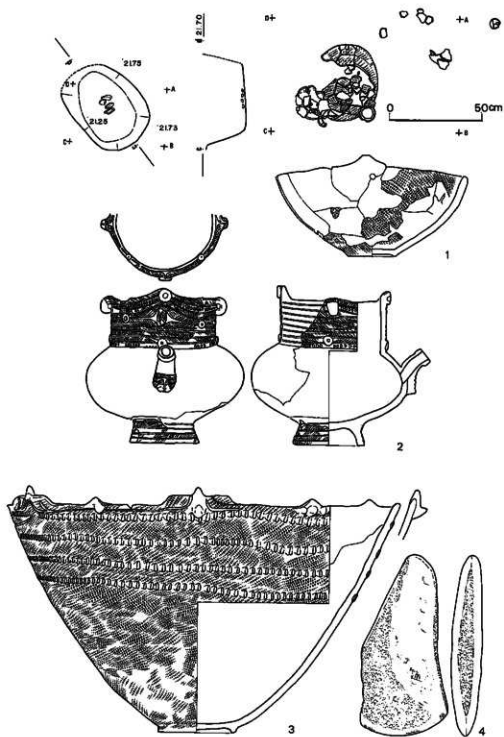


図184 P-395と遺物

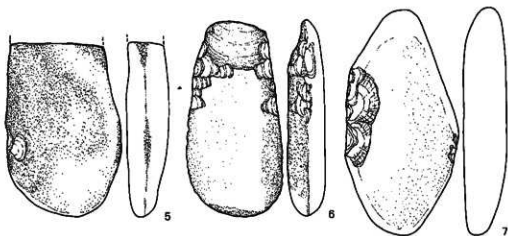


図185 P-395の遺物

規模 1.05/1.44×1.08/1.20×0.70

長軸方向 N-46°-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 なし

 覆土 I 黒褐色土(黒色土+EnP+d₂)

 II 黄褐色土(EnL>EnP+d₂)

 III 褐色土(黒色土+EnP>d₂)

 IV 黄褐色土(EnL>EnP+d₂>黒色土)

 V 暗黄褐色土(EnP+黒色土>d₂)

VI 黄色土(EnP)

 VII 茶褐色土(黒色土>EnP+d₂)

 VIII 黄褐色土(EnL>d₂)

 IX 黒色土(黒色土>d₂)

X 黄色土(EnP)

遺物 覆土 土器Ⅱb: 1, IVb: 8. 石器ⅢB3: 1. 礫: 7.

1 ⅢB3 5.6×1.6×0.9 6.5 Obs.

P-399

墳底はEn-a層中につくられ、壁はほぼ垂直に立ち上る。墳底からは遺体が検出された。とくに、頭部と大腿部が良好に残存している。大腿部の位置が通常的位置と異なるため、再埋葬の可能性ある。貝製の玉が左大腿骨に密着して検出された(写真図版49-4)。玉はビノスガイからつくられたものである。

 位置 E₁-63-98

平面形 楕円形

規模 0.73/1.19×0.84/1.09×0.60

長軸方向 N-66°-W

埋葬体位 北西頭位

副葬品 貝製玉: 4

覆土 I 黄褐色土(EnL>黒色土)

 II 黒褐色土(黒色土+d₂)

 III 暗褐色土(黒色土+d₂+EnL)

IV 暗褐色土(黒色土+EnL)

 V 黒色土(黒色土+d₂)

 VI 暗茶褐色土(黒色土+d₂+EnL)

III 美々4遺跡の調査

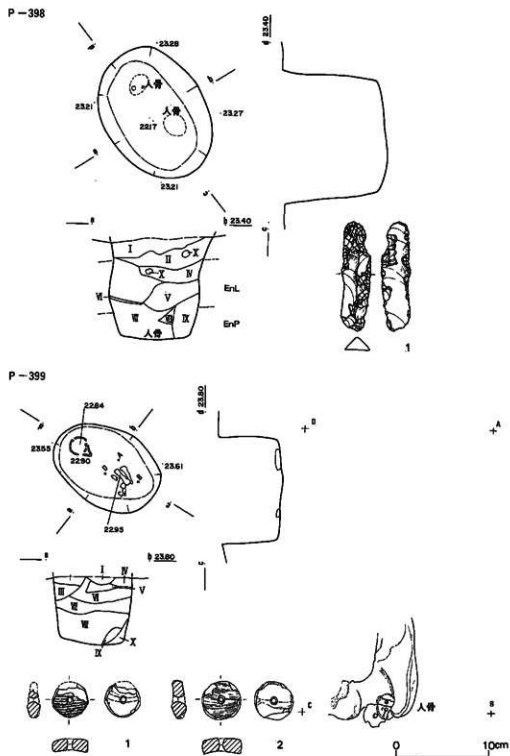


図186 P-398・399と遺物

- VII 暗茶褐色土(黒色土+EnL+d₂) VIII 黒茶褐色土(黒色土+d₂)
 IX 黄褐色土(EnL+EnP+黒色土) X 黒黄褐色土(黒色土+d₂+EnL)

遺物 1 貝製玉 径1.9×0.6 2.0 ビノスガイ右殻外套線部分
 2 貝製玉 径2.1×0.7 2.8 ビノスガイ右殻前肉柱底部分 (49-5)

P-400

P-399の北側に隣接している。墳底はEn-a層中につくられている。西壁が立ち上るところに頭部がはりついた状態で検出された。その他の部位は残存していない。

位置 E₁-63-98 平面形 楕円形
 規模 0.47/0.93×0.60/0.71×0.45 長軸方向 N-74'-W
 埋葬体位 北西頭位 副葬品 なし
 覆土 I 暗茶褐色土(黒色土+d₂) II 黒褐色土(黒色土>d₂)
 III 暗茶褐色土(d₂>黒色土)

P-401

周堤墓(X-1)の周堤裾で検出された。墳底はEn-aローム層中につくられる。壁は、ほぼ垂直に立ち上る。

墳底北西壁寄りに頭骨があり、その他の部位は残存していない。

位置 E₁-63-98, -99 平面形 楕円形
 規模 0.64/1.18×0.84/1.07×0.67 長軸方向 N-26'-W
 埋葬体位 北西頭位 副葬品 なし
 覆土 I 黄茶褐色土(EnL+d₂) II 暗黄褐色土(黒色土+EnL)
 III 黒色土(黒色土>EnL) IV 暗茶褐色土(黒色土<d₂)
 V 黒茶褐色土(黒色土+d₂) VI 暗褐色土(黒色土+d₂)

P-402

周堤墓(X-2)の西側斜面にある。墳底はEn-aローム層中につくられ、壁の立ち上りはほぼ垂直である。北壁寄りに頭部を置いた遺体が検出された。

位置 E₂-64-32 平面形 楕円形
 規模 0.80/1.30×1.03/1.27×0.73 長軸方向 N-13'-W
 埋葬体位 北頭位屈葬 副葬品 なし
 覆土 I 黒色土(黒色土>d₂+EnP) II 橙色土(d₂)
 III 黄褐色土(EnL>d₂) IV 褐色土(EnL+d₂)
 V 黄褐色土(EnL>d₂)

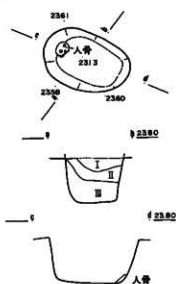
遺物 覆土 礫: 1。

P-403

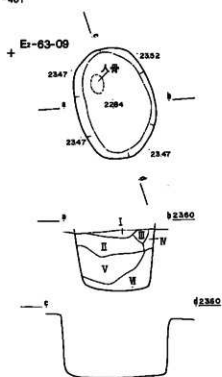
墳底から、頭骨と下肢骨が検出された。いずれも保存状態はよくない。下肢直上に礫が置かれていた。

III 美々4遺跡の調査

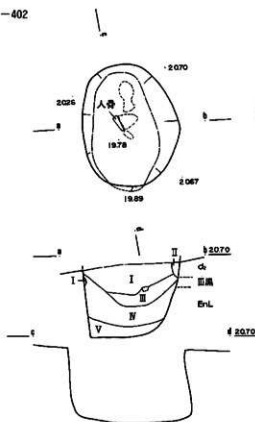
P-400



P-401



P-402



P-403

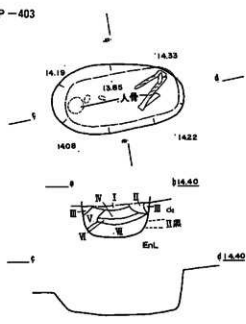


図187 P-400・401・402・403

位置 E ₁ -64-59	平面形 楕円形
規模 0.38/1.48×0.70/1.20×0.53	長軸方向 N-75°-E
埋葬体位 西頭位屈葬	副葬品 なし
覆土 I 黒色土(黒色土>d ₂)	II 暗褐色土(黒色土>EnL+d ₂)
III 褐色土(d ₂)	IV 茶褐色土(d ₂)
V 黒色土(黒色土>d ₂ +EnL)	VI 黄褐色土(EnL+d ₂)
VII 黒色土(黒色土>EnL+d ₂)	
遺物 覆土 礫:1	底面 礫:1

6) Tピット

台地平坦部から2個, 斜面から8個が検出された。溝状に深く掘り込まれたものと、底面の幅がやや広く、小判形あるいはすみ丸長方形を呈するものとに分けられる。いずれも、底面から掘り込み面にかけて広く、廃棄後に崩れ落ちたことを示している。小判形またはすみ丸長方形を呈するTピットの底面からは、枕跡と思われる小ピットが検出された。

斜面で検出されたT-4・5は、長軸を平行させ、近接してつくられている。この2個以外には規則性はうかがわれなかった。

T-1

台地平坦部で検出された。細い溝状に掘り込まれている。東壁はややオーバーハングする。周境墓(X-4)の周境範囲にあるが、新旧関係はとらえられなかった。

位置 E ₁ -63-95, E ₂ -63-05	平面形 溝状
規模 1.76/2.30×0.76/2.16×0.30	長軸方向 N-81°-E
覆土 I 黒褐色土(黒色土>d ₂ +EnP)	II 黒色土(黒色土>d ₂)
III 赤褐色土(d ₂)	IV 暗黄褐色土(EnL)
V 暗褐色土(EnL)	VI 暗褐色土(EnL>d ₂)
VII 黒色土	VIII 黄褐色土(EnL)
IX 黄褐色土(EnP)	

遺物 覆土 石器VIA4:1。

T-2 (写真図版55-3)

調査区西側の斜面が内湾するところで検出された。溝状に掘り込まれている。西壁の墳口付近でややオーバーハングする。

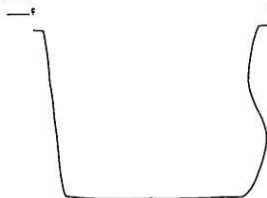
位置 F-64-15, -25	平面形 溝状
規模 1.46/2.33×0.80/2.23×0.28	長軸方向 N-80°-W
覆土 I 黒色土	II 暗黄褐色土(黒色土>d ₂)
III 黒色土(黒色土>d ₂)	IV 赤褐色土(d ₂ >黒色土)
V 赤褐色土(d ₂ >EnL)	VI 灰黒色土(黒色土>d ₂)

III 美々4遺跡の調査

T-1

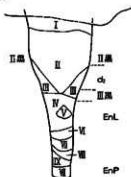


T-2



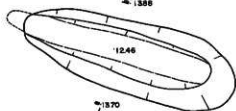
2380

2380



1393

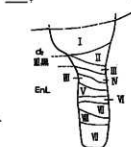
1388



1370

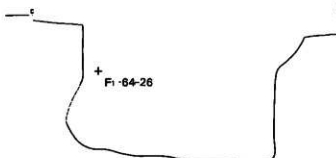
1380

1400



1400

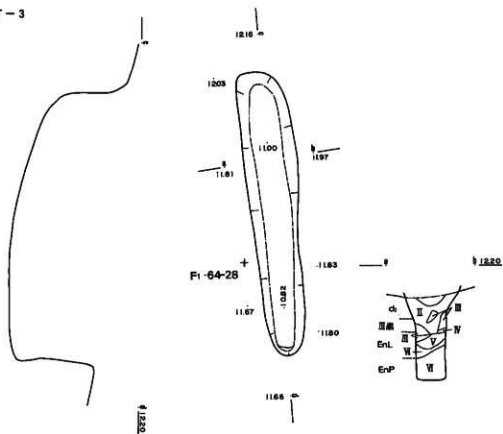
1400



F1-64-26

図188 T-1・2

T-3



T-4

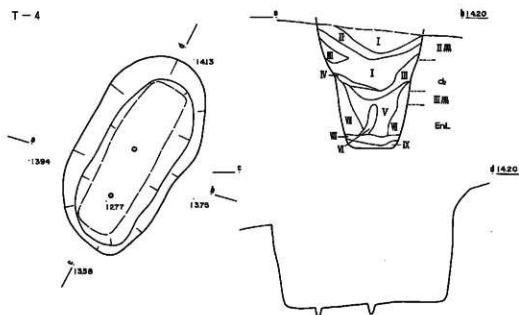


図189 T-3・4

VII 黄色土(EnL)

VII 黒色土

T-3

調査区西側の斜面が内湾するところで検出された。T-2から南へ10mほど隔てたところにある。溝状に掘り込まれている。

位置 F₁-64-17, -18

平面形 溝状

規模 0.40/3.01×0.57/2.79×0.31

長軸方向 N-12'-W

覆土 I 黒色土(黒色土>d₂)

II 赤褐色土(d₂)

III 黒色土(黒色土>d₂)

IV 黄色土(EnL)

V 黒色土(黒色土>d₂)

VI 暗褐色土(黒色土+d₂+EnL)

遺物 覆土 土器Ⅲb-2:2。

T-4 (写真図版55-2)

底面はEn-a層中につくられる。平面形はすみ丸長方形で、2個の小ピットが底面の長軸線上で検出された。小ピットは、径数cm、深さ10cmほどの規模である。

上面のプランは小判形である。

位置 E₁-64-77

平面形 すみ丸長方形

規模 1.26/2.21×1.16/1.72×0.53

長軸方向 N-21'-E

覆土 I 黒色土

II 暗黒褐色土(黒色土+EnL)

III 黒色土(d₁)

IV 黒褐色土(黒色土+d₂)

V 橙褐色土(d₂)

VI 褐色土(黒色土+EnL)

VII 黄色土(EnL)

VIII 褐色土(d₂>黒色土)

IX 黒色土

遺物 覆土 土器Ⅱa-2:1。礫:1。

T-5

平面形は底面ですみ丸長方形、上面で小判形を呈する。底面の長軸線上から小ピットが2個検出された。T-4に近接してつくられており、両者の長軸方向は、ほぼ南北に一致している。

位置 E₁-64-67

平面形 すみ丸長方形

規模 1.35/2.35×1.41/1.88×0.55

長軸方向 N-6'-E

覆土 I 黒色土

II 黒褐色土(黒色土>EnL+d₂)

III 黄褐色土(EnL)

IV 黒色土

V 黒色土(黒色土+d₁)

VI 赤褐色土(d₂)

VII 灰褐色土(重黒)

VIII 黄色土(EnL)

IX 暗褐色土(黒色土+d₂)

X 黒色土

遺物 覆土 土器Ⅲb-1:1。礫:1。

T-6

平面形は、底面ですみ丸長方形、上面で小判形を呈する。底面は斜面に沿って傾斜している。

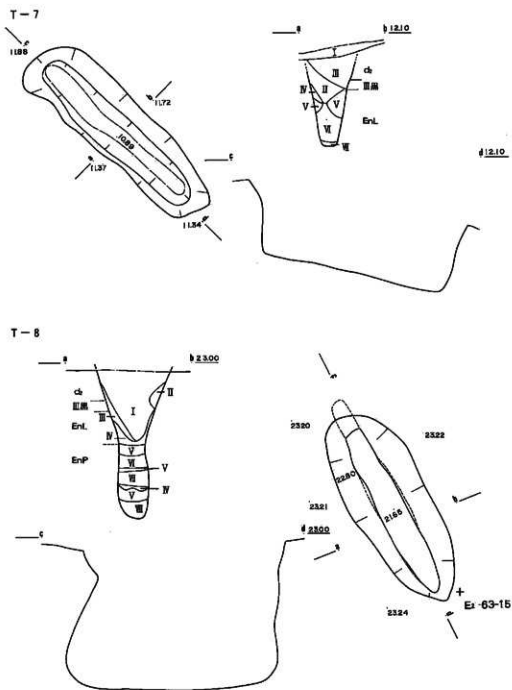


図191 T-7・8

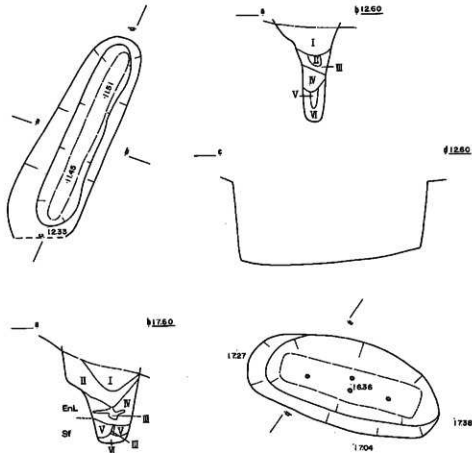


図192 T-9・10

長軸線上に3個の小ピットがある。

位置 E₂-64-07, -08

規模 1.25/2.33×1.30/1.85×0.45

覆土 I 黒色土

II 黒色土(d₁)

V 暗黒褐色土(黒色土>d₂)

VII 黄色土(EnL)

IX 暗赤褐色土(黒色土>d₂)

遺物 覆土 土器重b-2:1。曜:1。

T-7

斜面下位, H-11に接して発見された。

位置 E₁-64-99

規模 1.05/2.36×0.64/1.96×0.15

平面形 すみ丸長方形

長軸方向 N-17°-W

II 黒色土(黒色土>d₂)

IV 赤褐色土(d₂)

VI 暗褐色土(III黒)

VIII 暗赤褐色土(黒色土+d₂)

X 黒色土

平面形 溝状

長軸方向 N-53°-W

覆土 I 褐色土	II 黒色土(d_1)
III 黒色土	IV 灰褐色土(重黒)
V 黄褐色土(EnL)	VI 黒褐色土(黒色土+ d_2 +EnL)
VII 黒色土	

T-8

台地平坦部で検出された。北西壁は塙口近くで、大きくオーバーハングする。

位置 $E_2-63-14, -15$	平面形 溝状
規模 $1.55/2.23 \times 0.86/2.26 \times 0.27$	長軸方向 $N-35^\circ-W$
覆土 I 黒色土	II 褐色土(黒色土+ d_1 + d_2)
III 暗褐色土(d_2)	IV 黄褐色土(EnL)
V 黄褐色土(EnP)	VI 暗赤褐色土(d_2 +黒色土+EnL)
VII (EnL>EnP)	VIII 黒色土(黒色土>EnP)

遺物 覆土 石器 V a : 1。

T-9

斜面下部で検出された。遺構上面の南側の一部は調査区外に及んでいる。

位置 $F_1-64-89$	平面形 溝状
規模 $1.00/- \times 0.70/1.94 \times 0.18$	長軸方向 $N-17^\circ-E$
覆土 I 黒色土(黒色土+ d_1)	II 黒褐色土(黒色土+ d_1)
III 橙褐色土(d_2)	IV 暗褐色土(黒色土+ d_2)
V 黒褐色土(黒色土+EnL)	VI 黄褐色土(EnL)

T-10

調査区東側の斜面で検出された。平面形は、底面ですみ丸長方形、上面で小判形を呈する。底面は Spfl 層上面の風化層中につくられ、長軸線上ではほぼ等間隔にならんで3個と、北壁寄りの中央で1個の小ピットが検出された。

位置 $E_1-64-15, -25$	平面形 すみ丸長方形
規模 $0.80/2.09 \times 0.94/1.52 \times 0.34$	長軸方向 $N-81^\circ-W$
覆土 I 黒色土(黒色土+ d_1)	II 黒褐色土(d_1 + d_2)
III 灰黒褐色土(黒色土+Sf)	IV 黄褐色土(EnL)
V 灰褐色土(Sf)	VI 黒色土

7) その他の土壌

P-302

位置 $E_2-63-06$	平面形 円形
規模 $0.55/0.70 \times 0.70/0.40 \times 0.36$	
覆土 I 黒色土	II 黒褐色土(d_1)

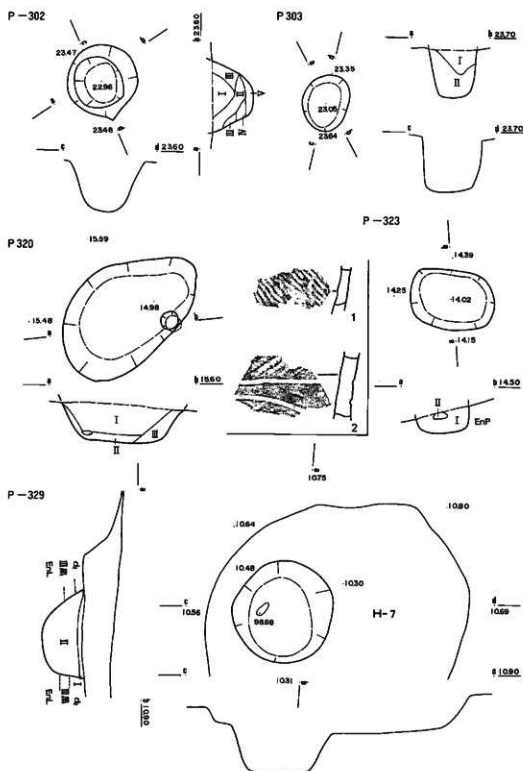


図193 P-302・303・320・323・329と遺物

III 黒褐色土($d_1 + d_2$)

IV 褐色土($d_1 > d_2$)

V 黒褐色土($EnL > d_2$)

P-303

位置 $E_2-63-06$

平面形 楕円形

規模 $0.60/0.50 \times 0.40/0.48 \times 0.34$

長軸方向 $N-8^\circ-E$

覆土 I 黒色土

II 黒色土(黒色土 $>d_1$)

P-309 (図61)

H-2に切られており、わずかに残った墳底を確認するにとどまった。平面形が周辺にある墓築と類似していることから、墓の可能性もある。

位置 $F_1-64-68, -78$

平面形 楕円形

規模 $0.07/1.54 \times 0.66/1.32 \times 0.50$

長軸方向 $N-96^\circ-W$

覆土 I 暗黒褐色土(黒色土 $+d_2$)

II 暗褐色土(黒色土 $>d_2$)

P-320

位置 $E_2-64-28$

平面形 楕円形

規模 $0.39/1.60 \times 1.25/1.05 \times 0.75$

長軸方向 $N-55^\circ-E$

覆土 I 黒色土(黒色土 $>d_2 + EnP$)

II 暗黒褐色土(黒色土 $+d_2 + EnP$)

III 暗黒褐色土(黒色土 $>EnL$)

遺物 覆土 土器 IVb: 3, IVc: 1。

1・2 IVb

P-321 (図146)

覆土中から遺体が検出された(P-356)。遺体の確認面下の覆土は自然堆積であり、本遺構と遺体との関連は見い出されない。

位置 $E_2-64-17$

平面形 円形

規模 $0.85/1.62 \times 1.50/1.35 \times 1.32$

覆土 I 黒色土

II 暗黒褐色土(黒色土 $+EnP$)

III 骨

IV 赤褐色土(d_2)

V 黄褐色土(EnL)

VI 黒褐色土(黒色土 $+d_1 + d_2$)

VII 黒褐色土(黒色土 $+d_1$)

VIII 褐色土(黒色土 $>d_2$)

遺物 覆土 土器 IIIb-3: 1, IVb: 2, IVc: 25, Va: 20。石器 XA: 1。礫: 3。

P-323

位置 $E_1-64-56$

平面形 楕円形

規模 $0.23/0.90 \times 0.63/0.70 \times 0.48$

長軸方向 $N-90^\circ-E$

覆土 I 黒色土(黒色土 $>d_2$)

II 赤褐色土(黒色土 $<d_2$)

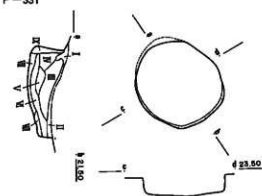
P-329

墳口をH-7に切られている。

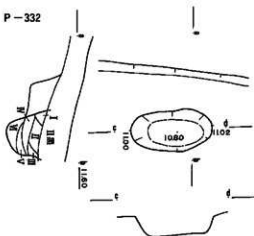
位置 $F_1-64-29$

平面形 楕円形

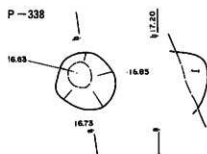
P-331



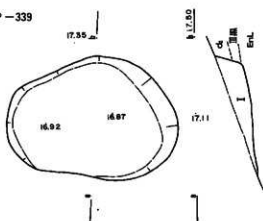
P-332



P-338



P-339



P-347

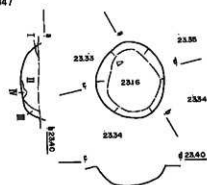


図194 P-331・332・338・339・347と遺物

規模 0.43/1.10×1.08/0.83×0.66

長軸方向 N-23°-W

覆土 I 褐色土(黒色土+d₂)

II 黄褐色土(EnL>d₂)

遺物 底面 礫:1。

P-331

位置 E₂-63-45

平面形 円形

規模 0.40/0.95×0.85/0.95×0.85

覆土 I 黒色土(黒色土>d₂)

II 橙褐色土

III 暗褐色土(黒色土+d₂+EnL)

IV 黒色土(d₁)

V 暗茶褐色土(黒色土+d₂+EnL)

VI 暗黄褐色土(d₂+EnP)

VII 黒色土(黒色土+d₂+d₁)

VIII 暗褐色土(黒色土+d₂)

IX 褐色土(c)

遺物 覆土 土器Ⅲb-3:13。石器VIB片:3。礫:39。

1~3 Ⅲb-3

P-332

H-8を切っている。

位置 F₁-64-79

平面形 楕円形

規模 0.45/0.86×0.43/0.59×0.28

長軸方向 N-83°-E

覆土 I 黒色土(d₁)

II 暗茶褐色土(黒色土>d₂)

III 黒色土(黒色土>d₂)

IV 暗褐色土(黒色土>d₂)

V 暗灰褐色土(EnL>d₂)

VI 灰褐色土(EnL>d₂)

遺物 覆土 土器IVb:2。石器VB1:1, IXB:1。

P-338

斜面につくられ、確認面は墳底に近い。

位置 E₁-64-55, -56

平面形 楕円形

規模 0.20/1.80×1.28/1.58×1.18

長軸方向 N-88°-E

覆土 I 黒褐色土(黒色土+d₂)

遺物 覆土 礫:1。

P-339

墳底がボウル状の小ピットである。

位置 E₁-64-55

平面形 円形

規模 0.25/0.62×0.58/0.25×0.25

覆土 I 黒褐色土(黒色土+d₂)

P-347

位置 E₂-63-15, -16

平面形 円形

規模 0.19/0.82×0.74/0.68×0.52

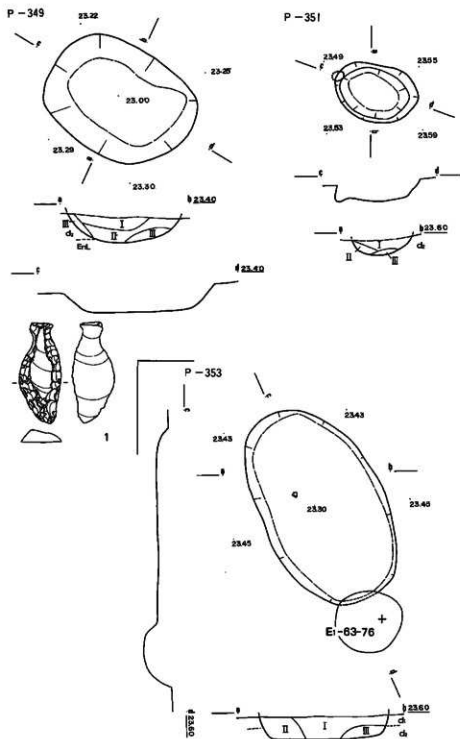


図195 P-349・351・353と遺物

覆土 I 灰褐色土

II 黒色土

III 明褐色土(黒色土 $>$ EnL+d₂)

IV 橙褐色土(d₂ $>$ 黒色土)

遺物 覆土 石器 IXB: 1。礫: 1。

P-349

位置 E₂-63-25

平面形 楕円形

規模 0.26/1.56×1.17/1.16×0.67

長軸方向 N-57°-W

覆土 I 黒色土

II 黒色土(黒色土 $>$ d₁)

III 黄褐色土(EnL+d₂)

遺物 覆土 石器 IIIA 3: 1, IXB: 1。

I IIIA3 5.3×2.3×0.4 9.3 Sh.

P-351

西壁より杭跡のようなビットが検出された。

位置 E₁-63-87

平面形 楕円形

規模 0.23/0.90×0.62/0.56×0.36

長軸方向 N-67°-E

覆土 I 暗褐色土(d₁ $>$ d₂)

II 褐色土(d₁+d₂)

III 黒色土

P-353

P-354に切られている。

位置 E₁-63-75

平面形 楕円形

規模 0.24/2.17×1.31/2.05×1.14

長軸方向 N-33°-W

覆土 I 黒色土(d₁ $>$ d₂)

II 黒褐色土(黒色土 $>$ d₂)

III 暗茶褐色土(d₂ $>$ d₁)

遺物 覆土 石器 IXB: 2, XA: 1。礫: 2。

P-354

P-353を切っている。

位置 E₁-63-76

平面形 円形

規模 0.25/0.72×0.68/0.48×0.45

覆土 I 黒褐色土

II 暗褐色土(黒色土+d₂)

III 黒色土(d₁)

IV 橙褐色土(d₂)

V 暗茶褐色土(d₂ $>$ 黒色土)

遺物 覆土 土器 IVa: 2。礫: 1。

P-355

覆土中から遺体が検出された (P-313)。

位置 E₂-64-66

平面形 楕円形

規模 0.51/2.15×1.65/2.05×1.55

長軸方向 N-64°-E

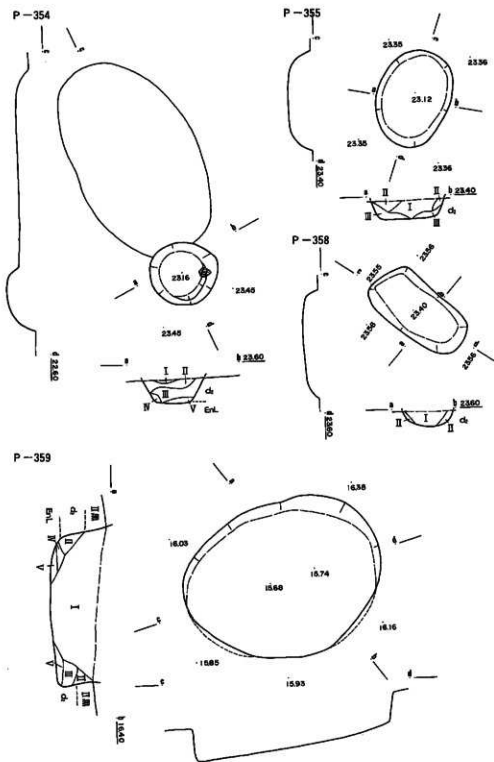


図196 P-354・355・358・359

- | | |
|--------------------------------|---------|
| 覆土 I 褐色土 | II 壁崩落土 |
| III 橙褐色土($d_2 > \text{EnL}$) | IV 黒色土 |
| V 黄橙褐色土(EnL) | |

P-358

X-4の堅穴内にあるが、X-4との関連は不明である。

- | | |
|---|---------------------------|
| 位置 $E_2-63-06$ | 平面形 楕円形 |
| 規模 $0.20/1.50 \times 0.90/0.77 \times 0.70$ | 長軸方向 N-7'-E |
| 覆土 I 暗褐色土(黒色土 $>d_2$) | II 黒色土(黒色土 $>d_1 > d_2$) |
| III 橙褐色土(d_2) | |

P-359

- | | |
|---|-------------------------------|
| 位置 $E_1-63-77$ | 平面形 楕円形 |
| 規模 $0.16/1.13 \times 0.52/0.97 \times 0.42$ | 長軸方向 N-53'-W |
| 覆土 I 黒色土(黒色土 $>d_2$) | II 暗褐色土($d_2 > \text{黒色土}$) |

P-360

- | | |
|---|----------------------------|
| 位置 $E_1-63-67$ | 平面形 楕円形 |
| 規模 $0.13/1.00 \times 0.81/0.90 \times 0.67$ | 長軸方向 N-12'-E |
| 覆土 I 黒色土(黒色土 $>d_2$) | II 暗褐色土(黒色土 $>d_1 + d_2$) |
| III 橙褐色土(d_2) | |

遺物 覆土 石器VIA2: 1。土製品: 3。

- | | |
|---|--|
| 1 土製品 $7.5 \times 5.8 \times 3.2$ 100.0 | 2 VIA2 $(6.9) \times (5.2) \times (2.8)$ 95.0 Gmi. |
|---|--|

P-363

P-362に切られている。

- | | |
|---|--------------|
| 位置 $E_1-63-69, E_1-64-60$ | 平面形 楕円形 |
| 規模 $0.30/0.55 \times 0.45/0.20 \times 0.10$ | 長軸方向 N-24'-E |

P-367

- | | |
|---|------------------------------|
| 位置 $E_2-64-28, -29, -38, -39$ | 平面形 楕円形 |
| 規模 $0.50/2.12 \times 1.60/1.85 \times 1.35$ | 長軸方向 N-36'-E |
| 覆土 I 漆黒色土 | II 黒色土 |
| III 褐色土($d_2 > \text{黒色土}$) | IV 灰褐色土($d_2 + \text{Sf}$) |

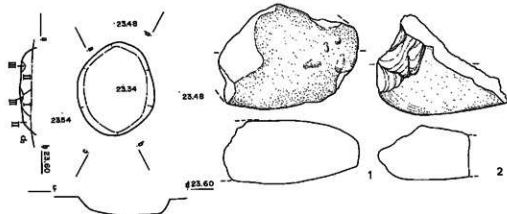
遺物 覆土 土器IVb: 220, IVc: 1。石器IXB: 8。礫: 8。

- | |
|---------------------------|
| 1 IVb —/16.0×— (写真図版42-4) |
|---------------------------|

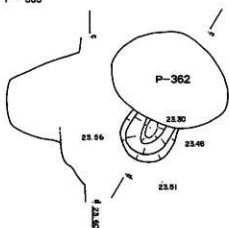
P-370

- | | |
|---|--------------|
| 位置 $E_1-63-58, -68$ | 平面形 楕円形 |
| 規模 $0.15/0.95 \times 0.70/0.80 \times 0.59$ | 長軸方向 N-38'-W |
| 覆土 I 黒色土(黒色土 $>d_2$) | II 暗灰褐色土 |

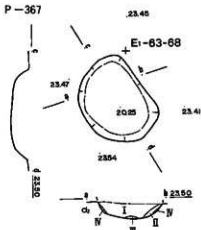
P-360



P-363



P-367



P-370

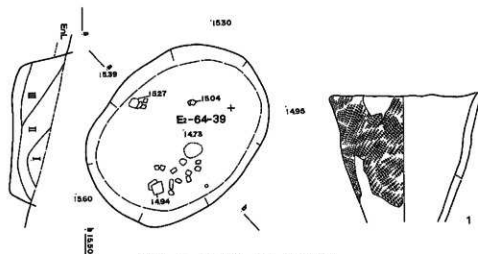


図197 P-360・363・367・370と遺物

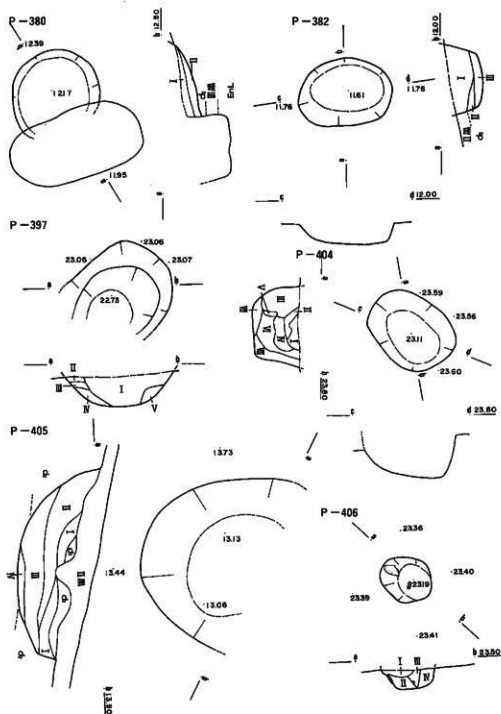


図198 P-380・382・397・404・405・406

III 灰褐色土

IV 褐色土(d_0)

遺物 灰土 土器 IVc: 1. 石器 IIIA片: 1.

P-380

位置 E₁-64-98, -99

平面形 円形

規模 0.15/0.92×——/0.75×——

覆土 I 黒色土

II 橙褐色土(d₂)

P-382

位置 E₁-64-89

平面形 槽円形

規模 0.36/1.02×0.70/0.80×0.48

長軸方向 N-74°-E

覆土 I 黒褐色土(黒色土+d₂)

II 黒色土

III 橙褐色土(d₂)

P-397

南西側のほぼ半分がX-2に切られている。

位置 E₂-64-00

平面形 不明

規模 0.33/——/——

覆土 I 黒褐色土(黒色土+d₂>EnP)

II 暗褐色土(黒色土+EnL)

III 黒茶褐色土(黒色土>EnL)

IV 暗茶褐色土(重黒+d₂)V 黒茶褐色土(黒色土+d₂)

P-404

西壁の一部がX-1の壁穴に切られている。

位置 E₁-63-69

平面形 槽円形

規模 0.47/0.94×0.72/0.66×0.43

長軸方向 N-47°-W

覆土 I 黒色土(黒色土>d₂)II 茶褐色土(黒色土>EnL+d₂)III 黄褐色土(EnL+d₂)IV 灰褐色土(EnL>d₂+黒色土)

V 黒色土

VI 灰褐色土(EnL+d₂)

VII 暗黄褐色土(EnL+黒色土)

VIII 黄色土(EnL>黒色土)

P-405

プランの一部を確認するにとどまった。

位置 E₁-64-37

平面形 不明

規模 0.40/——/——

覆土 I 黒色土

II 黒色土(黒色土>d₂)III 褐色土(黒色土+d₂)IV 褐色土(黒色土<d₂)

P-406

位置 E₁-63-85

平面形 円形

規模 0.20/0.58×0.49/0.40×0.32

覆土 I 褐色土

II 橙褐色土(d₂)

III 黒色土

IV 攪乱

遺物 覆土 石器VIIA1:1。

表5 II 黒層層出遺構一覧

名称	位置	平面形	規模 (m)			長軸方向	備考
			最大径	短径	床面		
H-1	F1-64- 47-48-57-58-59-60	すみ丸長方形	0.50	9.50×9.10	7.00×6.60	N-10°-W	伊勢あり。墓穴内外部に柱穴あり
H-2	F1-64-68-69-78-79	不規則円形	0.35	5.30×4.95	4.70×4.35	N-5°-W	伊勢あり。墓穴内部に柱穴あり
H-3	E1-64-57-58-67-68	すみ丸長方形	0.60	3.60×3.65	2.75×2.02	N-98°-W	墓穴内部に柱穴あり
H-4	E1-64-69-79	すみ丸方形	0.55	3.35×2.85	2.12×2.15	N-100°-W	
H-5	E1-64-89-99	不明	0.25				
H-6	F1-64-49-59	#	-				
H-7	F1-64-29	#	0.40				
H-8	F1-64-69-79-89	#	0.30				
H-9	E1-64-29-39	#	1.05				
H-10	E1-64-89-99	#	0.40				
H-11	E1-64-99 E1-64-09	#	0.50				
H-12	F1-64-79-89	#	0.50				
H-13	F1-64-89-99	#	0.50				

(層場墓)

名称	位置	平面形	墓穴規模 (m)			長軸方向	層場規模 (m)	墓場数	備考
			最大径	短径	床面		最大径	外径	
X-1	E1-63-67-69-77 79-87-89-98-99 E1-64-60-70-80	墓穴・層場： 円形	0.45	9.85×9.55	9.65×9.20		0.20	16.40×16.10	2 層場の一部がX-2.4の上に重なる 直下の墓に傾斜あり
X-2	E1-63-98 E1-64-11 74-80-84-90-94 E1-63-09 E1-64-00 04-10-14-20-24	墓穴：円形 層場：楕円形	1.30	16.90×16.88	15.90×15.60		0.60	33.00×35.50	22 層場の北西角にあり
X-3	E1-63-14-18-24 29-34-39-45-49-54-58	墓穴：楕円形 墓穴：風船形	0.52	11.96×10.00	11.26×9.50	N-1°-E	0.25	24.8×20.0	14 層場の一部がX-4の上に重なる 層場の北西角にあり
X-4	E1-63-85-87-96-98 E1-63-05-06-15-18	(円形)	-	13.00-11.00			17-18.00		1 墓穴は把握できなかった
X-6	E1-64-14-15-23 25-33-34	(円形)	0.42	10-11.00					5 X-2の層場を切る

(層場付土墳墓)

名称	位置	平面形	層場規模 (m)			墓場数	備考
			最大径	外径	内径		
X-5	E1-64-50-60	(円形)	0.17	5.00-5.50	3.60-4.80	4	層場は南東角で一部途切れる。層平を受ける。
X-7	E1-64-61-70-71	円形	0.15	3.82×3.73	3.05×2.75	1	

(盛土墓)

名称	位置	平面形	規模 (m)			長軸方向	埋蔵品	備考
			最大径	短径	床面			
P-30	E1-64-06	(楕円形)	0.51	2.15×1.65	1.23×0.84	N-46°-E	-	P-35の盛土中から出土
P-30	E1-61-01	楕円形	0.20		3.15×2.85	N-17°-W	-	ペンガラあり 土層の盛土中から出土
P-35	E1-64-59	#	-		0.95×0.44	N-57°-W	北東	玉11, 化石1 ペンガラあり
P-36	E1-64-12	(#)	0.25		2.27×2.05	N-29°-W	-	玉11, 3玉, 6玉, 8玉 土層の盛土中から出土
P-36	E1-64-17	円形	0.25		0.80×0.80	北	横溝	P-32の盛土中から出土
P-36	E1-64-80 E1-64-00	-	-			-	-	孔あき石4, 漆器1 X-2の層場上 ペンガラの層あり
P-36	E1-64-66	円形	-		0.90×0.85	北	-	土器1, 孔あき石1 P-317の盛土中から出土

(周堤墓の基壇)

名称	位置	平面形状	最大幅	最大長さ	高さ	長軸方向	埋葬位置	副葬品	備考
X-Ⅲ	Ea-63-88	横円形	1.02	1.17×0.65	1.07×0.55	N-37°-E	— (埋葬)		ベンガラ(横口・墳底)あり
X-Ⅲ	Ea-63-79	長楕円形	1.63	1.75×0.55	1.66×0.43	N-12°-W	北 伸張部		ベンガラ(墳底)あり
X-Ⅲ	Ea-64-92	長楕円形	1.30	2.16×0.95	1.75×0.60	N-72°-W	北西 伸張部		ベンガラ(墳底)あり
X-Ⅲ	Ea-64-11	横円形	0.45	1.70×1.20	1.45×0.90	N-11°-W	—		#
X-Ⅲ	Ea-64-92	#	1.05	1.50×0.95	0.90×0.45	N-84°-W	西 伸張部		#
X-Ⅲ	Ea-64-92	長楕円形	1.35	2.55×1.15	2.10×0.80	N-11°-W	西 伸張部		#
X-Ⅲ	Ea-64-92	横円形	0.50	1.40×0.95	1.05×0.70	N-85°-W	—	与玉1, サメの歯2	# X-206を切る
X-Ⅲ	Ea-64-93	#	1.10	1.70×0.95	1.40×0.65	N-52°-W	北西 伸張部		# X-205に切られる
X-Ⅲ	Ea-64-93	#	1.10	2.00×1.15	1.67×0.80	N-51°-W	伸張部	石棒2	# 2体合葬
X-Ⅲ	Ea-64-93	長楕円形	1.50	2.35×0.95	1.90×0.55	N-93°-W	西 伸張部	石棒1	#
X-Ⅲ	Ea-64-91	横円形	0.33	1.35×0.78	1.13×0.55	N-63°-W	—	与玉7	# X-223を切る
X-Ⅲ	Ea-64-91	#	0.65	1.25×1.10	0.94×0.65	N-40°-W	—	与玉7, 漆器3	#
X-Ⅲ	Ea-64-91	#	0.45	1.40×0.80	1.00×0.55	N-50°-E	—		# X-212を切る
X-Ⅲ	Ea-64-91	長楕円形	1.30	2.55×1.25	2.10×0.85	N-91°-W	西 伸張部		# 3体合葬 X-213に切られる
X-Ⅲ	Ea-64-01-02	#	1.60	2.70×1.20	2.30×0.85	N-93°-W	西 伸張部		#
X-Ⅲ	Ea-64-01	#	1.35	2.10×0.90	1.80×0.75	N-83°-W	西 伸張部		#
X-Ⅲ	Ea-64-02	#	1.55	2.60×1.25	1.75×0.75	N-75°-W	西 伸張部		# 3体合葬
X-Ⅲ	Ea-64-11	#	1.45	2.35×0.95	2.00×0.45	N-93°-W	西 伸張部		#
X-Ⅲ	Ea-64-92	横円形	1.05	1.00×0.60	0.85×0.45	N-82°-W	—		#
X-Ⅲ	Ea-64-01-12	長楕円形	1.40	2.20×0.85	1.90×0.82	N-18°-W	西 伸張部	石棒2	#
X-Ⅲ	Ea-64-13	横円形	0.65	1.25×0.75	1.06×0.58	N-38°-W	北西	器2	# 上部にP-342あり
X-Ⅲ	Ea-64-91	長楕円形	1.37	2.55×1.32	1.95×0.75	N-65°-W	西 伸張部		#
X-Ⅲ	Ea-64-91-95	横円形	0.57	1.50×1.20	1.17×0.98	N-22°-W	—	スクレイパー 石棒1, 玉7, 漆器3	# X-209に切られる
X-Ⅲ	Ea-64-02	長楕円形	1.60	2.15×0.95	1.82×0.47	N-81°-W	西 伸張部		#
X-Ⅲ	Ea-63-36-44	長楕円形	1.25	1.29×0.70	1.05×0.47	N-7°-E	北		ベンガラ(墳底)あり X-212に切られる
X-Ⅲ	Ea-63-36	#	1.17	1.20×0.58	1.25×0.55	N-34°-W	北西	石棒1	ベンガラ(横口・墳底)あり
X-Ⅲ	Ea-63-35-36	横円形	1.20	1.25×0.80	1.10×0.58	N-35°-W	北西		#
X-Ⅲ	Ea-63-36	#	0.85	0.65×0.37	0.60×0.30	N-7°-E	—		
X-Ⅲ	Ea-63-36	長楕円形	1.10	1.60×0.67	1.30×0.40	N-3°-E	北		ベンガラ(横口)あり
X-Ⅲ	Ea-63-36	横円形	1.30	1.17×0.62	1.17×0.55	N-0°-S	—	石棒1	
X-Ⅲ	Ea-63-28	#	1.10	1.10×0.60	0.85×0.40	N-28°-W	北西	石棒1, 石棒3	ベンガラ(墳底)あり
X-Ⅲ	Ea-63-26-27	#	0.95	1.30×0.85	1.35×0.80	N-27°-W	北西		#
X-Ⅲ	Ea-63-27	#	1.10	1.35×0.85	1.06×0.65	N-14°-E	北東	器2, 石棒1	
X-Ⅲ	Ea-63-37	#	0.95	1.50×1.25	1.25×0.10	N-36°-W	—	石棒1, 漆器1	ベンガラ(墳底)あり
X-Ⅲ	Ea-63-37	円形	0.95	1.10×1.03	0.95×0.95	—	—	与玉1, 与玉2 与玉1, 漆器2	#
X-Ⅲ	Ea-63-36-44	横円形	1.00	1.55×1.00	1.30×0.65	N-2°-W	北		X-301を切る
X-Ⅲ	Ea-63-37	#	0.50	0.85×0.75	0.75×0.50	N-57°-W	—		
X-Ⅲ	Ea-63-37	#	0.60	1.20×0.80	0.80×0.55	N-31°-W	—		

III 英々4遺跡の調査

名 称	位 置	平面形状	長 度	幅 度	長軸方向	遺構状況	調査品	備 考
X-Ⅲ	Ea-63-87	長楕円形	1.53	2.02×0.96	1.79×0.52	N-83°-E	西 壁跡	ベンガラ（埋没）あり
X-Ⅲ	Ea-64-23-24	楕 円 形	0.66	1.08×0.87	0.78×0.46	N-58°-E	南西 壁 跡	
X-Ⅲ	Ea-64-33-34	＃	0.78	1.23×0.59	1.07×0.43	N-26°-E	北東 壁 跡	
X-Ⅲ	Ea-64-24	＃	0.49	1.10×0.64	0.97×0.46	N-66°-W	北西 壁 跡	
X-Ⅲ	Ea-64-25	＃	0.87	0.85×0.61	0.77×0.54	N-66°-E	西 — 土器1	
X-Ⅲ	Ea-64-15	＃	0.65	0.82×0.58	0.71×0.43	N-31°-E	北東 —	

（周溝付土壌基の基壇）

X-Ⅲ	Ea-64-50	楕 円 形	1.06	1.23×0.62	1.08×0.58	N-26°-W	北西 —	中央部に位置する
X-Ⅲ	Ea-64-50	長楕円形	0.60	1.50×0.62	1.34×0.40	N-74°-W	北西（伸張部）	溝溝を切る
X-Ⅲ	Ea-64-50-60	＃	1.00	0.84×0.42	0.92×0.35	N-27°-W	— —	溝中にある
X-Ⅲ	Ea-64-50-68	楕 円 形	0.40	1.06×0.54	1.20×0.63	N-70°-W	— —	溝溝を切る
X-Ⅲ	Ea-64-71	楕 円 形	0.73	1.20×0.63	0.95×0.52	N-87°-W	西 —	中央部にある

（基および基の可能性ある土壌）

P-Ⅲ	F1-64-39	楕 円 形	0.67	1.28×0.87	1.04×0.54	N-84°-W	西 壁跡	
P-Ⅲ	Ea-63-68-69	＃	0.55	1.30×0.55	1.15×0.45	N-61°-W	— —	
P-Ⅲ	Ea-63-68	＃	0.62	1.19×0.50	1.05×0.43	N-50°-W	— —	
P-Ⅲ	Ea-64-51	＃	0.57	1.20×0.67	1.05×0.59	N-27°-W	— —	炭化材（埋没から壁）あり
P-Ⅲ	Ea-63-58	＃	0.55	1.25×0.65	1.25×0.53	N-84°-W	— — 漆器	ベンガラ（埋没）あり
P-Ⅲ	Ea-64-51	＃	0.17	1.03×0.56	0.90×0.43	N-25°-W	— —	＃
P-Ⅲ	F1-64-67	＃	0.44	1.30×0.81	1.18×0.54	N-80°-E	— —	
P-Ⅲ	F1-64-45	＃	0.40	1.45×0.73	1.18×0.59	N-82°-E	西 —	
P-Ⅲ	Ea-64-73	＃	0.58	1.33×0.65	1.12×0.68	N-57°-E	— —	
P-Ⅲ	F1-64-56	＃	0.41	1.49×0.91	1.30×0.70	N-80°-E	— —	
P-Ⅲ	Ea-64-61 -78・77	＃	0.50	1.44×0.71	1.16×0.57	N-80°-W	— —	
P-Ⅲ	Ea-64-61	＃	0.88	1.08×0.64	1.18×0.43	N-67°-W	北西 基跡 石片、骨1	ベンガラ（埋没）あり
P-Ⅲ	Ea-64-56-68	円 形	0.47	1.36×1.26	1.10×0.94	北西	＃	
P-Ⅲ	Ea-64-67-77	楕 円 形	0.70	1.36×0.68	1.04×0.48	N-78°-E	— —	
P-Ⅲ	Ea-64-47	＃	0.85	1.30×0.67	1.10×0.53	N-63°-W	北西 —	
P-Ⅲ	Ea-64-67	＃	0.45	1.35×0.70	1.18×0.35	N-78°-E	— —	ベンガラ（埋没）あり！
P-Ⅲ	Ea-64-69	＃	0.29	1.53×0.59	1.22×0.50	N-74°-W	北西 基跡 土器1	
P-Ⅲ	Ea-64-60-61	＃	0.55	1.05×0.60	0.88×0.43	N-65°-W	— —	
P-Ⅲ	F1-64-59	＃	0.46	1.32×0.82	1.19×0.69	N-10°-W	北 伸張部？	つまみ付きナイフ1
P-Ⅲ	F1-64-48	＃	0.43	1.25×0.66	0.99×0.42	N-30°-W	— —	埋没から散骨出土
P-Ⅲ	Ea-64-36	＃	0.30	1.45×0.98	1.25×0.90	N-77°-E	西 —	
P-Ⅲ	Ea-64-75	＃	0.75	1.20×0.70	0.75×0.25	N-9°-W	北 基跡	
P-Ⅲ	F1-63-58	＃	0.90	1.83×0.96	1.59×0.69	N-63°-E	西 —	
P-Ⅲ	Ea-63-68	不整形	1.02	1.08×1.00	0.48×0.33	N-31°-W	— —	

名 称	位 置	平面形状	規 格 寸 法		長軸方向	傾斜方位	前 身 品	備 考
			最大径	短径				
P-Ⅲ E ₁ -63-68	不規則形	0.88	1.04×0.95	0.72×0.58	N-45°-W	-	-	ベンガラ(埋込)あり、周縁上
P-Ⅲ E ₁ -63-35	#	0.23	0.91×0.79	0.45×0.43	-	-	-	周縁上
P-Ⅲ E ₁ -63-25-26	楕円形	0.22	1.23×1.08	0.94×0.81	N-45°-W	-	-	#
P-Ⅲ E ₁ -63-67-68	#	0.28	1.05×0.72	0.93×0.58	N-70°-E	-	-	#
P-Ⅲ E ₁ -63-88	#	0.76	1.15×0.85	1.05×0.76	N-1°-W	-	-	ベンガラ(埋込)あり、周縁上
P-Ⅲ E ₁ -63-89	#	0.75	1.30×1.00	0.70×0.50	N-72°-W	-	-	周縁上
P-Ⅲ E ₁ -63-90-91	#	1.10	1.65×0.95	1.05×0.50	N-68°-W	北西	直葬	
P-Ⅲ E ₁ -64-69	#	0.45	1.15×0.66	1.07×0.55	N-66°-E	-	-	
P-Ⅲ E ₁ -64-38	#	0.62	1.20×0.58	1.10×0.74	N-72°-W	-	-	
P-Ⅲ E ₁ -64-65	#	0.47	1.33×0.98	0.98×0.87	N-57°-W	-	-	玉、埋込1
P-Ⅲ E ₁ -64-60	#	0.55	0.95×0.59	0.62×0.30	N-83°-E	-	-	
P-Ⅲ E ₁ -64-70	#	0.33	1.13×0.73	1.03×0.50	N-61°-E	-	-	石葬1
P-Ⅲ E ₁ -64-70	#	0.72	1.38×0.95	1.24×0.63	N-75°-W	-	-	スケイパー1 石葬5、埋込30
P-Ⅲ E ₁ -64-80	#	0.74	1.46×0.72	1.28×0.50	N-61°-W	-	-	土葬1、石葬1、 石葬1、土葬1
P-Ⅲ E ₁ -63-88	#	0.20	0.90×0.72	0.83×0.56	N-33°-W	-	-	勾玉1
P-Ⅲ E ₁ -63-89	#	1.18	1.70×1.27	1.25×0.90	N-22°-W	-	-	石葬1、玉2
P-Ⅲ E ₁ -64-90	#	0.78	1.60×1.08	1.28×0.87	N-90°-W	西	-	石葬1、玉38 サノの遺1
P-Ⅲ E ₁ -63-98	#	0.75	1.57×1.05	1.46×1.03	N-22°-W	北西	-	
P-Ⅲ E ₁ -64-81	#	0.65	1.47×1.20	1.32×0.82	N-47°-W	北西	-	土葬9、つまみ付き ナイフ1、石葬1、玉5
P-Ⅲ E ₁ -64-99	#	0.60	1.40×0.70	1.30×0.60	N-64°-E	南西	直葬	
P-Ⅲ E ₁ -64-86	#	0.25	1.50×1.00	1.20×0.85	N-61°-E	-	-	
P-Ⅲ E ₁ -64-00-04	#	0.63	1.12×0.84	0.99×0.74	N-83°-E	-	-	玉4、埋込1
P-Ⅲ E ₁ -64-04-04	#	0.79	1.38×1.15	0.82×0.63	N-79°-E	西	-	石葬1、玉13
P-Ⅲ E ₁ -64-13	#	0.60	1.30×1.10	0.90×0.72	N-30°-W	-	-	石葬1、石葬3、石葬3 たたき板、サノの遺1
P-Ⅲ E ₁ -64-12	#	0.78	1.22×0.80	0.96×0.49	N-42°-W	-	-	石葬1、玉3、埋込2
P-Ⅲ E ₁ -64-63	#	0.62	1.28×0.99	1.08×0.71	N-27°-E	南西	-	石葬1、第1
P-Ⅲ E ₁ -64-11	すみ丸方形	0.20	1.00×0.78	0.79×0.70	N-41°-E	-	-	周縁上
P-Ⅲ E ₁ -64-71	楕円形	0.75	1.57×1.04	1.43×0.83	N-32°-W	北西	直葬	石葬1、第2
P-Ⅲ E ₁ -64-11	#	0.20	1.00×0.60	0.78×0.52	N-22°-E	-	-	玉3、第1
P-Ⅲ E ₁ -64-10-11	不規則形	0.94	1.00×0.62	0.94×0.62	N-44°-W	-	埋葬?	ベンガラ(遺体下)あり 周縁上
P-Ⅲ E ₁ -64-22-23	楕円形	0.79	0.93×0.73	0.62×0.39	N-26°-W	北	-	
P-Ⅲ E ₁ -64-54	#	0.60	- × 0.79	- × 0.55	N-81°-E	-	-	
P-Ⅲ E ₁ -64-54	#	0.60	- × 0.79	- × 0.55	N-81°-E	-	-	ベンガラ、周縁上
P-Ⅲ E ₁ -64-55	#	0.65	(0.96)×0.72	0.77×0.51	N-48°-W	北西	-	土葬3、石葬3 打ちかきのみ(遺)
P-Ⅲ E ₁ -63-09	#	1.05	1.44×1.08	1.20×0.70	N-46°-W	#	-	
P-Ⅲ E ₁ -63-98	#	0.73	1.18×0.84	1.05×0.60	N-66°-W	#	-	貝製玉4
P-Ⅲ E ₁ -63-98	#	0.47	0.93×0.60	0.71×0.45	N-74°-W	#	-	再葬の可能性
P-Ⅲ E ₁ -63-98-99	#	0.84	1.18×0.84	1.07×0.67	N-25°-W	#	-	
P-Ⅲ E ₁ -64-32	#	0.80	1.30×1.03	1.27×0.73	N-13°-W	北	直葬	
P-Ⅲ E ₁ -64-59	#	0.36	1.48×0.70	1.20×0.53	N-75°-E	西	#	

田 美々4 遺跡の調査

(Tビット)

名称	位置	平面形	規模 (m)			長短方向	備 考
			最大径	幅 面	底 面		
T-1	E1-63-95 E1-63-95	溝 状	1.76	2.30×0.76	2.16×0.30	N-81-E	
T-2	F1-64-15・25	"	1.46	2.33×0.80	2.23×0.28	N-80-W	
T-3	F1-64-17・18	"	0.40	3.01×0.57	2.79×0.31	N-12-E	
T-4	E1-64-77	すみ丸底方形	1.26	2.21×1.16	1.72×0.53	N-21-E	底面に2個の小ビットあり
T-5	E1-64-67	"	1.35	2.35×1.41	1.88×0.55	N-6-E	底面に2個の小ビットあり
T-6	E1-64-07・08	"	1.25	2.33×1.30	1.85×0.45	N-17-W	底面に3個の小ビットあり
T-7	E1-64-99	溝 状	1.05	2.35×0.64	1.96×0.15	N-53-W	底面に4個の小ビットあり
T-8	E1-63-14・15	"	1.55	2.23×0.86	2.26×0.27	N-35-W	
T-9	F1-64-89	"	1.00	—×0.70	1.94×0.18	N-17-E	
T-10	E1-64-15・25	すみ丸底方形	0.80	2.09×0.94	1.52×0.34	N-81-W	

(その他の土壌)

P-001	E1-63-06	円 形	0.55	0.70×0.70	0.40×0.36	—	
P-002	E1-63-06	楕 円 形	0.60	0.90×0.40	0.48×0.34	N-8-E	
P-003	F1-64-68・78	"	0.07	1.54×0.66	1.32×0.50	N-96-W	墓の可能性?
P-004	E1-64-28	"	0.39	1.60×1.25	1.05×0.75	N-55-E	
P-005	E1-64-17	円 形	0.85	1.62×1.50	1.35×1.32	—	
P-006	E1-64-56	楕 円 形	0.23	0.90×0.63	0.70×0.48	N-90-E	
P-007	F1-64-29	"	0.43	1.10×1.08	0.83×0.66	N-23-W	溝口をH-7に切られる
P-008	E1-63-45	円 形	0.40	0.95×0.85	0.95×0.85	—	
P-009	F1-64-79	楕 円 形	0.45	0.86×0.43	0.59×0.28	N-83-E	H-8を切る
P-010	E1-64-55・56	"	0.20	1.80×1.28	1.58×1.28	N-88-E	
P-011	E1-64-55	円 形	0.25	0.62×0.58	0.25×0.25	—	
P-012	E1-63-15・16	"	0.19	0.82×0.74	0.68×0.52	—	
P-013	E1-63-25	楕 円 形	0.26	1.56×1.17	1.16×0.67	N-57-W	周壁土(?)
P-014	E1-63-87	"	0.23	0.90×0.62	0.56×0.36	N-67-E	
P-015	E1-63-75	"	0.24	2.17×1.31	2.05×1.14	N-33-E	P-354に切られる
P-016	E1-63-76	円 形	0.25	0.72×0.68	0.48×0.45	—	
P-017	E1-64-66	楕 円 形	0.51	2.15×1.65	2.05×1.55	N-64-E	
P-018	E1-63-06	"	0.20	1.50×0.90	0.77×0.70	N-7-E	X-4内に構築
P-019	E1-63-77	"	0.16	1.13×0.52	0.97×0.42	N-53-W	
P-020	E1-63-67	"	0.13	1.00×0.81	0.90×0.67	N-12-E	
P-021	E1-63-89 E1-64-60	"	0.30	0.55×0.45	0.20×0.10	N-24-E	P-362に切られる
P-022	E1-64-28・29 38・39	"	0.50	2.12×1.60	1.85×1.35	N-36-E	
P-023	E1-63-58・68	"	0.15	0.95×0.70	0.80×0.59	N-38-W	
P-024	E1-64-98・99	円 形	0.15	0.92× —	0.75× —	—	
P-025	E1-64-89	楕 円 形	0.36	1.02×0.70	0.80×0.48	N-74-E	
P-026	E1-64-00	—	0.33	—	—	—	X-2に切られる
P-027	E1-63-69	楕 円 形	0.47	0.94×0.72	0.66×0.43	N-47-E	X-1に切られる
P-028	E1-64-37	—	0.40	—	—	—	
P-029	E1-63-85	円 形	0.20	0.58×0.49	0.40×0.32	—	